

情報リテラシーⅡ

非常勤講師 齋藤健

科目コード: INF201

対象コース/専門/学年: 全コース/全専門/2 年次以降

形態: 講義

単位数: 2 単位

概要 パソコンによる高度な情報処理操作を学ぶ授業である。情報リテラシーⅠの履修を前提として、さらなる応用的なパソコンの操作方法を習得、より高度な文書の作成や情報の検索や通信の技量を身につけ、今後の生活や職務に役立てる。

到達目標 高度なパソコンの機能を理解する。Word、Excel、PowerPoint などの文書作成ソフトの応用レベルの操作演習を通じて、より利便性の高い高度な情報処理操作を習得し、パソコンを自由かつ適切に活用できるようになる。

授業計画

回数	内容	事前	事後	単位数
第 1 回	文章の構成・体裁、表・図グラフの理解 文章の要素と構成、各種文書の体裁、図解とグラフ	シラバス、テキスト全体を読む。	135 分	
		テキスト該当箇所の復習。グラフ種類の確認。	135 分	
第 2 回	Word 応用 文書のフォーマットの要点の理解	テキスト該当箇所の確認。フォーマットの予習。	135 分	
		テキスト該当箇所の復習。フォーマットの確認。	135 分	
第 3 回	Word 応用その 2 表の作成、分かりやすくする工夫	テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。表の予習。	135 分	
		テキスト該当箇所の復習。表作成の確認。	135 分	
第 4 回	Word 応用その 3 図の挿入、活用方法	テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。図の扱いの予習。	135 分	
		テキスト該当箇所の復習。挿入、活用の確認。	135 分	
第 5 回	Excel 応用 書式の設定、印刷の設定、見やすくする編集方法	テキスト該当箇所の確認。Excel 操作の確認。	135 分	
		テキスト該当箇所の復習。書式、印刷の確認。	135 分	
第 6 回	Excel 応用その 2 代表的な関数の理解、活用方法	テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。関数の予習。	135 分	
		テキスト該当箇所の復習。関数の記述確認。	135 分	
第 7 回	Excel 応用その 3 グラフの作成と分かりやすくする修飾	テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。グラフ操作の予習。	135 分	
		テキスト該当箇所の復習。グラフ作成確認。	135 分	
第 8 回	Excel 応用その 4 データベースの活用、データの操作方法	テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。データベース操作の予習。	135 分	
		テキスト該当箇所の復習。データベース活用確認。	135 分	
第 9 回	Excel 応用その 5 様々なデータ集計方法の理解と操作	テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。データ集計の予習。	135 分	
		テキスト該当箇所の復習。集計方法の確認。	135 分	
第 10 回	Excel 応用その 6 処理の高速化のための工夫	テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。	135 分	
		テキスト該当箇所の復習。高速化の方法の確認。	135 分	
第 11 回	Word と Excel の活用 特徴を生かした併用による資料作成、データ連携	テキスト該当箇所の確認。Excel 部分の Word 貼付の予習。	135 分	
		テキスト該当箇所の復習。データ連携確認。	135 分	
第 12 回	PowerPoint 応用 プレゼンテーションの準備とやり方	テキスト該当箇所の確認。PP t の操作予習。	135 分	
		テキスト該当箇所の復習。基本操作確認。	135 分	
第 13 回	PowerPoint 応用その 2 見やすいスライドの作成方法、図や票の挿入・編集	テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。スライド作成予習。	135 分	
		テキスト該当箇所の復習。挿入、編集の確認。	135 分	
第 14 回	PowerPoint 応用その 3 スライドの効果的な修飾、各種有効な表現技法	テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。技法の予習。	135 分	
		テキスト該当箇所の復習。技法確認。	135 分	
第 15 回	PowerPoint 応用その 4 スライドショーによるプレゼンの実施	テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。スライドショー機能の予習。	135 分	
		テキスト該当箇所の復習。プレゼン内容のレビュー。	135 分	

フィードバック 提出課題等について、コメントを付けフィードバックする。

成績評価 定期試験 60%、課題等 20%、授業態度 20%

テキスト 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術 2016 バージョン (noa 出版)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて相談の上、対応する。

アクティブ・ラーニング 自己紹介スライドを作成、発表を相互に行い、プレゼン技術向上

備考 事前事後学習の際には、座学に加えパソコン実機による操作を行うことを推奨する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発露力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

日本音楽史-1

※教育職員免許状取得に関わる科目

准教授 櫻井利佳

科目コード：MUS103

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/1~2年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 日本に育ち、また生活しながらも、日本の音楽史について何も知らない学生が多い。しかし音楽を専門に学んだ人として社会で活躍する際、日本文化の知識教養は不可欠である。講義では、有史以来明治維新まで、日本において音楽が世界でも珍しく政治・宗教・社会の中枢に位置してきた事、にも関わらず何故現代は日本の音楽が教育の場から失われたかを、歴史研究の立場から考える。講義で得た知識を元に各ジャンルの意義を議論し論述する。一回は博物館美術館見学レポートを含む。毎回小課題による振り返りを行う。

到達目標 実証的日本音楽史の必要を自覚し、音楽史を正しく理解する。その上で、各回のテーマについて問題意識を持ち、研究の現状と課題を知り、それらについて自身の言葉で適切に表現・議論できる。適切な資料の調査法・引用法を学び、日本音楽史について適切な調査に基づき論述することができる。日本文化の重層性や多様性、特徴を自ら考え、日常の様々な場面と知識を結びつけることができる。

回	内容	事前	事後	単位数
第1回	日本音楽史の問題点(1) 音楽科教育における伊沢修二の功罪 日本音楽史とは/歴史学としての学問分野/時代区分の解説	シラバスを熟読し、講義内容を理解し、質問事項をまとめておく。	時代区分を習得する。伊沢修二についての参考文献を読み理解を補強する。	70分 200分
第2回	日本音楽史の問題点(2) 日本音楽史は民族音楽学の一部ではないこと-田辺尚雄の功罪	『日本音楽教育事典』『音楽史学』の「定義と概観」「日本の音楽史学」項を読む。	講義で紹介した史料の名称、所在、意義をまとめ、参考文献リストを作る。	90分 180分
第3回	日本音楽史の問題点(3) 西洋近代五線譜は万能か?—音楽的要素の多様性に気付く	『日本音楽教育事典』『楽譜』の項を読み、質問事項をまとめておく。	日本の楽譜の特徴を、実物を用いて分析し、結果を文章でまとめる。	90分 180分
第4回	日本音楽史の問題点(4) 第二次世界大戦後の音楽科教育再出発の問題—トレーナー発言と諸井三郎	『日本音楽教育事典』『音楽教育思想』の項を読み、質問事項をまとめておく。	福島和夫「戦後音楽教育の一分岐点」を読み、自身の考えをまとめる。	90分 180分
第5回	日本音楽史の問題点(5) 世界における日本音楽史の挑戦—福島和夫と前田昭雄	福島和夫「日本音楽史研究の半世紀」を読み、問題点をまとめておく。	前田昭雄「音楽史の概念東と西」というテーマについての考察への意見を書く。	90分 180分
第6回	近世(1) 謡曲を謡えなければ半人前—庶民の音楽教育としての寺子屋の小話	『日本音楽教育事典』『江戸時代』の項を読み、質問事項をまとめておく。	同項の参考文献の中から興味を持ったものを読み、要点をまとめる。	90分 180分
第7回	近世(2) 近世文化史概説—上野・浅草は江戸のスーパーstarを産んだ	江戸時代のスーパーstarとはどのような人か、各分野の実例を調べる。	近世の上野・浅草が発信した諸芸能を調査する。	90分 180分
第8回	近世(3) 現代の娯楽の出発点としての江戸文化	現代の娯楽と近世の娯楽について調査し、共通点・相違点をまとめておく。	貴族の娯楽、武士の娯楽、庶民の娯楽について調査する。	90分 180分
第9回	近世(4) 三味線伝来の衝撃	劇場音楽、お座敷音楽、遊楽の場における三味線音楽を調べる。	『日本音楽大事典』『三味線音楽』の項を読み「研究史」の文献の一つ読む。	90分 180分
第10回	近世(5) 浄瑠璃(文楽)と文運東漸	『日本音楽大事典』『浄瑠璃』の項を読み、質問事項をまとめておく。	浄瑠璃の歴史的変遷を整理し、代表曲を調べ視聴する。	90分 180分
第11回	近世(6) 歌舞伎—あらゆる江戸文化の受信器・発信源	『日本音楽大事典』『歌舞伎音楽』の項を読み、質問事項をまとめておく。	同項の「資料と参考文献」を利用し、音楽史上の歌舞伎の役割をまとめる。	90分 180分
第12回	【AL】(1) 日本音楽史の調査対象を学ぶ(グループワークを含む)	福島和夫「音楽史学の方法論」を読み、質問事項をまとめておく。	前田昭雄「音楽史学としての日本音楽研究」を読み、自身の考えをまとめる。	90分 180分
第13回	【AL】(2) 実地見学—江戸東京博物館で江戸文化を知る(グループワークを含む)	見学準備を行う。見学ポイントや施設情報など。	見学した結果を図や文章にしてまとめる。	90分 180分
第14回	【AL】(3) 調査結果をレポートにする—レポート執筆の基礎を学ぶ	レポートの書き方について調べ、質問事項をまとめておく。	用紙の使い方、体裁、注、参考文献の書き方、禁則などを身につける。	90分 180分
第15回	前期総括—講義内容及び自主調査で何を学び、何を考えたかを自分の言葉で表現する。	ノートを見直し、前期の講義および自修内容を復習し、質問事項をまとめておく。	講義を踏まえ、自身の課題を設定し、レポート課題に取り組む。	90分 180分

フィードバック 各回の終わりに B6 判用紙に理解内容(質問事項を含む)をまとめて提出し、各時代ごとに小テストを行う。記述内容および小テストについて添削・採点を行うことで学修成果のフィードバックとする。

成績評価 期末論述テスト40%、小テストおよび各回のまとめ30%、小レポート15%、講義への積極的参加・発言15% (ルーブリック配布)。
期末論述テストおよび小テストは講義内容の正確な理解を確認する。理解内容に対する受講者自身の考えを適切に述べるものを高く評価する。各回のまとめは、受講者自身の問題意識に照らして理解内容を簡潔かつ性格に記述するものを評価する。小レポートは博物館美術館見学を踏まえ、意欲的な調査結果の報告を評価する。講義時は教員の質問に対して自ら考え、積極的に発言する姿勢を評価する。

テキスト 講義時にプリントを配布する。

オフィスアワー 水曜Ⅲ 日本音楽史研究所(2F)

アクティブ・ラーニング 日本文化を総合的に理解するため、江戸東京博物館または東京国立博物館で見学する。さらにオンラインの博物館見学や雅楽演奏会、長唄演奏会を鑑賞し、それぞれ報告する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

日本音楽史-2

※教育職員免許状取得に関わる科目

准教授 櫻井利佳

科目コード：MUS104

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/1~2年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	日本に育ち、また生活しながらも、日本の音楽史について何も知らない学生が多い。しかし音楽を専門に学んだ人として社会で活躍する際、日本文化の知識教養は不可欠である。講義では、有史以来明治維新まで、日本において音楽が世界でも珍しく政治・宗教・社会の中枢に位置してきた事、にも関わらず何故現代は日本の音楽が教育の場から失われたかを、歴史研究の立場から考える。講義で得た知識を元に各ジャンルの意義を議論し論述する。一回は博物館美術館見学レポートを含む。毎回小課題による振り返りを行う。
到達目標	実証的日本音楽史の必要を自覚し、音楽史を正しく理解する。その上で、各回のテーマについて問題意識を持ち、研究の現状と課題を知り、それらについて自身の言葉で適切に表現・議論できる。適切な資料の調査法・引用法を学び、日本音楽史について適切な調査に基づき論述することができる。日本文化の重層性や多様性、特徴を自ら考え、日常の様々な場面と知識を結びつけることができる。

回	内容	事前	事後	時間
第1回	中世（1）中世文化史概説—戦乱と武士と寺/四大宗教と音楽	『日本音楽教育事典』『平安・鎌倉時代』の項を読み、質問事項をまとめておく。	四大宗教の音楽の特徴について調査し、宗教における音楽の役割を考察する。	90分 180分
第2回	中世（2）寺は文化の発信地—興福寺と日本最大の音楽一族/浄土教と芸能/禅宗と諸道	『仏教文化事典』『唱導と語り物』『法会と芸能』項を読み、質問事項をまとめる。	仏教と芸能との関係の多様性、影響力、興福寺楽人の大規模組織について調査する。	90分 180分
第3回	中世（3）仏教儀式の音楽と声明（仏教声楽）	『日本音楽大事典』『仏教音楽』『声明』の項を読み、質問事項をまとめる。	同項「研究史」を利用し、日本の声明史と音楽的特徴について調査し、考察する。	90分 180分
第4回	中世（4）語り物の源流としての講式	『日本音楽大事典』『講式』の項を読み、質問事項をまとめる。	『四座講式』の構造、楽譜を調査し、音楽史的意義を考察する。	90分 180分
第5回	中世（5）琵琶法師は大金持ち？—一家語りと武家社会	『日本音楽大事典』『盲僧琵琶』『平曲』の項を読み、質問事項をまとめる。	同項「研究史」を利用し、平曲について調査し、音楽史的意義を考察する。	90分 180分
第6回	中世（6）猿楽（能楽）の大成者 世阿弥	『日本音楽大事典』『猿楽』の項を読み、質問事項をまとめる。	世阿弥の著作や作品を調査し、その業績を知り、音楽史的意義を考察する。	90分 180分
第7回	中世（7）狂言の分化	『日本音楽大事典』『狂言』の項を読み、質問事項をまとめる。	能楽以外の様々な中世芸能を調べ、寺が母体となった芸能の多様性を考察する。	90分 180分
第8回	【AL】（1）東京国立博物館で音楽を見つける（グループワーク）	事前 見学施設の文化的意義および基本情報を調べ、見学に備える。	事後 見学した音楽関係史料について、さらに調査を進める。	90分 180分
第9回	【AL】（2）日本音楽史の先行研究の調べ方を学ぶ	事前 前回の見学結果を整理し、深めるべき研究のポイントを絞る。	事後 自分の研究テーマに沿って適切な先行研究調査を実践する。	90分 180分
第10回	【AL】（3）先行研究を批判する	事前 調べた先行研究を読み、疑問点および問題点をまとめる。	事後 先行研究批判を発端としてレポートを執筆し、問題を解決する。	90分 180分
第11回	上代・中古（1）上代・中古文化史概説—国造りの中核にあった音楽	『日本音楽教育事典』『飛鳥・奈良時代』の項を読み、質問事項をまとめておく。	『礼記』の音楽を読み、なぜ律令国家の中心に音楽が置かれたかを考察する。	90分 180分
第12回	上代・中古（2）遣唐使吉備真備と礼楽思想/東大寺大仏開眼供養と諸国楽	事前 吉備真備、東大寺大仏開眼供養、正倉院について調べ、質問事項をまとめておく。	事後 正倉院の様々な音楽史料について調べ、その意義を考察する。	90分 180分
第13回	上代・中古（3）平安貴族必須の管絃—デートの必須アイテム：横笛と箏	事前 『落窪物語』『枕草子』の音楽場面を読み、質問事項をまとめておく。	事後 古典文学の音楽場面を参考に平安貴族社会における「詩歌管絃」の意義を考察する。	90分 180分
第14回	上代・中古（4）考古学から知る音楽—出土史料から分かること	事前 出土史料を東京国立博物館画像データで確認し、質問事項をまとめておく。	事後 各時代の出土史料とその特徴を調べ、その意義を考察する。	90分 180分
第15回	後期総括—千年変わらぬ楽など存在しない—「伝統音楽」と日本音楽史の違い	事前 現代の演奏伝承、視聴覚資料の解説等を読み、学習内容との矛盾点をまとめておく。	事後 現代の「伝統音楽」の演奏伝承と日本音楽史との違いについて考察する。	260分 10分

フィードバック 各回の終わりに B6 判用紙に理解内容（質問事項を含む）をまとめて提出し、各時代ごとに小テストを行う。記述内容および小テストについて添削・採点を行うことで学修成果のフィードバックとする。

成績評価 期末論述テスト 40%、小テストおよび各回のまとめ 30%、小レポート 15%、講義への積極的参加・発言 15%
 期末論述テストおよび小テストは講義内容の正確な理解を確認する。理解内容に対する受講者自身の考えを適切に述べるものを高く評価する。各回のまとめは、受講者自身の問題意識に照らして理解内容を簡潔かつ性格に記述するものを評価する。小レポートは博物館美術館見学を踏まえ、意欲的な調査結果の報告を評価する。講義時は教員の質問に対して自ら考え、積極的に発言する姿勢を評価する。

テキスト 『日本音楽史料展（雅楽と声明）』（上野学園大学日本音楽史研究所）2017年3月 ※講義時に配布する。

オフィスアワー 水曜Ⅲ 日本音楽史研究所(2F)

アクティブ・ラーニング 日本文化を総合的に理解するため、江戸東京博物館または東京国立博物館で見学する。さらにオンラインの博物館見学や雅楽演奏会、長唄演奏会を鑑賞し、それぞれ報告する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											

特別講座

学部長 特任教授 柳澤美枝子

科目コード：HUM101

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4年次

形態：講義

単位数：2単位（4年間通じて）

概要 各自が修得する専門分野に加え、さらに視野を広げ音楽芸術及び教養の思考を深めるため、国内外の優れた演奏家、学者を招き高度で豊かな表現、思想を追求する。この科目は大学4年間を通じての履修が必要で各講義毎にレポートを提出する。

到達目標 聴講後のレポートにより、受講した内容がさらに厚味となって体得されることを目標とする。

授業計画 年間5～6回行うものとする。
原則として、水曜日17:40～19:10までの90分の講座
各年度初めに、日程を掲示する。

フィードバック

成績評価 1年次から卒業年次までを通じ、講座への参加状況、レポート内容で総合的に判断する。

- (1) 毎回の鑑賞レポートをABC評価で採点し、評価ABCを合格、Dを不合格とする。
- (2) 在学期間を通して提出した鑑賞レポートの数で平均得点を出す。その平均得点が属する評価段階を最終評価とする。但し、在学期間に開催された「特別講座」全回数の3分の2以上、出席していることを条件とする。

「学生のためのハンドブック」に定める公欠となる事由（学校感染症への罹患、忌引き、教育実習、等）により「特別講座」に出席できない場合は、「欠席届（出席扱い）」を提出すれば出席と認定される。

テキスト なし

オフィスアワー 終了後、質疑応答の時間を設ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

芸術社会学 I

非常勤講師 三枝まり

科目コード：CAR201

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 音楽は社会や政治の歩みと密接に関連している。近代化の過程で、音楽が歴史的・社会的にどのように位置づけられてきたのか、トピックごとに取りあげ、音楽に与える社会の影響や社会において音楽が持つ意味について考察する。

到達目標

- 1 音楽をとりまく社会と文化を総合的に理解する多角的な視野を養い、音楽を通じて社会を論じることができるようになる。
2. 自分なりの視点で音楽文化の形成について理解し、これからの日本の社会の中でどのように音楽と向き合っていきたいかを考えることができる。

授業計画		事前	事後	130 分
第 1 回	音楽と社会（総論）	授業に期待することを頭の中でまとめておく（授業でリアクションペーパーに記入）	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 2 回	音楽家の生活と演奏会の成立	音楽家と呼ばれる人々ほどの存在か考えてみる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 3 回	クラシックの聴衆社会層	19 世紀ヨーロッパの一般的な世界史の知識を得ておく。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 4 回	ニュー・イヤーズ・コンサートに見る「伝統」の創造	任意のニュー・イヤーズ・コンサートを聴いてくる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 5 回	近代化と楽器	楽器を通してどのような音楽観が抱かれてきたのか考える。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 6 回	パイロイト音楽祭とナショナルリズム	19 世紀以降のドイツの歴史について知識を得ておく。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 7 回	メディアを考える	メディアの特徴について考えておく。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 8 回	国家と音楽	明治時代以降の日本史の知識を得ておく。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 9 回	「日本的」とは何か	明治初期の日本の近代化政策と音楽について調べてくる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 10 回	宝塚歌劇団の意義	任意の宝塚歌劇団の映像資料を見てくる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 11 回	童謡の近代	印象に残っている童謡が、自分にどのような影響を与えたか考える。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 12 回	戦争と音楽—戦時歌謡、絶対音感教育	昭和時代の日本史の知識を得ておく。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 13 回	戦争と音楽—日本における作曲界の動向	伝統音楽の演奏を聴いてくる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 14 回	海外への日本文化の発信—近衛秀麿	好きな指揮者の活動とレパートリーについて調べる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 15 回	前期のまとめ	前期に学んだことを復習する。	関連する作品を実際に聴く。	140 分

フィードバック 必要に応じて提出物にコメントを加えることによりフィードバックする。また、理解度に応じてシラバスの内容を変更する。

成績評価 期末論述テスト 60%、リアクションペーパー等の提出物、授業態度 40%

テキスト 講義内で配布するレジュメに参考文献を掲載する。

オフィスアワー 原則として授業終了後に教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	プレゼンテーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>					

芸術社会学Ⅱ

非常勤講師 三枝まり

科目コード：CAR202

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2 年次

形態： 単位数：2 単位

概要 音楽は社会や政治の歩みと密接に関連している。近代化の過程で、音楽が歴史的・社会的にどのように位置づけられてきたのか、トピックごとに取りあげ、音楽に与える社会の影響や社会において音楽が持つ意味について考察する。

到達目標 1 音楽をとりまく社会と文化を総合的に理解する多角的な視野を養い、音楽を通じて社会を論じることができるようになる。
2. 自分なりの視点で音楽文化の形成について理解し、これからの日本の社会の中でどのように音楽と向き合っていきたいかを考えることができる。

回	テーマ	事前	事後	130分	140分
第1回	20世紀の文化とプロパガンダ	プロパガンダについて調べる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130分	140分
第2回	戦後日本の文化と音楽	戦後の日本史についての知識を得ておく。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130分	140分
第3回	社会主義運動と音楽	社会主義運動とは何かを調べる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130分	140分
第4回	音楽趣味の形成と大衆化	これまで習った習い事を思い出し、自分にどのような影響を与えたか考える。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130分	140分
第5回	経済活動と音楽—音楽祭、都市計画、ホール運営	日本の音楽祭について調べる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130分	140分
第6回	芸術祭と地域づくり	日本の芸術祭について調べる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130分	140分
第7回	今日のアートと社会	身の回りでなされている、社会と音楽をつなぐ取り組みについて調べる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130分	140分
第8回	映画の中の音楽	映画音楽で表される「日本」について、事例をできる限り探す。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130分	140分
第9回	ポピュラー音楽の諸相	任意の曲を選び、音楽と歌詞の特徴を見つける。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130分	140分
第10回	世界の音楽の受容	自分が関心を持つ国でどのような音楽が演奏されているのか調べる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130分	140分
第11回	資料のアーカイヴスを学ぶ	どのようなアーカイヴズがあるか調べる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130分	140分
第12回	表は身を助く?	第二次世界大戦時のヨーロッパの一般的な世界史の知識を得ておく。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130分	140分
第13回	冷戦と音楽	冷戦について調べる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130分	140分
第14回	「鑑賞」されるクラシック音楽	これまで「鑑賞」した音楽について整理しておく。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130分	140分
第15回	後期のまとめ	後期に学んだことを復習し、レポートに書く内容を整理する。	関連する作品を実際に聴く。	130分	140分

フィードバック 講義の始めに復習の時間を設けるとともに、必要に応じて提出物にコメントを加えることによりフィードバックする。また、理解度に応じてシラバスの内容を変更する。

成績評価 期末論述テスト 40%、リアクションペーパー等の提出物、授業態度 60%

テキスト 講義内で配布するレジュメに参考文献を掲載する。

オフィスアワー 原則として授業終了後に教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>						

卒業演習-1 (ピアノ)

各実技担当教員

科目コード : IND401

対象コース/専門/学年 : ピアノ専門/4 年次

形態 : 演習

単位数 : 2 単位

概論 これまで学んできた時代様式に沿った演奏法について確認し、より理解を深め、その中から自分に適したテーマを決定する。

到達目標 自己を見つめ直し、これまでの学びを振り返り、大学生としての集大成となるテーマを見つける。

授業計画

第 1 回	学習計画	事前 事後	これまでの学習とレパートリーの確認。 学習計画により、今後の方向性を確認する。	135 分 135 分
第 2 回	時代様式の確認 (1) バロック 形式を中心に	事前 事後	フーガ、舞曲等の作品を聴く。 バロック作品を分析する。	135 分 135 分
第 3 回	時代様式の確認 (2) バロック 奏法を中心に	事前 事後	アーティキュレーション、装飾音等の作品特徴を研究する。 作品を分析し、奏法の可能性を考える。	135 分 135 分
第 4 回	時代様式の確認 (3) 古典派 形式を中心に	事前 事後	ソナタ形式や、和声進行について確認する。 古典派の作品を分析する。	135 分 135 分
第 5 回	時代様式の確認 (4) 古典派 奏法を中心に	事前 事後	古典派の作品の音色について考える。 タッチ、ペダル、アーティキュレーション等、表現方法の見直し。	135 分 135 分
第 6 回	時代様式の確認 (5) ロマン派 様式観を中心に	事前 事後	ロマン派の作品の特徴について考える。 音楽以外の分野との関係について考える。	135 分 135 分
第 7 回	時代様式の確認 (6) ロマン派 奏法を中心に	事前 事後	ロマン派の作品の音色について考える。 ペダル、響きのつくり方の研究と楽器の発達について考える。	135 分 135 分
第 8 回	時代様式の確認 (7) 近現代 音色、響きの研究	事前 事後	近現代作品の作曲家について調べる。 それぞれの作曲家の求める響きについて考える。	135 分 135 分
第 9 回	時代様式の確認 (8) 近現代 奏法を中心に	事前 事後	ピアノという楽器の可能性について考える。 タッチやペダルの使い方の新たな可能性について考える。	135 分 135 分
第 10 回	研究テーマを考える① 自己分析	事前 事後	自分の過去のレパートリーを検証する。 自分を見つめ、合う作品、音楽的興味の傾向を探る。	135 分 135 分
第 11 回	研究テーマを考える② 時代様式の観点から	事前 事後	様々な時代の作品を聴く。 それぞれの時代様式と自己と接点を探る。	135 分 135 分
第 12 回	研究テーマを考える③ 作曲家の観点から	事前 事後	様々な作曲家の作品を聴く。 それぞれの作曲家の響き、世界観を迫る。	135 分 135 分
第 13 回	研究テーマを考える④ 作品形式の観点から	事前 事後	様々な形式により書かれた作品を比較する。 様々な形式の特徴を理解する。	135 分 135 分
第 14 回	研究テーマを考える⑤ 技術的観点から	事前 事後	これまでのレパートリーを分析し、自分の技術について分析する。 自分の得意な技術、不得意な技術を確認する。	135 分 135 分
第 15 回	研究テーマを決定する	事前 事後	これまでの学習のまとめと自己分析。 自分に適した研究テーマを決め、確認する。	135 分 135 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて行う。

成績評価 課題への取り組み方 (50%)、授業態度 (50%)

テキスト 曲目、並びに小論文の資料は個々の状況に合わせて、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

卒業演習-2 (ピアノ)

各実技担当教員

科目コード: IND 402

対象コース/専門/学年: ピアノ専門/4年次

形態: 演習

単位数: 2単位

概論 前期に決定した研究テーマを様々な角度から考察し、論文にまとめ上げるための能力を身につける。

到達目標 卒業演奏試験で取り組む曲について多角的に研究し、卒業演奏論文としてまとめ上げる。

授業計画

第1回	研究テーマに合致した、卒業演奏試験曲目を選ぶ	事前 研究テーマに則した作品をいくつか考える。 事後 選んだ曲について資料を集める。	135分 135分
第2回	卒業演奏試験曲目の考察① 時代様式	事前 作品の成り立ちと時代背景について調べる。 事後 同時代の他の作品を聴く。	135分 135分
第3回	卒業演奏試験曲目の考察② 作曲家	事前 作曲家の生涯や音楽的考え方について調べる。 事後 作曲家のその他の曲を聴く。	135分 135分
第4回	卒業演奏試験曲目の考察③ 楽曲分析	事前 テーマやモチーフ、リズム、和声について考える。 事後 校正や形式について確認する。	135分 135分
第5回	卒業演奏試験曲目の考察④ 技術面	事前 指使いを考察する。 事後 困難な箇所の練習方法について考える。	135分 135分
第6回	卒業演奏試験曲目の考察⑤ 作品全体像の確認	事前 楽譜の読み込み。 事後 楽曲を複数のピアニストによる演奏で聴いてみる。	135分 135分
第7回	論文の書き方について学ぶ	事前 過去に書かれた論文を読む。 事後 論文の形式について確認。	135分 135分
第8回	資料研究① 文献を集める	事前 関係するキーワードを考える。 事後 文献を検索する。	135分 135分
第9回	資料研究② 文献の理解	事前 関連する文献を読み込む。 事後 文献以外の資料の調査。	135分 135分
第10回	構成を考える	事前 方向性の決定。 事後 文献の整理。	135分 135分
第11回	構成を決定する	事前 目次案の作成。 事後 目次と引用文献の確認。	135分 135分
第12回	作成① 概要	事前 草稿を作成する。 事後 草稿を推敲する。	135分 135分
第13回	作成② 要旨作成	事前 要旨を再考し、まとめる。 事後 原稿を作成する。	135分 135分
第14回	校正	事前 原稿の読み込み。 事後 多角的に原稿を確認し、問題点を考える。	135分 135分
第15回	まとめ	事前 自己評価をして、問題点を修正する。 事後 清書する	135分 135分

フィードバック 卒業演奏試験後に講評する。

成績評価 卒業演奏試験に研究した内容が反映されているか。評価は複数の審査員の採点による

テキスト 曲目、並びに小論文の資料は個々の状況に合わせて、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

卒業演習-1 (弦楽器)

各実技担当教員

科目コード: IND401

対象コース/専門/学年: 弦楽器専門/4 年次

形態: 演習

単位数: 2 単位

概論 卒業演奏試験 (小論文含む) にむけて、音楽の解釈力と表現力を養う。

到達目標 自らの解釈をもって、説得力のある演奏や論文執筆ができる。

授業計画 この単位は半期 15 回、各人 60 分の個人指導
専門実技IV-1 および (演) 専門実技IV-1 に付随する。

第 1 回	学習計画をたてる	事前 三年次の学習を確認し、最終学年の計画をたてる。 事後 計画にしたがって準備をする。	135 分 135 分
第 2 回	課題曲 I (ソナタ) あるいはエチュード曲を選ぶ (1)	事前 作品の背景をとらえる。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 3 回	課題曲 I (ソナタ) あるいはエチュード曲を選ぶ (2)	事前 和声感に注目する。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 4 回	課題曲 I (ソナタ) あるいはエチュード曲を選ぶ (3)	事前 奏法について考える。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 5 回	課題曲 I (ソナタ) あるいはエチュード曲を選ぶ (4)	事前 形式を把握する。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 6 回	課題曲 I (ソナタ) あるいはエチュード曲を選ぶ (5)	事前 様式感を意識する。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 7 回	課題曲 I (ソナタ) あるいはエチュード曲を選ぶ (6)	事前 表現とは何か考える。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 8 回	課題曲 I (ソナタ) あるいはエチュード曲を選ぶ (7)	事前 アンサンブルの呼吸感を掴む。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 9 回	課題曲 II (無伴奏作品) (1) あるいは課題曲 A (バロック期) (1) を学ぶ	事前 新たな作品の背景をとらえる。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 10 回	課題曲 II (無伴奏作品) (2) あるいは課題曲 A (バロック期) (2) を学ぶ	事前 形式、和声を意識する。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 11 回	課題曲 II (無伴奏作品) (3) あるいは課題曲 A (バロック期) (3) を学ぶ	事前 表現のための技術を磨く。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 12 回	課題曲 II (無伴奏作品) (4) あるいは課題曲 B (古典派) (1) を学ぶ	事前 様式の違いによる奏法を工夫する。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 13 回	課題曲 II (無伴奏作品) (5) あるいは課題曲 B (古典派) (2) を学ぶ	事前 ニュアンスについて考える。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 14 回	課題曲 II (無伴奏作品) (6) あるいは課題曲 B (古典派) (3) を学ぶ	事前 客観的な視点をもって自らの演奏表現をみつめる。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 15 回	課題曲 II (無伴奏作品) (7) あるいは課題曲 A、B を学ぶ	事前 前期のまとめを行う。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて行われた、実技試験後には講評を行う。

成績評価 演奏試験、評価は複数の審査員の採点による

テキスト 曲目、並びに小論文の資料は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

卒業演習-2 (弦楽器)

各実技担当教員

科目コード: IND 402

対象コース/専門/学年: 弦楽器専門/4 年次

形態: 演習

単位数: 2 単位

概論 卒業演奏試験 (小論文含む) にむけて、音楽の解釈力と表現力を養う。

到達目標 自らの解釈をもって、説得力のある演奏や論文執筆ができる。

授業計画 この単位は半期 15 回、各人 60 分の個人指導
専門実技IV-2 および (演) 専門実技IV-2 に付随する。

第 1 回	学習計画をたてる、あるいは課題曲 C (ロマン派小品) (1) を学ぶ	事前 小品のキャラクターをとらえる力を養う。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分
第 2 回	課題曲 III (小品) (1) あるいは課題曲 C (ロマン派小品) (2) を学ぶ	事前 新たな作品の背景や形式をとらえる。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分
第 3 回	課題曲 III (小品) (2) あるいは課題曲 C (ロマン派小品) (3) を学ぶ	事前 新たな奏法へのアプローチを試みる 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分
第 4 回	課題曲 III (小品) (3) あるいは課題曲 D (ロマン派協奏曲) (1) を学ぶ	事前 楽曲の全体像を俯瞰できるようにする。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分
第 5 回	卒業演奏試験へのアプローチあるいは課題曲 D (ロマン派協奏曲) (2) を学ぶ	事前 卒業試験をみすえて、ベース配分を再考する。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分
第 6 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ (1) あるいは課題曲 D (ロマン派協奏曲) (3) を学ぶ	事前 作曲家の意図をくみとる。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分
第 7 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ (2) あるいは課題曲 E (近現代) (1) を学ぶ	事前 多彩な語彙力を養う。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分
第 8 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ (3) あるいは課題曲 E (近現代) (2) を学ぶ	事前 より自由な発想をもつ。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分
第 9 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ (4) あるいは課題曲 E (近現代) (3) を学ぶ	事前 論理的思考をつちかう。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分
第 10 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ (5) あるいはリサイタルプログラム (1) を学ぶ	事前 自身の演奏を客観的にとらえ、プレゼンテーションを行う。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分
第 11 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ (6) あるいはリサイタルプログラム (2) を学ぶ	事前 より伝わる演奏をするためのアプローチを行う。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分
第 12 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ (7) あるいはリサイタルプログラム (3) を学ぶ	事前 小論文の準備について確認する。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分
第 13 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ (8) あるいはリサイタルプログラム (4) を学ぶ	事前 ピアノとの緻密なアンサンブルを構築する。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分
第 14 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ (9) あるいはリサイタルプログラム (5) を学ぶ	事前 ホールリハーサルでの反省をいかして演奏準備にあたる。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分
第 15 回	卒業演習試験の反省	事前 集大成となる舞台にむけて準備する。 事後 4 年間の学びをふりかえり	135 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて行われた、実技試験後には講評を行う。

成績評価 演奏試験、評価は複数の審査員の採点による

テキスト 曲目、並びに小論文の資料は個々の状況に合わせて、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

卒業演習-1 (GLA)

准教授 佐野直哉

科目コード: MUS401

対象コース/専門/学年: GLA コース/文化創造マネジメント専門/4 年次

形態: 講義	単位数: 2 単位
概要	各自が選んだテーマを元に、論文を完成させるための指導をおこなう。論文執筆の進度に応じてグループおよび個人指導の形態で実施する。アートマネジメント研究領域の動きを概観しながら、各自の選んだテーマの位置づけを先行研究リサーチから明らかにし、現場における実践から得たデータを分析し、論文の形にまとめる。
到達目標	論文に必要な「問い」、各自が取り組む「課題」、先行研究の調査およびそこから見えてくる「仮説」と各自のリサーチの「オリジナリティ」、実践や現場調査、制作プロジェクトを通して得たデータの「分析」と「論拠」の構成をしっかりと明確に意識しながら執筆することを目標とする。中間発表、口頭発表などを通してプレゼンテーションスキルも養う。

回	内容	事前	事後	単位数
第 1 回	各自の卒業論文の研究テーマについて、昨年度提出の研究計画書のディスカッションと見直し	3 年次演習で提出した研究計画書の見直し作業をおこなう	指定教科書の 3 年演習時に扱った部分を復習する	100 分 170 分
第 2 回	各自の卒業論文の研究テーマについて、前回の演習でのディスカッションに基づいて修正したものを持参し、研究の方向性を決定する。	フィードバックを踏まえて修正をおこなう	論文の研究テーマについて構成要素にしたがってあらすじを書く	100 分 170 分
第 3 回	論文の構成を考える。 構成項目のあらすじを作成する。アートマネジメント研究領域の分野を明確にする	論文の研究テーマについて構成要素にしたがってあらすじを書く	講義で合意した研究分野の先行研究を Google Scholar, CiNii で調査する。	100 分 170 分
第 4 回	データの分析方法 信頼性と妥当性/トライアングレーション	テキストの Step3-15, 16 を読んでおく	講義を受けて、数本の論文を深く読み、結論を整理する。(レビュー)	100 分 170 分
第 5 回	データの分析方法 グラウンデッド・セオリー・アプローチ/エスノグラフィー/KJ 法	テキストの Step3-17, 18, 19 を読んでおく	自身の調査の位置づけを考え、どのような結論を想定するか検討する	100 分 170 分
第 6 回	データの分析方法 絶えざる比較法/KH Coder による分析	テキストの Step3-20, 21 を読んでおく	研究テーマの仮説を立て、なぜオリジナリティがあるのか論拠を立てる	100 分 170 分
第 7 回	質的研究の論文執筆と発表 研究論文の進め方	テキストの Step4-22, 23, 24 を読んでおく	仮説の論拠としての事例や制作実践は適切か、検討する	100 分 170 分
第 8 回	質的研究の論文執筆と発表 査読をクリアするための秘訣/プレゼンテーションの留意点と秘訣	テキストの Step4-25, 26 を読んでおく	データ分析手法の種類をリサーチし、適切な方法を選択する	100 分 170 分
第 9 回	第 1 章の執筆	これまでの学修内容を第 1 章で落とし込みながら執筆する	講義を受けて、加筆修正をおこなう	100 分 170 分
第 10 回	第 1 章の加筆修正	引き続き加筆修正をおこなう	第 1 章を完成させる、先行事例の部分を執筆する	100 分 170 分
第 11 回	先行事例の部分の執筆	引き続き執筆する	講義を受けて、加筆修正をおこなう	100 分 170 分
第 12 回	先行事例の部分の加筆修正	引き続き加筆修正をおこなう	先行事例部分を完成させる。	100 分 170 分
第 13 回	これまでの研究のまとめ	中間報告会に向けて、これまでの研究をまとめ、発表内容の原案を作成する。	講義を受けて、発表内容を修正する。	100 分 170 分
第 14 回	中間報告: レジюме作成	中間発表のレジюмеを作成する。	講義を受けて、中間発表のレジюмеを修正する。	100 分 170 分
第 15 回	中間報告: 口頭発表	口頭発表の発表原稿を作成する。	発表会で受けた質問や課題を受け止め、足りない部分を補足する。	100 分 170 分

フィードバック 学生が事前に準備してきた内容を授業内で検討し、新たな課題を見出す形で進めていく。授業内での討議、指導がフィードバックにあたり、フィードバックされた内容を生かして、次週に向け新たな課題に取り組む。

成績評価 7 月上旬に卒業論文の中間報告が義務づけられる。中間報告までの取組と内容 (70%)、中間報告会での発表内容やプレゼンテーション、質疑応答などのパフォーマンス (30%) を含めて評価する。

テキスト 中島洋「初学者のための質的研究 26 の教え」(2015) 医学書院 ISBN 978-4-260-02405-1

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて (事前に Email にて連絡が望ましい。ball0000846@mail.uenogakuen.ac.jp)

備考 正規の演習時間外に個別指導等の時間を設定する場合がある。メールで添削する場合もある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

卒業演習-2 (GLA)

准教授 佐野直哉

科目コード：MUS402

対象コース/専門/学年：GLA コース/文化創造マネジメント専門/4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	各自が選んだテーマを元に、論文を完成させるための指導をおこなう。論文執筆の進度に応じてグループおよび個人指導の形態で実施する。アートマネジメント研究領域の動きを概観しながら、各自の選んだテーマの位置づけを先行研究リサーチから明らかにし、現場における実践から得たデータを分析し、論文の形にまとめる。
到達目標	論文に必要な「問い」、各自が取り組む「課題」、先行研究の調査およびそこから見えてくる「仮説」と各自のリサーチの「オリジナリティ」、実践や現場調査、制作プロジェクトを通して得たデータの「分析」と「論拠」の構成をしっかりと明確に意識しながら執筆することを目標とする。中間発表、口頭発表などを通してプレゼンテーションスキルも養う。

回	内容	事前	事後	単位数
第 1 回	新たな課題の提起：構成の修正	中間発表でのコメントを整理し、軌道修正を行い修正案を作成する。	講義を受けて、今後の研究の方向を明らかにする。	100 分 170 分
第 2 回	各自のフィールドワーク、制作実践（広報宣伝・当日運営体制・運営ボランティアの確認）	フィールドワーク・制作実践の準備	フィールドワーク・制作実践の準備	100 分 170 分
第 3 回	各自のフィールドワーク、制作実践（ゲネプロ実施）	フィールドワーク・制作実践の準備	フィールドワーク・制作実践の準備	100 分 170 分
第 4 回	各自のフィールドワーク、制作実践（本番実施）	フィールドワーク・制作実践の準備	フィールドワーク・制作実践の準備	100 分 170 分
第 5 回	各自のフィールドワークの振り返り、整理	これまでのフィールドワークの整理をおこなう	講義を受けて、フィールドワークのストーリーを確定する。	100 分 170 分
第 6 回	フィールドワークおよび制作実践で得たデータの分析	データの詳細を分析する	論文使用のためにデータをビジュアル化する	100 分 170 分
第 7 回	フィールドワーク部分の執筆	フィールドワーク内容を執筆する	講義を受けて、加筆修正を行う。	100 分 170 分
第 8 回	フィールドワーク部分の加筆修正	フィールドワーク内容の加筆修正を行う。	講義を受けて、さらに加筆修正を行い、確定させる	100 分 170 分
第 9 回	これまでの執筆部分を論文に構成し、過不足部分を捉え、さらに執筆	論文の構成に従ってこれまで書き溜めたテキストを再構成する	講義を受けてブラッシュアップ	100 分 170 分
第 10 回	脚注・引用・参考文献のチェック	脚注・引用・参考文献の頁を執筆する。	講義を受けて、脚注・引用・参考文献について加筆修正する。	100 分 170 分
第 11 回	論文要旨作成・全体の見直し	論文・演習レポートの要旨を見直す。	講義を受けて、論文演習レポートの要旨を修正する。	100 分 170 分
第 12 回	発表レジュメ作成と全体の見直し	発表のレジュメを作成する。	講義を受けて、レジュメの修正を行う。	100 分 170 分
第 13 回	論文発表・演習レポート準備	論文発表に向けて、パワーポイントを作成する。	講義を受けて、パワーポイントを修正する。	100 分 170 分
第 14 回	論文・演習レポート発表	発表原稿を作成する。	卒業論文審査での指導助言を受けて、要旨、並びに論文を修正する。	100 分 170 分
第 15 回	まとめ	論文、並びに要旨を仕上げ、提出する。	卒業後の新しい仕事の中で、研究したことを生かしていく課題意識を明確にする。	100 分 170 分

フィードバック 学生が事前に準備してきた内容を授業内で検討し、新たな課題を見出す形で進めていく。授業内での討議、指導がフィードバックにあたり、フィードバックされた内容を生かして、次週に向け新たな課題に取り組む。

成績評価 卒業論文・制作および口頭試問によって評価する（70%）。具体的には、論文の形式、目的、方法、内容、参考文献の記載方法等が適切であるかを評価する。卒業論文完成までの取組と内容（30%）も考慮に入れる。

テキスト 中島洋「初学者のための質的研究 26 の教え」（2015）医学書院 ISBN 978-4-260-02405-1

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて（事前に Email にて連絡が望ましい。ball0000846@mail.uenogakuen.ac.jp）

備考 正規の演習時間外に個別指導や制作実践指導などの時間を設定する場合がある。メールで添削する場合もある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技Ⅲ-1 (ピアノ)

各実技担当教員

科目コード：IND301

対象コース/専門/学年：器楽コース/ピアノ専門/2年次

形態：実技

単位数：4単位

概要 学内演奏会の出演のための準備を行う。

到達目標 学内演奏会の出演により聴衆の前で研究成果を発表する。

授業計画 15回、各人60分の個人指導

第1回	ガイダンス 前期の学習計画を立てる	事前 現状を自己分析し、課題を明確にする。 事後 課題曲の設定。	320分 520分
第2回	読譜の注意点	事前 楽譜の指示を良く見る。 事後 様々な作曲家の指示、記譜法について研究する。課題曲の読譜。	320分 520分
第3回	技術的問題点の解決法	事前 自分の技術的問題点を把握する。 事後 様々な問題を想起し、練習法を整理、復習する。課題曲の読譜。	320分 520分
第4回	楽曲分析 楽曲 A	事前 和声の確認。 事後 和声進行、音楽の流れ、展開の把握。	320分 520分
第5回	構成理解	事前 楽句、フレーズを整理する。 事後 作品の構成を理解し、全体像を明確にする。	320分 520分
第6回	ペダルの確認	事前 音、響きをイメージして練習。 事後 作曲家の指示を踏まえ正しいペダル、効果的なペダルを追求。	320分 520分
第7回	奏法の工夫	事前 作品のイメージを明確にする。 事後 相応しい奏法の研究。	320分 520分
第8回	作品の内容、性格について	事前 構成、楽曲分析の復習。 事後 楽譜の指示、様々な要素から作品の内容、性格を読み取る。	320分 520分
第9回	表現の工夫	事前 演奏表現のイメージを明確にし、パートナーとの合同練習。 事後 アンサンブルの音、響き、表現を追求して練習。	320分 520分
第10回	音色、響きの研究	事前 作品に相応しい音のイメージを追求し合同練習。 事後 理想の響きを求めて奏法、タッチを工夫する。	320分 520分
第11回	バランス	事前 全体を良く聴いて合同練習。 事後 相手パートとの理想のバランスを追求して練習。	320分 520分
第12回	表現の掘り下げ	事前 作品の内容、性格を確認して合同練習。 事後 アンサンブルにおける理想の表現を追求して練習。	320分 520分
第13回	ホールでの演奏を想定した表現、奏法	事前 ホールを想定しながら合同練習。 事後 担当教員のアドバイスを基に広いホールでの表現を意識して練習。	320分 520分
第14回	ホールでの演奏を想定した表現、奏法の徹底	事前 イメージトレーニングと反復練習。 事後 ホールをイメージして反復練習。	320分 520分
第15回	前期 成果の発表	事前 ポジションを確認して仕上げ練習。 事後 自己評価。	320分 520分

フィードバック 学内演奏会后、各教員のコメントを聞くことができる。

成績評価 学内演奏会により「可」及び「不可」で判定を行う。

テキスト 各自の進度に合わせて適宜選定する。試験曲はピアノ専門・演奏試験要項に基づき選定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各実技担当者のレッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

専門実技Ⅲ-2 (ピアノ)

各実技担当教員

科目コード：IND302

対象コース/専門/学年：器楽コース/ピアノ専門/2年次

形態：実技

単位数：4単位

概要 後期ロマン派から近現代の作品に取り組む。

到達目標 ロマン派から近現代の作品を通じて色彩感覚や音楽語法など、演奏表現の幅を広げる。

授業計画 15回、各人60分の個人指導

回数	内容	事前	事後	評価
第1回	協奏曲について	協奏曲について調べる。	協奏曲について調べる。	320分
		事後 古典派の協奏曲のスタイルを研究する。オーケストラパートも共に課題曲の読譜。		520分
第2回	楽曲分析 楽曲 B	和声進行、調性を基に作品の流れを見る。オーケストラパートの確認。	和声進行、調性を基に作品の流れを見る。オーケストラパートの確認。	320分
		事後 和声感を意識した響き、抑揚、流れを研究。		520分
第3回	奏法の可能性	作品のイメージを明確にする。合同練習。	作品のイメージを明確にする。合同練習。	320分
		事後 作品の演奏表現に相応しい奏法を追求する。		520分
第4回	テンポ、バランスについて	作品の性格や形式、様式の再確認。合同練習。	作品の性格や形式、様式の再確認。合同練習。	320分
		事後 相応しいテンポを設定と、伴奏者とのバランスを整理して練習。		520分
第5回	仕上げ、発表	反復練習。合同練習。	反復練習。合同練習。	320分
		事後 自己評価。		520分
第6回	近現代作品について	近現代の作曲家を調べる。	近現代の作曲家を調べる。	320分
		事後 作曲家ごとの作風、特徴を意識して読譜。		520分
第7回	音色、響きの研究	様々な手腕の使い方による音、響きの違いを研究する。	様々な手腕の使い方による音、響きの違いを研究する。	320分
		事後 作品に相応しい音色、響きの追求と奏法の工夫。		520分
第8回	ペダルの工夫	楽譜を確認し、作品の音のイメージを明確にする。	楽譜を確認し、作品の音のイメージを明確にする。	320分
		事後 ペダルの様々な効果を確認しながら練習。		520分
第9回	ハーモニー、色彩研究	和音、響きをよく聴いて練習。	和音、響きをよく聴いて練習。	320分
		事後 バランス、タッチ、ペダルなどによる響きの違いを聴き分けて研究する。		520分
第10回	身体の使い方	様々な奏法の研究。	様々な奏法の研究。	320分
		事後 身体の状態による音や響きの違いを確認、作品に合った音を追求していく。		520分
第11回	国民性について	各国の作曲家について調べる。	各国の作曲家について調べる。	320分
		事後 国や民族による違いを意識しながら様々な作曲家について研究。		520分
第12回	リズム、イントネーション研究	民族による特徴的な要素、特にリズムについて調べる。	民族による特徴的な要素、特にリズムについて調べる。	320分
		事後 特徴的なリズムの奏法を研究、習得する。		520分
第13回	技術的課題の練習法	自分の技術的問題点を把握する。	自分の技術的問題点を把握する。	320分
		事後 担当教員のアドバイスを基に練習方法を工夫、実践する。		520分
第14回	仕上げ	作品の性格、特徴を再確認。	作品の性格、特徴を再確認。	320分
		事後 色彩、ハーモニー、リズムを徹底調整。		520分
第15回	後期 成果の発表	イメージを徹底して仕上げる。	イメージを徹底して仕上げる。	320分
		事後 イメージ通りの音が再現できたか自己評価。		520分

フィードバック 実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 各自の進度に合わせて適宜選定する。試験曲はピアノ専門・演奏試験要項に基づき選定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各実技担当者のレッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							

専門実技Ⅳ-1 (ピアノ)

各実技担当教員

科目コード：IND403

対象コース/専門/学年： 器楽コース/ピアノ専門/4年次

形態：実技

単位数：4単位

概要 これまで様々な時代の作品に取り組んできた学びの集大成として、学びを振り返り、自由曲を決定し基礎的研究を行う。

到達目標 時代様式に沿った演奏法と演奏解釈をより深く学び修得する。
前期はこれまでの学びをより一層確かなものにし、レパートリーを広げる。後期は4年間の集大成としての卒業試験に向け、これまでの学びを生かし自己を見つめた上で丹念に選曲し、広い空間での演奏表現法を身につける。

授業計画 半期15回、各人60分の個人指導

第1回	学習の計画 プログラムの検討	事前 自己分析。 事後 集大成に相応しいテーマと課題を設定する。	320分 520分
第2回	基礎技術の確認	事前 基礎技術教材を使って反復練習。 事後 反復練習。	320分 520分
第3回	練習曲(正確な打鍵)	事前 正しいフォームを意識して反復練習。 事後 苦手な指を意識して反復練習。	320分 520分
第4回	練習曲(様々な音型)	事前 反復練習。 事後 手指の柔軟性と強化を意識して反復練習。	320分 520分
第5回	J.S.バッハを学ぶ	事前 バッハ作品読譜。 事後 バロックの様式を意識して練習。	320分 520分
第6回	音色、響きの追求	事前 様々な奏法による響きの違いを確認。 事後 音、響きを聴きながら効果的、理想的な身体、手腕の使い方を追求。	320分 520分
第7回	自由曲(構成の理解)	事前 形式の異なる複数の作品を取り上げ全体像をつかむ。 事後 それぞれ形式、音楽の構造を明確にしながら演奏。	320分 520分
第8回	自由曲(表現法)	事前 様式の異なる複数の作品を取り上げ全体像をつかむ。 事後 拍子感、リズム、色彩、テンポルパート等、様々な表現を追求する。	320分 520分
第9回	技術課題の取り組み方	事前 得手不得手を自己分析。 事後 問題点を判断する視点、練習法、留意点を整理する。	320分 520分
第10回	まとめ	事前 異なる様式の作品に取り組む。 事後 技術、表現、理解度を確認。	320分 520分
第11回	ポリフォニーの奏法	事前 構造を読み取り整理する。 事後 各声部の弾き分け、コントロールを徹底練習。	320分 520分
第12回	楽曲分析	事前 和声進行と構造を整理。 事後 整理された演奏を追求。	320分 520分
第13回	装飾音について	事前 様々な装飾音を調べる。 事後 装飾音の入れ方、演奏の技術の習得。	320分 520分
第14回	声部の弾き分け	事前 作品の横ラインを確認。 事後 耳、指のコントロールを徹底して訓練。	320分 520分
第15回	諸要素の徹底	事前 音楽理解と演奏を総合的に自己分析する。 事後 課題を自覚して取り組む。	320分 520分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは必要に応じて行う。

成績評価 課題への取り組み方 (50%)、授業態度 (50%)

テキスト 自由曲は各自の進度に合わせて適宜選定する。卒業試験課題曲は7月の発表掲示を参照のこと。

オフィスアワー レッスン終了後、各実技担当者のレッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的意識力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技Ⅳ-2 (ピアノ)

各実技担当教員

科目コード: IND404

対象コース/専門/学年: 器楽コース/ピアノ専門/4年次

形態: 実技

単位数: 4単位

概要: これまで様々な時代の作品に取り組んできた学びの集大成として、卒業試験に向けて課題曲と自由曲に取り組み、まとめ上げる。

到達目標: 時代様式に沿った演奏法と演奏解釈をより深く学び修得する。
前期はこれまでの学びをより一層確かなものにし、レパートリーを広げる。後期は4年間の集大成としての卒業試験に向け、これまでの学びを生かし自己を見つめた上で丹念に選曲し、広い空間での演奏表現法を身につける。

授業計画: 半期15回、各人60分の個人指導

第1回	卒業試験の選定とアプローチについて	事前 事後	学習の成果を基に選曲。 担当教員のアドバイスを基に組みの計画を立てる。	320分 520分
第2回	時代背景と様式	事前 事後	作曲家の時代、人物、作品について幅広く学ぶ。 作品とその演奏法についてビジョンを明確にする。	320分 520分
第3回	楽曲分析	事前 事後	作品の構造を調べる。 分析を通して表現、演奏法のイメージを明確にする。	320分 520分
第4回	読譜の注意	事前 事後	楽譜を細部まで読む。 作曲家の指示や行間の意味を読み取る。	320分 520分
第5回	技術的課題の練習法	事前 事後	技術的問題点の自覚。 原因追究、理想を基に効果的な解決法を工夫する。	320分 520分
第6回	作品全体の構成と内容理解	事前 事後	楽曲分析の徹底。 形式、様式を読み取り、魅力的な演奏表現に結びつける。	320分 520分
第7回	コントラスト(音色、強弱、ハーモニー感など)	事前 事後	音楽の様々な変化を意識して練習。 それぞれの変化、違いをどう表現するか。	320分 520分
第8回	表現の工夫	事前 事後	作品に相応しい表現、魅力を整理する。 様式、作品に相応しく、奏者の心を通じた表現の探求。	320分 520分
第9回	拍子感、リズム、テンポの確認	事前 事後	作品の様式、形式、性格、内容を確認する。 拍子感、リズム、テンポが相応しく音楽が生きているか追求。	320分 520分
第10回	演奏技術の錬磨	事前 事後	作品の総理解を深める。 演奏、表現に適した技術の確認と練習。	320分 520分
第11回	ホール演奏を踏まえた表現、バランス	事前 事後	ホールの広さをイメージして練習。 客観的な耳、深い呼吸、伸びやかな身体などのチェック。	320分 520分
第12回	ペダルの確認	事前 事後	ペダル操作の確認、耳の訓練。 美しい響きの追求。	320分 520分
第13回	表現の正確さ、自在さ	事前 事後	作品演奏のイメージを明確にする。 作品に共感しイメージ通り弾けているか、技術的問題を解決しているか、自己分析と錬磨。	320分 520分
第14回	全体バランスの調整	事前 事後	細部、全体まんべんなく練習。 自己分析と反復練習。	320分 520分
第15回	演奏への最終確認	事前 事後	イメージ、表現、技術の再確認。 仕上げ。	320分 520分

フィードバック: 卒業試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価: 卒業試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト: 自由曲は各自の進度に合わせ適宜選定する。卒業試験課題曲は7月の発表掲示を参照のこと。

オフィスアワー: レッスン終了後、各実技担当者のレッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能	他者理解・協働力	主体性・目的意識	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技Ⅲ-1 (弦楽器)

各実技担当教員

科目コード：IND301

対象コース／専門／学年： 器楽コース／弦楽器専門／3 年次

形態：実技 単位数：4 単位

概要 技術と表現のバランスをとりながら、ロマン派、近現代までの様式感を学び、それぞれの演奏解釈を学ぶ。

到達目標 レパートリーの拡充と、時代ごとあるいは作曲家ごとの楽曲の解釈を行い、より幅広い音楽の表現を身につける。

授業計画 15 回、各人 60 分の個人指導。
必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。

第 1 回	ガイダンスおよび課題の確認 ロマン派、近現代の特色について学ぶ	事前 二年次の学修を確認し、三年次の学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等、今後必要な準備をする。	420 分 420 分
第 2 回	ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ (1) 時代背景、様式を中心に	事前 課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 3 回	ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ (2) 楽譜の読み方を中心に	事前 課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 4 回	ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ (3) 奏法を中心に	事前 課題に対し、技術的に新たな奏法上の問題点を練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 5 回	ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ (4) 表現法、音色を中心に	事前 課題に対し、全体像から、立体的な表現ができるよう、アプローチしながら練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 6 回	ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ (5) 表現の掘り下げ	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 7 回	ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ (6) 仕上げとまとめ	事前 暗譜の確認。 事後 次回につなげられるよう、読譜から演奏までの経緯を確認しておく。	420 分 420 分
第 8 回	学内演奏会へのアプローチ法を探る	事前 学内演奏会の課題曲を選曲するにあたり、各自の音楽的特徴を把握する。 事後 学内演奏会の課題曲の楽譜を準備し、譜読みをする。	420 分 420 分
第 9 回	学内演奏会曲目を学ぶ (1) 時代背景、様式を中心に	事前 試験課題の時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 10 回	学内演奏会曲目を学ぶ (2) 楽譜の読み方を中心に	事前 試験課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 11 回	学内演奏会曲目を学ぶ (3) 奏法を中心に	事前 試験課題に対し、技術的に新たな奏法上の問題点を練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 12 回	学内演奏会曲目を学ぶ (4) 表現法、音色を中心に	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 13 回	学内演奏会曲目を学ぶ (5) ピアノ合わせでのレッスン。アンサンブルの問題点	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 14 回	学内演奏会曲目を学ぶ (6) ピアノ合わせでのレッスン。暗譜。	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 15 回	学内演奏会の演奏内容の反省から課題を探る	事前 暗譜の確認。 事後 学内演奏会の反省と、次回の課題を確認する。	420 分 420 分

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内にて適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 学内演奏会により「可」及び「不可」で判定を行う。

テキスト 各人の進度に合わせて、取り組む曲を適宜選定する。

オフィスアワー 各教員出校日に各レッスン室において受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技Ⅲ-2（弦楽器）

各実技担当教員

科目コード：IND302

対象コース／専門／学年： 器楽コース／弦楽器専門／3 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 学内演奏会での経験を活かして、聴衆に対する豊かな演奏表現を会得する。

到達目標 レパートリーの拡充と、時代ごとあるいは作曲家ごとの楽曲の解釈を行い、より幅広い音楽の表現を身につける。

授業計画 15 回、各人 60 分の個人指導。
必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。

回数	内容	事前	事後	ポイント
第 1 回	ガイダンスおよび課題の確認	前期までの学修を確認し、学修計画案をたてる。	420 分	
		事後 学修計画を確認し、楽譜等、後期に必要な準備をする。	420 分	
第 2 回	ロマン派、近現代の小曲、エチュードを学ぶ (1) 時代背景、様式を中心に	事前 課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分	
第 3 回	ロマン派、近現代の小曲、エチュードを学ぶ (2) 楽譜の読み方を中心に	事前 課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分	
第 4 回	ロマン派、近現代の小曲、エチュードを学ぶ (3) 奏法を中心に	事前 課題に対し、技術的に新たな奏法上の問題点を練習する。	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分	
第 5 回	ロマン派、近現代の小曲、エチュードを学ぶ (4) 表現法を中心に	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分	
第 6 回	後期試験へのアプローチ法を探る	事前 三年次後期試験の課題曲を運曲するにあたり、各自の音楽的特徴、課題を把握する。	420 分	
		事後 後期試験の課題曲の楽譜を準備し、譜読みをする。	420 分	
第 7 回	後期試験課題曲を学ぶ (1) 時代背景、様式を中心に	事前 試験課題の時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分	
第 8 回	後期試験課題曲を学ぶ (2) 形式を中心に	事前 試験課題の形式について、文献を読み、把握しておく。	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分	
第 9 回	後期試験課題曲を学ぶ (3) 奏法、表現法を中心に	事前 原典版と校訂版を準備し、版の意味、内容を、文献を見ながら確認しておく。	420 分	
		事後 作曲者の意図から、音楽を深く読み込み、表現につながるように練習する。	420 分	
第 10 回	後期試験課題曲を学ぶ (4) 和声を中心に	事前 試験課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分	
第 11 回	後期試験課題曲を学ぶ (5) デュナーミック、コントラストのつけ方を中心に	事前 曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分	
第 12 回	後期試験課題曲を学ぶ (6) 楽曲全体の構成を中心に	事前 様式感から装飾音や、音のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく。	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分	
第 13 回	後期試験課題曲を学ぶ (7) ピアノ合わせでのレッスン。アンサンブルの問題点	事前 ピアノとの合わせを行っておく。	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分	
第 14 回	後期試験課題曲を学ぶ (8) ピアノ合わせでのレッスン。暗譜。	事前 ピアノとの合わせを行っておく。	420 分	
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分	
第 15 回	後期試験の演奏内容の反省から課題を探る	事前 暗譜の確認。	420 分	
		事後 後期試験の反省、および次年度に向けての課題を確認する。	420 分	

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内にて適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 学年末試験により評価する。

テキスト 各人の進度に合わせて、取り組む曲を適宜選定する。

オフィスアワー 各教員出校日に各レッスン室において受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技Ⅳ-1（弦楽器）

各実技担当教員

科目コード：IND401

対象コース／専門／学年： 器楽コース／弦楽器専門／4 年次

形態：実技 単位数：4 単位

概要 今まで培ってきた演奏技術や表現力の集大成として、卒業演奏試験にむけて自ら音楽を解釈し、説得力のある演奏をもって表現する。

到達目標 演奏にあたりソノリティを意識し、様式感や演奏解釈を自ら行うことで、音楽を通したメッセージを伝えることができる。

授業計画 半期 15 回、各人 60 分の個人指導。
必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。

第 1 回	ガイダンスおよび、課題の確認	事前 三年次の学修を確認し、最終学年の学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等、今後必要な準備をする。	420 分 420 分
第 2 回	課題曲Ⅰ（ソナタ）を学ぶ（1）時代背景、様式を中心に	事前 課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 3 回	課題曲Ⅰを学ぶ（2）楽譜の読み方を中心に	事前 課題に対し、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 4 回	課題曲Ⅰを学ぶ（3）奏法、表現法、音色を中心に	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 5 回	課題曲Ⅰを学ぶ（4）形式を中心に	事前 課題の形式について、文献を読み、把握しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 6 回	課題曲Ⅰを学ぶ（5）デュナーミク、コントラストのつけ方を中心に	事前 曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 7 回	課題曲Ⅰを学ぶ（6）ピアノ合わせでのレッスン	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 アンサンブル上の問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 8 回	課題曲Ⅰを学ぶ（7）ピアノ合わせでのレッスン 仕上げ	事前 暗譜の確認。ピアノとの合わせを行っておく。 事後 課題曲Ⅰの反省と、次回の課題を確認する。	420 分 420 分
第 9 回	課題曲Ⅱ（無伴奏作品）を学ぶ（1）時代背景、様式を中心に	事前 試験課題の時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 10 回	課題曲Ⅱを学ぶ（2）楽譜の読み方を中心に	事前 試験課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 11 回	課題曲Ⅱを学ぶ（3）奏法、表現法、音色を中心に	事前 試験課題に対し、技術的な奏法上の問題点を練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 12 回	課題曲Ⅱを学ぶ（4）声部の色分け、立体感を中心に	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 13 回	課題曲Ⅱを学ぶ（5）デュナーミク、コントラストのつけ方を中心に	事前 無伴奏作品ならではの効果を把握しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 14 回	課題曲Ⅱを学ぶ（6）表現の掘り下げ	事前 体感しながら演奏できるように、練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 15 回	課題曲Ⅱを学ぶ（7）仕上げ	事前 暗譜の確認。 事後 前期の反省と、次回の課題を確認する。	420 分 420 分

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内にて適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 卒業試験により評価する。

テキスト 各人の進度に合わせて、取り組む曲を適宜選定する。

オフィスアワー 各教員出校日に各レッスン室において受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

専門実技Ⅳ-2（弦楽器）

各実技担当教員

科目コード： IND402

対象コース／専門／学年： 器楽コース／弦楽器専門／4 年次

形態：実技 単位数：4 単位
 概要：今まで培ってきた演奏技術や表現力の集大成として、卒業演奏試験にむけて自ら音楽を解釈し、説得力のある演奏をもって表現する。

到達目標：演奏にあたりソノリティを意識し、様式感や演奏解釈を自ら行うことで、音楽を通したメッセージを伝えることができる。

授業計画：半期 15 回、各人 60 分の個人指導。
 必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。

回数	内容	事前	事後	点
第 1 回	ガイダンスおよび、課題の確認	前期までの学修を確認し、学修計画案をたてる。	学修計画を確認し、楽譜等、後期に必要な準備をする。	420 分
第 2 回	課題曲Ⅲ（小品）を学ぶ（1）様式を中心に	課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 3 回	課題曲Ⅲを学ぶ（2）奏法を中心に	課題に対し、技術的に高度な奏法上の問題点を練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 4 回	課題曲Ⅲを学ぶ（3）効果的な演奏とは 仕上げ	曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 5 回	卒業演奏試験課題曲へのアプローチ法を探る	集大成としての卒業試験課題曲を選曲するにあたり、各自の音楽の特徴、課題を把握	課題曲の楽譜を準備し、譜読みをする。	420 分
第 6 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（1）時代背景、様式を中心に	試験課題の時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。	後期試験の課題曲の楽譜を準備し、譜読みをする。	420 分
第 7 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（2）形式、和声を中心に	試験課題に対し、形式、和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 8 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（3）奏法、表現法を中心に	音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 9 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（4）ホールの響きを踏まえた表現について	聴衆、空間、残響などから、演奏する姿勢や、客観的な耳を養う。	演奏が客観的に聴こえているか、確認しながら練習する。	420 分
第 10 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（5）曲のキャラクター、音色を中心に	様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく	作曲者の意図から、音楽を深く読み込み、表現につながるように練習する。	420 分
第 11 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（6）デュナーミク、コントラストのつけ方を中心に	曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 12 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（7）ピアノ合わせでのレッスン	ピアノとの合わせを行っておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 13 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（8）ピアノ合わせでのレッスン	ピアノとの合わせを行っておく。	アンサンブル上の問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 14 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（9）ホールリハーサル	ピアノとの合わせを行っておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 15 回	公開試験の演奏内容の反省	暗譜の確認。	卒業演奏試験の反省、および今後の課題を確認する。	420 分

フィードバック：実技試験終了後、あるいは授業内にて適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価：卒業試験により評価する。

テキスト：各人の進度に合わせて、取り組む曲を適宜選定する。

オフィスアワー：各教員出校日に各レッスン室において受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

専門実技Ⅳ-1（管楽器）

各実技担当教員

科目コード：IND403

対象コース／専門／学年： 器楽コース／管楽器専門／4 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法（原因）表現（結果）の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。

到達目標 ①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 ③演奏技術の向上 ④多くのレパートリーをこなす の4点。実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。

授業計画

第1回	ガイダンス・レッスンの目標と進め方	事前 前年度までの学修を確認し、学修計画案をたてる 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分 420 分
第2回	基礎訓練的な練習①呼吸法	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第3回	基礎訓練的な練習②正しい構え方	事前 引き続き、問題箇所のは正に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第4回	練習曲①確認、曲①の確認	事前 練習曲①、曲①の譜読みと準備に取り組む 事後 練習曲①、曲①の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第5回	練習曲①定着、曲①表現の工夫	事前 練習曲①の習熟、曲①の表現に取り組む 事後 練習曲①のまとめ、曲①の表現を更に身に付ける	420 分 420 分
第6回	練習曲②確認、曲②仕上げの演奏	事前 練習曲②定着、曲②の表現の工夫 事後 練習曲②問題箇所を確認し、曲②のまとめを行う	420 分 420 分
第7回	練習曲②定着、曲②確認	事前 練習曲②の習熟、曲②の譜読みと準備に取り組む 事後 練習曲②のまとめ、曲②の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第8回	練習曲③確認、曲③表現の工夫	事前 練習曲③の譜読みと準備、曲③の表現に取り組む 事後 練習曲③の問題箇所を確認し、曲③の表現を身に付ける	420 分 420 分
第9回	練習曲③定着、曲③仕上げの演奏	事前 練習曲③の習熟、曲③の完成を目指す 事後 練習曲③、曲③のまとめを行う	420 分 420 分
第10回	自由曲、確認	事前 自由曲の譜読みと準備に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第11回	自由曲、奏法を中心に	事前 自由曲の奏法について予習する 事後 自由曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第12回	自由曲、表現の工夫	事前 自由曲の表現に取り組む 事後 自由曲の表現を更に身に付ける	420 分 420 分
第13回	自由曲、表現の掘り下げ	事前 自由曲について、全般的に確認する 事後 自由曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第14回	自由曲、仕上げの演奏	事前 自由曲の仕上げを目指す 事後 自由曲の問題箇所を確認する	420 分 420 分
第15回	前期のまとめ	事前 前期の取り組みの問題点を確認する 事後 後期に向けての課題に取り組む	420 分 420 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 実技試験で評価する。
なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

専門実技Ⅳ-2（管楽器）

各実技担当教員

科目コード： IND404

対象コース／専門／学年： 器楽コース／管楽器専門／4 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法（原因）表現（結果）の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。

到達目標 ①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 ③演奏技術の向上 ④多くのレパートリーをこなす の4点。実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。

授業計画

第1回	後期レッスンの進め方の確認	事前 後期の学修計画案をたてる 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420分 420分
第2回	基礎訓練的な練習③アンブシュアについて	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420分 420分
第3回	基礎訓練的な練習④基礎奏法の総合	事前 引き続き、問題箇所の是正に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420分 420分
第4回	練習曲④確認、曲③確認	事前 練習曲④、曲③の譜読みと準備に取り組む 事後 練習曲④、曲③の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420分 420分
第5回	練習曲④定着、曲③表現の工夫	事前 練習曲④の習熟、曲③表現の工夫に取り組む 事後 練習曲④のまとめ、曲③の表現を更に身に付ける	420分 420分
第6回	練習曲⑤確認、曲③仕上げの演奏	事前 練習曲⑤の譜読みと準備。曲③の完成を目指す 事後 練習曲⑤問題箇所を確認し是正に取り組む。曲③のまとめ	420分 420分
第7回	練習曲⑤定着、卒業試験曲、確認 1	事前 練習曲⑤の習熟。卒業試験曲の譜読みと準備に取り組む。 事後 練習曲⑤のまとめ、卒業試験曲の問題箇所の是正に取り組む	420分 420分
第8回	卒業試験曲、確認 2	事前 引き続き、卒業試験曲の問題箇所の是正に取り組む 事後 問題箇所を確認し是正に取り組む	420分 420分
第9回	卒業試験曲の様式を学ぶ	事前 卒業試験曲の様式について予習する 事後 卒業試験曲の様式についてさらに理解する	420分 420分
第10回	卒業試験曲、奏法を中心に 1	事前 卒業試験曲の奏法について予習する 事後 卒業試験曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420分 420分
第11回	卒業試験曲、奏法を中心に 2	事前 卒業試験曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 事後 卒業試験曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420分 420分
第12回	卒業試験曲、表現の工夫	事前 卒業試験曲の表現に取り組む 事後 卒業試験曲の表現を更に身に付ける	420分 420分
第13回	卒業試験曲、表現の掘り下げ	事前 卒業試験曲について、全般的に確認する 事後 卒業試験曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420分 420分
第14回	卒業試験曲、仕上げの演奏	事前 卒業試験曲の仕上げを目指す 事後 卒業試験曲の問題箇所を確認する	420分 420分
第15回	4年間のまとめ	事前 4年間の取り組みを振り返る 事後 卒業後に向けて展望する	420分 420分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 実技試験で評価する。
なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

専門実技Ⅲ-1 (打楽器)

各実技担当教員

科目コード：IND301

対象コース／専門／学年： 器楽コース／打楽器専門／3 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 専門実技Ⅱを踏まえて小太鼓やマリンバの基本奏法を継続して学びながらティンパニの作品を学ぶ。

到達目標 小太鼓で学んだ基本奏法を 2 台、4 台のティンパニのエチュードを使って応用させる。

授業計画 前期 15 回、各人 60 分の個人指導。
各人の進度に合わせて授業を進める。

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	小太鼓の基本奏法を確認する	小太鼓をチューニングしておく。	基本奏法を復習する。	420 分
第 2 回	1 つ打ちの分解練習を演奏。	メトロノームを使って練習しておく。	小太鼓とマリンバの練習曲をさらしておく。	420 分
第 3 回	小太鼓とマリンバの練習曲を演奏。	手順を確認しておく。	ティンパニの練習曲をさらしておく。	420 分
第 4 回	ティンパニの練習曲を演奏。 腕の使い方を解説。	手順を確認し、セッティングしておく。	腕の使い方を再確認する。	420 分
第 5 回	ティンパニのペダル操作の練習。	楽器の清掃をし、セッティングしておく。	ペダルの復習。	420 分
第 6 回	小太鼓の練習曲とマリンバの音階を演奏。	小太鼓の練習曲をさらしておく。	音階をリズムを変えて練習。	420 分
第 7 回	マリンバの 4 本マレットの練習曲を演奏。	4 本マレットのアルペジオを練習しておく。	マレットの動きを再確認する。	420 分
第 8 回	小太鼓の基本奏法、学内演奏会の曲を決める。	基本奏法を練習しておく。	決まった曲について調べておく。	420 分
第 9 回	学内の曲の楽譜の譜読み。	学内演奏会の曲、楽譜を用意する。	譜読みを進めておく。	420 分
第 10 回	マリンバで音階、学内の曲のフレーズを確認。	学内の曲のフレーズ分けをしておく。	手順など確認しておく。	420 分
第 11 回	小太鼓の基本奏法、学内の曲の構造を分析。	曲のつくりを把握しておく。	練習方法を検討しておく。	420 分
第 12 回	学内の曲を伴奏者と演奏。	ゆっくりなテンポで確実にさらしておく。	伴奏者との練習方法を検討する。	420 分
第 13 回	ティンパニの練習曲、学内の曲を通す。	演奏を録音して研究しておく。	試験会場の響きに近い会場を予約する。	420 分
第 14 回	学内の曲、セッティング確認、通し練習	ゆっくりなテンポで練習しておく。	問題点を出してさらしておく。	420 分
第 15 回	学内演奏会の曲の仕上げ。	録音の準備をしておく。	伴奏者とバランスを確認しておく。	420 分

フィードバック 授業内で解説した内容について学生が次回のレッスンまでにどのような練習をするべきか問いアドバイスを行う。

成績評価 学内演奏会により「可」及び「不可」で判定を行う。

テキスト (参照資料)
M.Woud:The Timpani Challenge
O.CMilhaud:Concerto

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技Ⅲ-2（打楽器）

各実技担当教員

科目コード：IND302

対象コース／専門／学年： 器楽コース／打楽器専門／3 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 専門実技Ⅱを踏まえて小太鼓やマリンバの基本奏法を継続して学びながらマルチパーカッションの作品を学ぶ。

到達目標 マルチパーカッションの作品では、楽器の配置、それによって楽譜を複数個所に分けなくてはならない。楽器のセッティングと楽譜の再構成を自分でできるようにする。

授業計画 後期 15 回、各人 60 分の個人指導。
各人の進度に合わせて授業を進める。

第 1 回	小太鼓の基本奏法、マリンバの練習曲を演奏。	事前 練習室の楽器を整頓しておく。 事後 改めて楽器を見直す。	420 分 420 分
第 2 回	1 つ打ちの分解練習、ティンパニの練習曲を演奏。	事前 分解練習をメトロノームを使って練習しておく。 事後 手の動きを観察。左右のバランスを再確認。	420 分 420 分
第 3 回	マリンバで音階、2 つ打ち、ロールを演奏。	事前 全調の音階をさらしておく。 事後 小太鼓とマリンバの基本奏法を再確認する。	420 分 420 分
第 4 回	ティンパニの練習曲、オーケストラスタディ。	事前 後期試験曲を探しておく。 事後 基本奏法を練習しておく。	420 分 420 分
第 5 回	後期試験曲の選曲、相談。マリンバの練習曲。	事前 候補曲について調べておく。 事後 試験曲の楽譜を購入する。	420 分 420 分
第 6 回	試験曲の決定と楽譜作成の指導。	事前 セッティングを考えておく。 事後 楽器をどこに置くべきか検討しておく。	420 分 420 分
第 7 回	マリンバで音階、試験曲の譜読み。	事前 フレーズ分けをしておく。 事後 楽器間の移動の動線の確認。	420 分 420 分
第 8 回	小太鼓及びティンパニの練習曲。試験曲の譜読み。	事前 曲の構成とフレーズを分析しておく。 事後 曲の理解を深める。	420 分 420 分
第 9 回	試験曲の構成とフレーズを確認する。	事前 ゆっくりなテンポで確実にさらしておく。 事後 フレーズ分けを再確認する。	420 分 420 分
第 10 回	譜読みとセッティングを決定する。	事前 部分的に暗譜しておく。 事後 表現を研究しておく。	420 分 420 分
第 11 回	試験曲の技術的に難しい部分を取り出して演奏。	事前 難しい部分を絞っておく。 事後 メトロノームを使って練習する。	420 分 420 分
第 12 回	小太鼓の基本奏法、マリンバで音階。	事前 基本奏法に立ち返りながら楽譜を見直し。 事後 通して練習をしておく。	420 分 420 分
第 13 回	試験曲の通し練習。	事前 通して演奏するシミュレーションをしておく。 事後 試験会場の響きに近い会場を予約しておく。	420 分 420 分
第 14 回	試験会場の響きに近い部屋で通し練習。	事前 譜めくりやマレットの移動等確認。 事後 セッティングを再考する。	420 分 420 分
第 15 回	後期試験曲の仕上げ。	事前 もう一度楽譜を見直ししておく。 事後 録音を聴いて最終確認する。	420 分 420 分

フィードバック 授業内で解説したことについて学生が次回のレッスンまでにどのような練習方法を用意するのかを問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。

テキスト (参照資料)
N.Woud:The Timpani Challenge/N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani
P.Creston:Concertino/Michael Cals:Quatre Inventions/A.Jolivet:Concerto
D.Milhaud:Concerto for Marimba and Vibraphone/北爪道夫：サイド・バイ・サイド

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技Ⅳ-1（打楽器）

各実技担当教員

科目コード：IND403

対象コース／専門／学年：器楽コース／打楽器専門／4年次

形態：実技 単位数：4単位

概要 3年次までに修得したものをふまえて総合的に学ぶ。

到達目標 各打楽器の基本奏法に立ち返り、卒業試験曲を検討する。

授業計画

第1回	小太鼓の基本奏法とマリンパで音階を演奏。 小物楽器：タンブリンについて学ぶ。	事前 小太鼓とマリンパの基本奏法を練習しておく。 事後 手の動かし方を復習する。	420分 420分
第2回	小太鼓で1つ打ちの分解練習を演奏。 小物楽器：トライアングルについて学ぶ。	事前 小太鼓とマリンパの練習曲を用意しておく。 事後 トライアングルの手の動きを復習する。	420分 420分
第3回	小太鼓の練習曲とマリンパで音階を演奏。 小物楽器：カスタネットについて学ぶ。	事前 卒業試験の候補曲を探しておく。 事後 カスタネットの手の動きを復習する。	420分 420分
第4回	小太鼓で2つ打ちとロールを演奏。 大物楽器：太鼓について学ぶ。	事前 ささまざまな表情のロールを研究しておく。 事後 太鼓のレパートリーを聴いておく。	420分 420分
第5回	小太鼓で1つ打ちの分解練習を演奏。 大物楽器：シンバルについて学ぶ。	事前 マリンパのマレットを追加しておく。 事後 シンバルの合わせ方を研究しておく。	420分 420分
第6回	小太鼓、マリンパの練習曲を演奏。	事前 メトロノームを使って練習する。 事後 スティックの動きとマレットの動きの違いを復習する。	420分 420分
第7回	小太鼓の2つ打ちとロールを演奏。 大物楽器：タムタムについて学ぶ。	事前 基本奏法を練習しておく。 事後 音の長さで左手の関係を復習しておく。	420分 420分
第8回	ティンパニの練習曲を演奏。	事前 ティンパニを予め調整しておく。 事後 腕の動きを復習しておく。	420分 420分
第9回	小太鼓で1つ打ちの分解練習を演奏。 卒業試験曲の選定について相談する。	事前 試験曲を図書館を活用して探す。 事後 楽曲の規模と形態を検討しておく。	420分 420分
第10回	ヴィヴラフォンの練習曲を演奏。	事前 ヴィヴラフォンのマレットを用意しておく。 事後 手順とベダリングを復習しておく。	420分 420分
第11回	小太鼓で2つ打ちとマリンパの練習曲を演奏。 ブロッケンシュピールについて学ぶ。	事前 ティンパニのマレットを追加しておく。 事後 マレットの扱いを復習する。	420分 420分
第12回	小太鼓で1つ打ちの分解練習を演奏。 シロフォンについて学ぶ。	事前 シロフォンのマレットを用意しておく。 事後 マリンパとの打ち方の共通点と違いを確認する。	420分 420分
第13回	小太鼓の練習曲とマリンパで音階を演奏。 卒業試験曲の候補を絞る。	事前 基本奏法の練習をしておく。 事後 伴奏者の選定をする。	420分 420分
第14回	小太鼓、マリンパの練習曲を演奏。 チューブラーベルについて学ぶ。	事前 チューブラーベルを清掃しておく。 事後 手順など復習しておく。	420分 420分
第15回	小太鼓、ティンパニの練習曲を演奏。	事前 メトロノームを使って練習する。 事後 卒業試験曲の楽譜を探しておく。	420分 420分

フィードバック 授業内で解説したことについて学生が次回のレッスンまでにどのような練習方法を用意するのかを問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験による評価。
なお、実技試験評価は複数教員（管打楽器担当教員）による。
(参照資料)

テキスト
N.Woud:The Timpani Challenge
N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani
D.Milhaud:Concerto
北爪道夫：サイド・バイ・サイド

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

専門実技Ⅳ-2（打楽器）

各実技担当教員

科目コード：IND404

対象コース／専門／学年：器楽コース／打楽器専門／4 年次

形態：実技 単位数：4 単位

概要 各打楽器の基本奏法を演奏に生かす体験をする。

到達目標 4 年間の集大成である卒業試験を成功させる。

授業計画

第 1 回	小太鼓の 1 つ打ちの分解練習とマリンパで音階を演奏。 卒業試験曲を決定する。	事前 試験曲の候補を絞っておく。 事後 卒業試験曲の楽譜を購入しておく。	420 分 420 分
第 2 回	小太鼓で 2 つ打ちとロールを演奏。 試験曲の楽譜作成とセッティングを検討する。	事前 基本奏法を練習しておく。 事後 試験曲の楽譜を完成させる。	420 分 420 分
第 3 回	マリンパの練習曲と音階を演奏。 楽器の清掃と調整について学ぶ。	事前 試験曲の譜読みを進める。 事後 練習室の楽器を整頓しておく。	420 分 420 分
第 4 回	小太鼓の練習曲とマリンパで音階を演奏。 試験曲の研究：フレーズ分けと譜読みを進める。	事前 基本奏法をメトロノームを使って練習する。 事後 試験曲で使う楽器を選んでおく。	420 分 420 分
第 5 回	小太鼓での 1 つ打ちの分解練習とロールを演奏。 試験曲の譜読みと手順を決定する。	事前 選んだ楽器とチューニング、清掃をする。 事後 試験曲の伴奏者を探す。	420 分 420 分
第 6 回	試験曲のフレーズやリズムの演奏法を解説する。	事前 フレーズ分けをしておく。 事後 フレーズの取り方を確認する。	420 分 420 分
第 7 回	試験曲の譜読み。	事前 試験曲の作曲者や曲について調べておく。 事後 伴奏者と試験曲を合わせておく。	420 分 420 分
第 8 回	セッティングと楽譜再確認。	事前 セッティング表を完成させる。 事後 セッティング表に直しを加え、導線など再確認する。	420 分 420 分
第 9 回	試験曲を伴奏者と演奏する。	事前 腕の動きを再確認する。 事後 伴奏者とのバランスと位置を検討する。	420 分 420 分
第 10 回	セッティングを再確認する。 伴奏者とのバランスを調整する。	事前 伴奏者との練習方法を考える。 事後 フレーズの再検討できるところを探す。	420 分 420 分
第 11 回	卒業試験曲を通して演奏する。	事前 出来ないところをゆっくりなテンポでさらしておく。 事後 クライマックスの表現を検討しておく。	420 分 420 分
第 12 回	試験曲を試験会場に近い会場で演奏。	事前 演奏の録音を準備しておく。 事後 会場の響きを録音を聴いて確認する。	420 分 420 分
第 13 回	試験曲の通し練習。	事前 曲を止めずに通し、問題点を出しておく。 事後 録音を聴いて演奏のコンセプトが表現できているか確認する。	420 分 420 分
第 14 回	試験曲の技術的な部分を取り出して演奏。	事前 改めて譜読みを行い、全体的に復習しておく。 事後 練習方法を研究しておく。	420 分 420 分
第 15 回	卒業試験曲の仕上げ。	事前 伴奏者とバランスなど再確認しておく。 事後 本番の演奏をシミュレーションしておく。	420 分 420 分

フィードバック 授業内で解説したことについて学生が次回のレッスンまでにどのような練習方法を用意するのかを問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験による評価。
なお、実技試験評価は複数教員（管打楽器担当教員）による。
(参照資料)

テキスト
N.Woud:The Timpani Challenge
N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani
D.Milhaud:Concerto
北爪道夫：サイド・バイ・サイド

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

専門実技Ⅲ-1 (オルガン・古楽)

各実技担当教員

科目コード：IND301

対象コース/専門/学年：器楽コース/オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門/3年次

形態：実技

単位数：4単位

概要 履修する作品の演奏を通して、演奏技術と表現の関連を学ぶ。

到達目標 各学生の能力、進度に応じ、前半は学内演奏会、後半は試験課題曲を設定し、それを中心に様々な様式の楽曲で1～1時間半程度のプログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。学年半ばの学内演奏会を中心に据えて、専門実技Ⅱよりさらに広範な分野の作品に習熟する。(この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。)

回数	内容	事前	事後	単位数
第1回	前期ガイダンス。課題の設定と練習方法についての確認。	専門実技Ⅱの試験結果をふりかえっておく。	与えられた課題の楽譜を入手する。	420分
第2回	学内演奏会課題曲の譜読み1(技術的な課題)	作品の構造を理解し、練習に役立てる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420分
第3回	学内演奏会課題曲の譜読み2(より高度な技術的課題)	うまくいかないところの奏法(指使い等)を変えてみる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420分
第4回	学内演奏会課題曲の譜読み3(表現力)	該当作品の生まれた背景を調べる(時代)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420分
第5回	学内演奏会課題曲の譜読み4(総合)	該当作品の生まれた背景を調べる(作曲家)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420分
第6回	学内演奏会課題曲を通して演奏する。	全体の起承転結を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420分
第7回	学内演奏会課題曲を演奏会形式で演奏する。	緊張したときの自分を想定する。	うまくいかなかった箇所の原因を探る。	420分
第8回	学内演奏会課題曲に関連する作品を学ぶ1(技術的な課題)	作品の構造を理解し、練習に役立てる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420分
第9回	学内演奏会課題曲に関連する作品を学ぶ2(表現力)	該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる(作品)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420分
第10回	学内演奏会に臨む。	一般聴衆を前に演奏することについて、心構えと緊張状態の緩和について考える。	学内演奏会の反省。	420分
第11回	学内演奏会課題曲に関連する作品を学ぶ3	該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる(作曲家)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420分
第12回	45分～1時間のプログラムを通して弾いてみる1(技術的な課題)	1時間近く集中力を持続する自分なりの方法を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420分
第13回	45分～1時間のプログラムを通して弾いてみる2(表現力)	個々の作品のみならず、プログラム全体の起承転結を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420分
第14回	45分～1時間のプログラムを通して弾いてみる3(総合)	録音の準備をする。	録音したものから、自分の演奏を客観的に判断する。	420分
第15回	学内演奏会の課題を含む前期分の最終仕上げ。	前回録音したものをと、自分の理想に近づける。	録音したものと、自分の想定のギャップを埋める。	420分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 学内演奏会により「可」及び「不可」で判定を行う。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技Ⅲ-2 (オルガン・古楽)

各実技担当教員

科目コード：IND302

対象コース/専門/学年：器楽コース/オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門/3 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 履修する作品の演奏を通して、演奏技術と表現の関連を学ぶ。

到達目標 各学生の能力、進度に応じ、前半は学内演奏会、後半は試験課題曲を設定し、それを中心に様々な様式の楽曲で1~1時間半程度のプログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。学年半ばの学内演奏会を中心に据えて、専門実技Ⅱよりさらに広範な分野の作品に習熟する。(この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。)

回数	内容	事前	事後	420 分
第1回	後期ガイダンス。課題の設定と練習方法についての確認。	学内演奏会の反省。改善方法を探る。	与えられた課題の楽譜を入手する。	420 分
第2回	後期試験課題曲の譜読み1 (技術的な課題)	作品の構造を理解し、練習に役立てる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第3回	後期試験課題曲の譜読み2 (より高度な技術的な課題)	うまくいかないところの奏法(指使い等)を変えてみる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第4回	後期試験課題曲の譜読み3 (表現力)	該当作品の生まれた背景を調べる(時代)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第5回	後期試験課題曲の譜読み4 (総合)	該当作品の生まれた背景を調べる(作曲家)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第6回	後期試験課題曲を通して演奏する。	全体の起承転結を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第7回	後期試験課題曲を演奏会形式で演奏する。	緊張したときの自分を想定する。	うまくいかなかった箇所の原因を探る。	420 分
第8回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ1 (技術的な課題)	作品の構造を理解し、練習に役立てる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第9回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ2 (より高度な技術的な課題)	うまくいかないところの奏法(指使い等)を変えてみる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第10回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ3 (表現力)	該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる(時代)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第11回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ4 (総合)	該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる(作曲家)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第12回	45分~1時間のプログラムを通して弾いてみる1 (技術的な課題)	1時間近く集中力を持続する自分なりの方法を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第13回	45分~1時間のプログラムを通して弾いてみる2 (表現力)	個々の作品のみならず、プログラム全体の起承転結を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第14回	45分~1時間のプログラムを通して弾いてみる3 (総合)	録音の準備をする。	録音したものから、自分の演奏を客観的に判断する。	420 分
第15回	試験前の最終仕上げ。	前回録音したものをと、自分の理想に近づける。	録音したものと、自分の想定のギャップを埋める。	420 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 それぞれの楽器が属する部会専任教員と各専門楽器の教員で構成する複数の試験官。実技試験の得点には、選択した試験課題曲の難易度とレッスンへの取り組みを加味する。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技Ⅳ-1 (オルガン・古楽)

各実技担当教員

科目コード：IND403

対象コース／専門／学年： 器楽コース／オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門／4 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 履修する作品を通して、さらに高度な演奏技術と表現の関連を学ぶ。

到達目標 各学生の能力、進度に応じ、卒業演奏試験課題曲を設定し、それを中心に様々な様式の楽曲で 1 時間半程度のプログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。なお、1～3 年で学んだ曲も含むプログラムで、古楽研究室主催の演奏会、学外から依頼のあった演奏会等に出演し実践経験を積む。(この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。)

回数	内容	事前	事後	単位数
第 1 回	後期ガイダンス。課題の設定と練習方法についての確認。	学内演奏会、専門実技 III-2 の試験結果をふりかえっておく。	与えられた課題の楽譜を入手する。	300 分
第 2 回	前期試験課題曲の譜読み 1 (技術的な課題)	作品の構造を理解し、練習に役立てる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 3 回	前期試験課題曲の譜読み 2 (より高度な技術的な課題)	うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 4 回	前期試験課題曲の譜読み 3 (表現力)	該当作品の生まれた背景を調べる (時代)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 5 回	前期試験課題曲の譜読み 4 (総合)	該当作品の生まれた背景を調べる (作曲家)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 6 回	前期試験課題曲を通して演奏する。	全体の起承転結を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 7 回	前期試験課題曲を演奏会形式で演奏する。	緊張したときの自分を想定する。	うまくいかなかった箇所の原因を探る。	300 分
第 8 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 1 (技術的な課題)	作品の構造を理解し、練習に役立てる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 9 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 2 (より高度な技術的な課題)	うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 10 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 3 (表現力)	該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる (時代)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 11 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 4 (総合)	該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる (作曲家)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 12 回	1 時間半のプログラムの前半を通して弾いてみる 1 (技術的な課題)	1 時間半近く集中力を持続する自分なりの方法を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 13 回	1 時間半のプログラムの前半を通して弾いてみる 2 (表現力)	個々の作品のみならず、プログラム全体の起承転結を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 14 回	1 時間半のプログラムの前半を通して弾いてみる 3 (総合)	録音の準備をする。	録音したものから、自分の演奏を客観的に判断する。	300 分
第 15 回	試験前の最終仕上げ。	前回録音したものをもとに、自分の理想に近づける。	録音したものと、自分の想定のギャップを埋める。	300 分

フィードバック レッスン時間後との課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 実技試験に授業への取り組みを加味して総合的に評価。
なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

専門実技Ⅳ-2 (オルガン・古楽)

各実技担当教員

科目コード： IND404

対象コース/専門/学年： 器楽コース/オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門/4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	履修する作品を通して、さらに高度な演奏技術と表現の関連を学ぶ。

到達目標 各学生の能力、進度に応じ、卒業演奏試験課題曲を設定し、それを中心に様々な様式の楽曲で1時間半程度のプログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。なお、1～3年で学んだ曲も含むプログラムで、古楽研究室主催の演奏会、学外から依頼のあった演奏会等に出演し実践経験を積む。(この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。)

回数	内容	事前	事後	評価
第1回	後期ガイダンス。課題の設定と練習方法についての確認。	前期試験の反省。改善方法を探る。	与えられた課題の楽譜を入手する。	300 分
第2回	卒業試験課題曲の譜読み1 (技術的な課題)	作品の構造を理解し、練習に役立てる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第3回	卒業試験課題曲の譜読み2 (より高度な技術的課題)	うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第4回	卒業試験課題曲の譜読み3 (表現力)	該当作品の生まれた背景を調べる (時代)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第5回	卒業試験課題曲の譜読み4 (総合)	該当作品の生まれた背景を調べる (作曲家)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第6回	卒業試験課題曲を通して演奏する。	全体の起承転結を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第7回	4年間で学んだ作品を含め、聴衆のいることを想定した1時間半のプログラムを演奏する1 (技術的な課題)	該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる (時代)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第8回	4年間で学んだ作品を含め、聴衆のいることを想定した1時間半のプログラムを演奏する2 (より高度な技術的課題)	該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる (作曲家)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第9回	4年間で学んだ作品を含め、聴衆のいることを想定した1時間半のプログラムを演奏する3 (表現力)	1時間半近く集中力を持続する自分なりの方法を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第10回	4年間で学んだ作品を含め、聴衆のいることを想定した1時間半のプログラムを演奏する4 (総合)	個々の作品のみならず、プログラム全体の起承転結を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第11回	卒業試験課題曲を演奏会形式で演奏する。	録音の準備をする。	録音したものから、自分の演奏を客観的に判断する。	300 分
第12回	試験前の最終仕上げ。	前回録音したものをもとに、自分の理想に近づける。	録音したものと、自分の想定ギャップを埋める。	300 分
第13回	試験結果を踏まえ、今後の方向について	試験結果の自己評価を作成	未達成の事項の整理	300 分
第14回	定期的なレッスンがなくなったときの練習方法について	未達成の事項への取り組み方を考えておく。	アドバイスをもとに今後の勉強方法を作成する。	300 分
第15回	練習の時間計画の立て方	未達成の事項への取り組み方を考えておく。	アドバイスをもとに今後の勉強方法を作成する。	300 分

フィードバック レッスン時間後との課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 実技試験に授業への取り組みを加味して総合的に評価。
なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

専門実技Ⅲ－1(声楽)

各実技担当教員

科目コード：IND301

対象コース／専門／学年：声楽コース／3 年次

形態：実技 単位数：4 単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。
課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標 発声および演奏技術、表現力のさらなる向上をはかり 3 年次生としてのレパトリーをもって演奏の完成度を高める

授業計画 15 回、週 60 分の個人指導。
実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンを。また、上記を題材として適格な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につけさせる。

第 1 回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前 2 年次の学修を確認し学習計画を練る 事後 学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	210 分 210 分
第 2 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習① 呼吸法、発声法を中心に	事前 発声練習を重ね、次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 3 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習② 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 4 回	エチュード・歌曲 基礎的問題点の解決	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 5 回	歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 6 回	歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 7 回	声域・カテゴリーの確立 オペラやオラトリオ・ミサ曲等の宗教作品を中心に学習	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 8 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、学内演奏会での演奏曲目を選択する	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 9 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 10 回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 11 回	問題点の認識と解決をはかる	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 12 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 13 回	暗譜を確かなものとする	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 14 回	ピアノ伴奏とともに演奏の質を高める	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 15 回	学内演奏会の予行練習をする	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分

フィードバック 学内演奏会後に個人面談の形で振り返り、成果や次へ課題を話し合う。

成績評価 学内演奏会により「可」及び「不可」で判定を行う。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技Ⅲ-2(声楽)

各実技担当教員

科目コード：IND302

対象コース／専門／学年：声楽コース／3 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。
課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標 発声および演奏技術、表現力のさらなる向上をはかり 3 年次生としてのレパートリーをもって演奏の完成度を高める。
後期は上記に加え、日本歌曲における解釈、表現を習得する。

授業計画		15 回、週 60 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンを。また、上記を題材として適格な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につけさせる。	
第 1 回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期の学修を確認し学習計画を練る 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 2 回	エチュード・歌曲 問題点の認識と解決	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 3 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究① 日本歌曲を含む	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 4 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究② オペラにおける声のカテゴリー確認	事前 自分の声に合うオペラのレパートリーを考える 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 5 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 6 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 7 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する 日本歌曲を含む	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言語のディクシオンに留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 8 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める 日本歌曲を含む	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言語のディクシオンに留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 9 回	上記に基づき演奏の深化をはかる 日本歌曲を含む	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 10 回	問題点の認識と解決をはかる 日本歌曲を含む	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 11 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める 日本歌曲を含む	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 12 回	暗譜を確かなものとする 日本歌曲を含む	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 13 回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める 日本歌曲を含む	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 14 回	暗譜の上、演奏の完成度を高める 日本歌曲を含む	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 15 回	後期試験の予行演習をする	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分

フィードバック 後期試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次へ課題を話し合う。

成績評価 学年末演奏試験。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせて、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技Ⅳ-1 (声楽)

各実技担当教員

科目コード：IND403

対象コース／専門／学年：声楽コース／4 年次

形態：実技 単位数：4 単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。
課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標 発声および演奏技術、表現力をさらに深く研究する。
最終年次生としてのレパートリーの拡大をはかり、その演奏の完成度を高める

授業計画 15 回、週 60 分の個人指導。
実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをする。また、上記を題材として適格な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につける。

第 1 回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前 3 年次の学修を確認し学習計画を練る 事後 学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	210 分 210 分
第 2 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習① 呼吸法、発声法を中心に	事前 発声練習を重ね、次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 3 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習② 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 4 回	エチュード・歌曲 基礎的問題点の解決	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 5 回	歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 6 回	歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 7 回	声域・カテゴリーの確立 オペラやオラトリオ・ミサ曲等の宗教作品を中心に学習	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 8 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する(前期分)	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 9 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める（前期分）	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 10 回	上記に基づき演奏の深化をはかる（前期分）	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 11 回	問題点の認識と解決をはかる（前期分）	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 12 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める（前期分）	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 13 回	暗譜を確かなものとする（前期分）	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 14 回	暗譜の上、表現の発展、演奏の質の向上をはかる（前期分）	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 15 回	試演会の予行演習をする	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の是正をはかる	210 分 210 分

フィードバック 前期試演会後に個人面談の形で振り返り、成果、及び問題点を洗い出す。

成績評価 実技試験による評価

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技Ⅳ-2（声楽）

各実技担当教員

科目コード：IND404

対象コース／専門／学年：声楽コース／4 年次

形態：実技 単位数：4 単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。
課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標 発声および演奏技術、表現力をさらに深く研究する。
最終年次生としてのレパートリーの拡大をはかり、その演奏の完成度を高める。

授業計画 15 回、週 60 分の個人指導。
実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンを。また、上記を題材として適格な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につける

回	内容	事前	事後	210 分
第 1 回	前期の成果の確認と後期の学習計画を立てる	前期の学修を確認し学習計画を練る	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 2 回	エチュード・歌曲 問題点の認識と解決	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 3 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究①	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 4 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究② オペラにおける声のカテゴリー確認	自分の声に合うオペラのレパートリーを考える	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 5 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる）	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 6 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる）	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 7 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する（後期分）	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言語のディクシオンに留意する）	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 8 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める（後期分）	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言語のディクシオンに留意する）	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 9 回	上記に基づき演奏の深化をはかる（後期分）	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 10 回	問題点の認識と解決をはかる（後期分）	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 11 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める（後期分）	事前にピアニストと伴奏合わせをする	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 12 回	暗譜を確かなものとする（後期分）	伴奏合わせを重ねる	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 13 回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める	伴奏合わせを重ねる	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 14 回	暗譜の上、演奏の完成度を高める	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 15 回	卒業試験の予行演習をする	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分

フィードバック 卒業試験後に個人面談の形で振り返り、4 年間の成果や卒業後の音楽との関わり方等を話し合う

成績評価 卒業演奏試験。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせて、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発憤力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(演) 専門実技Ⅲ-1 (ピアノ)

各実技担当教員

科目コード：IND301

対象コース／専門／学年：演奏家コース／ピアノ専門／3 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 2 年次までに習得した内容を踏まえ、各人の資質、特性を生かしつつ様々な作曲家の作品、異なる時代様式の作品に取り組む。また協奏曲を学び、より豊かなピアノリズムを身につける。

到達目標 全ての時代様式に加えて、協奏曲を通してすぐれたアンサンブル力をも身につける。

授業計画 前期 15 回、各人 60 分の個人指導。
必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。

回数	実技演習	内容	事前	事後	時間
第 1 回	実技演習(1)	年間の目標と学習計画を立てる	今後の目標を設定し、学習計画を立てる	目標と学習計画を確認し、必要な準備をする	420 分
第 2 回	実技演習(2)	これまでの学習で不足している分野へのアプローチ	これまでのレパートリーを確認し、新しい曲を読譜する	レッスン内容の復習	420 分
第 3 回	実技演習(3)	自由曲を学ぶ(1) 時代背景、様式を中心に	時代背景、様式を考察し、読譜、練習する	レッスン内容の復習	420 分
第 4 回	実技演習(4)	自由曲を学ぶ(2) 楽譜の読み方を中心に	強弱、表現記号等に留意して練習する	レッスン内容の復習	420 分
第 5 回	実技演習(5)	自由曲を学ぶ(3) 運指法やペダリングの確認	運指やペダリングに留意して練習する	レッスン内容の復習	420 分
第 6 回	実技演習(6)	自由曲を学ぶ(4) 奏法を中心に	音色やアーティキュレーション等に留意して練習する	レッスン内容の復習	420 分
第 7 回	実技演習(7)	自由曲を学ぶ(5) ポリフォニーについて	ポリフォニーに留意して練習する	レッスン内容の復習	420 分
第 8 回	実技演習(8)	自由曲を学ぶ(6) 問題点の解決、練習方法について	技術面での難しさを解決するよう研究する	レッスン内容の復習	420 分
第 9 回	実技演習(9)	自由曲を学ぶ(7) 和声感について	調性、和声に留意して練習する	レッスン内容の復習	420 分
第 10 回	実技演習(10)	自由曲を学ぶ(8) 強弱法について	強弱の加減に留意して練習する	レッスン内容の復習	420 分
第 11 回	実技演習(11)	自由曲を学ぶ(9) 曲の性格、全体の構成について	様式感や曲のキャラクターをふまえて練習する	レッスン内容の復習	420 分
第 12 回	実技演習(12)	自由曲を学ぶ(10) 表現を掘り下げる	多くの作品や演奏に触れて、自分の演奏を磨く	レッスン内容の復習	420 分
第 13 回	実技演習(13)	各人の進路やコンクールなどの相談	前期の進捗状況を振り返り、今後の課題を考える	レッスン内容の復習	420 分
第 14 回	実技演習(14)	協奏曲を学ぶ(1) 読譜、運指法、ペダリングの確認	運指やペダリングに留意して読譜を進める	レッスン内容の復習	420 分
第 15 回	実技演習(15)	協奏曲を学ぶ(2) 形式、奏法について	形式を考察し、ふさわしい奏法を考えて練習する	レッスン内容の復習	420 分

フィードバック 実技試験について、担当教員その他が講評を行いフィードバックする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト バッハ：平均律クラヴィーア曲集、モーツァルト・ベートーヴェン：ソナタ集、ショパン：練習曲集、協奏曲の他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員の出校日に、各担当教員のレッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(演) 専門実技Ⅲ-2 (ピアノ)

各実技担当教員

科目コード：IND302

対象コース／専門／学年：演奏家コース／ピアノ専門／3 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 前期に続いて個人レッスンをを行い、演奏表現上必要な技術の向上を目指す。

到達目標 協奏曲を完成させ、学年末試験に備える。

授業計画 後期 15 回、各人 60 分の個人指導。
必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。

回数	実技演習	学習内容	事前	事後	時間
第 1 回	実技演習(1)	協奏曲を学ぶ(1) 表現法を中心に	事前 協奏曲のソリストとしての表現を考察し、練習する	事後 レッスン内容の復習	420 分
第 2 回	実技演習(2)	協奏曲を学ぶ(2) オーケストラパートの研究	事前 オーケストラパートを読譜し、ソロパートとの関わりを考えて練習する	事後 レッスン内容の復習	420 分
第 3 回	実技演習(3)	協奏曲を学ぶ(3) アンサンブルの要素を考える	事前 オーケストラパートのスコアを読み、アンサンブルを考慮しながら練習する	事後 レッスン内容の復習	420 分
第 4 回	実技演習(4)	協奏曲を学ぶ(4) 奏法上の問題を解決する	事前 技術面、音楽面での問題を感じる場所を確認する	事後 レッスン内容の復習	420 分
第 5 回	実技演習(5)	協奏曲を学ぶ(5) 表現力を高める	事前 ソリストとして幅広い表現ができるように練習する	事後 レッスン内容の復習	420 分
第 6 回	実技演習(6)	協奏曲を学ぶ(6) 2 台ピアノで合わせる	事前 2 台ピアノで練習をする	事後 レッスン内容の復習	420 分
第 7 回	実技演習(7)	協奏曲を学ぶ(7) 2 台ピアノのバランス感覚を養う	事前 2 台ピアノでオーケストラパートとの調和もふまえて練習する	事後 レッスン内容の復習	420 分
第 8 回	実技演習(8)	協奏曲を学ぶ(8) ソロパートの確認	事前 2 台ピアノでの合わせにより生じたソロパートの問題点を改めて解決する	事後 レッスン内容の復習	420 分
第 9 回	実技演習(9)	協奏曲を学ぶ(9) 全体の構成を考える	事前 全体を通して仕上げる	事後 レッスン内容の復習	420 分
第 10 回	実技演習(10)	試験に向けてペース配分を考える	事前 全体のプログラムを確認し、練習計画を立てる	事後 レッスン内容の復習	420 分
第 11 回	実技演習(11)	プログラム全体を通して演奏する	事前 暗譜で通して弾く練習をする	事後 レッスン内容の復習	420 分
第 12 回	実技演習(12)	1 か月前課題(1) 読譜の確認	事前 読譜、練習をする	事後 レッスン内容の復習	420 分
第 13 回	実技演習(13)	1 か月前課題(2) 技術、表現の確認	事前 テンポ、強弱、表現記号など確認して練習する	事後 レッスン内容の復習	420 分
第 14 回	実技演習(14)	自由曲、協奏曲の全体の掘り下げ	事前 全体をまとめて練習する	事後 レッスン内容の復習	420 分
第 15 回	実技演習(15)	仕上げとまとめ	事前 これまでの注意点に留意して練習する	事後 レッスン内容の復習	420 分

フィードバック 実技試験について、担当教員その他が講評を行いフィードバックする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト バッハ：平均律クラヴィーア曲集、モーツァルト・ベートーヴェン：ソナタ集、ショパン：練習曲集、協奏曲の他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員の出校日に、各担当教員のレッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(演) 専門実技Ⅳ-1 (ピアノ)

各実技担当教員

科目コード：IND403

対象コース／専門／学年：演奏家コース／ピアノ専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	4 年間の集大成としてリサイタルプログラムと協奏曲全楽章をまとめ上げ、深い読譜力と確かな技術と感性により、説得力のある演奏を目指す。また、1 回の演奏会に必要な集中力と力の配分、計画的な準備の重要性を学ぶ。

到達目標	プロの演奏家として通用するために、あらゆる能力を完全なものにする。
------	-----------------------------------

授業計画	半期 15 回、各人 120 分の個人指導。 各人の能力、資質、進捗等に合わせて担当教員と相談の上進めていく。
------	--

回数	実技演習	内容	事前	事後	時間
第 1 回	実技演習(1)	年間の目標、学習計画を立てる	年間の目標と、学習計画案を考える	目標と学習計画を確認し、必要な準備をする	630 分
第 2 回	実技演習(2)	リサイタルプログラムを練る	これまでのレパートリーを確認し、今後のプログラムを考える	リサイタルプログラムをつくる	630 分
第 3 回	実技演習(3)	自由曲を学ぶ(1) 時代背景、様式を中心に	時代背景、様式を考察し、読譜、練習する	レッスン内容の復習	630 分
第 4 回	実技演習(4)	自由曲を学ぶ(2) 楽譜の読み方を中心に	楽譜を細部まで読み込み、練習する	レッスン内容の復習	630 分
第 5 回	実技演習(5)	自由曲を学ぶ(3) 運指法やペダリングの確認	運指やペダリングに留意して練習する	レッスン内容の復習	630 分
第 6 回	実技演習(6)	自由曲を学ぶ(4) 奏法を中心に	音色、タッチ、アーティキュレーションに留意して練習する	レッスン内容の復習	630 分
第 7 回	実技演習(7)	自由曲を学ぶ(5) ポリフォニーについて	ポリフォニーの要素を考慮して練習する	レッスン内容の復習	630 分
第 8 回	実技演習(8)	自由曲を学ぶ(6) 問題点の解決、練習方法について	技術的に難しいところを確認し、工夫して練習する	レッスン内容の復習	630 分
第 9 回	実技演習(9)	自由曲を学ぶ(7) 和声感について	調性や和声に留意して練習する	レッスン内容の復習	630 分
第 10 回	実技演習(10)	自由曲を学ぶ(8) 強弱法について	強弱や表現記号に留意して練習する	レッスン内容の復習	630 分
第 11 回	実技演習(11)	自由曲を学ぶ(9) 様式感、曲の性格について	曲の様式やキャラクターにふさわしい演奏を目指して練習する	レッスン内容の復習	630 分
第 12 回	実技演習(12)	自由曲を学ぶ(10) 表現を掘り下げる	全体をまとめて、暗譜で練習する	レッスン内容の復習	630 分
第 13 回	実技演習(13)	各人の進路やコンクール等の相談	前期までの進捗状況を確認し、今後の課題を考える	レッスン内容の復習	630 分
第 14 回	実技演習(14)	協奏曲を学ぶ(1) 読譜、運指法の確認	運指やペダリングに留意しながら読譜する	レッスン内容の復習	630 分
第 15 回	実技演習(15)	協奏曲を学ぶ(2) 形式、奏法について	形式、奏法を考慮しながら練習する	レッスン内容の復習	630 分

フィードバック	卒業試験の結果を多面的に評価し、演奏会への出演などに推薦してフィードバックする。
---------	--

成績評価	実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。
------	------------------------------

テキスト	バッハ：平均律クラヴィーア曲集、モーツァルト・ベートーヴェン：ソナタ集、ショパン：練習曲集、協奏曲の他、適宜授業内に指示する。
------	---

オフィスアワー	各担当教員の出校日に、各担当教員のレッスン室にて
---------	--------------------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的意識	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

(演) 専門実技Ⅳ-2 (ピアノ)

各実技担当教員

科目コード: IND404

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/ピアノ専門/4年次

形態: 実技	単位数: 4単位
概要	4年間の集大成としてリサイタルプログラムと協奏曲全楽章をまとめ上げ、深い読譜力と確かな技術と感性により、説得力のある演奏を目指す。また、1回の演奏会に必要な集中力と力の配分、計画的な準備の重要性を学ぶ。

到達目標	プロの演奏家として通用するために、あらゆる能力を完全なものにする。
------	-----------------------------------

授業計画	半期15回、各人120分の個人指導。 各人の能力、資質、進度等に合わせて担当教員と相談の上進めていく。
------	--

回数	実技演習	事前	事後	時間
第1回	実技演習(1) 協奏曲を学ぶ(1) 表現法を中心に	楽譜に書かれている表現記号に留意して練習する	レッスン内容の復習	630分
第2回	実技演習(2) 協奏曲を学ぶ(2) オーケストラパートの研究	オーケストラパートを読譜し、ソロパートとの関わりを考察する	レッスン内容の復習	630分
第3回	実技演習(3) 協奏曲を学ぶ(3) アンサンブルを学ぶ	ソリストとしてオーケストラとのアンサンブルを考慮して練習する	レッスン内容の復習	630分
第4回	実技演習(4) 協奏曲を学ぶ(4) 奏法上の問題を解決する	技術面で難しいところを確認し、対策を考える	レッスン内容の復習	630分
第5回	実技演習(5) 協奏曲を学ぶ(5) 表現力を高める	ソリストとしての幅広い表現力を高めるための練習をする	レッスン内容の復習	630分
第6回	実技演習(6) 協奏曲を学ぶ(6) 2台ピアノで合わせる	2台ピアノで合わせる練習をする	レッスン内容の復習	630分
第7回	実技演習(7) 協奏曲を学ぶ(7) 2台ピアノのバランス感覚を養う	2台ピアノでオーケストラパートとの調和をふまえて練習をする	レッスン内容の復習	630分
第8回	実技演習(8) 協奏曲を学ぶ(8) ソロパートの確認	2台ピアノで合わせた上で生じた問題点について考察し、練習する	レッスン内容の復習	630分
第9回	実技演習(9) 協奏曲を学ぶ(9) 全体の構成を考える	全体をまとめて、暗譜で練習する	レッスン内容の復習	630分
第10回	実技演習(10) 試験に向けてペース配分を考える	全てのプログラムを確認し、練習の計画を立てる	レッスン内容の復習	630分
第11回	実技演習(11) プログラム全体を通して演奏する	暗譜の確認と、それぞれの曲の問題点と対策を考えて練習する	レッスン内容の復習	630分
第12回	実技演習(12) 1か月前課題(1) 読譜の確認	課題曲を読譜する	レッスン内容の復習	630分
第13回	実技演習(13) 1か月前課題(2) 技術、表現の確認	課題曲をより深めて練習する	レッスン内容の復習	630分
第14回	実技演習(14) 自由曲・協奏曲の掘り下げ	全体をまとめて、通して練習する	レッスン内容の復習	630分
第15回	実技演習(15) 仕上げとまとめ	これまでの注意点に留意しながら練習する	レッスン内容の復習	630分

フィードバック	卒業試験の結果を多面的に評価し、演奏会への出演などに推薦してフィードバックする。
---------	--

成績評価	実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。
------	------------------------------

テキスト	バッハ: 平均律クラヴィーア曲集、モーツァルト・ベートーヴェン: ソナタ集、ショパン: 練習曲集、協奏曲の他、適宜授業内に指示する。
------	--

オフィスアワー	各担当教員の出校日に、各担当教員のレッスン室にて
---------	--------------------------

備考	
----	--

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的意識	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

(演) 専門実技Ⅲ-1 (弦楽器)

各実技担当教員

科目コード: IND301

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/弦楽器専門/3 年次

形態: 実技 単位数 4 単位

概要 音楽の解釈力と演奏の表現力を養うために必要な読譜力や想像力、そのための演奏技術の向上をめざす。
レパートリーの拡充とともに自己プロデュース力を身につけ、自らにもっともふさわしいプログラミングができるようにする。

到達目標 自らの特性を認識し、それに応じたレパートリーを構成してプログラミングを行い、多面的な音楽表現と構成力を身につける。

授業計画 前期 15 回、各人 60 分の個人指導。
必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	各個人の学習計画を立てる	二年次の学修を確認し、三年次の学修計画案をたてる。	630 分	
第 2 回	エチュード、曲 自然な音の探求	事前 学修計画を確認し、楽譜等、今後必要な準備をする。 事後 楽器が自然に鳴るポイントを、各自で探求しておく。	630 分	
第 3 回	エチュード、曲 正確な読譜	事前 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 事後 エチュードや曲に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを	630 分	
第 4 回	エチュード、曲 奏法上の問題点の解決	事前 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 事後 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	630 分	
第 5 回	エチュード、曲 形式、和声感	事前 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 事後 課題に対し、形式や和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	630 分	
第 6 回	エチュード、曲 形式、和声感	事前 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 事後 課題に対し、形式や和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	630 分	
第 7 回	エチュード、曲 表現力、想像力の発展	事前 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 事後 ピアノとの合わせを行っておく。	630 分	
第 8 回	エチュード、曲 仕上げ ピアノ伴奏とともに	事前 アンサンブル上の問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 事後 暗譜の確認。ピアノとの合わせを行っておく。	630 分	
第 9 回	課題曲 A バロック期 正確な読譜と、様式感について	事前 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 事後 課題曲 A に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。	630 分	
第 10 回	課題曲 A バロック期 形式、和声感を学ぶ	事前 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 事後 課題曲 A に対し、形式、和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	630 分	
第 11 回	課題曲 A バロック期 奏法上の問題点の解決	事前 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 事後 課題曲 A に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習して	630 分	
第 12 回	課題曲 B 古典派 正確な読譜と、様式感について	事前 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 事後 課題曲 B に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。	630 分	
第 13 回	課題曲 B 古典派 形式、和声感を学ぶ	事前 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 事後 課題曲 B に対し、形式、和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	630 分	
第 14 回	課題曲 B 古典派 奏法上の問題点の解決	事前 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 事後 課題曲 B に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習して	630 分	
第 15 回	演奏上の問題点から課題を探る	事前 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 事後 課題曲 A と課題曲 B を、暗譜で演奏できるように練習する。	630 分	

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内で適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。

テキスト 個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各弦楽器実技担当教員レッスン室において

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	モニタリング力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

(演) 専門実技Ⅲ-2 (弦楽器)

各実技担当教員

科目コード：IND302

対象コース/専門/学年：演奏家コース/弦楽器専門/3 年次

形態：実技

単位数 4 単位

概要 音楽の解釈力と演奏の表現力を養うために必要な読譜力や想像力、そのための演奏技術の向上をめざす。
レパートリーの拡充とともに自己プロデュース力を身につけ、自らにもっともふさわしいプログラミングができるようにする。

到達目標 自らの特性を認識し、それに応じたレパートリーを構成してプログラミングを行い、多面的な音楽表現と構成力を身につける。

授業計画 後期 15 回、各人 60 分の個人指導。
必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。

回数	課題曲	内容	事前	事後	評価
第 1 回	課題曲 C	ロマン派小品 正確な読譜と、様式感について	課題曲 C に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 2 回	課題曲 C	ロマン派小品 形式、和声感を学ぶ	課題曲 C に対し、形式、和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 3 回	課題曲 C	ロマン派小品 奏法上の問題点の解決	課題曲 C に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 4 回	課題曲 D	ロマン派コンチェルト 正確な読譜と、様式感について	課題曲 D に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 5 回	課題曲 D	ロマン派コンチェルト 形式、和声感を学ぶ	課題曲 D に対し、形式、和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 6 回	課題曲 D	ロマン派コンチェルト 奏法上の問題点の解決	課題曲 D に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 7 回	課題曲 E	近現代 正確な読譜と、様式感について	課題曲 E に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 8 回	課題曲 E	近現代 形式、和声感を学ぶ	課題曲 E に対し、形式、和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 9 回	課題曲 E	近現代 奏法上の問題点の解決	課題曲 E に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 10 回	リサイタルプログラム作成		問題点を意識し、各自の音楽的特徴を把握し、リサイタルプログラムの候補曲を考えておく。	総譜からアプローチを試みる。	630 分
第 11 回	リサイタルプログラム	表現力を深める	様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 12 回	リサイタルプログラム	効果的な演奏について学ぶ	曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 13 回	リサイタルプログラム	ベース配分を学ぶ	ピアノとの合わせを行っておく。	試験曲目すべてを、続けて演奏できるよう、練習する。	630 分
第 14 回	リサイタルプログラム	アンサンブルの問題点を解決	ピアノとの合わせを行っておく。	アンサンブル上の問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 15 回	公開試験の演奏内容の反省		事前 暗譜の確認。	事後 学年末演奏試験の反省、および今後の課題を確認する。	630 分

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内で適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト 個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各弦楽器実技担当教員レッスン室において

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(演) 専門実技Ⅳ-1 (弦楽器)

各実技担当教員

科目コード：IND401

対象コース／専門／学年：演奏家コース／弦楽器専門／4年次

形態：実技

単位数 4単位

概要 音楽の解釈力と演奏の表現力を養うために必要な、読譜力、想像力、そのための演奏技術の向上をめざす。多様な楽曲の中からリサイタルプログラムを構成し、計画的な準備を進めることによって、説得力のある演奏表現をおこなう。

到達目標 バロックから現代までの幅広い時代の音楽に対する様式感を習得し、リサイタルプログラムを自らの力で解釈すること。そして楽器を通した説得力のある表現ができる。

授業計画 半期15回、各人毎週120分の個人指導。各人の能力、資質、進度等に合わせて、担当教員と相談の上進めていく。

回数	内容	事前	事後	ポイント
第1回	各個人の学習計画を立てる	事前 三年次の学修を確認し、最終学年の学修計画案をたてる。	事後 学修計画を確認し、楽譜等、今後必要な準備をする。	630分
第2回	エチュード、曲 自然な音の探求	事前 楽器が自然に鳴るポイントを、各自で探求しておく。	事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630分
第3回	エチュード、曲 正確な読譜	事前 エチュードや曲に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。	事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630分
第4回	エチュード、曲 奏法上の問題点の解決	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630分
第5回	エチュード、曲 形式、和声感	事前 課題に対し、形式や和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630分
第6回	エチュード、曲 様式感を学ぶ	事前 課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。	事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630分
第7回	エチュード、曲 表現力、想像力の発展	事前 ピアノとの合わせを行っておく。	事後 アンサンブル上の問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630分
第8回	エチュード、曲 仕上げ ピアノ伴奏とともに	事前 暗譜の確認。ピアノとの合わせを行っておく。	事後 反省と、次回の課題を確認する。	630分
第9回	課題曲A バロック期 正確な読譜と、様式感について	事前 課題曲Aに対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。	事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630分
第10回	課題曲A バロック期 形式、和声感を学ぶ	事前 課題曲Aに対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630分
第11回	課題曲A バロック期 奏法上の問題点の解決	事前 課題曲Aに対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630分
第12回	課題曲B 古典派 正確な読譜と、様式感について	事前 課題曲Bに対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。	事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630分
第13回	課題曲B 古典派 形式、和声感を学ぶ	事前 課題曲Bに対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630分
第14回	課題曲B 古典派 奏法上の問題点の解決	事前 課題曲Bに対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630分
第15回	演奏上の問題点から課題を探る	事前 課題曲Aと課題曲Bを、暗譜で演奏できるように練習する。	事後 前期の反省と、次回の課題を確認する。	630分

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内で適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。

テキスト 個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各弦楽器実技担当教員レッスン室において

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	21世紀スキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

(演) 専門実技Ⅳ-2 (弦楽器)

各実技担当教員

科目コード： IND402

対象コース/専門/学年： 演奏家コース/弦楽器専門/4年次

形態：実技

単位数 4単位

概要 音楽の解釈力と演奏の表現力を養うために必要な、読譜力、想像力、そのための演奏技術の向上をめざす。多様な楽曲の中からリサイタルプログラムを構成し、計画的な準備を進めることによって、説得力のある演奏表現をおこなう。

到達目標 バロックから現代までの幅広い時代の音楽に対する様式感を習得し、リサイタルプログラムを自らの力で解釈すること。そして楽器を通した説得力のある表現ができる。

授業計画 半期 15回、各人毎週 120分の個人指導。各人の能力、資質、進度等に合わせて、担当教員と相談の上進めていく。

Table with 4 columns: Lesson No., Lesson Title, Before/After Description, and Score. It details 15 lessons covering topics like Baroque/Classical repertoire, recital program creation, and performance techniques.

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内で適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。

テキスト 個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各弦楽器実技担当教員レッスン室において

備考

学位授与の方針との関連

Table showing the correlation between course learning outcomes and degree requirements. It includes columns for 'Knowledge, Skills, Understanding' and 'Intention, Experience, Diversity'.

ピアノ・アンサンブルⅢ

教授 山崎紫乃

科目コード：ENS301

対象コース／専門／学年：器楽コース／ピアノ専門／3年次

形態：演習

単位数：2単位

概要 主に協奏曲作品を取り上げ、ピアノにおけるアンサンブルの世界の幅を広げる。
オーケストラのパートをピアノで伴奏するために必要なスキルを身につける。

到達目標 アンサンブルにおいてピアノという楽器は音楽的に対等の立場、もしくは伴奏として支える立場をとることが大半であるが、他楽器との共演の中でもピアノ協奏曲においてはソリストとしての音楽表現、奏法、演奏の牽引力等が必要である。ソリストとしての演奏法、室内楽作品と協奏曲作品の演奏法、表現法、音や響きなどの相違点を明確に学ぶと共に、オーケストラパートをピアノで伴奏することも学び、楽器の可能性について更に追求する。

授業計画 15回の個人授業を行い、10月にコンチェルト試験を実施する。

回数	課題	事前	事後	時間
第1回	課題の設定	事前 協奏曲について調べる。	事後 課題曲の中から選曲、読譜。	110分 170分
第2回	正確な読譜	事前 音、リズム、拍子を性格に読譜。	事後 指使い、手のフォームを正しく反復練習。	110分 170分
第3回	技術的問題への取り組み	事前 丁寧に反復練習。	事後 苦手な音型、楽句の徹底練習。	110分 170分
第4回	リズム、拍子の確認	事前 反復練習。	事後 楽譜に忠実に正確なリズムを意識して練習。	110分 170分
第5回	オーケストラパートの読譜	事前 オーケストラパートの読譜。	事後 両パートを総合して音楽をイメージする。	110分 170分
第6回	楽曲分析	事前 和声進行など整理し、構造を理解する。	事後 作品の全体像を把握し、演奏のイメージを持つ。	110分 170分
第7回	演奏技術の向上	事前 反復練習。	事後 問題点を自覚し効果的な反復練習。	110分 170分
第8回	表現法	事前 作品の全体像を把握し、表現の可能性を追求。	事後 作品に相応しい表現の追求。	110分 170分
第9回	作品の総合的視点	事前 オーケストラパートおよびピアノソロパートの確認。	事後 全体の構造を把握し、バランスを考慮して練習。	110分 170分
第10回	両パートの共演	事前 パートナーとの練習。	事後 音楽の流れ、構造、音量のバランスを確認しながら反復練習。	110分 170分
第11回	両パートの共演(立体的な演奏)	事前 それぞれのパートの役割を意識して練習。	事後 掘りの深い表現の追求。	110分 170分
第12回	音色、響き	事前 各パートに相応しい音色、響きの追求。	事後 ピアニスティックな表現の追求。オーケストラ楽器の音色の研究。	110分 170分
第13回	テンポの設定	事前 ソリストの表現、音楽の流れを明確に。	事後 表現、バランスを整理し、相応しいテンポの確立。	110分 170分
第14回	仕上げ	事前 両パートを理解し表現、技術の徹底。	事後 表現力と演奏技術の鍛錬。	110分 170分
第15回	成果の発表	事前 全体像を意識し、最終調整。	事後 両パートの役割、表現を自己分析、評価。	110分 170分

フィードバック 演奏試験を行い、その後担当教員、審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 演奏試験を受ける。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 講義の中での課題曲目については、適宜掲示する。
演奏試験課題曲は7月に掲示する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ピアノ伴奏法（基礎）a

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 吉田伸昭

科目コード：ENS306

対象コース／専門／学年：器楽・演奏家コース／ピアノ専門／3年次

形態：演習 単位数：2単位

概要 グループレッスンの形態。それぞれの作曲者、楽曲に対する知識、理解を深める。
発音練習し歌唱を実践した後、一人ずつピアノを演奏する。

到達目標 芸術歌曲は歌とピアノが対等な関係で創り上げる芸術である。この講義を通じて芸術歌曲への興味と理解を深める。
詩の意味を理解して声楽作品に向かう習慣をつける。
ドイツ歌曲の傑作であるシューマン作曲の歌曲集「詩人の恋」全曲を学ぶ。

授業計画 R.シューマン作曲の「詩人の恋」を教材とする。ドイツ語の詩を音読し、詩とメロディーとの結びつきを理解した後、演奏する。

回数	内容	事前	事後	単位数
第1回	シューマンの歌曲の総合的な理解とドイツ語の発音練習	シューマンについて予備知識を得、「詩人の恋」を視聴する	ドイツ語の発音を練習	170分 100分
第2回	第1曲 素晴らしく美しい五月に	第1曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	授業内容の確認と復習	170分 100分
第3回	第2曲 僕の涙から花が咲く 第3曲 パラ、ゆり、鳩	第2, 3曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	授業内容の確認と復習	170分 100分
第4回	第4曲 君の瞳を見ると	第4曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	授業内容の確認と復習	170分 100分
第5回	第5曲 僕の心を沈めよう	第5曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	授業内容の確認と復習	170分 100分
第6回	第6曲 聖なるラインの流れ	第6曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	授業内容の確認と復習	170分 100分
第7回	第7曲 恨むまい	第7曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	授業内容の確認と復習	170分 100分
第8回	第8曲 小さい花たちが知っているなら	第8曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	授業内容の確認と復習	170分 100分
第9回	第9曲 あれはフルートとヴァイオリンだ	第9曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	授業内容の確認と復習	170分 100分
第10回	第10曲 かつて恋人の歌っていた歌を聴くと 第11曲 ひとりの若者がある娘を愛した	第10, 11曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	授業内容の確認と復習	170分 100分
第11回	第12曲 光り輝く夏の朝に	第12曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	授業内容の確認と復習	170分 100分
第12回	第13曲 僕は夢の中で泣いた 第14曲 夜ごと、夢の中で	第13, 14曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	授業内容の確認と復習	170分 100分
第13回	第15曲 古いおとぎ話から	第15曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	授業内容の確認と復習	170分 100分
第14回	第16曲 古く忌まわしい歌	第16曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	授業内容の確認と復習	170分 100分
第15回	全曲の仕上げと発表	全曲演奏の準備	演奏の録音を聴く	170分 100分

フィードバック 最終講義時に「詩人の恋」の伴奏について全員で話し合う

成績評価 総合評価とする。演奏 70%、授業への積極的な取り組み 30%

テキスト シューマン 詩人の恋 高声用 参考：シューマン歌曲集1（高声用 音楽譜出版社）に収録
外国版、コピー譜も可

オフィスアワー Eメール mozart-trazom@nifty.com および授業前後、教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発露力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ピアノ伴奏法(応用)b

教授 吉田伸昭

科目コード: ENS307

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/ピアノ専門/3年次

形態: 演習

単位数: 2単位

概要 グループレッスンの形態。それぞれの作曲者、楽曲に対しての知識、理解を深める。
発音練習し歌唱を実践した後、一人ずつピアノを演奏する

到達目標 芸術歌曲は歌とピアノが対等な関係で創り上げる芸術である。この講義を通じて芸術歌曲への興味と理解を深める。
歌手と共に呼吸すること、言葉をよく聴き、流れをつくることを学ぶ。
様々な原語、時代、様式の歌曲に触れる。

授業計画 独、仏、伊、日、等様々な言語の歌曲作品から個々に選択する。原語による差異を感得し、フレージングに細心の注意を払って演奏する。

第1回	ドイツ歌曲① 詩の抑揚、意味、解釈を学び、それがどのように旋律や和声、リズムを形作っているかを考えながら、的確な表現をめざす。	事前 楽譜を用意し、詩や楽譜をよく読む。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	100分 170分
第2回	ドイツ歌曲② 楽曲全体におけるピアノパートの意味をよく理解し、適正なテンポ、特に美しいフレージングに留意して、表現を深める。	事前 楽譜を読み込み、練習する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140分 130分
第3回	ドイツ歌曲③ 前2回の授業を踏まえ、それぞれの曲を仕上げる。	事前 楽譜を読み込み、練習する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140分 130分
第4回	フランス歌曲① 詩の抑揚、意味、解釈を学び、それがどのように旋律や和声、リズムを形作っているかを考えながら、的確な表現をめざす。	事前 楽譜を用意し、詩や楽譜をよく読む。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140分 130分
第5回	フランス歌曲② 楽曲全体におけるピアノパートの意味をよく理解し、適正なテンポ、特に美しいフレージングに留意して、表現を深める。	事前 楽譜を読み込み、練習する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140分 130分
第6回	フランス歌曲③ 前2回の授業を踏まえ、それぞれの曲を仕上げる。	事前 楽譜を読み込み、練習する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140分 130分
第7回	イタリア古典歌曲 声楽作品の原点に立ち戻り、自分でも歌いながら声による表現の特徴を考察する。	事前 副科で学んだ楽曲の中から選曲し練習しておく。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140分 130分
第8回	イタリア歌曲 ロッシーニ、ベッリーニ、ドニゼッティ、ヴェルディの歌曲作品を中心にイタリア声楽作品における表現様式の特徴を学ぶ。	事前 楽譜を用意し、詩や楽譜をよく読む。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140分 130分
第9回	イタリア近代歌曲① 近代という時代様式とともに、イタリア語独特の言い回しや歌いまわしを学ぶ。	事前 楽譜を用意し、詩や楽譜をよく読む。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140分 130分
第10回	イタリア近代歌曲② 前回の授業を踏まえ、それぞれの曲を仕上げる。	事前 楽譜を用意し、詩や楽譜をよく読む。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140分 130分
第11回	その他の言語の歌曲 英語やスペイン語といった原語の作品の特徴を知り、その表現を学ぶ。	事前 さまざまな言語の歌曲を聴き、楽譜を用意する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140分 130分
第12回	日本歌曲① 詩の特性、音楽の特性等、日本歌曲において特徴的な事柄を学び、その上で、的確な表現を追求する。	事前 楽譜を用意し、詩や楽譜をよく読む。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140分 130分
第13回	日本歌曲② 前回の授業を踏まえ、日本歌曲の表現をさらに深める。	事前 楽譜を読み込み、練習する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140分 130分
第14回	日本歌曲③ 前2回の授業を踏まえ、それぞれの曲を仕上げる。	事前 楽譜を読み込み、練習する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140分 130分
第15回	まとめ 声楽作品におけるピアノパートの意味を再確認し、単なる伴奏にとどまらないパートナーとしてのピアノ演奏の可能性を考える。	事前 これまでの楽曲を復習しておく。 事後 後期の授業を踏まえ、仕上げをする。	140分 130分

フィードバック 最終講義時に歌曲の伴奏についてそれぞれの考えを述べ、話し合う

成績評価 総合評価とする。演奏 70%、授業への積極的な取り組み 30%

テキスト 授業内に指示する

オフィスアワー Eメール mozart-trazom@nifty.com および授業前後、教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

演奏法

教授 山崎紫乃／准教授 干野宜大／外部講師

科目コード：IND405

対象コース／専門／学年：器楽・演奏家コース／ピアノ専門／4年次

形態：演習

単位数：2単位

概要 【山崎】ピアノのダンパーペダルの可能性について、様々な方面から考える。
 【干野】楽譜に記された音楽的文法、表記を読み解きながら、様々な作品の時代様式と伝統を学び演奏できるように考えていく。

到達目標 時代様式や作曲家固有のスタイルを学ぶことにより、より深く楽譜を読み取る力を養い、演奏につなげていくことを目標とする。

授業計画

第1回	【山崎】ピアノの歴史から見たダンパーペダル	事前	ピアノの歴史について大まかな流れを把握する	110分
		事後	授業の内容を自分の取り組む作品に反映させて考える	170分
第2回	【山崎】ピアノの構造から見たダンパーペダル	事前	ピアノの基本的構造について把握する	110分
		事後	授業の内容を自分の取り組む作品に反映させて考える	170分
第3回	【山崎】作曲家の残したペダル記号とその概念	事前	作曲家の残したペダル記号を探し、意味を考える	110分
		事後	授業で取り上げた作品を自ら演奏してみる	170分
第4回	【山崎】ペダル用法の様々な可能性（譜例群①）	事前	譜例群①について自分なりの考えをまとめる	110分
		事後	授業で取り上げた作品を自ら演奏してみる	170分
第5回	【山崎】ペダル用法の様々な可能性（譜例群②）	事前	譜例群②について自分なりの考えをまとめる	110分
		事後	授業を生かして自分の取り組む作品に対し実践する	170分
第6回	【干野】バロック、古典作品を題材に楽譜を読み解き基礎的な読解力を養う①	事前	バッハのインヴェンション、シンフォニア、モーツァルト、ハイドン、ベートーヴェンの作品の楽譜を用意する	110分
		事後	授業で学んだ事柄を実際に弾きながら理解を深める	170分
第7回	【干野】バロック、古典作品を題材に楽譜を読み解き基礎的な読解力を養う②	事前	バロック、古典作品から一曲選曲し、授業内容を応用しながら解釈を深める	110分
		事後	自分なりに、どのような点で新たに考えるようになったかを確認する	170分
第8回	【干野】ショパンやリスト、シューマンなどのロマン派作品を題材に、さらなる応用と発想の拡大を試みる①	事前	ショパンのスケルツォ、バラードの楽譜を用意する	110分
		事後	授業で扱ったショパンのスケルツォ、バラードから選曲し応用しながら解釈を深める	170分
第9回	【干野】ショパンやリスト、シューマンなどのロマン派作品を題材に、さらなる応用と発想の拡大を試みる②	事前	ショパン、シューマン、リストの作品（現在学んでいる作品も可）の楽譜を用意する	110分
		事後	ロマン派作品より選曲し、授業で学んだ事柄を実践してみる	170分
第10回	【干野】幅広い時代の作品を題材に、それぞれの共通点と相違点をディスカッションしながら意識をより具体的に高めていく。	事前	フランス、ロシア、東欧圏の作品など、近現代の作品の楽譜を用意する（ドビュッシー、ラヴェル、ラフマニノフ、プロコフィエフ、スクリャービン、ストラヴィンスキ	110分
		事後	様々な時代、国の音楽の様式と伝統について考え、その違いについて言語化してみる	170分
第11回	外部講師招聘	事前		分
		事後		分
第12回	外部講師招聘	事前		分
		事後		分
第13回	外部講師招聘	事前		分
		事後		分
第14回	外部講師招聘	事前		分
		事後		分
第15回	外部講師招聘	事前		分
		事後		分

フィードバック 授業内でのレポートについて、他学生にも大変参考となるものは読み上げ、コメントする。個人レッスン時、レポート内容を踏まえて対応できるものはする。

成績評価 複数教員による総合評価
 授業への取り組み方、授業態度等による

テキスト

オフィスアワー 授業終了後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発露力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

弦楽合奏Ⅲ-1・Ⅳ-1

准教授 佐藤まどか／教授 緒方恵／准教授 池田雄彦／

科目コード：ENS308／ENS405

准教授 櫻井茂／非常勤講師 須藤三千代

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／弦楽器（ハープ以外）専門／2～4年次

形態：実習

単位数：1単位

概要 弦楽合奏においては、同族楽器のアンサンブルとしてのソノリティーに耳をひらくことが求められる。そのための基本的なアンサンブル力を培う。

到達目標 トウッティとしての音の合わせ方や、ボーイング、音色、ハーモニー等のアンサンブルの基礎力をつける。

授業計画 3年次から4年次まで、同時に行う必修授業。弦楽合奏コンサートを開催。

第1回	弦楽合奏の目標と授業の進め方について	事前 3年次生以上は、昨年度の反省を踏まえ、個人的に課題を見つけておく 事後 学修計画を確認し、次回に必要な楽譜を準備する。	50分 50分
第2回	課題曲Ⅰ（バロック） 課題確認のため、全体通し練習	事前 課題曲Ⅰ（バロック）の音源を聴き、読譜をする。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第3回	課題曲Ⅰ 分奏 各セクションごとに課題を踏まえて練習	事前 分奏の準備、ボーイング、強弱などを確認し、各セクションとのつながりを考える。 事後 分奏で変更したボーイングの箇所を確認し、個人的に自然に演奏できるよう、練習する。	50分 50分
第4回	課題曲Ⅰ 全体練習 様式感を学ぶ、ボーイングなどの確認	事前 作品の分析を個々に行っておく。 事後 バロック期の音のイメージを再確認し、回りの仕上げに向けて、練習する	50分 50分
第5回	課題曲Ⅰ 仕上げの練習	事前 全体の音楽のイメージがつかめるまで、練習する。 事後 課題曲Ⅰの反省、および、次回課題曲Ⅱ（古典）の楽譜を準備する。	50分 50分
第6回	課題曲Ⅱ（古典） 課題確認のため、全体通し練習	事前 課題曲Ⅱ（古典）の音源を聴き、読譜をする。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第7回	課題曲Ⅱ 分奏 各セクションごとに課題を踏まえて練習	事前 分奏の準備、ボーイング、強弱などを確認し、各セクションとのつながりを考える。 事後 分奏で変更したボーイングの箇所を確認し、個人的に自然に演奏できるよう、練習する。	50分 50分
第8回	課題曲Ⅱ 全体練習 様式感を学ぶ、ボーイングなどの確認	事前 作品の分析を個々に行っておく。 事後 古典期の音のイメージを再確認し、回りの仕上げに向けて、練習する	50分 50分
第9回	課題曲Ⅱ 仕上げの練習	事前 全体の音楽のイメージがつかめるまで、練習する。 事後 課題曲Ⅱの反省、および、次回課題曲Ⅲ（古典）の楽譜を準備する。	50分 50分
第10回	課題曲Ⅲ（古典） 課題確認のため、全体通し練習	事前 課題曲Ⅲ（古典）の音源を聴き、読譜をする。同じ古典期でも作曲家によって、スタイルが異なることを感じる。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第11回	課題曲Ⅲ 分奏 各セクションごとに課題を踏まえて練習	事前 分奏の準備、ボーイング、強弱などを確認し、各セクションとのつながりを考える。 事後 分奏で変更したボーイングの箇所を確認し、個人的に自然に演奏できるよう、練習する。	50分 50分
第12回	課題曲Ⅲ 全体練習 様式感を学ぶ、ボーイングなどの確認	事前 作品の分析を個々に行っておく。 事後 古典期の音のイメージを再確認し、回りの仕上げに向けて、練習する	50分 50分
第13回	課題曲Ⅲ 仕上げの練習	事前 全体の音楽のイメージがつかめるまで、練習する。 事後 課題曲Ⅲの反省。	50分 50分
第14回	和声感や、ボーイングの付け方、奏法の選択など、アンサンブルをする上で、身につける必要のある基礎知識の確認	事前 アンサンブル法の文献を読み、アンサンブルを円滑に進めるためにどうすればよいか、個々に考えておく。 事後 アンサンブル法の再確認。および、次回課題曲（ロマン派）の楽譜を準備する。	50分 50分
第15回	課題曲Ⅳ（ロマン派） 課題確認のため、全体通し練習	事前 課題曲Ⅳ（ロマン派）の音源を聴き、読譜をする。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分

フィードバック 演奏後や授業内など、必要に応じて担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 授業への積極性および実技における習熟度を評価の対象とし、複数の担当教員によって、総合的に評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後教室にて、あるいはメールで対応する。
 准教授 佐藤まどか (ship61@mail.uenogakuen.ac.jp)
 教授 緒方恵 (box-057@mail.uenogakuen.ac.jp)
 准教授 池田雄彦 (grape0000053@mail.uenogakuen.ac.jp)
 准教授 櫻井茂 (ssakurai@uenogakuen.ac.jp)
 非常勤講師 須藤三千代 (wind_60000158@mail.uenogakuen.ac.jp)

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発露力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

弦楽合奏Ⅲ-2・Ⅳ-2

准教授 佐藤まどか／教授 緒方恵／准教授 池田雄彦／

科目コード：ENS309／ENS406

准教授 櫻井茂／非常勤講師 須藤三千代

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／弦楽器（ハープ以外）専門／2～4 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 弦楽合奏においては、同族楽器のアンサンブルとしてのソノリティーに耳をひらくことが求められる。そのための基本的なアンサンブル力を培う。

到達目標 トウッティとしての音の合わせ方や、ボーイング、音色、ハーモニー等のアンサンブルの基礎力をつける。

授業計画 3 年次から 4 年次まで、同時に行う必修授業。弦楽合奏コンサートを開催。

第 1 回	課題曲Ⅳ 分奏 各セッションごとに課題を踏まえて練習	事前 分奏の準備、ボーイング、強弱などを確認し、各セッションとのつながりを考える。 事後 分奏で変更したボーイングの箇所を確認し、個人的に自然に演奏できるよう、練習する。	50 分 50 分
第 2 回	課題曲Ⅳ 全体練習 様式感を学ぶ、ボーイングなどの確認	事前 作品の分析を個々に行っておく。 事後 ロマン派の音のイメージを再確認し、次回の仕上げに向けて、練習する	50 分 50 分
第 3 回	課題曲Ⅳ 仕上げの練習 1	事前 技術的に難易度が高い箇所を、個々に練習しておく。 事後 全体の音のイメージがつかめるまで、練習する。	50 分 50 分
第 4 回	課題曲Ⅳ 仕上げの練習 2	事前 個々の練習における完成度を上げておく。 事後 課題曲Ⅳの反省、および、次回課題曲Ⅴ（近現代）の楽譜を準備する。	50 分 50 分
第 5 回	課題曲Ⅴ（近・現代） 課題確認のため、全体通し練習	事前 課題曲Ⅴ（近現代）の音源を聴き、読譜をする。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50 分 50 分
第 6 回	課題曲Ⅴ 分奏 各セッションごとに課題を踏まえて練習	事前 分奏の準備、ボーイング、強弱などを確認し、各セッションとのつながりを考える。 事後 分奏で変更したボーイングの箇所を確認し、個人的に自然に演奏できるよう、練習する。	50 分 50 分
第 7 回	課題曲Ⅴ 全体練習 様式感を学ぶ、ボーイングなどの確認	事前 作品の分析を個々に行っておく。 事後 古典期の音のイメージを再確認し、次回の仕上げに向けて、練習する	50 分 50 分
第 8 回	課題曲Ⅴ 仕上げの練習 1	事前 技術的に難易度が高い箇所を、個々に練習しておく。 事後 全体の音のイメージがつかめるまで、練習する。	50 分 50 分
第 9 回	課題曲Ⅴ 仕上げの練習 2	事前 個々の練習における完成度を上げておく。 事後 課題曲Ⅳの反省。	50 分 50 分
第 10 回	演奏会の準備練習 1	事前 課題曲Ⅰ、Ⅱの問題点を確認し、再度、練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	50 分 50 分
第 11 回	演奏会の準備練習 2	事前 課題曲Ⅲ、Ⅳの問題点を確認し、再度、練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	50 分 50 分
第 12 回	演奏会の準備練習 3	事前 課題曲Ⅴの問題点を確認し、再度、練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	50 分 50 分
第 13 回	演奏会に向けたリハーサルⅠ	事前 技術的に問題がある箇所を、個々に練習しておく。 事後 ホールの響きを意識して、演奏できるよう、音色をイメージしておく。	50 分 50 分
第 14 回	演奏会に向けたリハーサルⅡ	事前 アインザッツの確認、リレーションの確認を各自行っておく。 事後 立体的な表現につながるよう、曲のイメージを明確にしておく。	50 分 50 分
第 15 回	演奏会	事前 リハーサルに備え、並び方等、協力しながら準備する。 事後 演奏会の反省と来年度の課題を確認する。	50 分 50 分

フィードバック 演奏会後や授業内など、必要に応じて担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 授業への積極性および実技における習熟度を評価の対象とし、複数の担当教員によって、総合的に評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後教室にて、あるいはメールで対応する。
 准教授 佐藤まどか (ship61@mail.uenogakuen.ac.jp)
 教授 緒方恵 (box-057@mail.uenogakuen.ac.jp)
 准教授 池田雄彦 (grape0000053@mail.uenogakuen.ac.jp)
 准教授 櫻井茂 (ssakurai@uenogakuen.ac.jp)
 非常勤講師 須藤三千代 (wind_60000158@mail.uenogakuen.ac.jp)

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発露力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

管楽合奏Ⅲ-1・Ⅳ-1(木管A)

非常勤講師 安原三保子

科目コード：ENS310/ENS407

対象コース/専門/学年： 器楽コース/フルート・クラリネット専門/3~4年次/オーボエ専門/1~4年次、
演奏家コース/フルート・オーボエ・クラリネット専門/1~4年次

形態：実習 単位数：1単位

概要 それぞれの楽器の特徴を理解し、演奏に反映させる技術を養う。
合奏の中で、音楽の自発性と責任感を育てる。

到達目標 演奏する上での、奏法をまとめ合っていく感覚を身につける。
「木管五重奏」の形態に慣れつつ、編曲された作品での役割や表現を学ぶ。

授業計画

第1回	ガイダンス 授業の目標と進め方の確認	事前 学修計画案をたてる。 事後 楽譜など必要な準備をする。	50分 50分
第2回	ダンツイ「木管五重奏曲」g-moll (確認)	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備に取り組む。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第3回	ダンツイ「木管五重奏曲」g-moll (表現の工夫)	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第4回	ダンツイ「木管五重奏曲」g-moll (仕上げの演奏)	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第5回	チャイコフスキー「くるみわり人形」編曲版 (確認)	事前 原曲の総譜と照合し、編曲を確認しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第6回	チャイコフスキー「くるみわり人形」編曲版 (確認・表現の工夫)	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第7回	チャイコフスキー「くるみわり人形」編曲版 (表現の工夫)	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第8回	チャイコフスキー「くるみわり人形」編曲版 (仕上げの演奏)	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第9回	ファルカシュ「木管五重奏曲」(確認、表現の工夫)	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備に取り組む。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第10回	ファルカシュ「木管五重奏曲」(表現の工夫、仕上げの演奏)	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第11回	ハイドン「ディヴェルティメント」(確認)	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備に取り組む。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第12回	ハイドン「ディヴェルティメント」(表現の工夫)	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第13回	ハイドン「ディヴェルティメント」(仕上げの演奏)	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第14回	ブーランク「ノヴェレッテ」	事前 譜読みと準備に取り組む。 事後 説得力を持って演奏できるよう復習する。	50分 50分
第15回	ミヨー「ルネ王の暖炉」(確認)	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備に取り組む。 事後 是正にむけて練習する。前期の総括。	50分 50分

フィードバック 授業中のアドバイス。演奏する側としてだけでなく、聞き手として、客観的・建設的に進めていく。

成績評価 授業などへの取り組みを見て評価。

テキスト 授業中に指示する。人数によって、いくつかのグループに分ける場合もある。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

管楽合奏Ⅲ-2・Ⅳ-2(木管A)

非常勤講師 安原三保子

科目コード：ENS311/ENS408

対象コース/専門/学年： 器楽コース/フルート・クラリネット専門/3~4年次/オーボエ専門/1~4年次、
演奏家コース/フルート・オーボエ・クラリネット専門/1~4年次

形態：実習 単位数：1単位

概要 それぞれの楽器の特徴を理解し、演奏に反映させる技術を養う。
合奏の中で、音楽の自発性と責任感を育てる。

到達目標 演奏する上での、奏法をまとめ合っていく感覚を身につける。
「木管五重奏」の形態に慣れつつ、編曲された作品での役割や表現を理解する。

授業計画

第1回	ミヨー「ルネ王の暖炉」(表現の工夫)	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第2回	ミヨー「ルネ王の暖炉」(仕上げの演奏)	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第3回	ムソルグスキー「展覧会の絵」編曲版(確認)	事前 原曲の総譜と照合し、編曲を確認しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第4回	ムソルグスキー「展覧会の絵」編曲版(確認・表現の工夫)	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第5回	ムソルグスキー「展覧会の絵」編曲版(表現の工夫)	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第6回	ムソルグスキー「展覧会の絵」編曲版(仕上げの演奏)	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第7回	イベール「3つの断章」(確認・表現の工夫)	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備に取り組む。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第8回	イベール「3つの断章」(表現の工夫・仕上げの演奏)	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第9回	タファネル「木管五重奏曲」(確認)	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備に取り組む。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第10回	タファネル「木管五重奏曲」(表現の工夫)	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第11回	タファネル「木管五重奏曲」(仕上げの演奏)	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備に取り組む。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第12回	リゲティ「6つのバガテル」(確認)	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備に取り組む。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第13回	リゲティ「6つのバガテル」(表現の工夫)	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第14回	リゲティ「6つのバガテル」(確認)	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第15回	1年間のまとめ	事前 1年間の取り組みについて確認する。 事後 反省点をもとに、今後の課題を明確にする。	50分 50分

フィードバック 授業中のアドバイス。演奏する側としてだけでなく、聞き手として、客観的・建設的に進めていく。

成績評価 授業などへの取り組みを見て評価。

テキスト 授業中に指示する。人数によって、いくつかのグループに分ける場合もある。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

管楽合奏Ⅲ-1・Ⅳ-1(木管D)

非常勤講師 松原孝政

科目コード：ENS310/ENS407

対象コース/専門/学年： 器楽・演奏家コース/サクソフォン専門/1~4年次

形態：実習	単位数：1単位
概要	サクソフォンにとってもっとも一般的な演奏形態である、ソプラノ、アルト、テナー、バリトンの四種類のサクソフォンを使用したサクソフォン四重奏曲を中心に学習してゆく。

到達目標 それぞれの楽器の奏法上の特質を理解し、実際の演奏に反映させる技術を養うと同時に、他者の音楽を聴きながら四重奏の中での自身の役割を認識し、自身の音楽を他者の音楽に同期させる能力を養うことを目標とする。

授業計画 履修学生各々の能力に応じた楽曲のグループに分かれ、各回のテーマに焦点をあてながら、楽曲の分析力、各要素の認識力、技術力を高めてゆく。

第1回	音楽とは何か(変化する要素について)	事前 変化する要素とは何か、自分なりに項目を挙げ考えておく 事後 各要素と音楽の関係を具体的に考察する	50分 50分
第2回	エントロピーと音楽の関係	事前 一般的にエントロピーとはどのようなことか予習しておく 事後 エントロピーと音楽との関連性について考察を深める	50分 50分
第3回	サクソフォンにおける室内楽の特徴	事前 室内楽におけるサクソフォンについて予習しておく 事後 実際の録音などを聴き実感する	50分 50分
第4回	奏法概論1 アンブシュア(音を生み出す仕組み)	事前 アンブシュアとは何か、自分なりで考察する 事後 授業の内容を自分に応用する	30分 70分
第5回	奏法概論2 タンギング(発音とは何か)	事前 タンギングとは何か自分なりに考察する 事後 タンギングと発音の関係を明確にする	30分 70分
第6回	奏法概論3 音量のコントロール(響きと力)	事前 音量とは、響きとは何かを考察しておく 事後 音量、響き、力の関係性を明確にする	30分 70分
第7回	奏法概論4 ヴィブラート(方法と用い方)	事前 ヴィブラートのかけ方を自分なりに説明できるようにしておく 事後 ヴィブラートのかけ方とその用い方を習得する	30分 70分
第8回	奏法概論5 ブレス	事前 呼吸法について予習しておくこと 事後 腹式呼吸をできるように訓練すること	30分 70分
第9回	奏法概論6 運指	事前 自分の指の使い方はどのようなになっているか観察しておくこと 事後 効率的に指を使う訓練をすること	30分 70分
第10回	奏法概論7 チューニング	事前 チューニングは何のために行うのか、考察しておくこと 事後 チューニングの訓練をすること	30分 70分
第11回	奏法概論8 集中力の認識とその移動について	事前 演奏に必要な集中力とはどのようなことか考察しておくこと 事後 効率的に集中力を移動させる訓練をすること	30分 70分
第12回	演奏に必要な道具の選び方(マウスピース、リード、ストラップ等)	事前 自分の道具には何かがあるか確認しておくこと 事後 道具を選び、メンテナンスを行うこと	50分 50分
第13回	ソプラノ・サクソフォンの奏法について	事前 ソプラノ・サクソフォンを実際に吹いておくこと 事後 ソプラノ・サクソフォンを吹き、慣れること	50分 50分
第14回	アルト・サクソフォンの奏法について	事前 アルト・サクソフォンを実際に吹いておくこと 事後 アルト・サクソフォンを吹き、慣れること	50分 50分
第15回	テナー・サクソフォンの奏法について	事前 テナー・サクソフォンを実際に吹いておくこと 事後 テナー・サクソフォンを吹き、慣れること	50分 50分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。

成績評価 最終的に体得した能力(50%) 普段の授業での取り組み方(50%)

テキスト La veillée de l'ange gardien/Gabriel Pierne
Chanson de grand'maman/ Gabriel Pierne
Quatuor pour saxophones/F.M.Jeanjean
Andante et scherzo/Eugene Bozza
Quatuor pour saxophones/Alfred Desenclos
他、グループごとに適宜指示して行く。

オフィスアワー E-mail: apple_0000435@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 グループごとに必ず予習をして授業に臨むこと。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

管楽合奏Ⅲ-2・Ⅳ-2(木管D)

非常勤講師 松原孝政

科目コード：ENS311/ENS408

対象コース/専門/学年： 器楽・演奏家コース/サクソフォン専門/1~4年次

形態：実習

単位数：1単位

概要 演奏会での演目を踏まえ、様々な編成での演奏法を学んで行く。特に履修者全員でのアンサンブルにも時間を使う。

到達目標 より多人数での演奏技術を学ぶ。また、コンサートで聴衆を納得させることができる演奏を目指す。

授業計画 履修学生各々の能力に応じた楽曲のグループに分かれ、各回のテーマに焦点をあてながら、楽曲の分析力、各要素の認識力、技術力を高めてゆく。

第1回	バリトン・サクソフォンの奏法について	事前	バリトン・サクソフォンを実際に吹いておくこと	50分
		事後	バリトン・サクソフォンを吹き、慣れること	50分
第2回	ソプラニーノ・サクソフォンの奏法について	事前	ソプラニーノ・サクソフォンを実際に吹いておくこと	50分
		事後	ソプラニーノ・サクソフォンを吹き、慣れること	50分
第3回	バス・サクソフォンの奏法について	事前	バス・サクソフォンを実際に吹いておくこと	50分
		事後	バス・サクソフォンを吹き、慣れること	50分
第4回	音程の認識とコントロール	事前	音程とは何かを予習しておくこと	30分
		事後	音程の聞き方とコントロールの仕方を訓練すること	70分
第5回	演奏における基本的ルール1(音価の違いによる音量のコントロール)	事前	音価による表現の違いとは何を意味するか考えておくこと	30分
		事後	エチュードなどを用い、具体的に表現してみる	70分
第6回	演奏における基本的ルール2(音の高低の違いによる音量のコントロール)	事前	音の高低による表現の違いとは何を意味するか考えておくこと	30分
		事後	エチュードなどを用い、具体的に表現してみる	70分
第7回	主旋律と対旋律(一般論と例外について)	事前	主旋律と対旋律について調べておくこと	30分
		事後	実際に意識しながら実践すること	70分
第8回	演奏における自我と無私の考察(感覚の置換)	事前	演奏時における集中力とは何を指すか考えておくこと	30分
		事後	授業をふまえ、集中力を動かす訓練をすること	70分
第9回	演奏行為とは何か	事前	演奏行為とは何かを考えてくること	30分
		事後	授業をふまえて実際に演奏をすること	70分
第10回	バランスの認識とコントロール	事前	演奏表現におけるバランスとは何を指すか考えておくこと	30分
		事後	授業をふまえて実際に演奏をすること	70分
第11回	ラージ(多人数)アンサンブルの実践1(音程のコントロール)	事前	楽譜通りの音程で演奏できるように練習をしておくこと	30分
		事後	授業をふまえて実際に演奏をすること	70分
第12回	ラージアンサンブルの実践2(パートごとの特徴について)	事前	楽譜通りに演奏できるように各パートごとに練習をしておくこと	30分
		事後	授業をふまえて実際に演奏をすること	70分
第13回	ラージアンサンブルの実践3(バランスのコントロール)	事前	曲の場面ごとのバランスをイメージしておくこと	30分
		事後	授業をふまえて実際に演奏をすること	70分
第14回	コンサートのプログラミング	事前	過去のコンサートのプログラムを調べておくこと	30分
		事後	実際にプログラムを考えること	70分
第15回	サクソフォンの室内楽指導法	事前	自分なりに指導方法を考えておくこと	50分
		事後	授業をふまえて実践してみる	50分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。

成績評価 最終的に体得した能力(50%) 普段の授業での取り組み方(50%)

テキスト La veille de l'ange gardien/Gabriel Pierne
Chanson de grand'maman/ Gabriel Pierne
Quatuor pour saxophones/F.M.Jeanjean
Andante et scherzo/Eugene Bozza
Quatuor pour saxophones/Alfred Desenclos
他、グループごとに適宜指示して行く。

オフィスアワー E-mail: apple_0000435@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 グループごとに必ず予習をして授業に臨むこと。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

管楽合奏Ⅲ-1・Ⅳ-1(金管)

非常勤講師 今込治／非常勤講師 萩原顕彰／非常勤講師 本間雅智

科目コード：ENS310／ENS407

対象コース／専門／学年：器楽・演奏家コース／金管楽器専門／1～4 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 金管楽器専門生全員で行う、合奏能力の向上を目指す授業である。実際の演奏に必要な純正律や和声などの理解を深められるよう、理論的な解説を行い、個人では出来ない和音のハーモニー、各々のパートの役割などを、実際の演奏を通して学習していく。

到達目標 合奏に於いて、美しいハーモニーを成立させるためには、純正律を理解し、それを実践出来るようになる必要がある。理論を踏まえた実際の演奏を通して、その美しいハーモニーを体感し、音程のとり方を身に付ける事を第一目標としながら、二重奏からオーケストラまで、多様なアンサンブルの場での合奏能力の向上を目指して授業を進める。

授業計画 第1～2回では純正律を知り、ハーモニーの基本を学ぶ。第3～10回では二重奏～四声コーラル等（Da oane Zumma、コーラル名曲集、J.S.Bach:22のコーラル集）を教材にしてハーモニーの成立を実践し、音程感覚、バランス感覚を養う。第10回からは三重奏～十重奏の楽曲に取り組み予定。その他、オーケストラの中から、金管セクションとして知っておきたい部分、体験しておきたい部分を抜粋して取り上げ、オーケストラ、アンサンブル等での合奏の基本を演習していく。

第1回	オリエンテーション、コピー譜の製本法の学習、及び純正律ハーモニーの理解。	事前 自己紹介の内容を考えておく。 事後 配られた純正律表を学習しておく。Bachのコーラル譜を製本する。	20分 80分
第2回	ハーモニーの基本である長3度、短3度の合わせ方。Da oane Summà No.37を教材に、和音感覚を実習。	事前 純正律表で長3度、短3度のプラス、マイナスのセント値を理解しておく。 事後 No.37を学生同士で合わせる練習をしてみる。	50分 50分
第3回	J.S.Bach:22のコーラル集をNo.1からスタート。ハーモニー上のキーとなる音の見極めと、音程の取り方を学ぶ。	事前 コーラル集No.1のハーモニー上のキーとなる音をチェックしておくこと。 事後 No.1をパートを替えて他の学生ともハーモニーをトレーニングしてみる。	50分 50分
第4回	J.S.Bach:「22のコーラル集」、No.2,No.3。ハーモニーを演習。	事前 No.2,No.3を練習しておく。 事後 No.2,No.3をパートを替えてもハーモニーが成立するかを確かめる。	50分 50分
第5回	J.S.Bach:「22のコーラル集」、No.4,No.5。ハーモニーを演習。	事前 No.4,No.5の和音をチェックし、練習をしておく。 事後 No.4,No.5をパートを替えて練習をしてみる。	50分 50分
第6回	J.S.Bach:「22のコーラル集」、No.6,No.7。ハーモニーを演習。	事前 No.6,No.7の和音をチェックし、練習をしておく。 事後 No.6,No.7のパートを替えて、ハーモニーの成立を確認すること。	50分 50分
第7回	J.S.Bach:「22のコーラル集」、No.8,No.9。ハーモニーを演習。	事前 No.8,No.9の和音をチェックし、練習をしておく。 事後 No.8,No.9のパートを替えて、ハーモニーの成立を確認する。	50分 50分
第8回	J.S.Bach:「22のコーラル集」、No.10,No.11。ハーモニーを演習。	事前 No.10,No.11の和音をチェックし、練習をしておく。 事後 No.10,No.11のパートを替えて、ハーモニー練習をすること。	50分 50分
第9回	コーラル名曲集inC譜を教材とした移調読みの対応を学ぶ。	事前 B管、F管でもinC譜が読めるように練習しておく。 事後 パートを替えても演奏が出来るかを確認する。	50分 50分
第10回	コーラル名曲集及びBach:「22のコーラル集」、No.12。ハーモニー及び音楽の進行(起承転結)を学ぶ。	事前 ハーモニーと共に、音楽の成り立ちを考えておく。 事後 パートを替えてもやってみておく。	50分 50分
第11回	コーラル名曲集及びBach:「22のコーラル集」、No.13。ハーモニー及び音楽進行を学ぶ。	事前 ハーモニーのチェックと音楽進行を考えておく。 事後 パートを替えてもやってみる。	50分 50分
第12回	コーラル名曲集及びBach:「22のコーラル集」、No.14。ハーモニー及び和音に対する感性を学ぶ。	事前 移調読み、音楽進行など、トータルでの演奏練習をしておく。 事後 パートを替えてもやってみる。	50分 50分
第13回	授業内発表会曲目の練習開始	事前 授業内発表会曲目の音源を探し、聴いておく。 事後 自分のパートをよく練習しておく。	50分 50分
第14回	授業内発表会曲目の練習	事前 授業内発表会曲目での自分のパートの役割などを考え、演奏に備える。 事後 楽曲のハーモニー構成から自分のパートの音程の取り方をチェック。	50分 50分
第15回	授業内発表会	事前 自分のパート以外も実際に演奏してみたり、ピアノで弾いてみたりしておく。 事後 ハーモニー的に、しっくりしない点などチェックする。	50分 50分

フィードバック 学んだ演奏知識が実際の演奏で機能できているか、その都度チェックしていく。

成績評価 授業への取り組みと、学修成果を見て判断する。

テキスト J. S. BACH 『22のコーラル集』 他

オフィスアワー 授業の前後に受け付ける。

アクティブ・ラーニング 授業内発表会について、選曲・手段・発表の方法を、ディスカッションにより主体的に導き出し、実践させる。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

管楽合奏Ⅲ-2・Ⅳ-2(金管)

非常勤講師 今込治／非常勤講師 萩原顕彰／非常勤講師 本間雅智

科目コード：ENS311／ENS408

対象コース／専門／学年：器楽・演奏家コース／金管楽器専門／1～4年次

形態：実習

単位数：1単位

概要 金管楽器専門生全員で行う、合奏能力の向上を目指す授業である。実際の演奏に必要な純正律や和声などの理解を深められるよう、理論的な解説を行い、個人では出来ない和音のハーモニー、各々のパートの役割などを、実際の演奏を通して学習していく。

到達目標 合奏に於いて、美しいハーモニーを成立させるためには、純正律を理解し、それを実践出来るようになる必要がある。理論を踏まえた実際の演奏を通して、その美しいハーモニーを体感し、音程のとり方を身に付ける事を第一目標としながら、二重奏からオーケストラまで、多様なアンサンブルの場での合奏能力の向上を目指して授業を進める。

授業計画 前期に習得した純正律による音程の取り方を基に、第1回から第3回はホルカを題材に音楽の楽しさを体感する。第4回から第8回ではG.F.ヘンデルの楽曲を取り上げ、「アリア」ではテクニカルなフレーズの中での音程感覚を、「メサイア」ではバランス感覚を養い、第9回と第10回の「アヴェ・ヴェルム・コルプス」では歌詞の内容と合わせた音楽表現を考察する。第11回以降は、学生達による主体的な学修を促し、授業内発表会の実施を計画、実行させる。

第1回	J.シュトラウスを中心にワルツ、ホルカなどのウィーン情緒を知る。	事前 事後	過去のニューイヤー・コンサートなどを聴いておく。 ニューイヤー・コンサートに出演した多くの指揮者たちへの知識も深めたい。	50分 50分
第2回	J.シュトラウス：「ピチカート・ホルカ」の練習と仕上げ。	事前 事後	ウィンナーワルツ、ホルカなどを聴いておく。 演奏した物と、ウィーンフィルなどの演奏とを比較してみる。	50分 50分
第3回	J.シュトラウス：「アンネン・ホルカ」の練習と仕上げ。	事前 事後	譜読みをしておく。 ウィーン情緒とは何か...を考える。	50分 50分
第4回	G.F.ヘンデル：「アリア」（金管五重奏）の譜読み。 Bach：22のコーラル、No.15。	事前 事後	オリジナル曲（室内合奏曲）を聴いておく。 難曲であるので、練習を重ねる。	50分 50分
第5回	G.F.ヘンデル：「アリア」（金管五重奏）の練習。 Bach：「22のコーラル集」、No.16。	事前 事後	更に練習を進めておく。 エムバイア・プラスの演奏を聴いておく。	50分 50分
第6回	G.F.ヘンデル：「アリア」（金管五重奏）の演奏発表。 Bach：「22のコーラル集」、No.17。 五重奏ごとの演奏発表。	事前 事後	軽やかなタッチの演奏を目指して練習をする。 反省点の練習をすること。	50分 50分
第7回	G.F.ヘンデル：「メサイア」より合唱曲の練習。 Bach：「22のコーラル集」、No.18。	事前 事後	練習をしておくこと。オリジナル曲（合唱曲）を聴いておく。 練習時の問題点を探り、修正をする。	50分 50分
第8回	G.F.ヘンデル：「メサイア」より合唱曲の演奏発表。 Bach：「22のコーラル集」、No.19。	事前 事後	テクニカルな問題点の改善に努める。 オリジナル曲を聴き直すこと。	50分 50分
第9回	W.A.モーツァルト：「アヴェ・ヴェルム・コルプス」の練習。 Bach：「22のコーラル集」、No.20。	事前 事後	オリジナルの演奏を聴いておく。歌詞の意味を調べておく。 曲の意味を表現できたか、改めてオリジナル曲を聴き直す。	50分 50分
第10回	W.A.モーツァルト：「アヴェ・ヴェルム・コルプス」の演奏発表。 Bach：「22のコーラル集」、No.21。	事前 事後	コード進行に着目してより深く解析する。 F.リスト、P.チャイコフスキーなどによる編曲作品にも触れる。	50分 50分
第11回	後期授業内発表会曲目の選曲と練習開始 Bach：「22のコーラル集」、No.22。	事前 事後	授業内発表会で演奏する曲目案を作る。 自分のパートをよく練習する。	50分 50分
第12回	後期授業内発表会曲目の練習	事前 事後	テクニカルな問題点を解決する。 改善すべき点を確認する。	50分 50分
第13回	後期授業内発表会	事前 事後	演奏だけでなく、心や体の準備をする。 今後の課題を確認する。	50分 50分
第14回	クリスマス・キャロル集。	事前 事後	キャロル、コーラル共に練習しておくこと。 純正律表を今一度見直し、授業の理解を確認する。	50分 50分
第15回	ペーパーテスト及び演奏テスト。	事前 事後	試験に向けての準備をする。 一年間を振り返り、反省点を基に、次年度への課題を明確にする。	50分 50分

フィードバック 学んだ演奏知識が実際の演奏で機能できているか、その都度チェックしていく。

成績評価 授業への取り組みと、学修成果を見て判断する。

テキスト J. S. BACH 『22のコーラル集』 他

オフィスアワー 授業の前後に受け付ける。

アクティブ・ラーニング 授業内発表会について、選曲・手段・発表の方法を、ディスカッションにより主体的に導き出し、実践させる。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

打楽器合奏Ⅲ-1・Ⅳ-1

客員教授 岡田全弘

科目コード：ENS312/ENS409

対象コース/専門/学年： 器楽・演奏家コース/打楽器専門/1~4年次

形態：実習	単位数：1単位
概要	適宜、編成の異なる室内楽の作品を演奏する。打楽器合奏ⅠおよびⅡにおいては、打楽器アンサンブルの初歩となる4人の作品を中心に行う。マリンバの室内楽にも取り組む。この間にオーケストラの打楽器パートを実習することもある。打楽器合奏Ⅲでは、打楽器合奏ⅠとⅡを踏まえてさらにステップアップした作品に挑戦する。打楽器合奏Ⅳでは、Ⅲを踏まえて歴史上重要な作品を取り上げる。解釈や演奏法にアドヴァイスを与え時間をかけて取り組む。

到達目標 トリオやデュエットのような最少人数の作品から初めて、他のメンバーに演奏でタイミングやテンポを正しく伝える方法を会得する。

回	内容	事前	事後	時間
第1回	小太鼓によるデュエットの曲を演奏。	Modern School for Snare Drum から練習曲をさらしておく。	練習曲の構造を理解し復習する。	50分
第2回	マリンバによるデュエットを演奏。	Modern School for Xylophone and Marimba から Bach をさらしておく。	練習曲の構造を理解し復習する。	50分
第3回	デュエットの仕上げの演奏。	本番のつもりで練習しておく。	録音し聞き直す。	50分
第4回	オーケストラの授業で取り上げられる作品の打楽器パートを演奏。	同時に演奏するメロディがどの楽器なのか確認しておく。	リズムの演奏法を確認しておく。	50分
第5回	さまざまな打楽器を使うトリオ作品を演奏。 譜読み、フレーズの取り方を確認する。	楽譜を準備しスコアを読み込んでおく。	3人での練習方法を検討する。	50分
第6回	楽器のチューニングとセッティングを確認する。 手順の確認。	チューニングキーなど用意する。	3人で練習方法を検討する。	50分
第7回	テンポやダイナミクスの違いによるリズムや奏法の違いを解説。 トリオの仕上げの演奏。	技術的に難しい部分を取り出しておく。	手の動かし方について再検討する。	50分
第8回	オーケストラ・スタディ。 授業で取り上げられる曲を主に演奏する。	オーケストラの授業での問題点をはっきりさせておく。	次の授業のシミュレーションをしておく。	50分
第9回	打楽器のカルテットを演奏。	楽譜に工夫ができないかを検討しておく。	練習方法の検討をする。	50分
第10回	カルテットの譜読み。 楽器の調整とセッティングを解説。	楽器の調整、セッティングを考えておく。	復習と4人での練習方法を検討する。	50分
第11回	メロディラインを取り出して演奏。 ベースラインを取り出して演奏。構造を分解して理解を深める。	構造を4人で理解しておく。	4人での練習方法を検討する。	50分
第12回	オーケストラ・スタディ。 セッティングを決める。	セッティングを考えておく。	オーケストラの授業予定を確認しておく。	50分
第13回	マリンバのカルテットの譜読み。	楽譜の作成。	4人で意見交換をする。	50分
第14回	個人練習と分奏について解説。	メトロノームを使って練習する。	練習方法を検討する。	50分
第15回	バランスについて解説する。	メロディラインの推移を確認しておく。	テンポの出し方について確認。	50分

フィードバック 授業の中で最低2種類の解釈による演奏をレコーディングする。事後や後になって成果を復習し、重要事項を確認するために使う。

成績評価 授業への取り組みによる。

テキスト (参照資料)
 A.Cirone Four by Four
 Per Andreasson Tinplay
 Ruediger Pawassar Sculpture in Wood
 P.Creston Ceremonial
 A.Jolivet Ceremonial
 F.Dupin Courtes pieces Album No.5
 C.Chavez Toccata
 Thomas Gauger Gainsborough
 A.Jolivet Flute Concerto No.2

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

打楽器合奏Ⅲ-2・Ⅳ-2

客員教授 岡田全弘

科目コード：ENS313/ENS410

対象コース/専門/学年： 器楽・演奏家コース/打楽器専門/1~4 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	適宜、編成の異なる室内楽の作品を演奏する。打楽器合奏ⅠおよびⅡにおいては、打楽器アンサンブルの初歩となる 4 人の作品を中心に行う。マリンバの室内楽にも取り組む。この間にオーケストラの打楽器パートを実習することもある。打楽器合奏Ⅲでは、打楽器合奏ⅠとⅡを踏まえてさらにステップアップした作品に挑戦する。打楽器合奏Ⅳでは、Ⅲを踏まえて歴史上重要な作品を取り上げる。解釈や演奏法にアドバイスを与え時間をかけて取り組む。

到達目標 前期よりも大きな編成の作品に取組み、他のメンバーとどのように議論し、どのような練習を重ねて本番を迎えるのかを学ぶ。

授業計画		
第 1 回	マリンバのカルテットの仕上げの演奏。	事前 録音して研究しておく。 事後 セッティング表を書き反省点を出しておく。 50 分
第 2 回	オーケストラ・スタディ。 大太鼓とシンバルのバランスについて解説。	事前 楽器の選定をしておく。 50 分 事後 指揮者の見方について確認。 50 分
第 3 回	オーケストラ・スタディ。 その他の小物楽器について解説。	事前 セッティングを検討しておく。 50 分 事後 楽器の特性について確認しておく。 50 分
第 4 回	任意の編成のアンサンブル曲を譜読み。	事前 楽譜を作成しておく。 50 分 事後 ゆっくりでも同じテンポで演奏できるようにしておく。 50 分
第 5 回	技術的に難しい部分を取り出して演奏。	事前 メトロノームを使って練習する。 50 分 事後 練習方法を検討する。 50 分
第 6 回	任意の編成のアンサンブル曲の仕上げ。	事前 録音して研究しておく。 50 分 事後 反省点を出しておく。 50 分
第 7 回	オーケストラ・スタディ。 指揮の読み方について解説。	事前 作品をよく聞いておく。 50 分 事後 反応の仕方について再確認。 50 分
第 8 回	ティンパニの調整について解説。	事前 チューニングをしておく。 50 分 事後 他の楽器の動きを再確認。 50 分
第 9 回	デュエットの作品を演奏。	事前 曲の構造を理解しておく。 50 分 事後 ゆっくりでも同じテンポで演奏できるようにしておく。 50 分
第 10 回	別の組でデュエットの作品を演奏。	事前 構造とクライマックスの設定。 50 分 事後 メトロノームを使って練習する。 50 分
第 11 回	デュエットの作品の仕上げの演奏。	事前 録音して研究しておく。 50 分 事後 伝えたいところを明確にしておく。 50 分
第 12 回	別の組、デュエットの作品の仕上げの演奏	事前 録音して研究しておく。 50 分 事後 メロディラインの推移を確認しておく。 50 分
第 13 回	オーケストラ・スタディ。聞こえる音の出し方について解説。	事前 聞こえる音と聞こえない音について検討。 50 分 事後 アンサンブルの根幹について再検討。 50 分
第 14 回	ウィンドアンサンブルの曲を演奏。	事前 セッティングを検討しておく。 50 分 事後 バランスを再検討する。 50 分
第 15 回	任意の編成のアンサンブル曲を演奏。	事前 セッティングを検討しておく。 50 分 事後 反省点など整理。 50 分

フィードバック 授業の中で最低 2 種類の解釈による演奏をレコーディングする。事後や後になって成果を復習し、重要事項を確認するために使う。

成績評価 授業への取り組みによる。

テキスト	(参照資料) A.Cirone Four by Four Per Andreasson Tinplay Ruediger Pawassar Sculpture in Wood P.Creston Ceremonial A.Jolivet Ceremonial	F.Dupin Courtes pieces Album No.5 C.Chavez Toccata Thomas Gauger Gainsborough A.Jolivet Flute Concerto No.2
------	--	--

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

古楽合奏 I-1・II-1・III-1・IV-1

准教授 櫻井茂／非常勤講師 戸崎廣乃／非常勤講師 太田光子

科目コード：ENS114／ENS214
ENS314／ENS411

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4年次

形態：実習	単位数 1単位
概要	ルネサンスからバロックまでの合奏曲演奏の研究。あわせて楽譜・文献の検索方法、専門用語の基礎知識を身につけ、より高度な演奏への基礎作りをする。また、基礎を培った上でヨーロッパ各国の合奏音楽をそれぞれの演奏習慣を踏まえて研究する。演奏における歴史的視点の重要性は今日一般的に認識されるものとなっている。この点から古楽器専門に限らず多くの学生の受講を期待している。
到達目標	ドイツ及びイタリアのルネサンスからバロックまでの合奏曲を、それぞれの楽曲の様式を踏まえて相応しい表現方法で演奏すること。

授業計画		
第1回	ドイツの音楽（課題の提示・検討）	事前 音楽史的知識を整理する。 事後 作曲者と時代背景について調べる。 50分
第2回	ドイツの音楽（課題の資料収集）	事前 他のジャンルの楽曲についても調べる。 事後 課題曲の特質について整理する。 50分
第3回	ドイツの音楽（個人練習）	事前 技術的な問題点を明確にする。 事後 技術的な課題を克服する。 50分
第4回	ドイツの音楽（合奏のための準備）	事前 課題曲の全体的な構造を整理する。 事後 他のパートを意識して演奏できるようにする。 50分
第5回	ドイツの音楽（合奏）	事前 課題曲を確実に演奏できるよう準備する。 事後 前半で問題のある箇所を練習する。 50分
第6回	ドイツの音楽（合奏の問題点を検討）	事前 個々の部分についての、異なる表現の可能性についても考える。 事後 全体的な流れを意識して演奏できるようにする。 50分
第7回	ドイツの音楽（仕上げ）	事前 技術的な問題点を整理し克服しておく。 事後 パート間の多重的な構造を意識しながら演奏できるようにする。 50分
第8回	イタリアの音楽（課題の提示・検討）	事前 音楽史的知識を整理する。 事後 作曲者と時代背景について調べる。 50分
第9回	イタリアの音楽（課題の資料収集）	事前 他のジャンルの楽曲についても調べる。 事後 課題曲の特質について整理する。 50分
第10回	イタリアの音楽（個人練習）	事前 技術的な問題点を明確にする。 事後 技術的な課題を克服する。 50分
第11回	イタリアの音楽（合奏のための準備）	事前 課題曲の全体的な構造を整理する。 事後 他のパートを意識して演奏できるようにする。 50分
第12回	イタリアの音楽（合奏）	事前 課題曲を確実に演奏できるよう準備する。 事後 後半で問題のある箇所を練習する。 50分
第13回	イタリアの音楽（合奏の問題点を検討）	事前 個々の部分についての、異なる表現の可能性についても考える。 事後 全体的な流れを意識して演奏できるようにする。 50分
第14回	イタリアの音楽（仕上げ）	事前 技術的な問題点を整理し克服しておく。 事後 パート間の多重的な構造を意識しながら演奏できるようにする。 50分
第15回	既習曲の発表（ドイツ、イタリア）	事前 演奏会に向けてどのような準備が必要かを考え、適切に準備する。 事後 リハーサルから演奏会までの一連の過程における反省点を整理する。 50分

フィードバック 実技指導の形をとるので、授業の中で随時フィードバックを行う。

成績評価 課題曲への技術的な準備 40%、授業への積極的な取り組み 40%、課題曲についての音楽史的理解 20%。

課題曲それぞれの様式の違いを適切に表現できるようになることを重視する。

テキスト 必要に応じて配布、紹介する。

オフィスアワー Eメール：shigusakurai@pop17.odn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

古楽合奏 I-2・II-2・III-2・IV-1

准教授 櫻井茂／非常勤講師 戸崎廣乃／非常勤講師 太田光子

科目コード：ENS115／ENS215
ENS315／ENS412

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4年次

形態：実習	単位数 1単位
概要	ルネサンスからバロックまでの合奏曲演奏の研究。あわせて楽譜・文献の検索方法、専門用語の基礎知識を身につけ、より高度な演奏への基礎作りをする。また、基礎を培った上でヨーロッパ各国の合奏音楽をそれぞれの演奏習慣を踏まえて研究する。演奏における歴史的視点の重要性は今日一般的に認識されるものとなっている。この点から古楽器専門に限らず多くの学生の受講を期待している。
到達目標	フランス及びイギリスのルネッサンスからバロックまでの合奏曲を、それぞれの楽曲の様式を踏まえて相応しい表現方法で演奏すること。

授業計画		
第1回	フランスの音楽（課題の提示・検討）	事前 音楽史的知識を整理する。 事後 作曲者と時代背景について調べる。 50分
第2回	フランスの音楽（課題の資料収集）	事前 他のジャンルの楽曲についても調べる。 事後 課題曲の特質について整理する。 50分
第3回	フランスの音楽（個人練習）	事前 技術的な問題点を明確にする。 事後 技術的な課題を克服する。 50分
第4回	フランスの音楽（合奏のための準備）	事前 課題曲の全体的な構造を整理する。 事後 他のパートを意識して演奏できるようにする。 50分
第5回	フランスの音楽（合奏）	事前 課題曲を確実に演奏できるよう準備する。 事後 後半で問題のある箇所を練習する。 50分
第6回	フランスの音楽（合奏の問題点を検討）	事前 個々の部分についての、異なる表現の可能性についても考える。 事後 全体的な流れを意識して演奏できるようにする。 50分
第7回	フランスの音楽（仕上げ）	事前 技術的な問題点を整理し克服しておく。 事後 パート間の多重的な構造を意識しながら演奏できるようにする。 50分
第8回	イギリスの音楽（課題の提示・検討）	事前 音楽史的知識を整理する。 事後 作曲者と時代背景について調べる。 50分
第9回	イギリスの音楽（課題の資料収集）	事前 他のジャンルの楽曲についても調べる。 事後 課題曲の特質について整理する。 50分
第10回	イギリスの音楽（個人練習）	事前 技術的な問題点を明確にする。 事後 技術的な課題を克服する。 50分
第11回	イギリスの音楽（合奏のための準備）	事前 課題曲の全体的な構造を整理する。 事後 他のパートを意識して演奏できるようにする。 50分
第12回	イギリスの音楽（合奏）	事前 課題曲を確実に演奏できるよう準備する。 事後 後半で問題のある箇所を練習する。 50分
第13回	イギリスの音楽（合奏の問題点を検討）	事前 個々の部分についての、異なる表現の可能性についても考える。 事後 全体的な流れを意識して演奏できるようにする。 50分
第14回	イギリスの音楽（仕上げ）	事前 技術的な問題点を整理し克服しておく。 事後 パート間の多重的な構造を意識しながら演奏できるようにする。 50分
第15回	既習曲の発表（フランス、イギリス）	事前 演奏会に向けてどのような準備が必要かを考え、適切に準備する。 事後 リハーサルから演奏会までの一連の過程における反省点を整理する。 50分

フィードバック 実技指導の形をとるので、授業の中で随時フィードバックを行う。

成績評価 課題曲への技術的な準備 40%、授業への積極的な取り組み 40%、課題曲についての音楽史的理解 20%。

課題曲それぞれの様式の違いを適切に表現できるようになることを重視する。

テキスト 必要に応じて配布、紹介する。

オフィスアワー Eメール：shigusakurai@pop17.odn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

通奏低音奏法 I-1

非常勤講師 戸崎廣乃

科目コード：IND103

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／リコーダー専門／3 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 バロック時代の作品の根底にある通奏低音を学ぶことにより、それぞれの専門楽器の作品の理解を深める。

到達目標 バロック時代の作品の土台となる通奏低音を理解し、実習を通じて実際の演奏に役立つ知識を身につける。20 分の個人レッスン。

授業計画 前期 15 回 各人 20 分の個人指導

回数	内容	事前	事後	80 分
第 1 回	通奏低音とは	通奏低音が用いられた時代について調べておく。	主要な作曲家の楽譜を参照する。	80 分
第 2 回	通奏低音の記譜法を学ぶ	様々な通奏低音の記譜法を調べておく。	時代ごとに整理する。	80 分
第 3 回	基本位置 1 (密集)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 4 回	基本位置 2 (開離)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 5 回	第一転回 1 (密集)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 6 回	第一転回 2 (オクターヴ)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 7 回	第一転回 3 (省略)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 8 回	第一転回 4 (連続して現れる第一転回)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 9 回	第二転回 1 (終止)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 10 回	第二転回 2 (刺繍和音)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 11 回	繋留 1 (最上声部に現れるもの)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 12 回	繋留 2 (内声に現れるもの)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 13 回	7 の和音基本位置 1 (5 度音を含むもの)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 14 回	7 の和音基本位置 2 (5 度音を省略できる場合)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 15 回	7 の和音第一転回 1	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメント。

成績評価 課題や授業への積極的な取り組みにより総合的に判断する。

テキスト 必要に応じて配布、紹介する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

通奏低音奏法 I-2

非常勤講師 戸崎廣乃

科目コード：IND104

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／リコーダー専門／3 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 バロック時代の作品の根底にある通奏低音を学ぶことにより、それぞれの専門楽器の作品の理解を深める。

到達目標 バロック時代の作品の土台となる通奏低音を理解し、実習を通じて実際の演奏に役立つ知識を身につける。20 分の個人レッスン。

授業計画 後期 15 回 各人 20 分の個人指導

第 1 回	7 の和音第一転回 2 (第 7 音の扱い方)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 2 回	7 の和音第二、三転回 1 (43 の和音)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 3 回	7 の和音第二、三転回 2 (42 の和音)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 4 回	長および短九度、減七 1	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 5 回	長および短九度、減七 2 (特殊な用法)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 6 回	その他の半音階的和音 1 (ナボリの 6)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 7 回	その他の半音階的和音 2 (その他)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 8 回	二重繋留	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 9 回	実際の楽曲への応用 1	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分
第 10 回	実際の楽曲への応用 2 (配置を変えてみる)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分
第 11 回	実際の楽曲への応用 3 (省略できる音を検討する)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分
第 12 回	アンサンブルでの実践 1 (後期バロック)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分
第 13 回	アンサンブルでの実践 2 (前期バロック)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分
第 14 回	アンサンブルでの実践 3 (数字がついていない場合)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分
第 15 回	アンサンブルでの実践 4 (総合的実践)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメント。

成績評価 課題や授業への積極的な取り組みにより総合的に判断する。

テキスト 必要に応じて配布、紹介する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

合唱 I-1・II-1・III-1・IV-1

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 中村拓紀

科目コード：ENS116／ENS216
ENS316／ENS413

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／全学年

形態：実習

単位数：1 単位

概要 全履修生を合わせて学年や専門を超えたひとつの合唱団となり、演奏会に向けてリハーサルを重ねる実習形式の講義である。

到達目標 合唱という演奏形態ですばらしい音楽作りを目指す。すなわち、声を出すことによってハーモニーを作ることを学び、テキストが伴う場合はテキストへの理解を深め、楽曲の形式・様式を実現し、演奏を披露する機会に向けてどのようにリハーサルを重ね、準備していくかを知り、将来合唱指導をする時にも用いることができる指導テクニックを習得することを目標とする。

授業計画 全 15 回 90 分×2 コマ=180 分
各パートのバランスを見て曲を決定するが、ルネサンス・バロック期から近・現代まで、ほとんどすべての声楽・合唱作品が選曲対象である。

第 1 回	ガイダンス／春の演奏会リハーサル 「声種分け」	事前 自分の声が混声合唱のどのパートが相応しく望ましいかを検討する 事後 選曲の意図を探る	0 分 0 分
第 2 回	春の演奏会リハーサル 「みんなで声を出すことは？」	事前 自分の声の基本的性質を調べる 事後 音が混ざることとはどういうことなのか思考する	0 分 0 分
第 3 回	春の演奏会リハーサル 「パートの役割、ハーモニーとは？」	事前 和声の基本を知っておく 事後 連結の重要性をおさらいする	0 分 0 分
第 4 回	春の演奏会リハーサル 「ホールで歌う・人前で演奏すること（基礎）」	事前 ホールで演奏することを想定する 事後 暗譜を目指す	0 分 0 分
第 5 回	春の演奏会リハーサル 「ホールで歌う・人前で演奏すること（応用）」	事前 本番を想定する（舞台の歩き方、衣装、楽譜の有無、メイク） 事後 全体的に譜面を見直す	0 分 0 分
第 6 回	春の演奏会の反省 定期演奏会リハーサル	事前 演奏会を振り返る 事後 選曲の意図を探る	0 分 0 分
第 7 回	定期演奏会リハーサル 「ピアニストの役割」	事前 すべての教材のピアノパート楽譜を眺める 事後 自分がピアニストだったらと想像する	0 分 0 分
第 8 回	定期演奏会リハーサル 「音名唱と階名唱（基礎）」	事前 ハンドサインとは何かを調べる 事後 音名唱と階名唱の違いをおさらいする	0 分 0 分
第 9 回	定期演奏会リハーサル 「音名唱と階名唱（応用）」	事前 階名唱の利点を考える 事後 音名唱と階名唱の違いをおさらいする	0 分 0 分
第 10 回	定期演奏会リハーサル 「発声練習は音作り（基礎）」	事前 ハミングの仕組みを研究する 事後 口からの呼吸と鼻からの呼吸についておさらいする	0 分 0 分
第 11 回	定期演奏会リハーサル 「発声練習は音作り（応用）」	事前 音声の支えとは何かを考える 事後 やわらかい息を習得する	0 分 0 分
第 12 回	定期演奏会リハーサル 「一声（ユニゾン）が基本（基礎）」	事前 音律の基本を知っておく 事後 ペンタトニックや旋法を知っておく	0 分 0 分
第 13 回	定期演奏会リハーサル 「一声（ユニゾン）が基本（応用）」	事前 平均律とは何かを知っておく 事後 大全音と小全音を知っておく	0 分 0 分
第 14 回	定期演奏会リハーサル 「音楽のイントネーション（基礎）」	事前 イントネーションのない状態を想定する 事後 講義で取り上げたルールがほかにも当てはまるか調べ探す	0 分 0 分
第 15 回	定期演奏会リハーサル 「音楽のイントネーション（応用）」	事前 イントネーションのない状態を想定する 事後 テキスト・和音・旋律・リズムそれぞれのイントネーションを知る	0 分 0 分

フィードバック 実習形式の講義のため、演奏前、演奏中、演奏後のいつ何時も教員の指導にて学修成果をフィードバックする機会を設ける。

成績評価 講義への取り組みによって評価。

テキスト 講義内に指示する。

オフィスアワー 講義の前後、または休憩中に教室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>				

合唱 I-2・II-2・III-2・IV-2

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 中村拓紀

科目コード：ENS117／ENS217
ENS317／ENS414

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／全学年

形態：実習

単位数：1 単位

概要 全履修生を合わせて学年や専門を超えたひとつの合唱団となり、演奏会に向けてリハーサルを重ねる実習形式の講義である。

到達目標 合唱という演奏形態ですばらしい音楽作りを目指す。すなわち、声を出すことによってハーモニーを作ることを学び、テキストが伴う場合はテキストへの理解を深め、楽曲の形式・様式を実現し、演奏を披露する機会に向けてどのようにリハーサルを重ね、準備していくかを知り、将来合唱指導をする時にも用いることができる指導テクニックを習得することを目標とする。

授業計画 全 15 回 90 分×2 コマ=180 分
各パートのバランスを見て曲を決定するが、ルネサンス・バロック期から近・現代まで、ほとんどすべての声楽・合唱作品が選曲対象である。

第 1 回	定期演奏会リハーサル 「輪唱から合唱へ（基礎）」	事前 事後	かえるのうたのカノンがなぜハモるのかを考える ポリフォニー作品を聴く	0 分 0 分
第 2 回	定期演奏会リハーサル 「輪唱から合唱へ（応用）」	事前 事後	ハンドサインの復習をする 階名唱の利点を考える	0 分 0 分
第 3 回	定期演奏会リハーサル 「演奏会運営、マネジメント（基礎）」	事前 事後	演奏会には演奏以外に何が必要か想定する 演奏会には演奏者以外に誰が必要か想定する	0 分 0 分
第 4 回	定期演奏会リハーサル 「演奏会運営、マネジメント（応用）」	事前 事後	演奏のために何をしたいか考える 演奏のために何ができるか考える	0 分 0 分
第 5 回	定期演奏会リハーサル 「近年の合唱（趣味）の傾向」	事前 事後	大型楽譜店で合唱楽譜の出版状況を見る 自分の考えをまとめる	0 分 0 分
第 6 回	定期演奏会リハーサル 「近年の合唱（教育）の傾向」	事前 事後	幼保・小中高で合唱がどのような役割化を考える 自分の考えをまとめる	0 分 0 分
第 7 回	定期演奏会リハーサル 「近年の合唱（楽譜）の傾向」	事前 事後	著作権・出版権について学ぶ 10 年後を見通す	0 分 0 分
第 8 回	定期演奏会リハーサル 「近年の合唱（IT 化）の傾向」	事前 事後	著作権・出版権について学ぶ 10 年後を見通す	0 分 0 分
第 9 回	定期演奏会リハーサル 「ホールで歌う・人前で演奏すること（応用）」	事前 事後	ホールで演奏することを想定する 全体的に譜面を見直す	0 分 0 分
第 10 回	定期演奏会リハーサル 「隊列の重要性（基礎）」	事前 事後	空間を音で満たすためにどのような並び方がいいか考える 講義で指摘された箇所を練習する	0 分 0 分
第 11 回	定期演奏会リハーサル 「隊列の重要性（応用）」	事前 事後	オーディエンスが満足する並び方を考える 講義で指摘された箇所を練習する	0 分 0 分
第 12 回	定期演奏会の反省 / 合唱指揮法・指導法「選曲の重要性（基礎）」	事前 事後	演奏会を振り返る 選曲の意図を探る	0 分 0 分
第 13 回	合唱指揮法・指導法 「選曲の重要性（応用）」	事前 事後	選曲を間違えようとするか考える 演奏家視点の選曲の長所と短所を挙げる	0 分 0 分
第 14 回	合唱指揮法・指導法 「合唱指導テクニック・指導者（教師）の重要性（概論）」	事前 事後	聴き手視点の選曲の長所と短所を挙げる 全体のバランスを見る	0 分 0 分
第 15 回	合唱指揮法・指導法 「合唱指導テクニック・指導者（教師）の重要性（実践）」	事前 事後	指揮法が重要である理由を考える 課題曲を練習する	0 分 0 分

フィードバック 実習形式の講義のため、演奏前、演奏中、演奏後のいつ何時も教員の指導にて学修成果をフィードバックする機会を設ける。

成績評価 講義への取り組みによって評価。

テキスト 講義内に指示する。

オフィスアワー 講義の前後、または休憩中に教室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>				

(演) 室内楽Ⅲ

教授 緒方恵

科目コード: ENS318

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/ピアノ3年次

形態: 実習

単位数 2単位

概要 授業はマスタークラス形式で行う。室内楽演奏に必要な諸要素の、更なるスキルアップを行い、客観的な耳を持って仕上げていくアプローチ法を学ぶ授業である。3年次は、異なる時代様式の作品を3曲取り上げる。担当教員と学生がともに演奏し、聴講する学生を交え、ディスカッションしながら進める。

到達目標 音楽で対話し、ともに音楽を作っていくことで、演奏する作品の完成度を上げることを目標とする。音楽が有機的であることを体感し、音一つ一つ、ひとりひとりの役割を意識し、柔軟な演奏を習得する。最終的には個々の技術や楽器の枠を超えて音楽そのものに向き合う姿勢を身につけてほしい。

授業計画 担当教員とともに演奏する形態で授業を行う。3年次は異なる時代様式のソナタを選曲する。

第1回	授業の目標、進め方を確認する。課題曲の設定と演奏順を決定	事前 ①二次次までの学修を確認し、今年度の課題を各自把握しておく。②能力分析 事後 ①年間の課題の楽譜を準備し、譜読みしておく。②課題曲の読譜	140分 140分
第2回	課題曲Ⅰ ①自らの音、共演者の音を聴き続けることを徹底する ②作品分析を行い、全体の中での個々の役割を確認する	事前 ①形式、和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。②スコアをよく読む 事後 ①問題個所を確認し、是正に向けて練習する。②作品全体の構造を把握する。	140分 140分
第3回	課題曲Ⅰ ①分析を行い、様式感からのアプローチを実践する ②「聴く」とはどのようなことを学ぶ	事前 ①様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習。 ②読譜の徹底 事後 ①問題個所を確認し、是正に向けて練習する。②全パート全てを聴く。	140分 140分
第4回	課題曲Ⅰ ①リハーサルを進め方を学ぶ ②音楽の呼吸フレーズと拍節を確認しながら演奏	事前 ①アンサンブルにおける呼吸、アインザッツを意識しながら練習する。 ②各パートのフレーズ、音楽全体のフレーズの確認。 事後 ①問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 ②一つの音楽となった時のフレーズ感とバランスを追求する。	140分 140分
第5回	課題曲Ⅰ 仕上げ 全楽章を通して—構成、音のバランス、音楽の全体像をポイントとする	事前 ①曲の全体像から立体的な表現につながるよう効果的に演奏できる工夫をする。 ②作品全体像を確認。 事後 ①課題曲Ⅰの反省と、次回の課題の確認。②音楽の呼吸、方向性を明確にする。	140分 140分
第6回	課題曲Ⅱ ①分析を行い、様式感からのアプローチを実践する ②課題曲Ⅰとの比較。様式の違いによる表現の違いについて	事前 ①課題曲ⅠとⅡの様式感の違いを予習しておく。②課題曲Ⅱを読譜 事後 ①問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 ②構造、和声、旋律、リズム、表示記号などの相違点を比較研究する。	140分 140分
第7回	課題曲Ⅱ 様式感の特徴から、音色、リズム、デュナーミクを考える	事前 ①様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく。 ②作品の性格を読み取る。 事後 ①問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 ②リズム、拍子の様々な奏法を試し、演奏に与える違いを感じとる。	140分 140分
第8回	課題曲Ⅱ 室内楽の魅力を感じながら、音色、響きの調和と強弱のバランスを追求する	事前 ①音色や音の比重バランス、音程などから美しい響きがうまれることを、再確認する。 ②楽曲分析により響きのイメージを明確にしておく。 事後 ①問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 ②合同練習において追求した響き、バランスを基に更に探求。	140分 140分
第9回	課題曲Ⅱ ①全楽章を通して—呼吸、音のバランスをポイントとする ②表現の可能性を探る	事前 ①共に演奏する、音楽を作るという意識を高く持ち、各自、練習しておく。 ②全体構造や作品の性格、展開、イメージを明確にしておく。 事後 ①アンサンブル上の問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 ②バランス、作品の性格に合った表現とその演奏技術の探求。	140分 140分
第10回	課題曲Ⅱ 仕上げ 全楽章を通して—呼吸、音のバランスをポイントとする	事前 ①曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする ②演奏のビジョンを明確にしておく。 事後 ①課題曲Ⅱの反省と、次回の課題の確認。 ②全パートで一つの音楽に成り得たか、自己評価。	140分 140分
第11回	課題曲Ⅲ 課題曲Ⅰ、Ⅱとの比較において、アンサンブルを行う際の問題点を探る	事前 課題曲Ⅲの楽譜を準備し、譜読みしておく。 事後 異なる楽器の発音体、タイミング、音色を再確認する。	140分 140分
第12回	課題曲Ⅲ 課題曲の分析を行い、様式感からのアプローチを実践する	事前 課題曲Ⅲに対し、形式、和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	140分 140分
第13回	課題曲Ⅲ コンサートに向けてのリハーサルの仕方を学ぶ	事前 リハーサルの調整、発表までの計画を立てる。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	140分 140分
第14回	課題曲Ⅲ 仕上げ 全楽章を通して—構成、音のバランス、音楽の全体像をポイントとする	事前 共に演奏する、音楽を作るという意識を高く持ち、各自、練習しておく。 事後 アンサンブル上の問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	140分 140分
第15回	課題曲Ⅲ 演奏発表と反省	事前 問題点を確認し、良い演奏につながるよう、各自準備する。 事後 演奏の反省と、今後の課題を確認する。	140分 140分

フィードバック レッスン形式のため、課題準備に対し、授業内で教員がともに演奏しながらアドバイスをを行うことで、フィードバックする。

成績評価 課題曲についての分析と表現、およびアンサンブルへの積極的な取り組み姿勢で評価する。

テキスト 授業内で指示する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて
緒方恵 box-057@mail.uenogakuen.ac.jp
備考 課題曲Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、異なる時代様式のソナタを選曲する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							

(演) 室内楽Ⅲ・Ⅳ

非常勤講師 佐藤裕子

科目コード：ENS219/ENS415

対象コース/専門/学年：演奏家コース/ピアノ・管弦打楽器専門（サクソフォン/ユーフォニウムを除く）/3-4年次

形態：実習

単位数：2単位

概要 授業はマスタークラス形式で行う。室内楽演奏に必要な諸要素の、更なるスキルアップを行い、客観的な耳を持って仕上げていくアプローチ法を学ぶ授業である。異なる時代様式の作品を3曲取り上げる。担当教員と学生がともに演奏し、聴講する学生を交え、ディスカッションしながら進める。

到達目標 音楽で対話し、ともに音楽を作っていくことで、演奏する作品の完成度を上げることを目標とする。音楽が有機的であることを体感し、音一つ一つ、ひとりひとりの役割を意識し、柔軟な演奏を習得する。最終的には個々の技術や楽器の枠を超えて音楽そのものに向き合う姿勢を身につけてほしい。

授業計画 ピアノ、ピアノ以外の二つのグループに分かれ、それぞれの担当教員とともに演奏する形態で授業を行う。最終学年のため、古典派、ロマン派、近現代の異なる時代様式のソナタを選曲する。

回数	授業の目標、進め方を確認する。課題曲の設定と演奏順を決定	事前	事後	140分
第1回	課題曲Ⅰ ①自らの音、共演者の音を聴き続けることを徹底する ②作品分析を行い、全体の中での個々の役割を確認する	事前 ①形式、和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。②スコアをよく読む	事後 ①問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。②作品全体の構造を把握する。	140分
第2回	課題曲Ⅰ ①分析を行い、様式感からのアプローチを実践する ②「聴く」とはどのようなことかを学ぶ	事前 ①様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習。 ②読譜の徹底	事後 ①問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。②全パート全てを聴く。	140分
第3回	課題曲Ⅰ ①リハーサルを進め方を学ぶ ②音楽の呼吸-フレージングと拍節を確認しながら演奏	事前 ①アンサンブルにおける呼吸、アインザッツを意識しながら練習する。 ②各パートのフレーズ、音楽全体のフレーズの確認。	事後 ①問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 ②一つの音楽となった時のフレーズ感とバランスを追求する。	140分
第4回	課題曲Ⅰ 仕上げ 全楽章を通して一構成、音のバランス、音楽の全体像をポイントとする	事前 ①曲の全体像から立体的な表現につながるよう効果的に演奏できる工夫をする。 ②作品全体像を確認。	事後 ①課題曲Ⅰの反省と、次回の課題の確認。②音楽の呼吸、方向性を明確にする。	140分
第5回	課題曲Ⅱ ①分析を行い、様式感からのアプローチを実践する ②課題曲Ⅰとの比較。様式の違いによる表現の違いについて	事前 ①課題曲ⅠとⅡの様式感の違いを予習しておく。②古典、ロマン派作品を読譜	事後 ①問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 ②構造、和声、旋律、ルーズ、表示記号などの相違点を比較研究する。	140分
第6回	課題曲Ⅱ 様式感の特徴から、音色、リズム、デュナーミクを考える	事前 ①様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく。 ②作品の性格を読み取る	事後 ①問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 ②リズム、拍子の様々な奏法を試し、演奏に与える違いを感じとる。	140分
第7回	課題曲Ⅱ 室内楽の魅力を感じながら、音色、響きの調和と強弱のバランスを追求する	事前 ①音色や音の比重バランス、音程などから美しい響きが出ることを、再確認する。 ②楽曲分析により響きのイメージを明確にしておく。	事後 ①問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 ②合同練習において追求した響き、バランスを基に更に探求。	140分
第8回	課題曲Ⅱ ①全楽章を通して一呼吸、音のバランスをポイントとする ②表現の可能性を探る	事前 ①共に演奏する、音楽を作るという意識を高く持ち、各自、練習しておく。 ②全体構造や作品の性格、展開、イメージを明確にしておく。	事後 ①アンサンブル上の問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 ②バランス、作品の性格に合った表現とその演奏技術の探求。	140分
第9回	課題曲Ⅱ 仕上げ 全楽章を通して一呼吸、音のバランスをポイントとする	事前 ①曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする ②演奏のビジョンを明確にしておく。	事後 ①課題曲Ⅱの反省と、次回の課題の確認。 ②全パートで一つの音楽に成り得たか、自己評価。	140分
第10回	課題曲Ⅲ 課題曲Ⅰ、Ⅱとの比較において、アンサンブルを行う際の問題点を探る	事前 課題曲Ⅲの楽譜を準備し、譜読みをしておく。	事後 異なる楽器の発音体、タイミング、音色を再確認する。	140分
第11回	課題曲Ⅲ 課題曲の分析を行い、様式感からのアプローチを実践する	事前 課題曲Ⅲに対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	140分
第12回	課題曲Ⅲ コンサートに向けてのリハーサルの仕方を学ぶ	事前 リハーサルの調整、発表までの計画を立てる。	事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	140分
第13回	課題曲Ⅲ 仕上げ 全楽章を通して一構成、音のバランス、音楽の全体像をポイントとする	事前 共に演奏する、音楽を作るという意識を高く持ち、各自、練習しておく。	事後 アンサンブル上の問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	140分
第14回	課題曲Ⅲ 演奏発表と反省	事前 問題点を確認し、良い演奏につながるよう、各自準備する。	事後 演奏の反省と、今後の課題を確認する。	140分

フィードバック レッスン形式のため、課題準備に対し、授業内で教員がともに演奏しながらアドバイスをを行うことで、フィードバックする。

成績評価 課題曲についての分析と表現、およびアンサンブルへの積極的な取り組み姿勢で評価する。

テキスト 授業内で指示する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて
佐藤裕子 ball.60000137@mail.uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング マスタークラス形式で授業を行っているため、演奏を聴講している学生からも、何が問題で、どのように解決すればよいかを発言させている。

備考 課題曲Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、異なる時代様式のソナタを選曲する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

音楽学概論-1

准教授 櫻井利佳

科目コード：MUS107

対象コース／専門／学年：GLAコース／音楽学専門・文化創造マネジメント専門／1 年次、音楽教育専門／1～2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 音楽についての身近な問題について、講義のなかで各自が学術的にアプローチし、音楽および音楽学の意義や問題点を考える。

到達目標 身近な問題を音楽学に結びつけ、分析力、解決力を養いながら研究方法を身につける。
調査を通して音楽学の多様性を体験的に学び、自分自身の音楽環境を客観視する。

回	内容	事前	事後	100 分
第 1 回	自己の音楽体験 疑問、関心、悩み、批判、感動、共感等(ガイダンス)	シラバスに目を通し、自分の音楽体験をじっくり振り返る	講義をヒントに、自分の音楽体験や身近な音楽について研究の可能性を考える	180 分
第 2 回	「音楽学」と隣接諸学、ウィキペディア批判、新グローヴ批判(音楽学概説)	Wikipedia・『ニューグローヴ世界音楽大事典』の「音楽学」の項目に目を通す	『ニューグローヴ』『音楽学』から問題となる箇所を引用し、批判を加える	180 分
第 3 回	音楽趣味・嗜好性の背後にあるもの(社会学)	自分の音楽の趣味について理由や音楽の特徴などを分析してみる	現代の多様な音楽について、その歴史的背景や社会的位相を考えてみる	180 分
第 4 回	音楽を知る資料・史料(書誌学)	音楽を知るための資料・史料にどのようなものがあるかを教え上げてみる	講義で知ったそれぞれの調査の道具に実際に触れ、興味をもった事柄について調べる	180 分
第 5 回	音楽家を調べる 音楽家の分化、専門化 東と西(研究方法・比較文化史)	興味のある音楽家についてさまざまな角度から考えてみる	興味のある音楽家について、どのような先行研究があるかを調べてまとめる	180 分
第 6 回	美的価値判断の基準 西洋芸術音楽を相対化・客体視する(比較文化)	好きな芸術音楽を取り上げ、どのような所が良いのか、その理由を考える	日本の伝統音楽との比較を通じ西洋芸術音楽の「発展史」についてまとめる	180 分
第 7 回	音楽科教科書の批判的検討 何を指すのか(音楽教育)	中学・高校で使っていた音楽の教科書に目を通し、講義に持参する	講義を踏まえ、自分ならどのような音楽の教科書を作るか、目次を作ってみよう	180 分
第 8 回	レポートテーマの設定と対策(レポートの書き方・調査方法)	シラバスを参考に興味ある研究テーマをいくつかリストアップし、下調べをする	講義で学んだレポートの基礎を踏まえ、期末レポートのテーマを選びプランを立てる	180 分
第 9 回	視る音楽、象徴としての音楽 日本と西洋(図像学)	日本、欧米について音楽が表現された美術をそれぞれ探してみよう	図像史料の有用性について具体例を用いてまとめてみよう	180 分
第 10 回	音楽の力 音楽の祭典・芸術競技と社会(社会学)	知っている音楽祭、音楽コンクールについて調べてみよう	オリンピック開閉会式の音楽や講義で取り上げた音楽祭について考えてみよう	180 分
第 11 回	音を創る装置 日本と西洋(楽器学)	これまでに使ったことのある楽器について調べてみよう	楽器について、さらに他の文化の同種の楽器と比較してまとめよう	180 分
第 12 回	音を創る身体(演奏の科学)	自分の演奏体験を振り返り、テクニックに関する意識・知識について考えてみよう	演奏技術に関する科学研究の有用性について、自分に当てはめて考えてみよう	180 分
第 13 回	音を共有する場・享受する場の歴史 古代の劇場からイヤホンまで(享受史)	音楽を聴くさまざまな場について、その長所、短所を考えてみよう	音楽を聴く場の変遷を振り返り、その文化的背景を考えてみよう	180 分
第 14 回	評論と研究 音楽表現へのアプローチ(研究方法)	身近な音楽評論を読んでみよう	評論と研究の違いについての講義を踏まえ、それぞれの意義を考えてみよう	180 分
第 15 回	まとめとレポート指導	レポート執筆に取り組み、疑問点や問題点をまとめる	指導内容を踏まえ、レポートをまとめる	180 分

フィードバック 毎時の小課題評価、講義時間内外の質疑応答

成績評価 毎時の取り組み(小課題と講義内の発言や身近な問題に対する適切な方法による解決力) 50% 期末レポート 50%

テキスト 毎時講義資料を配布(オンライン授業中はメールにて配信)

オフィスアワー 水曜Ⅲ 日本音楽史研究所(2F)

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										

音楽学概論-2

准教授 櫻井利佳

科目コード：MUS108

対象コース/専門/学年：GLAコース/音楽学専門・文化創造マネジメント専門/1年次、音楽教育専門/1~2年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 音楽についての身近な問題について、講義のなかで各自が学術的にアプローチし、音楽および音楽学の意義や問題点を考える。

到達目標 身近な問題を音楽学に結びつけ、分析力、解決力を養いながら研究方法を身につける。
調査を通して音楽学の多様性を体験的に学び、自分自身の音楽環境を客観視する。

回数	内容	事前	事後	単位数
第1回	紙上の音楽 楽譜の意外な機能 東と西	使ったことのある楽譜について、その機能を考えてみよう	楽譜の多様性についての知見をまとめよう	100分 180分
第2回	印刷楽譜の歴史的価値 日本と西洋	日頃使っている楽譜の印刷がいつ頃から始まったのかを調べてみよう	初期印刷楽譜の事例を振り返り、印刷の文明的意義を考えよう	100分 180分
第3回	近代五線譜の効能、発展と限界、記さない音楽の伝承(フォークロアとエスノロジー)	近代五線譜の長所と短所について考えてみよう	五線譜に適さない音楽について理由を考え、どのように伝承されるかをまとめよう	100分 180分
第4回	作品を調べる(研究方法)	興味のある音楽作品について調べてみよう	先行研究の参考文献などを利用し追跡調査をしよう	100分 180分
第5回	レポートテーマの設定と対策(レポートの書き方・調査方法)	シラバスを参考に興味ある研究テーマをいくつかリストアップし、下調べをする	講義で学んだ執筆方法を踏まえ、期末レポートのテーマを選びプランを立てる	100分 180分
第6回	楽書とは 説話と音楽理論	音楽理論書や音楽に関わる古い逸話にはどんなものがあるか思い出してみよう	理論書や音楽説話が作られる背景や意義を考えてみよう	100分 180分
第7回	音の組織化 調律・旋法・調性 音楽文明の羅針盤、東と西	調律や調性の歴史を調べてみよう	調律・調性についての東西の共通性と相違を振り返り文明史における意義を考えよう	100分 180分
第8回	文学と音楽芸能 古代ギリシャと古事記(横断的アプローチ)	古代ギリシャの音楽と文学について調べてみよう	芸能としての文学の在り方、文学に描かれる音楽についての事例を考えよう	100分 180分
第9回	現代音楽としての日本音楽 東西の接点とその背景(音楽史)	西洋音楽史の中に現れる日本音楽にはどんなものがあるか考えてみよう	現代音楽における日本について様々なレベルで考えよう	100分 180分
第10回	音と環境デザインの今昔(環境学)	自分を取り巻く環境の音を意識してみよう	昔と今の音の変化について考えよう	100分 180分
第11回	様々なテキスト・クリティーク(研究方法)	レポートの実証性を高めるための工夫について考えてみよう	史料批判の重要性を改めて理解し、レポート執筆に活かそう	100分 180分
第12回	レポートの中間報告会と指導1(プレゼンテーション)	発表資料の準備と発表の練習	質疑応答を踏まえてレポートを修正する	100分 180分
第13回	レポートの中間報告会と指導2(プレゼンテーション)	発表資料の準備と発表の練習	質疑応答を踏まえてレポートを修正する	100分 180分
第14回	音楽学の多様性と日本における問題点	講義で扱った以外の音楽学の領域について調べてみる	日本における音楽学研究の現状と課題について自分なりの考えをまとめよう	100分 180分
第15回	まとめとレポート指導	期末レポートを完成させる	期末レポートで出来たこと出来なかったことを反省し今後の展望を明確化する	100分 180分

フィードバック 毎時の小課題評価、講義時間内外の質疑応答

成績評価 毎時の取り組み(小課題と講義内の発言や身近な問題に対する適切な方法による解決力) 50% 期末レポート 50%

テキスト 毎時講義資料を配布(オンライン授業中はメールにて配信)

オフィスアワー 水曜Ⅲ 日本音楽史研究所(2F)

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										

音楽教育概論-1

教授 山内雅子

科目コード：EDU101

対象コース/専門/学年： 器楽・声楽・演奏家コース/全専門/1～4年次、GLAコース/音楽学専門/1～4年次、GLAコース/音楽教育、文化創造マネジメント専門/1年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	なぜ学校で音楽を学ぶのか、音楽教育の目指すものは何か、日本ではいつから、どのように学校で音楽が教えられるようになったのか、明治、大正、昭和、平成の音楽教育はどのように行われていたのか、令和の現状はどうか、これからの時代の音楽教育はどこを目指していくのか、その背景は何か、等々、音楽教育の全体像を概観していく。
到達目標	音楽科の存在意義、音楽科の指導内容の変遷とその背景、日本の音楽教育の現状とその背景について理解し、音楽教育に関する基礎的な知識を得る。

授業計画 講義形式ではあるが、課題意識をもって主体的に学修を進めていくことができるよう、討論を必ず取り入れ、課題解決型の授業を行う。

第1回	ガイダンス 音楽と人間の関わり	事前 自分自身にとって、音楽とは何かを考えてくる。 事後 音楽と人間の関わりについて、講義と討論を参考にして自分の考えをまとめる。	100分 180分
第2回	音楽科の存在意義を考える。	事前 『新版音楽科教育法』pp.6-15 を読んでくる。 事後 音楽科の存在意義について、講義・討論・配布資料・テキストを基にまとめる。	100分 180分
第3回	明治・大正・昭和初期の音楽教育	事前 明治・大正・昭和初期の「唱歌」を調べてくる。 事後 『新版音楽科教育法』pp.192-194 を読み込み、講義内容を講義メモにまとめる。	100分 180分
第4回	昭和の音楽教育 1	事前 『新版音楽科教育法』pp.194-195 を読んでくる。 事後 配布資料と講義内容をもとに、戦後の音楽教育を講義メモにまとめる。	100分 180分
第5回	昭和の音楽教育 2 小泉文	事前 事前配布資料を読み、自分の考えをまとめてくる。 事後 講義内容、討論内容をもとに、小泉文夫の音楽教育史に果たした役割を考察する。	100分 180分
第6回	昭和の音楽教育 3～音楽教育の内容の変換への兆し～	事前 事前配布資料を読み、自分の考えをまとめてくる。 事後 講義内容をもとに、昭和時代の音楽教育観の転換の背景をまとめる。	100分 180分
第7回	平成の音楽教育	事前 平成の30年間の社会の変化を、自分なりの視点で調べてくる。 事後 平成の時代に行われた学習指導要領の改訂の背景と改訂の特徴をまとめる。	100分 180分
第8回	日本の音楽教育の現状と、これからの時代の目指す音楽教育	事前 『新版音楽科教育法』pp.146-151 を読んでくる。 事後 中央教育審議会答申が示す新しい教育システムが提言された背景をまとめる。	100分 180分
第9回	学習指導要領の変遷について	事前 事前配布資料に目を通し、感想を言えるようにしておく。 事後 学習指導要領の変遷について、ワークシートを完成させると共に、考察を行う。	100分 180分
第10回	古代からの日本の音楽を概観する（1）	事前 事前配布資料を読んで、感想が言えるようにしておく。 事後 講義メモを感想と共にまとめる。	100分 180分
第11回	古代からの日本の音楽を概観する（2）	事前 事前に配布資料を読んで、感想が言えるようにしておく。 事後 講義メモを感想と共にまとめる。	100分 180分
第12回	伝統と創造	事前 「伝統と創造」について、自分なりに考えてくる。 事後 日本の伝統音楽の変遷と現状についてまとめ、自分なりの考察を加える。	100分 180分
第13回	学習指導要領が示す「我が国や郷土の伝統音楽」の指導	事前 学習指導要領中学校113-114 小学校 pp128-129、テキスト pp.174-176 を読んでくる。 事後 自分が受けた「我が国や郷土の伝統音楽」の指導を振り返り、目指す授業を提案する。	100分 180分
第14回	1回から13回の講義を振り返り、関心をもった内容について明らかにし、討論を通して課題意識を明確にする。	事前 前回までの講義メモを見直し、関心をもったことについて発表できるようにする。 事後 授業内で討論したことを基に、課題に対する現在の考えをまとめる。	100分 180分
第15回	学修の振り返りとテスト	事前 『新版音楽科教育法』のマーカーを引いた部分を中心に全体を振り返る。 事後 返却されたテストを見直し、学修を振り返る。	100分 180分

フィードバック 小テストや提出物について、コメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み 40%、提出レポート 60%、を目安に総合的に評価する。

テキスト 『新版中学校・高等学校教員養成課程 音楽科教育法』教育芸術社
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 文部科学省
必要に応じて、資料やワークシートを配付する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて対応する。

備考 教職課程履修者は履修することが望ましい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

音楽教育概論-2

教授 山内雅子

科目コード：EDU102

対象コース／専門／学年： 器楽・声楽・演奏家コース／全専門／1～4年次、GLAコース／音楽学専門／1～2年次、GLAコース／音楽教育、文化創造マネジメント専門／1年次

形態：講義

単位数 2単位

概要	日本の音楽教育の歴史や学習指導要領の変遷、並びにその成果と課題等、日本の音楽教育について学んできた前期の学修を受けて、後期は日本にも大きく影響を与えている海外の音楽教育メソッドについて学ぶと共に、世界の多様な国々でどのような音楽教育が行われているのか、学生が関心をもった国の音楽教育について自ら調べてプレゼンテーションをする。その内容について、受講者全員で意見を交流しながら、海外の音楽教育についての理解を深めていく。その上で再度日本の音楽教育について広い視野から見直して考える。
到達目標	海外の音楽教育について概観し、現在の世界の音楽教育の状況を把握すると共に、「音楽の多様性を理解すること」「異文化を理解すること」とはということか、また学校が音楽教育に果たす役割は何かについて、自分なりの考えをもてるようになることを到達目標とする。

授業計画 毎時間、分担に従って担当学生がプレゼンテーションを行い、それについて討論し、最終的に個人的な考えや感想も記述した授業メモを提出する形で実施する。

第1回	ガイダンス 海外の音楽教育の概観 並びに学修の進め方について	事前 『新版音楽科教育法』 pp.196-205 に目を通しておく 事後 自分の発表課題について、文献やインターネット情報をチェックしておく。	180分 100分
第2回	コダーイ・メソッド (コダーイ・ゾルターン) についてのプレゼンテーションと討議	事前 『新版音楽科教育法』 p.203 を読んでくる。 事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	180分 100分
第3回	オルフ・シュールヴェルク (カール・オルフ) についてのプレゼンテーションと討議	事前 『新版音楽科教育法』 p.204 を読んでくる。 事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	180分 100分
第4回	リトミック (ジャック・ダルクローズ) についてのプレゼンテーションと討議	事前 『新版音楽科教育法』 pp.198-199 を読んでくる。 事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	180分 100分
第5回	創造的音楽学習 (CMM) についてのプレゼンテーションと討議	事前 『新版音楽科教育法』 pp.203 を読んでくる。 事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	180分 100分
第6回	サウンド・エデュケーションについてのプレゼンテーションと討議	事前 『新版音楽科教育法』 p.198-199 を読んでくる。 事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	180分 100分
第7回	イギリスの音楽教育についてのプレゼンテーションと討議	事前 『新版音楽科教育法』 p.196 を読んでくる。 事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	180分 100分
第8回	カナダの音楽教育についてのプレゼンテーションと討議	事前 『新版音楽科教育法』 p.197 を読んでくる。 事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	180分 100分
第9回	スウェーデン音楽教育についてのプレゼンテーションと討議	事前 『新版音楽科教育法』 p.197 を読んでくる。 事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	180分 100分
第10回	アメリカ音楽教育についてのプレゼンテーションと討議	事前 アメリカの民俗音楽を視聴しておく。 事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	180分 100分
第11回	中国音楽教育についてのプレゼンテーションと討議	事前 中国の民俗音楽を視聴しておく。 事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	180分 100分
第12回	モンゴル音楽教育についてのプレゼンテーションと討議	事前 モンゴルの民俗音楽を視聴しておく。 事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	180分 100分
第13回	インド音楽教育についてのプレゼンテーションと討議	事前 インドの民俗音楽を視聴しておく。 事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	180分 100分
第14回	国際バカロレアについてのプレゼンテーションと討議	事前 国際バカロレアについて、指示された URL を視聴しておく。 事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	180分 100分
第15回	音楽教育に対して学校が果たす役割	事前 14回の講義を振り返って、音楽教育に対して学校が果たす役割について考えてくる。 事後 講義と討論を通して考えたことを最終レポートにまとめて提出する。	200分 80分

フィードバック 授業中の発言への価値付けや、提出物へのコメントを記しての返却を通して行う。

成績評価 授業への取り組み 20%、分担したプレゼンテーションの内容 30% 授業後の振り返りメモと最終レポート 50%を目安に、総合的に評価する。

テキスト
 ・『新版中学校・高等学校教員養成課程 音楽科教育法』教育芸術社
 ・『中学校学習指導要領解説 音楽編』 文部科学省
 講義の内容に応じて、適宜プリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて対応する。メールでの質問や相談にも応じます。

備考 教職課程履修者は、履修することが望ましい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

文化創造概論-1

准教授 佐野直哉

科目コード：MGT101

対象コース／専門／学年：GLAコース／文化創造マネジメント専門／1 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／1 年次、GLA コース／音楽学・音楽教育専門／1～2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 演奏家が影響を受ける外的要因と環境（政治・経済などの社会状況や公的支援、市民、公的文化施設の在り方）を理解し、求められる思考力、目配りすべき領域の知識とスキルの基礎を身につける。

到達目標 マーケティング的な発想とマネジメント能力を兼ね備えた芸術文化に貢献できる人材となるための基礎的知識と思考力を身につける。プレゼンテーション課題やディスカッションを通して、芸術運営に関わる様々なステークホルダーの視点とチェックポイントを理解できるようにする。

回	内容	事前	事後	単位数
第1回	自己紹介とオリエンテーション(導入)			270分
第2回	芸術・文化政策の理論的基礎：なぜ芸術・文化に公的支援が必要なのか?① 大阪市と文楽の支援を巡る議論	事前 文楽について簡単にネットリサーチをし、概要を捉えておく 事後 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をする	130分 140分	
第3回	芸術・文化政策の理論的基礎：なぜ芸術・文化に公的支援が必要なのか?② 第2回授業の続き	事前 文楽・大阪市・観客それぞれの視点と意見をまとめる 事後 授業内で取り扱った資料を読み込んでおく	130分 140分	
第4回	芸術・文化政策の理論的基礎：なぜ芸術・文化に公的支援が必要なのか?③ 芸術の持つ公共財としての性質：ボウモルのコスト病	事前 なぜ公的支援が必要なのか、論点を整理する。 事後 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をする	130分 140分	
第5回	芸術・文化政策の理論的基礎：なぜ芸術・文化に公的支援が必要なのか?④ これまでの授業の整理とまとめ・ディスカッション	事前 これまでの4回の授業の復習とディスカッションの準備 事後 ディスカッション内容の理解と整理をする。	130分 140分	
第6回	文化芸術基本法の特徴：文化芸術以外の社会領域との交接 ① 文化芸術基本法の新旧比較をしながら特徴を概観する。	事前 文化芸術基本法にざっと目を通しておく。 事後 リサーチ課題の準備	130分 140分	
第7回	文化芸術基本法の特徴：文化芸術以外の社会領域との交接 ① 文化芸術 X 社会領域のリサーチと発表・ディスカッション	事前 リサーチ課題の準備 事後 授業中に受けたフィードバックを踏まえた振り返り	130分 140分	
第8回	表現の自由と公的支援:あいちトリエンナーレ「表現の不自由展」① 何が問題だったのか?背景と議論	事前 表現の不自由展について大まかにリサーチしておく 事後 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理しておく。	130分 140分	
第9回	表現の自由と公的支援:あいちトリエンナーレ「表現の不自由展」② 公的支援の距離感とは?アートマネージャーの役割とは?ディスカッション	事前 ディスカッションの準備として論点を整理しておく 事後 授業中に受けたフィードバックを踏まえた振り返り	130分 140分	
第10回	指定管理者制度の本質と意義① ニューパブリックマネジメントの考え方、目的、本質を考察する	事前 指定管理者制度について調べておく 事後 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をしておく	130分 140分	
第11回	公的文化施設の在り方① 第10回の授業を踏まえたリサーチとディスカッション	事前 ディスカッションの準備として論点を整理しておく 事後 授業中に受けたフィードバックを踏まえた振り返り	130分 140分	
第12回	指定管理者制度の本質と意義② 市民に寄り添う複合施設(大和市文化創造拠点シリウス)	事前 大和市文化創造拠点シリウスのHPに目を通しておく 事後 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をしておく	130分 140分	
第13回	公的文化施設の在り方② 第12回の授業を踏まえたリサーチとディスカッション	事前 ディスカッションのための事例を準備する 事後 授業中に受けたフィードバックを踏まえた振り返り	130分 140分	
第14回	指定管理者制度の本質と意義③ 社会包摂プログラム(岐阜県見市文化創造センター)	事前 岐阜県見市文化創造センターのHPに目を通しておく 事後 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をしておく	130分 140分	
第15回	公的文化施設の在り方③ 第14回授業を踏まえたリサーチとディスカッション	事前 ディスカッションのための事例を準備する 事後 前期を振り返る	200分 70分	

フィードバック リサーチプレゼンテーションの講評以外にも授業内の発表や発言などへのフィードバックを随時行う。

成績評価 リサーチとディスカッションの評価、特に授業で取り扱った内容を踏まえて準備し、ディスカッションする回における準備と発言を高く評価する(100%)

テキスト 特にないが、適宜プリントなどで補足する。
基本はオリジナルのスライドを元に教員から基礎的な理論や視点、情報と議論ポイントを提供する講義を行い、次の回にて受講生に課す小リサーチの発表と議論でテーマの理解を深める。

オフィスアワー 月曜V駒 研究室にて(事前にEmailにて連絡が望ましい。ball0000846@mail.uenogakuen.ac.jp)

備考 コロナなどの社会状況や講義形態、学外訪問の実施可否によって講義スケジュールは変更する場合がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

音楽美学-2

非常勤講師 櫻井茂

科目コード：MOS106

対象コース／専門／学年：器楽・声楽・GLAコース／全専門／1～2年次、演奏家コース／全専門／1～4年次

形態：講義

単位数 2単位

概要 音楽とは何か、演奏とは何かといった問題を、いわゆる歴史的演奏実践（Historically informed Performande）の視点から具体的に考える。授業の中では履修者自身による短い演奏を行うことを課し、それを基に討論して、演奏において何が求められるのかを体験的に整理していく。

到達目標 自分が演奏することの意味を自分なりに整理し、自分の言葉で説明できるようにする。

授業計画

第1回	「演奏」とは 演劇との対比	事前 演奏という行為をどのように考えるか整理する。 事後 より広い視点で演奏について考察する。	140分 140分
第2回	楽譜を「読む」とは 文学作品との対比	事前 楽譜を読む作業の具体的な内容を整理する。 事後 読譜と演奏との関係を整理する。	140分 140分
第3回	「様式」とは 美術との対比	事前 様々な時代の音楽について調べる。 事後 様式の様々な位相を整理する。	140分 140分
第4回	「楽譜」とはⅠ 旋律と音符	事前 楽譜が表すものについて考察する。 事後 音楽と音符との距離について整理する。	140分 140分
第5回	「楽譜」とはⅡ 言語と音符	事前 歌詞の付いた楽譜について考察する。 事後 音符が示せることの限界について整理する。	140分 140分
第6回	「楽譜」とはⅢ 装飾と変奏	事前 楽譜と演奏との関係について考察する。 事後 楽譜が示せることの限界について整理する。	140分 140分
第7回	実習Ⅰ 学生による発表をもとに討論する	事前 課題を選択し表現を工夫する。 事後 異なった視点から自分の演奏を考察する。	140分 140分
第8回	実習Ⅱ 学生による発表をもとに討論する	事前 課題を選択し表現を工夫する。 事後 異なった視点から自分の演奏を考察する。	140分 140分
第9回	実習Ⅲ 学生による発表をもとに討論する	事前 課題を選択し表現を工夫する。 事後 異なった視点から自分の演奏を考察する。	140分 140分
第10回	「演奏」の意味Ⅰ 対面かオンラインか	事前 音楽聴取の様々な在り方について考える。 事後 いわゆる生演奏とそれ以外の音楽聴取の根本的相違点と共通点について整理する。	140分 140分
第11回	「演奏」の意味Ⅱ 個人と社会	事前 音楽は演奏者のみで成立するかどうかについて考察する。 事後 演奏とは誰のためのものか考える。	140分 140分
第12回	「演奏」の意味Ⅲ 目的	事前 演奏とは何のために行うのかについて考察する。 事後 自分自身の演奏のありかたについて考える。	140分 140分
第13回	実習Ⅳ 学生による発表をもとに討論する	事前 課題を選択し表現を工夫する。 事後 異なった視点から自分の演奏を考察する。	140分 140分
第14回	実習Ⅴ 学生による発表をもとに討論する	事前 課題を選択し表現を工夫する。 事後 異なった視点から自分の演奏を考察する。	140分 140分
第15回	実習Ⅵ 学生による発表をもとに討論する	事前 課題を選択し表現を工夫する。 事後 異なった視点から自分の演奏を考察する。	140分 140分

フィードバック 課題及び実習内容についてのコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 討論への参加姿勢50%、実習の内容40%、課題10%

テキスト 随時参考文献を指示する。

オフィスアワー Eメールにて対応する。

備考 履修学生の人数、専攻によって授業内容の順序等を変更することがある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

原典講読（英語）－1

准教授 佐野直哉

科目コード：RE4301

対象コース／専門／学年：GLA コース/音楽学・文化創造マネジメント専門/1～3 年次、GLA コース/音楽教育専門/2～4 年次、器楽・声楽・演奏家コース/全専門/3～4 年次

形態：講義・実習

単位数 1 単位

概要	この授業では、現在の文化芸術を巡る環境と社会との関係について学術的な視点で書かれた英語文献を取り上げて通読する。前・後期共にある程度平易な英文で書かれている「An Overview of Art Projects in Japan: A Society That Co-Creates with Art」を翻訳しながら、近年の芸術祭の隆盛に代表されるアートプロジェクトの定義、現代の社会環境と芸術との関係性、今後の音楽を含めたアートの未来の姿などを考える。各回で日本国内のアートプロジェクトの実践を紹介する。
到達目標	学術的文献の精読を通して、まずは英語の読解力の向上を目的とする。その上で、テキストが扱う事例を補完する文献リサーチ等を通して、現代の文化政策の重要な要素のひとつとなっている「文化芸術と社会の関わり」の概要と具体を理解することを目標とする。

授業計画

回数	タイトル	事前	事後	分
第1回	オリエンテーション Introduction を通読する。	特になし	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	40分
第2回	Introduction 本書の目的	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第3回	What are "Art Projects"? ① アートプロジェクトとは何か？その歴史と地域との関係性	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第4回	What are "Art Projects"? ② 日本型のアートプロジェクト	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第5回	What are "Art Projects"? ③ アートプロジェクトの特徴・定義	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第6回	The prehistory of Art Projects ① 1960年代から70年代のアーティストを取り巻く環境	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第7回	The prehistory of Art Projects ② 1980年代のアーティストを取り巻く環境	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第8回	The prehistory of Art Projects ③ 1990年代のアーティストの問い	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第9回	The prehistory of Art Projects ④ 1990年代に生まれた概念：助成金・ファンドレイジング	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第10回	The prehistory of Art Projects ⑤ 1990年代の消費文化の行き詰まり	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第11回	The prehistory of Art Projects ⑥ 社会的な文脈への介入	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第12回	The prehistory of Art Projects ⑦ 先駆的な事例：アートキャンプ白州	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第13回	The prehistory of Art Projects ⑧ 先駆的な事例：ミュージアム・シティ・天神 etc	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第14回	The prehistory of Art Projects ⑨ 阪神・淡路大震災の影響	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第15回	The prehistory of Art Projects ⑩ まとめ・期末課題の解説	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分

フィードバック 各自が作成してきた和訳に対する講評

成績評価 毎回各自が準備する和訳のクオリティ（40%） 期末課題の提出（60%）

テキスト “An Overview of Art Projects in Japan: A Society That Co-Creates with Art”
Written by Sumiko Kumakura and Yuichiro Nagatsu with a contribution by Justin Jesty
Published by Arts Council Tokyo
テキストは初回の授業で PDF 版を紹介する。

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて

備考 本授業では各回、学生に和訳準備と発表を課す。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	☐	☐	☐	☑	☐	☐	☐	☑	☑	☐	☑	☑	☐	☑	☑	

原典講読（英語）-2

准教授 佐野直哉

科目コード：REA302

対象コース/専門/学年：GLA コース/音楽学・文化創造マネジメント専門/1～3 年次、GLA コース/音楽教育専門/2～4 年次、器楽・声楽・演奏家コース/全専門/3～4 年次

形態：講義・実習

単位数 1 単位

概要 前期に引き続き「An Overview of Art Projects in Japan: A Society That Co-Creates with Art」を扱い、地域型アートプロジェクトおよび企業がアートプロジェクトを支援する理由に焦点を当てて学修する。後期は各自が音楽をテーマにしたアートプロジェクトの事例をリサーチ分析し、毎回持ち回りで発表をおこなう。

到達目標 学術的文献の精読を通して、まずは英語の読解力の向上を目的とする。その上で、テキストが扱う事例を補完する文献リサーチ等を通して、現代の文化政策の重要な要素のひとつとなっている「文化芸術と社会の関わり」の概要と具体を理解することを目標とする。

授業計画

第1回	オリエンテーション 前期までの振り返りと後期の授業の進め方、リサーチ課題について	事前 特になし 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	分 40分
第2回	Regional Art Projects ① 地域型芸術祭の興盛	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第3回	Regional Art Projects ② 中規模アートプロジェクト	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第4回	Regional Art Projects ③ 日本のアートプロジェクトの特色	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第5回	Regional Art Projects ④ なぜ社会はアートプロジェクトに関心を示すのか	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第6回	Regional Art Projects ⑤ 大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレの実施の背景	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第7回	Regional Art Projects ⑥ 大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレでの地域住民の意識の変化	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第8回	Regional Art Projects ⑦ 大型フェスティバルの成功	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第9回	Regional Art Projects ⑧ まとめ・コミュニティオリエンテッドアートの内実	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第10回	Companies and Art Projects: Why Companies Support Art Projects ① 企業が支援する背景	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第11回	Companies and Art Projects: Why Companies Support Art Projects ② 事例：アサヒビール	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第12回	Companies and Art Projects: Why Companies Support Art Projects ③ 事例：千島土地	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第13回	Art Projects and Society : Social inclusion and Art ① アートプロジェクトの社会領域との交接	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第14回	Art Projects and Society : Social inclusion and Art ② 事例：Breaker Project・KOTOBUKI クリエイティブアクション	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分
第15回	Art Projects and Society : Social inclusion and Art ③ まとめ・地域が芸術の実験場となる	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60分 30分

フィードバック 各自が作成してきた和訳に対する講評およびリサーチ課題に対するフィードバック

成績評価 期末課題の提出（60%）毎回各自が準備する和訳のクオリティ（20%）リサーチ課題の発表と提出（20%）

テキスト “An Overview of Art Projects in Japan: A Society That Co-Creates with Art”
Written by Sumiko Kumakura and Yuichiro Nagatsu with a contribution by Justin Jesty
Published by Arts Council Tokyo
テキスト該当場所は初回の授業で指示する。

オフィスアワー 月曜V駒 研究室にて

備考 本授業では各回、学生に和訳準備と発表を課す。加えてリサーチ課題も持ち回りで課す。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	☐	☐	☐	☐	☐	☑	☐	☐	☑	☐	☐	☐	☑	☑	☐

民族音楽学 1

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 丸山洋司

科目コード：MUS111

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～3年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 この授業では、世界の様々な音楽文化をとりあげて学び、個々の地域の特質と相互の影響関係について理解を深める。
民族音楽学 1 では「アフリカ」「南アジア」「東南アジア」という三つの地域をとりあげ、それぞれの地域の音楽文化について、視聴覚資料を用いたり、楽器の実演を交えて解説する。

到達目標 異なる音楽文化間の共通性や相違性、影響関係について、個々の学生が具体的にイメージし、理解を深めることを目指す。またグループ発表を通して、各学生が主体的に考察テーマを発見し、それについて他の学生と議論しながら調査できるようになることを目標とする。

授業計画

第1回	オリエンテーション アフリカ (1) 儀礼と音楽	事前 教科書の p.20～24 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第2回	アフリカ (2) 太鼓の諸相	事前 教科書の p.24～28 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第3回	アフリカ (3) 音楽構造の特徴と原理	事前 教科書の p.28～31 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第4回	アフリカ (4) アフリカの楽器 アフリカ音楽の変貌	事前 教科書の p.31～36 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第5回	南アジア (1) 言語・文化の多様性	事前 教科書の p.82～84 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第6回	南アジア (2) 古典音楽と地方の伝統音楽	事前 教科書の p.84～86 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第7回	南アジア (3) 古典音楽の理論と楽器	事前 教科書の p.86～90 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第8回	南アジア (4) 古典舞踊	事前 教科書の p.95～97 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第9回	南アジア (5) ポピュラー音楽	事前 教科書の p.98～100 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第10回	東南アジア (1) 民族文化的背景	事前 教科書の p.102～104 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第11回	東南アジア (2) 青銅のひびき	事前 教科書の p.104～106 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第12回	東南アジア (3) ガムラン音楽	事前 教科書の p.106～110 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第13回	東南アジア (4) 竹のひびき	事前 教科書の p.110～112 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第14回	東南アジア (5) 現代に生きる伝統音楽	事前 教科書の p.112～116 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第15回	総括 理解度確認テスト	事前 第1回～14回までの授業内容の復習 事後 理解が不十分だった箇所を復習する。	220分 60分

フィードバック ・小テストの答案の返却および解説により、学修成果をフィードバックする。
・授業でのグループ発表について、その授業内にコメントし、学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験 60% プレゼンテーション 20% 小テスト 20%

テキスト ・柘植元一、塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社、1999年）
・その他、参考文献については授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー ・授業終了後教室にて、もしくはEメールにて対応する。hiromaru886@hotmail.com

アクティブ・ラーニング 少人数のグループに分かれ、プレゼンテーションを行う（発表後、講師がコメント）

備考 ・視聴覚資料を多く使用するので出席が重要となる。
・楽器または音楽ジャンルに関するチーム・プレゼンテーションを課す予定。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

民族音楽学 2

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 丸山洋司

科目コード：MUS112

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～3年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 この授業では、世界の様々な音楽文化をとりあげて学び、個々の地域の特質と相互の影響関係について理解を深める。民族音楽学 2 では、「ヨーロッパ」「西アジア・中央アジア」「東アジア」という三つの地域をとりあげ、それぞれの地域の音楽文化について、視聴覚資料を用いたり、楽器の実演を交えて解説する。

到達目標 異なる音楽文化間の共通性や相違性、影響関係について、個々の学生が具体的にイメージし、理解を深めることを目指す。またグループ発表を通して、各学生が主体的に考察テーマを発見し、それについて他の学生と議論しながら調査できるようになることを目標とする。

授業計画

第1回	ヨーロッパ (1) 民族文化的背景	事前 教科書の p.42～44 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第2回	ヨーロッパ (2) ヨーロッパの「伝統音楽」	事前 教科書の p.44～46 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第3回	ヨーロッパ (3) 東ヨーロッパの舞踏と音楽	事前 教科書の p.46～47 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第4回	ヨーロッパ (4) スコットランドの舞踏と音楽	事前 教科書の p.47～50 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第5回	ヨーロッパ (5) スコットランドの音楽様式	事前 教科書の p.50～55 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第6回	ヨーロッパ (6) ポピュラー音楽	事前 教科書の p.56～58 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第7回	西アジア・中央アジア (1) 民族文化的背景	事前 教科書の p.60～64 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第8回	西アジア・中央アジア (2) イスラームと音楽	事前 教科書の p.64～66 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第9回	西アジア・中央アジア (3) 楽器	事前 教科書の p.66～68 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第10回	西アジア・中央アジア (4) 音楽理論 マカーム	事前 教科書の p.69～73 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第11回	東アジア (1) 民族文化的背景	事前 教科書の p.118～120 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第12回	東アジア (2) 中国の伝統劇	事前 教科書の p.122～129 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第13回	東アジア (3) モンゴル・チベットの音楽	事前 教科書の p.132～134 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第14回	東アジア (4) 朝鮮半島の音楽	事前 教科書の p.134～137 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第15回	総括 理解度確認テスト	事前 第1回～14回までの授業内容の復習 事後 理解が不十分だった箇所を復習する。	220分 60分

フィードバック ・小テストの答案の返却および解説により、学修成果をフィードバックする。
・授業でのグループ発表について、その授業内にコメントし、学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験 60% プレゼンテーション 20% 小テスト 20%

テキスト ・柘植元一、塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社、1999年）
・その他、参考文献については授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー ・授業終了後教室にて、もしくはEメールにて対応する。hiromaru886@hotmail.com

備考 ・視聴覚資料を多く使用するので出席が重要となる。
・楽器または音楽ジャンルに関するチーム・プレゼンテーションを課す予定。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

特殊講義（音楽教育 A）-1

教授 山内雅子

科目コード：EDU201

対象コース/専門/学年：GLA コース/全専門/2~3 年次、器楽・声楽・演奏家コース/全専門/3~4 年次生

形態：講義と討論

単位数：2 単位

概要 「人を教える」ということについて幅広い視点から考えていく。学校の音楽科教育に限らず、器楽でも声楽でも、あるいはスポーツやその他の領域、更に一般企業に就職しても「新人を育てる」ことは重要である。これまでの様々な師との出会い、オリンピックや国内外のスポーツ選手の成長、あるいは動物の調教と何が違うのか等、幅広い視点から検討し、これからの時代に求められる指導者像を考える。

到達目標 本学で学ぶ学生の一人一人が、卒業後の人生の中で、音楽を教えることに関わる可能性は大きい。個人レッスン、合唱団、社会教育の中での公民館でのサークル、学校の部活指導員、学校の非常勤講師、支援員、介助員他、「教える、育てる、支援する」ことに関わっていく際に、自分の理想とする「指導者像」をもって社会に出ていくことができるようにする。

授業計画 始めの問題提起は教員が行い、資料を提示するが、基本的に学生が調べたり討論したりして主体的に考えを上げ、深めていくようにする。

第1回	オリエンテーション 「人を教える」ことについて自由に思いを交流すると共に授業計画について検討する。	事前 「人を教えること」に関して自分なりに考えてみる。 事後 講義内容と討論した内容を振り返り、今心にある自分の考えをメモしておく。	130分 140分
第2回	「音楽科教育」において、「人を教える」ことができる教師とは、また確実に生徒を教えることができる音楽授業とは？。講義とそれを受けて、それを踏まえて討論する。	事前 事前に配布された文章を読んでくる。 事後 生徒が主体的・対話的に学びを深め、成長する授業が成立する条件をまとめる。	130分 140分
第3回	ピアノ、管楽器、打楽器等の個人レッスンにおいて「人を教える」とは？提案をもとに討論する。	事前 前時の学びを受けて、自身が幼い頃から現在に至るまで受けている指導を振り返る。 事後 自身が受けた音楽に関する専門的な学びについて、その価値付けを行う。	130分 140分
第4回	学校の働き方改革が求められる今日であるが、学校の部活指導（吹奏楽部・合唱部）において「人を教える」とはどういうことか。講義と討論から考えを深める。	事前 学校の働き方改革の中での部活動対策の現状について配布資料を読んでくる。 事後 理想の部活動の姿、部活動に関わる教師の姿を自分の言葉で文字にしてみる。	130分 140分
第5回	学校教育において「獲得する知識の意味にも大きな変化をもたらすのではないかと予測されるこれからの時代の学力観について考える。	事前 これからの学力観について、配布資料を読んでくる。 事後 授業中、討論の中で課題になったことについて、自分の考えをまとめる。	130分 140分
第6回	担当者は十分な準備を行いプレゼンテーションを行う。それを受けて履修者全員で討論する。 ①「大谷翔平が受けた教育と、大谷の生き様の関わり」	事前 自分が設定した人物の生い立ちや受けた教育、現在の状況についてまとめる。 事後 友達の発表内容並びにそれをもとに考えたことについてまとめる。	130分 140分
第7回	担当者は十分な準備を行いプレゼンテーションを行う。それを受けて履修者全員で討論する。 ②「羽生結弦が受けた教育と、羽生の生き様の関わり」	事前 自分が設定した人物の生い立ちや受けた教育、現在の状況についてまとめる。 事後 友達の発表内容並びにそれをもとに考えたことについてまとめる。	130分 140分
第8回	担当者は十分な準備を行いプレゼンテーションを行う。それを受けて履修者全員で討論する。 ③「平野歩が受けた教育と、平野の生き様の関わり」	事前 自分が設定した人物の生い立ちや受けた教育、現在の状況についてまとめる。 事後 友達の発表内容並びにそれをもとに考えたことについてまとめる。	130分 140分
第9回	担当者は十分な準備を行いプレゼンテーションを行う。それを受けて履修者全員で討論する。 ④「鍵山優馬が受けた教育と、鍵山の生きざまの関わり」	事前 自分が設定した人物の生い立ちや受けた教育、現在の状況についてまとめる。 事後 友達の発表内容並びにそれをもとに考えたことについてまとめる。	130分 140分
第10回	担当者は十分な準備を行いプレゼンテーションを行う。それを受けて履修者全員で討論する。 ⑤「辻井伸行が受けた教育と、辻井の生き様の関わり」	事前 自分が設定した人物の生い立ちや受けた教育、現在の状況についてまとめる。 事後 友達の発表内容並びにそれをもとに考えたことについてまとめる。	130分 140分
第11回	担当者は十分な準備を行いプレゼンテーションを行う。それを受けて履修者全員で討論する。 ⑥「 が受けた教育と、 の生き様の関わり」	事前 自分が設定した人物の生い立ちや受けた教育、現在の状況についてまとめる。 事後 友達の発表内容並びにそれをもとに考えたことについてまとめる。	130分 140分
第12回	担当者は十分な準備を行いプレゼンテーションを行う。それを受けて履修者全員で討論する。 ⑦「動物の調教と人を育てることは何が違うのか」	事前 自分が設定した人物の生い立ちや受けた教育、現在の状況についてまとめる。 事後 友達の発表内容並びにそれをもとに考えたことについてまとめる。	130分 140分
第13回	将来、自分に子供ができれば、その子にどのような教育を受けさせたいか。提案をもとに討論する。	事前 現在の幼児～小学生の習い事についての最新の調査結果を読み込んでくる。 事後 現在の日本の習い事の状況について、自分なりの考えをもって文章にする。	130分 140分
第14回	これまで調べたり考えたり討論してきた「人を教える」ことから根拠を見出し、「これからの時代に求められる指導者像」について討論する。	事前 これまで考えてきたことを見直ししてくる。 事後 「これからの時代に求められる理想の指導者像」についてレポートを書く。	130分 140分
第15回	レポート課題を共有し、それぞれの考えから学びあう。学修のまとめ。これからの音楽科教育について。教育の不易と流行を考える。	事前 「これからの時代に求められる理想の指導者像」についてのレポートを提出する。 事後 大きな時代の変化の中で、指導者に求められる資質の不易と流行を考える。	130分 140分

フィードバック 提出物はコメントを入れて返却する。 授業内での討論内容の価値づけと模擬授業と振り返りへのコメント、分析・考察へのコメントを行う。最終レポートは、評価して返却する

成績評価 事前学習課題の状況 (20%) プレゼンテーションの内容と考察 (30%) 授業中の討論の様子 (20%) 最終レポート課題 (30%)

テキスト ・随時、必要な資料や研究成果物は配布する。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて Eメールにても随時対応する

備考 教職科目の履修者でなくても共に学びを深めていくことができる。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

特殊講義（音楽教育 A）-2

教授 山内雅子

科目コード：EDU202

対象コース/専門/学年：GLA コース/全専門/2～3 年次、器楽・声楽・演奏家コース/全専門/3～4 年次生

形態：講義	単位数：2 単位
概要	音楽が得意な子供も苦手意識をもっている子供も、障害を有する子供も、全ての子供が他者と関わり合いながら、音楽活動を真に楽しみ、音楽的な基礎力を身に付け、音楽的成長と人間的成長を実現していく授業について、事例を分析しながら共に考えると共にワークショップで実際に体験する。

到達目標 授業担当者の研究専門分野である日本の伝統音楽・郷土の音楽の指導を通しての子供の変容とその根拠を、最新の研究成果も紹介しながら、「なぜ日本の子供が日本の音楽を教材として音楽活動をしたとき、どの子も大きく変容していくのか」をその指導法と共に理解する。

授業計画 提示した課題についての討論が中心となって展開する授業であるが、実技も適宜取り入れていく。

第 1 回	オリエンテーション どの子供も生き生きと取り組む授業とは	事前 参観した授業や自分が受けた授業で生徒が生き生きと取り組んだ授業をまとめる。 180 分 事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにメモしておく。 100 分
第 2 回	事例研究 1 地域のお雛子の実践による子供の変容	事前 事前配布資料を読んでくる。 100 分 事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。 180 分
第 3 回	事例研究 2 能の謡の実践による子供の変容	事前 事前配布資料を読んでくる。 180 分 事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。 100 分
第 4 回	事例研究 3 民謡「斉太郎節」の実践による子供の変容	事前 事前配布資料を読んでくる。 100 分 事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。 180 分
第 5 回	事例研究 4 唱歌を用いた和太鼓の実践による子供の変容	事前 事前配布資料を読んでくる。 180 分 事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。 100 分
第 6 回	事例研究 5 自国の音楽の価値や魅力を、自分の言葉で語ることのできる子供の育成 ～そこに至るまでの教材研究・教材作成・授業の仕掛け～	事前 事前配布資料を読んでくる。 100 分 事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。 180 分
第 7 回	事例 1～5 の授業分析と考察	事前 1～5 の事例の共通点を見出し、子供の変容の鍵をまとめる。 180 分 事後 意見交流や討論によって見出した理論を、文章化する。 100 分
第 8 回	ろう学校での音楽授業から学ぶ	事前 事前配布資料を読んでくる。 100 分 事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。 180 分
第 9 回	特別支援教育での音楽授業から学ぶ	事前 事前配布資料を読んでくる。 180 分 事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。 100 分
第 10 回	日本語を話す声での歌唱活動による音楽的・人間的成長の軌跡 ～音声スペクトルの変容から明らかにする～	事前 事前配布資料を読んでくる。 100 分 事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。 180 分
第 11 回	自然で無理のない豊かで響きのある声で歌う子供の育成 ～山内の実践から、有効な指導法・子供の声の変容した「点」について～	事前 事前配布資料を読んでくる。 180 分 事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。 100 分
第 12 回	「自然で無理のない豊かで響きのある声」とは音声生理学的にどのような声か ～最新の研究成果より～	事前 事前配布資料を読んでくる。 100 分 事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。 180 分
第 13 回	世界の民俗音楽の授業実践「箏のルーツを探ろう」より	事前 事前配布資料を読んでくる。 180 分 事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。 100 分
第 14 回	全ての子供が輝き、成長する音楽授業を実践するために必要な教師の資質・能力を考える。	事前 事前配布資料を読んでくる。 100 分 事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。 180 分
第 15 回	学修を振り返り、最終レポートを執筆する。	事前 特殊講義学びを振り返り、事前に与えられたテーマについて考えてくる。 200 分 事後 教員のコメントが記載された最終レポートを読み直し、教職への理解を更に深める。 80 分

フィードバック 日々の授業は、提示した課題の検討となる。授業の中でフィードバックを行う。

成績評価 授業に臨む姿勢・発言（50％） 最終レポート（50％）

テキスト ・毎時間、必要な資料を配付する。

オフィスアワー 授業の前後に対応する。E メールでの相談にも随時応じる。

備考 教職科目を履修していない学生も共に学んでいくことができる内容である。
和楽器や伝統的歌唱の実技も取り入れながら、授業を展開していく。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

特殊講義（音楽教育 B）-1

准教授 田中里佳

科目コード：EDU203

対象コース/専門/学年：GLA コース/全専門/2~3 年次、器楽・声楽・演奏家コース/全専門/3~4 年次生

形態：講義

単位数：2 単位

概要 本授業では、学校における音楽教育だけではなく、多様な場での音楽教育を多角的な視点から考えていく。その際に、提唱されている音楽教育を体験することを通じて知識や理解を深め、これからの音楽教育の意義や新たな可能性を考える。

到達目標 現代の日本の学校における音楽教育や学校以外の場における音楽教育の意義と課題を自分の言葉で述べるができるようになること、音楽教育に関する新しい考え方を活かして、これからの音楽教育を創造的に構想できることになること、これらを目指す。

授業計画 前半は、主に学校における音楽教育の実際と課題を考察し、後半は、音楽教育の新しい可能性を検討していく。下記のテーマに沿って、毎回、グループワークやディスカッションを行う。

第1回	オリエンテーション 学習指導要領と音楽科教育の変遷	事前 自分が受けてきた音楽教育について何を学んだのかを整理しておく。 事後 現在の学習指導要領を再読する。	180 分 100 分
第2回	音楽教育におけるリズムの可能性（1）アフタービート	事前 アフタービートの楽曲をいくつか選定しておく。 事後 討論を通じて考えたことをまとめておく。	180 分 100 分
第3回	音楽教育におけるリズムの可能性（2）言葉とリズム	事前 配布資料に目を通しておく。 事後 グループワークを通じて考えたことをまとめておく。	180 分 100 分
第4回	音楽教育におけるリズムの可能性（3）言葉そのものが持つリズムの魅力	事前 配布資料に目を通しておく。 事後 グループワークを通じて考えたことをまとめておく。	180 分 100 分
第5回	音楽教育の課題（1）音楽科授業外の音楽教育	事前 配布資料に目を通しておく。 事後 グループワークを通じて考えたことをまとめておく。	180 分 100 分
第6回	音楽教育の課題（2）アウトリーチ	事前 配布資料に目を通しておく。 事後 グループワークを通じて考えたことをまとめておく。	180 分 100 分
第7回	音楽教育の課題（3）ジェンダー	事前 配布資料に目を通しておく。 事後 グループワークを通じて考えたことをまとめておく。	180 分 100 分
第8回	音楽教育の課題（4）生涯教育と音楽	事前 配布資料に目を通しておく。 事後 グループワークを通じて考えたことをまとめておく。	180 分 100 分
第9回	これまでの音楽教育の課題とこれからの音楽科が担う役割	事前 これまでの講義を振り返り、音楽教育の課題について考えておく。 事後 レポートを完成させる。	180 分 100 分
第10回	サウンド・エデュケーション（1）イヤークリーニング	事前 配布資料に目を通しておく。 事後 課題を完成させる。	180 分 100 分
第11回	サウンド・エデュケーション（2）サウンド・スケープ	事前 配布資料に目を通しておく。 事後 課題を完成させる。	180 分 100 分
第12回	創造的音楽活動（1）音	事前 配布資料に目を通しておく。 事後 課題を完成させる。	180 分 100 分
第13回	創造的音楽活動（2）旋法	事前 配布資料に目を通しておく。 事後 課題を完成させる。	180 分 100 分
第14回	創造的音楽活動（3）音列	事前 配布資料に目を通しておく。 事後 課題を完成させる。	180 分 100 分
第15回	まとめ 新しい音楽教育の新たな可能性	事前 これまでの講義を振り返り、音楽教育の新たな可能性について考えておく。 事後 全体の内容を振り返り、レポートを完成させる。	200 分 80 分

フィードバック 毎時、リフレクション・カードを配布する。そこで挙げた疑問や質問、新たな視点について、次回冒頭で取り上げたり、個別に対応したりして、フィードバックを図る。

成績評価 毎回のトピックに対して、情報を収集したり、そのトピックにある問題点について意見を述べるなど、能動的な授業への参加や深く考察するなどの主体的な取り組みを重視する。授業での取り組みとリフレクション・カード（50%）、レポート（50%）

テキスト 講義の内容に応じて、適宜プリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後やメールで日程を相談した上で個別に対応する。sky_60000886@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 受講者の興味関心に応じて、授業の内容を変更することがある。その場合は、事前に連絡する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>					

特殊講義（音楽教育 B）-2

准教授 田中里佳

科目コード：EDU204

対象コース/専門/学年：GLA コース/全専門/2~3 年次、器楽・声楽・演奏家コース/全専門/3~4 年次生

形態：講義

単位数：2 単位

概要 教材研究を通じて学校における音楽科の学習を理解し、学校外の音楽教育も含めたこれからの音楽教育の可能性を考える。教科書に掲載されている教材を演奏・鑑賞・分析することによって、小学校・中学校・高等学校における音楽教育の系統性を理解し、子どもの思考の流れを大切に音楽教育をデザインする力を培う。興味関心に応じて、学校教育以外の場も想定する。

到達目標 ①義務教育 9 年間の音楽教育の系統性と高等学校における音楽教育の系統性を理解し、学校における音楽教育の意義を考察できること
②系統性や子どもの思考を大切に単元（題材）をデザインできるようになること

授業計画 前半は、教科書掲載の教材を採り上げ、その教材の魅力や課題を検討する。特に創作の教材をとりあげ、その意図と可能性を理解する、その後、系統性や子どもの思考を大切に単元（題材）をデザインする。

第 1 回	オリエンテーション 音楽科における学びとその系統性	事前	これまで受けた音楽教育を振り返っておく。	180 分
		事後	学習指導要領をもとにして、どのような力が実際についていたのかをまとめる。	100 分
第 2 回	小学校における音楽科の学びと系統性（1）低学年の学び	事前	学習指導要領における小学校低学年の目標を把握しておく。	180 分
		事後	グループワークや討論を通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 3 回	小学校における音楽科の学びと系統性（2）中学年の学び	事前	学習指導要領における小学校中学年の目標を把握しておく。	180 分
		事後	グループワークや討論を通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 4 回	小学校における音楽科の学びと系統性（3）高学年の学び	事前	学習指導要領における小学校高学年の目標を把握しておく。	180 分
		事後	小学校における系統性をまとめておく。	100 分
第 5 回	中学校における音楽科の学びと系統性（1）創作	事前	学習指導要領における創作の目標を把握しておく。	180 分
		事後	グループワークや討論を通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 6 回	中学校における音楽科の学びと系統性（2）創作と歌唱・器楽との関連	事前	学習指導要領における歌唱・器楽の目標を把握しておく。	180 分
		事後	グループワークや討論を通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 7 回	中学校における音楽科の学びと系統性（3）創作と鑑賞との関連	事前	学習指導要領における鑑賞の目標を把握しておく。	180 分
		事後	中学校における系統性をまとめておく。	100 分
第 8 回	高等学校における音楽科の学びと系統性（1）創作	事前	学習指導要領における創作の目標を把握しておく。	180 分
		事後	単元における学習活動の関連性を整理しておく。	100 分
第 9 回	高等学校における音楽科の学びと系統性（2）創作と歌唱・器楽との関連	事前	学習指導要領における歌唱・器楽の目標を把握しておく。	180 分
		事後	単元と教材の関係をまとめておく。	100 分
第 10 回	高等学校における音楽科の学びと系統性（3）創作と鑑賞との関連	事前	学習指導要領における鑑賞の目標を把握しておく。	180 分
		事後	高等学校における系統性をまとめておく。	100 分
第 11 回	単元・授業のデザイン（1）単元構成	事前	どの学校種においてどの学年を想定して単元デザインを行うのかを決定しておく	180 分
		事後	培いたい力を決定しておく。	100 分
第 12 回	単元・授業のデザイン（2）教材研究	事前	取り組みたい教材をいくつか選定しておく。	180 分
		事後	単元のデザインを完成させる。	100 分
第 13 回	単元・授業のデザイン（3）単元構成についての発表とその検討	事前	単元構成についてのプレゼン（あるいは模擬授業）を行えるように準備しておく。	180 分
		事後	検討を通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 14 回	これからの音楽科における学びの可能性とそのデザイン	事前	学校教育以外の場や他教科との関連から音楽教育を位置づけておく。	180 分
		事後	グループワークや討論を通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 15 回	授業全体のふりかえりとまとめ	事前	授業の内容を振り返り、小学校から高等学校 12 年間の学びの系統性をまとめる。	200 分
		事後	この授業を通じて得た考えや視点をまとめる。	80 分

フィードバック 毎時間、リフレクション・カードを配布する。そこで挙がった疑問や質問、新たな視点について、次回冒頭で取り上げたり、個別に対応したりして、フィードバックを図る。

成績評価 能動的な授業への参加や主体的な学修への取り組みを重視する。授業での取り組みとリフレクション・カード（50%）、単元（題材）デザインについての取り組み（50%）

テキスト 中学校学習指導要領解説 音楽編 平成 29 年、「中学生の音楽 1」「中学生の音楽 2・3 上」「中学生の音楽 2・3 下」「中学生の器楽」教育芸術社

オフィスアワー 授業終了後やメールで日程を相談した上で個別に対応する。sky_60000886@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 受講者の興味関心に応じて、授業の内容を変更することがある。その場合は、事前に連絡する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

演習（西洋音楽史） - 1

准教授 櫻井利佳

科目コード：MUS301

対象コース/専門/学年：GLAコース/全専門/3年次、演奏家コース/全専門/3~4年次生

形態：演習	単位数：2単位
概要	歴史学たる音楽史研究の方法論を追究する。中世の楽人組織及び音楽状況を知る文献（『古今著聞集』管絃歌舞篇）を読み、発表を通じて歴史認識を掘り下げると同時に、史料論や史料批判の方法を身につける。具体的には古記録と古文書、史料としての文学、広義の楽書類それぞれの特徴を知り、実践を通じてさまざまな形態の古典籍の扱い方、くずし字の読み方、校訂本文の作り方等を習得する。
到達目標	音楽史研究は史料を知らなければ始まらない。中世音楽史研究の基礎となる文献知識、史料操作・史料批判の方法、読解の技術を徹底して身につけながら、日本中世音楽史研究の最先端のレベルを知る。

授業計画		事前	事後	100分
第1回	ガイダンス。『古今著聞集（ここんちよもんじゅう）』の説明。編者橘成季とは	『国書総目録』『日本古典文学大辞典』で『古今著聞集』を調べる	『古今著聞集』の活字本を揃える。『国史大辞典』で「橘成季」を調べる	180分
第2回	13世紀半ばの音楽状況を知る。宮廷、南都、石清水八幡宮、鎌倉	『古典音楽文献解題』で「春日楽書」を調べる	『群書類従（管絃部）』『文机談』『図書寮叢刊 伏見宮日藏楽書集成』1~3をみる	180分
第3回	管絃者・楽人の多様な位相を知る。天皇から強盗まで	福島和夫「中世楽人氣質」を読む	身分差を意識し、各階層の音楽家の役割を認識する。主要な人物を押さえる	180分
第4回	古典籍の多様な形態と扱い方—形態から史料の性格を知る	藤井隆『日本古典籍書誌学総説』（和泉書院）に目を通す	日本音楽史研究所蔵の古典籍の書誌を取る	180分
第5回	くずし字の読み方、調べ方	変体仮名の字母を確認する	崩し字、異体字の字典を用いながら、広大本『古今著聞集』大序を翻刻する	180分
第6回	『古今著聞集』の諸本—善本とは何か	古典の伝本の在り方についてこれまでの講義内容を復習する	国内の主要な文庫（宮内庁書陵部等）の拠点を確認する	180分
第7回	発表資料の作り方	校訂本文を作る	見本にしたがって発表資料の作成にとりかかる	180分
第8回	基本文献による調査とさまざまな索引類による検索方法	語彙調査を始める。国語辞典、古語辞典、漢和辞典、歴史事典、仏教事典ほか	『尊卑分脈』『公卿補任』『大日本史料』『大日本仏教全書』『神道大系』等を調査	180分
第9回	大序、管絃歌舞篇小序を読む（発表）	発表資料を仕上げる	批判を踏まえ改良、補足を行う	140分
第10回	231話を読む（発表）	発表資料を仕上げる	批判を踏まえ改良、補足を行う	140分
第11回	232話を読む（発表）	発表資料を仕上げる	批判を踏まえ改良、補足を行う	140分
第12回	233話を読む（発表）	発表資料を仕上げる	批判を踏まえ改良、補足を行う	140分
第13回	234話を読む（発表）	発表資料を仕上げる	批判を踏まえ改良、補足を行う	140分
第14回	235話を読む（発表）	発表資料を仕上げる	批判を踏まえ改良、補足を行う	140分
第15回	『岩波講座 日本の音楽・アジアの音楽7』を論評する	『岩波講座 日本の音楽・アジアの音楽7』のうち読む論文を決める	夏休みの課題の準備を始める	80分 200分

フィードバック 各回の最後に質問時間を設ける。口頭発表および発表資料に対する批判を行う。

成績評価 調査、発表準備への取り組みの姿勢（75%）、発表方法と内容（25%）。丁寧かつ緻密な取り組みか、また他人への配慮が十分になされたかを重視する。

テキスト 『古今著聞集』広島大学蔵本複写・『同』宮内庁書陵部蔵本複写ほか（コピーを初回時に配布する）、『古今著聞集』日本古典文学大系（岩波書店）（入手方法については初回時に指示する）

オフィスアワー 水Ⅲ 日本音楽史研究所（2F）

備考 発表に備え、常に日本音楽史研究所および図書館での調査が必要となる。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

演習（西洋音楽史）-2

准教授 櫻井利佳

科目コード：MUS302

対象コース/専門/学年：GLA コース/全専門/3 年次、演奏家コース/全専門/3~4 年次生

形態：演習

単位数：2 単位

概要 歴史学たる音楽史研究の方法論を習得する。中世の楽人組織及び音楽状況を知る文献（『古今著聞集』管絃歌舞篇）を読み、発表を通じて歴史認識を掘り下げると同時に、史料論や史料批判の方法を身につける。具体的には古記録と古文書、史料としての文学、広義の楽書類それぞれの特徴を知り、実践を通じてさまざまな形態の古典籍の扱い方、くずし字の読み方、校訂本文の作り方等を習得する。

到達目標 演習 1 に引き続き口頭発表を通じて中世音楽史研究の基礎となる文献知識、史料操作・史料批判の方法、読解の技術を徹底して身につける。さらには、研究対象に対峙して「木を見て森を《見る》」力を漸次養う。

授業計画

第 1 回	『古今著聞集』管絃歌舞篇の研究の現状と課題を振り返る	事前 演習 1 の発表資料を見直す 事後 次回の発表準備を行う	100 分 180 分
第 2 回	236 話を読む（発表）	事前 発表資料を仕上げる 事後 批判を踏まえ改良、補足を行う	100 分 180 分
第 3 回	237 話を読む（発表）	事前 発表資料を仕上げる 事後 批判を踏まえ改良、補足を行う	100 分 180 分
第 4 回	238 話を読む（発表）	事前 発表資料を仕上げる 事後 批判を踏まえ改良、補足を行う	100 分 180 分
第 5 回	239 話を読む（発表）	事前 発表資料を仕上げる 事後 批判を踏まえ改良、補足を行う	100 分 180 分
第 6 回	240 話を読む（発表）	事前 発表資料を仕上げる 事後 授批判を踏まえ改良、補足を行う	100 分 180 分
第 7 回	241 話を読む（発表）	事前 発表資料を仕上げる 事後 批判を踏まえ改良、補足を行う	180 分 100 分
第 8 回	論文執筆の方法を検討する。卒業論文のテーマを検討する	事前 卒業論文のテーマを考え、論旨を執筆してくる 事後 意見交換を踏まえ、卒論テーマの軌道修正を行う	180 分 100 分
第 9 回	242 話を読む（発表）	事前 発表資料を仕上げる 事後 批判を踏まえ改良、補足を行う	100 分 180 分
第 10 回	243 話を読む（発表）	事前 発表資料を仕上げる 事後 個批判を踏まえ改良、補足を行う	140 分 140 分
第 11 回	244 話を読む（発表）	事前 発表資料を仕上げる 事後 批判を踏まえ改良、補足を行う	140 分 140 分
第 12 回	245 話を読む（発表）	事前 発表資料を仕上げる 事後 批判を踏まえ改良、補足を行う	140 分 140 分
第 13 回	246 話を読む（発表）	事前 発表資料を仕上げる 事後 批判を踏まえ改良、補足を行う	140 分 140 分
第 14 回	247 話を読む（発表）	事前 発表資料を仕上げる 事後 批判を踏まえ改良、補足を行う	80 分 200 分
第 15 回	今期口頭発表の反省と課題の確認	事前 今期口頭発表の見直し 事後 レポート執筆	80 分 200 分

フィードバック 各回の最後に質問時間を設ける。口頭発表および発表資料に対する批判を行う。

成績評価 調査、発表準備への取り組みの姿勢（75%）、発表方法と内容（25%）。丁寧かつ緻密な取り組みか、また他人への配慮が十分になされたかを重視する。

テキスト 『古今著聞集』広島大学蔵本複写・『同』宮内庁書陵部蔵本複写ほか（コピーを初回時に配布する）、『古今著聞集』日本古典文学大系（岩波書店）（入手方法については初回時に指示する）

オフィスアワー 水曜Ⅲ 日本音楽史研究所（2F）

備考 発表に備え、常に日本音楽史研究所および図書館での調査が必要となる

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

演習（音楽美学）-1

准教授 櫻井利佳

科目コード：MUS303

対象コース/専門/学年：GLAコース/全専門/3年次、演奏家コース/全専門/3~4年次生

形態：演習

単位数：2単位

概要 『群書類従』管絃部収載の文献を輪読する。同部は中古から中世にかかる音楽の基本文献であり、音楽哲学から実践までを覆っている。その反面、未だ良質な本文がなく、現状ではそれが研究の滞りを招いている。本科目では、同部所載の文献を軸に、楽書の多様性と各々の特徴を考え、研究の背骨を形成する。同時に今後の日本音楽史研究に資するべく各文献の本文を漸次整えて行く。

到達目標 多様な楽書を対象に、本文研究や精読を通じて、当時の音楽の在り方を体験的に知る。音楽学の研究対象や方法について、より広い視野から多角的に学び、卒業論文執筆、さらには将来の本格的な研究のために必要な力を身に付ける。研究発表を通じて自身の研究上の長短所を自覚する。

回	内容	事前	事後	単位数
第1回	『群書類従』とは。堀保己一の功績と問題点を考える。版本と活字本、写本の伝存状況を押さえる。	堀保己一について事典項目を読んでおく	『群書類従』『続々群書類従』『新続群書類従』などについても内容を押さえる	100分 170分
第2回	福島和夫「『続群書類従』所収音楽相承系図の問題点」、同「書評 E・マーカム『催馬楽-平安時代の宮廷歌謡』」を読む	『群書類従』管絃部の系図に目を通しておく	『続群書類従』管絃部の系図に目を通しておく	100分 170分
第3回	基本的な道具を知る。『大日本史料』『大日本古記録』『古事類苑』『国史大系』特に『尊卑分脈』『公卿補任』『日本古典音楽文献解題』ほか	これまでに扱った調査の道具の利点を整理しておく	授業で扱った文献の長短所を整理する	100分 170分
第4回	管絃部を輪読する（口頭発表） 『管絃音義』	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	100分 170分
第5回	管絃部を輪読する（口頭発表） 『五重十操記』	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	100分 170分
第6回	管絃部を輪読する（口頭発表） 『龍鳴抄』	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	100分 170分
第7回	管絃部を輪読する（口頭発表） 『横竹抄』	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	100分 170分
第8回	管絃部を輪読する（口頭発表） 『胡琴教録』	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	100分 170分
第9回	管絃部を輪読する（口頭発表） 『舞楽要録』	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	100分 170分
第10回	管絃部を輪読する（口頭発表） 『雑秘別録』	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	100分 170分
第11回	管絃部を輪読する（口頭発表） 『舞曲口伝』	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	100分 170分
第12回	管絃部を輪読する（口頭発表） 『夜鶴庭訓抄』	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	100分 170分
第13回	管絃部を輪読する（口頭発表） 『残夜抄』	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	100分 170分
第14回	管絃部を輪読する（口頭発表） 『永竹口伝』	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	100分 170分
第15回	管絃部を輪読する（口頭発表） 『木師抄』	発表資料を作成する	夏休みの課題の準備	100分 170分

フィードバック 各回の最後に質問時間を設ける。口頭発表および発表資料に対する批判を行う。

成績評価 調査、発表準備への取り組みの姿勢（75%）、発表方法と内容（25%）。丁寧かつ緻密な取り組みか、また他人への配慮が十分になされたかを重視する。

テキスト 『群書類従』第19輯（入手方法は初回時に指示）

オフィスアワー 水曜Ⅲ 日本音楽史研究所（2F）

備考 発表に備え、常に日本音楽史研究所および図書館での調査が必要となる。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

演習（音楽美学）-2

准教授 櫻井利佳

科目コード：MUS304

対象コース／専門／学年：GLAコース／全専門／3年次、演奏家コース／全専門／3～4年次生

形態：演習

単位数：2単位

概要 『群書類従』管絃部収載の文献を輪読する。同部は中古から中世にかかる多様な音楽の基本文献であり、音楽哲学から実践までを覆っている。その反面、未だ良質な本文がなく、現状ではそれが研究の遅滞を招いている。本科目では、同部所載の文献を軸に、楽書の多様性と各々の特徴を考え、研究の背骨を形成する。同時に今後の日本音楽史研究に資するべく各文献の本文を漸次整えて行く。

到達目標 多様な楽書を対象に、本文研究や精読を通じて、当時の音楽の在り方を体験的に知る。音楽学の研究対象や方法について、より広い視野から多角的に学び、卒業論文執筆、さらには将来の本格的な研究のために必要な力を身に付ける。研究発表を通じて自身の研究上の長短所を自覚する。

授業計画

回数	管絃部を輪読する（口頭発表）	事前	事後	100分
第1回	『秦箏相承血脈』	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	170分
第2回	『琵琶血脈』	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	170分
第3回	『順徳院御琵琶合』	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	170分
第4回	『八音抄』	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	170分
第5回	『東遊歌図』『風俗』	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	170分
第6回	『野曲抄』	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	170分
第7回	『新撰朗詠集』	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	170分
第8回	『梁塵秘抄口伝集』	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	170分
第9回	発表者が対象・テーマを選択する	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	170分
第10回	発表者が対象・テーマを選択する	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	170分
第11回	発表者が対象・テーマを選択する	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	170分
第12回	発表者が対象・テーマを選択する	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	170分
第13回	発表者が対象・テーマを選択する	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	170分
第14回	発表者が対象・テーマを選択する	発表資料を作成する	意見交換の結果を踏まえ修正と補足を行う	170分
第15回	今期の反省と研究の展望	これまでの発表を見直しておく	テーマを選びレポートを作成する	170分

フィードバック 各回の最後に質問時間を設ける。口頭発表および発表資料に対する批判を行う。

成績評価 調査、発表準備への取り組みの姿勢（75%）、発表方法と内容（25%）。丁寧かつ緻密な取り組みか、また他人への配慮が十分になされたかを重視する。

テキスト 『群書類従』第19輯

オフィスアワー 水曜Ⅲ 日本音楽史研究所（2F）

備考 発表に備え、常に日本音楽史研究所および図書館での調査が必要となる。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	プレゼンテーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

演習（音楽教育 A）-1

教授 山内雅子

科目コード：EDU301

対象コース/専門/学年： GLA コース/全専門/3 年次、演奏家コース/全専門/3~4 年次生

形態：演習	単位数：2 単位
概要	本授業は、卒業論文やレポートを執筆するための準備的役割を担うものである。論文とは何か、また、どのようにして書けば良いのかなど、論文ならびにレポート執筆に必要なとなる基礎的な知識、スキルを習得していく。

到達目標	本授業では、いくつかの論文を読み、音楽に関する研究がどのように進められ、論文としてまとめられているのかを知る。そして、受講者それぞれの関心に即した論文のデザインおよび冒頭部の執筆、発表、議論を通して、卒業論文を執筆するための基礎的な能力を身につけることを目指す。
------	---

授業計画 前期は、音楽に関するいくつかの論文を講読し、研究の目的に合った資料の集め方や分析の方法などについて学ぶ。

回	内容	事前	事後	時間
第 1 回	オリエンテーション	シラバスを読んでおく。	テキストを購入し、目を通しておく。	60 分 220 分
第 2 回	論文を書くための問いの立て方	テキストの 1 章を読んでおく	プリントを仕上げる	180 分 100 分
第 3 回	論文を書くための段取り	テキストの 2 章を読んでおく	プリントを仕上げる	180 分 100 分
第 4 回	論文を書くときの考え方	テキストの 3 章を読んでおく	プリントを仕上げる	180 分 100 分
第 5 回	授業で取り上げる論文の選定～学会誌の目次と要旨を読む～	論文でテーマにしたいことを考えておく	第 2 回から第 4 回までの内容をふりかえっておく	180 分 100 分
第 6 回	論文①の紹介、解説、議論～歴史的方法、史料調査～	配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者1紙配布用のレジュメを作成する。	プリントを仕上げる	220 分 60 分
第 7 回	論文②の紹介、解説、議論～歴史的方法、インタビュー～	配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者1紙配布用のレジュメを作成する。	プリントを仕上げる	180 分 100 分
第 8 回	論文③の紹介、解説、議論～心理学的方法、インタビュー～	配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者1紙配布用のレジュメを作成する。	プリントを仕上げる	180 分 100 分
第 9 回	論文④の紹介、解説、議論～心理学的方法、実験～	配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者1紙配布用のレジュメを作成する。	プリントを仕上げる	180 分 100 分
第 10 回	論文⑤の紹介、解説、議論～心理学的方法、観察～	配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者1紙配布用のレジュメを作成する。	プリントを仕上げる	180 分 100 分
第 11 回	論文⑥の紹介、解説、議論～心理学的方法、質問紙～	配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者1紙配布用のレジュメを作成する。	プリントを仕上げる	180 分 100 分
第 12 回	論文⑦の紹介、解説、議論～音楽学的方法、音響分析～	配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者1紙配布用のレジュメを作成する。	プリントを仕上げる	180 分 100 分
第 13 回	論文⑧の紹介、解説、議論～音楽学的方法、作品分析～	配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者1紙配布用のレジュメを作成する。	プリントを仕上げる	180 分 100 分
第 14 回	論文⑨の紹介、解説、議論～多様な方法を用いた研究～	配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者1紙配布用のレジュメを作成する。	プリントを仕上げる	180 分 100 分
第 15 回	前期のまとめ	これまでに読んだ論文を振り返り、一番興味があったテーマを自覚しておく。	後期に扱いたいテーマについて考えておく	100 分 180 分

フィードバック 毎回の授業で小さな課題を与える。各課題は回収後にコメントをつけて返却し、濃やかなフィードバックを行う。

成績評価 授業への取り組み 50%、レポート 50%

テキスト 戸田山和久『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』（NHK ブックス No.1194）東京：NHK 出版、2012。
このほか、必要に応じてプリントを配布します。

オフィスアワー 授業内で随時質問や相談に応じます。また、メールでも質問、相談を受け付けます。

備考 受講者数などによって、授業の内容を変更することがあります。変更点は、事前に連絡します。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							

演習（音楽教育 A）-2

教授 山内雅子

科目コード：EDU302

対象コース/専門/学年：GLA コース/全専門/3 年次、演奏家コース/全専門/3~4 年次生

形態：演習 単位数：2 単位

概要 音楽教育の卒業論文を執筆するための基礎的なスキルを身に付ける。それぞれの学生が関心をもった分野について学生が自身が論文を検索し、レビューし発表する。質疑応答を通して、新たな課題を発見し、更に課題を深く掘り下げ、それぞれの学生が卒業論文として取り組むテーマを絞り込んでいく。

到達目標 音楽教育研究について、研究領域や研究方法を理解し、論文執筆のスキルを身に付けると共に、卒業論文のテーマを決め、大まかな研究計画をたてることを到達目標とする。

授業計画 後期は、前期で学んだことを踏まえて、受講者それぞれの関心に即した論文を書くことを想定し、各自研究の目的および方法を定め、「はじめに」や「研究の方法」の部分を書く。

第 1 回	前期の学修の振り返りと、後期の学修の進め方について	事前 前期の学びを振り返り、関心をもった分野や研究方法をまとめる。 事後 自分の論文主題設定に向けて、学修のスケジュールを把握し、学修計画を考える。	162 分 108 分
第 2 回	音楽教育研究の実践演習 学生 A 論文レビューと討論	事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162 分 108 分
第 3 回	音楽教育研究の実践演習 学生 B 論文レビューと討論	事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162 分 108 分
第 4 回	音楽教育研究の実践演習 学生 C 論文レビューと討論	事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162 分 108 分
第 5 回	音楽教育研究の実践演習 学生 D 論文レビューと討論	事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162 分 108 分
第 6 回	音楽教育研究の実践演習 学生 A 先行研究に使える論文をレビューし、討論する	事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162 分 108 分
第 7 回	音楽教育研究の実践演習 学生 B 先行研究に使える論文レビューと討論	事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162 分 108 分
第 8 回	音楽教育研究の実践演習 学生 C 先行研究に使える論文レビューと討論	事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162 分 108 分
第 9 回	音楽教育研究の実践演習 学生 D 先行研究に使える論文レビューと討論	事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162 分 108 分
第 10 回	研究主題の検討	事前 これまでの学修を基に、各自の論文主題の方向について、案を考えてくる。 事後 各自の提案と意見交換、指導内容をもとに、論文主題を再度考え、まとめる。	162 分 108 分
第 11 回	研究主題と研究方法の検討	事前 各自の提案と意見交換、指導された内容を基に、論文主題と研究の方法を検討する。 事後 各自の提案と意見交換、指導された内容を基に、論文主題と研究の方法を検討する。	162 分 108 分
第 12 回	指導担当教官の仮決定と今後の研究計画についての検討	事前 修正した論文主題と研究方法を提案できるよう準備する。 事後 各自の提案と意見交換、指導された内容を生かして修正すると共に、大まかな研究計画をたてる。	162 分 108 分
第 13 回	それぞれの研究主題・研究領域の先行研究の検索と精査	事前 これまでの学修を基に研究主題、研究方法、研究計画を作成する。 事後 指導教官（仮）の指導を受け、研究領域について先行研究の検索と精査を行う。	162 分 108 分
第 14 回	それぞれの研究主題設定の理由ならびに研究の目的について	事前 研究主題設定の理由と研究の目的を書く。 事後 研究主題設定の理由と研究の目的を修正する。	162 分 108 分
第 15 回	それぞれの研究の方法についての検討	事前 研究の方法について書く。 事後 2 月、3 月に進めておく課題を明確にし、取り組む。	162 分 108 分

フィードバック 毎回の授業で小さな課題を与える。各課題は回収後にコメントをつけて返却し、濃やかなフィードバックを行う。

成績評価 授業への取り組み：発表課題の準備が十分になされている。友人の発表に対して適切な質問・指摘ができています。レポート課題及び発表：資料を効果的に用いて、相手に伝わる内容になっているか。

テキスト 中学校学習指導要領解説 音楽編（平成 29 年） ・それぞれ、学生が選んだ論文をコピーし、持参する。

オフィスアワー E メールにて相談の上、対応する。 Mon-0000740@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 受講者数などによって、授業の内容を変更することがあります。変更点は、事前に連絡します。本演習は、音楽教育に関する論文執筆のための講義と演習が中心となる。講義はゼミ形式で発表と討論と指導を核として行う。後期の 12 回以降は、音楽教育担当教員が複数で対応することもある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

演習（音楽教育B）-1

准教授 田中里佳

科目コード：EDU303

対象コース/専門/学年：GLAコース/全専門/3年次、演奏家コース/全専門/3~4年次生

形態：講義 単位数：2単位

概要 本授業は、卒業論文を執筆するための準備的役割を担う。論文とは何か、また、どのようにして書けば良いのかなど、論文執筆に必要な基礎的な知識、スキルを習得していく。それとともに、論文の購読やディスカッションを通じて、自分の興味あるテーマを見つけていく。

到達目標 テキスを用いて、論文とその書き方の基本を理解すると同時に、教育や音楽教育に関する研究論文を講読し、問いの立て方、研究方法、分析、考察の実際を理解する。また、それぞれの関心に即した論文を選定し、それを講読・検討することを通して、卒業論文を執筆するにあたっての興味を抱くことのできるテーマを見出していくことを目指す。

授業計画 テキストにそって、論文の書き方の基礎を学ぶ。同時に、教育や音楽教育に関するいくつかの論文を講読し、研究の目的に合った資料の集め方や分析の方法などについて学ぶ。その中で、行ってみたい研究やそのスタイルを見出す。

第1回	オリエンテーション 論文とはなにか	事前 シラバスを読んでおく。 事後 テキストを購入し、目を通しておく。	60分 220分
第2回	論文を書く意義とは	事前 テキストの1章を読んでおく。 事後 テキストの1章の要点をまとめておく。	180分 100分
第3回	論文とはどのような文章か	事前 テキストの2章を読んでおく。 事後 テキストの2章の要点をまとめておく。	180分 100分
第4回	論文の課題の4種類	事前 テキストの3章を読んでおく。 事後 テキストの3章の要点をまとめておく。	180分 100分
第5回	論文の構成要素とは	事前 テキストの4章を読んでおく。 事後 テキストの4章の要点をまとめておく。	180分 100分
第6回	論文を読む（1）問いの立て方に注目して	事前 興味のある題材の論文を選定しておく。 事後 問をどのようにたてるのかについてまとめておく。	180分 100分
第7回	論文を読む（2）研究の方法（調査方法・分析方法）に注目して	事前 興味のある題材の論文を選定しておく。 事後 研究の方法についてまとめておく。	180分 100分
第8回	論文を読む（3）4つの視点での検討	事前 興味のある題材の論文を選定しておく。 事後 よい論文とはどのような論文かをまとめておく。	180分 100分
第9回	アウトラインの役割とは	事前 テキストの5章を読んでおく。 事後 テキストの5章の要点をまとめておく。	180分 100分
第10回	論証の方法（1）演繹法	事前 テキストの6章を読んでおく。 事後 演繹法についてまとめておく。	180分 100分
第11回	論証の方法（2）帰納法	事前 テキストの6章を読んでおく。 事後 帰納法についてまとめておく。	180分 100分
第12回	論文の完成までの道のり	事前 テキストの7章を読んでおく。 事後 論文完成までのスケジュールを考えておく。	180分 100分
第13回	パラグラフとは	事前 テキストの7章を読んでおく。 事後 テキストの7の要点をまとめておく。	180分 100分
第14回	わかりやすい文章を書くために	事前 テキストの8章を読んでおく。 事後 テキストの8章の要点をまとめておく。	180分 100分
第15回	前期のまとめ	事前 これまでに読んだ論文をふりかえり、どのスタイルの論文を書きたいかを考えておく。 事後 後期に扱いたいテーマと研究方法を考えておく。	180分 100分

フィードバック 課題についてはコメントとともにフィードバックする。また、疑問・質問は授業中・授業後に随時対応する。

成績評価 授業への取り組み 50%、課題あるいはレポート 50%

テキスト 戸田山和久『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』（NHKブックス No.1194）東京：NHK出版、2012。
適宜、参考とする論文プリントも配布する。

オフィスアワー メールで日程を相談した上で個別に対応する。sky_60000886@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 受講者の興味関心に応じて、授業の内容を変更することがある。その場合は、事前に連絡する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

演習（音楽教育 B）-2

准教授 田中里佳

科目コード：EDU304

対象コース/専門/学年：GLA コース/全専門/3 年次、演奏家コース/全専門/3~4 年次生

形態：講義	単位数：2 単位
概要	音楽教育を含む教育についての卒業論文を書くことを目指し、論文作成に向かうための具体的な演習を行う。また、研究方法についての知識を得る。関心のあるテーマを扱っている論文を検索・選定し、その論文をレビューすることを通じて、自己のテーマを絞り込んでいく。その後に仮テーマを決め、先行研究の検討・研究の目的・研究方法についての演習を行う。
到達目標	教育に関する研究について、研究方法と倫理を理解し、論文を書くためのスキルを身に付ける。また、卒業論文のテーマを決め、研究計画をたてる。

授業計画 前期の授業を活かし、批判的に先行研究を検討する。それぞれの関心に即した論文を書くことを想定し、研究の目的、研究方法、研究の対象を定め、最終的に卒業論文「序論」になっていく部分の骨格を書く。

第 1 回	前期の学修のふり返りと、後期の学修の進め方について	事前 前期をふり返り、取り組みたい分野・テーマや研究方法をまとめる。 事後 自分の論文主題設定に向けて、学修のスケジュールを把握し、学修計画を考える。	180 分 100 分
第 2 回	論文検索・資料検索の方法とソース、図書館の活用 論文のレビューの方法と批判的な検討	事前 前期で扱った論文を読む際の 4 つの視点を確認しておく。 事後 紹介した検索ソースを中心として、キーワードを入れて検索してみる。	180 分 100 分
第 3 回	教育研究の実践演習 学生 A 論文レビューと討論	事前 興味あるテーマの論文を検索・選定する。発表する学生は、レビューしておく。 事後 発表者による発表と討論を通して、明らかになった疑問点を調べたりまとめておく。	180 分 100 分
第 4 回	教育研究の実践演習 学生 B 論文レビューと討論	事前 興味あるテーマの論文を検索・選定する。発表する学生は、レビューしておく。 事後 発表者による発表と討論を通して、明らかになった疑問点を調べたりまとめておく。	180 分 100 分
第 5 回	教育研究の実践演習 学生 C 論文レビューと討論	事前 興味あるテーマの論文を検索・選定する。発表する学生は、レビューしておく。 事後 発表者による発表と討論を通して、明らかになった疑問点を調べたりまとめておく。	180 分 100 分
第 6 回	音楽教育研究の実践演習 学生 A 先行研究に使える論文をレビューし、討論する	事前 興味あるテーマの論文を検索・選定する。発表する学生は、レビューしておく。 事後 発表者による発表と討論を通して、明らかになった疑問点を調べたりまとめておく。	180 分 100 分
第 7 回	音楽教育研究の実践演習 学生 B 先行研究に使える論文レビューと討論	事前 興味あるテーマの論文を検索・選定する。発表する学生は、レビューしておく。 事後 発表者による発表と討論を通して、明らかになった疑問点を調べたりまとめておく。	180 分 100 分
第 8 回	音楽教育研究の実践演習 学生 C 先行研究に使える論文レビューと討論	事前 興味あるテーマの論文を検索・選定する。発表する学生は、レビューしておく。 事後 発表者による発表と討論を通して、明らかになった疑問点を調べたりまとめておく。	180 分 100 分
第 9 回	研究主題の検討	事前 各自の研究する主題について、案を考えてくる。 事後 各自の提案と意見交換、指導内容をもとに、論文主題を再度考え、まとめる。	180 分 100 分
第 10 回	研究主題と研究方法の検討	事前 論文主題の再提案と、研究方法について考え、まとめておく。 事後 各自の提案と意見交換、実現可能性をもとに、論文主題と研究の方法を検討する。	180 分 100 分
第 11 回	今後の研究計画についての検討	事前 修正した論文主題と研究方法を提案できるよう準備する。 事後 各自の提案と意見交換、指導された内容を生かして修正すると共に、大まかな研究計画をたてる。	180 分 100 分
第 12 回	それぞれの研究主題・研究領域の先行研究の検索と精査	事前 これまでの学修を基に研究主題、研究方法、研究計画を作成する。 事後 研究領域について先行研究の検索と精査を行う。	180 分 100 分
第 13 回	それぞれの研究主題設定の理由ならびに研究の目的について	事前 研究主題設定の理由と研究の目的を書く。 事後 研究主題設定の理由と研究の目的を修正する。	180 分 100 分
第 14 回	それぞれの研究の方法（調査方法・調査結果の分析の観点）についての検討	事前 現実可能な研究の方法を考える。 事後 研究方法と調査方法について書く。	180 分 100 分
第 15 回	まとめ 今後の研究の進め方	事前 研究計画をもとに、具体的なスケジュールを考えておく。 事後 2 月、3 月に進めておく課題を明確にし、取り組む。	180 分 100 分

フィードバック 課題についてはコメントとともにフィードバックする。また、疑問・質問は授業中・授業後に随時対応する。

成績評価 授業への取り組み 50%、課題あるいはレポート 50%

テキスト 戸田山和久『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』（NHK ブックス No.1194）東京：NHK 出版、2012。
適宜、参考とする論文プリントを配布する。

オフィスアワー メールで日程を相談した上で個別に対応する。sky_60000886@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 受講者の興味関心に応じて、授業の内容を変更することがある。その場合は、事前に連絡する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

演習（文化創造マネジメント）-1

准教授 佐野直哉

科目コード：MGT301

対象コース/専門/学年：GLAコース/全専門/3年次、演奏家コース/全専門/3~4年次

形態：演習	単位数：2単位
概要	これまでに学んできたアートマネジメントの全般知識に裏打ちされた独自企画案の作成、先行事例のリサーチと平行する現場での実践体験によりフレキシブルなスキルと思考力、行動力をつける。 また同時に次年度の卒業論文やレポートを執筆するために、自らの企画のリサーチと実践体験を言語化し、論文のコンテキストに落とし込む基礎訓練を行うことを目的とする。
到達目標	文化創造マネジメントの研究領域や研究方法を理解し、関心のある研究領域の先行研究のリサーチや実践を基にした論文のデザインや、大まかな研究計画を立てることを到達目標とする。

授業計画		
第1回	自己紹介とオリエンテーション(導入)	事前 過去2年間の学びと実習体験の棚卸しをしておく 事後 アートを通して取り組みたい自分の問題意識をリストアップする 100分 170分
第2回	企画立案①：リサーチ<静岡県文化プログラムの事例から> アートと社会課題や地域、観光、ブランディングとの関わり、各自の問題意識の明確化	事前 アートがどのように社会に関わっているのか事例をリサーチする 事後 自分の問題意識に近い活動を行なっている事例をリサーチする 100分 170分
第3回	企画立案②：先行研究 各自の問題意識に関する先行研究のリサーチと発表	事前 先行研究論文や参考図書はどんなものがあるか図書館で検索する 事後 Google Scholar/CiNii等で先行研究を検索し、関心領域に近い論文を読んでみる 100分 170分
第4回	企画立案③：企画概要 第2・3回の授業を踏まえて各自企画概要のまとめ	事前 自分の問題意識を言語化する 事後 企画概要を小レポートとしてまとめ提出する 100分 170分
第5回	企画立案④：外部環境分析 同種の文化創造活動を取り上げ、競合分析	事前 自分の企画に近い文化創造活動をリサーチする 事後 競合分析のフレームワークを使い、各自の企画のポジショニングを考える 100分 170分
第6回	企画立案⑤：戦略 問題意識と目的の言語化、戦略と戦術づくり	事前 各自の企画の差別化ポイントを考え、整理する 事後 具体的な戦術プランを練る 100分 170分
第7回	企画立案⑥：評価 企画のアウトカムと評価方法、	事前 各自の企画の成功の姿を具体的に言語化してみる。ステークホルダー別に考える 事後 授業で扱った評価方法を各自の企画の評価にどのように取り入れられるか考える 100分 170分
第8回	企画立案⑦：実施運営体制づくり 運営組織づくりとプロジェクトマネジメント、タスクへの落とし込み	事前 各自企画の運営体制をドラフトしておく 事後 ガンツチャートを完成させる 100分 170分
第9回	マーケティング広報計画立案① プレスリリース作成、様々なメディアをどのように活用するか、誰に何を伝えるべきか	事前 各自企画のオリジナリティやアピールポイントを洗い出しする 事後 プレスリリースを完成させる。送り先リストをドラフトする。 100分 170分
第10回	マーケティング広報計画立案② チラシ、ポスターなどの宣伝ツール	事前 プレスリリースの提出準備。送り先リストをドラフトする。 事後 各自企画のチラシの構成を含めたブリーフを作成する。 100分 170分
第11回	ファンドレイジング計画立案① 資金調達の種類と活用方法、予算計画	事前 各自企画の予算案を作成する 事後 各自企画のファンドレイジング戦略を準備する 100分 170分
第12回	ファンドレイジング計画立案② 各自の企画に適した資金調達計画の作成	事前 各自企画のファンドレイジング戦略を準備する 事後 企画書のプレゼンテーション準備 100分 170分
第13回	企画書の完成 各自これまでの積み重ねを企画書としてまとめ、プレゼンテーションを行う	事前 企画書のプレゼンテーション準備 事後 完成企画書をレポートとしてまとめ、提出する 100分 170分
第14回	企画実践演習・フィールドワーク（企画実践：現場との連絡調整） 各自演習時に進行状況を発表	事前 各自プロジェクトのガンツチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 事後 各自プロジェクトのガンツチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 100分 170分
第15回	企画実践演習・フィールドワーク（マーケティング・ファンドレイジング案の実施） 各自演習時に進行状況を発表	事前 各自プロジェクトのガンツチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 事後 各自プロジェクトのガンツチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 100分 170分

フィードバック 事前・事後学修のアウトプットに対してコメントを行う。

成績評価 実習・実践の取り組みと結果 40%、報告書作成課題提出（40%）、授業態度 20%

テキスト 中葛洋「初学者のための質的研究 26 の教え」（2015）医学書院 ISBN 978-4-260-02405-1
このほか必要に応じてプリントを配布する

オフィスアワー 月曜V駒 研究室にて（事前に Email にて連絡が望ましい。ball0000846@mail.uenogakuen.ac.jp）

備考 本演習は、文化創造マネジメントに関する論文執筆のための企画制作実習が中心となる。講義はゼミ形式で学生の発表とディスカッション、グループおよび個別指導を核とする。受講学生の積極性と行動力を必須とする。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

演習（文化創造マネジメント）-2

准教授 佐野直哉

科目コード：MGT302

対象コース／専門／学年：GLAコース／全専門／3年次、演奏家コース／全専門／3～4年次

形態：演習 単位数：2単位

概要 これまでに学んできたアートマネジメントの全般知識に裏打ちされた独自企画案の作成、先行事例のリサーチと平行する現場での実践体験によりフレキシブルなスキルと思考力、行動力をつける。
また同時に次年度の卒業論文やレポートを執筆するために、自らの企画のリサーチと実践体験を言語化し、論文のコンテキストに落とし込む基礎訓練を行うことを目的とする。

到達目標 文化創造マネジメントの研究領域や研究方法を理解し、関心のある研究領域の先行研究のリサーチや実践を基にした論文のデザインや、大まかな研究計画を立てることを到達目標とする。

授業計画

第1回	企画実践演習・フィールドワーク（企画の実践：広報宣伝の確認） 各自演習時に進行状況を発表	事前 各自プロジェクトのガanttチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 事後 各自プロジェクトのガanttチャートをベースに実践やフィールドワークを行う	100分 170分
第2回	企画実践演習・フィールドワーク（企画の実践：運営体制／演奏者・ボランティアの確認） 各自演習時に進行状況を発表	事前 各自プロジェクトのガanttチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 事後 各自プロジェクトのガanttチャートをベースに実践やフィールドワークを行う	100分 170分
第3回	企画実践演習・フィールドワーク（企画の実践：評価の確認） 各自演習時に進行状況を発表	事前 各自プロジェクトのガanttチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 事後 各自プロジェクトのガanttチャートをベースに実践やフィールドワークを行う	100分 170分
第4回	企画実践演習・フィールドワーク（企画の実践：当日進行表の確認） 各自演習時に進行状況を発表	事前 各自プロジェクトのガanttチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 事後 各自プロジェクトのガanttチャートをベースに実践やフィールドワークを行う	100分 170分
第5回	企画実践演習・フィールドワーク（企画の実践：ゲネプロ） 各自演習時に進行状況を発表	事前 各自プロジェクトのガanttチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 事後 各自プロジェクトのガanttチャートをベースに実践やフィールドワークを行う	100分 170分
第6回	企画実践演習・フィールドワーク（企画の実践：本番） 各自演習時に進行状況を発表	事前 各自プロジェクトのガanttチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 事後 各自プロジェクトのガanttチャートをベースに実践やフィールドワークを行う	100分 170分
第7回	質的研究を行うための基礎固め 実践の振り返りと学びの整理、結果や集計したデータの分析を基にしたディスカッション	事前 実践からの学びを整理しておく。テキストのStep1-1を読んでおく。 事後 講評やディスカッションを受けて改善点を整理する	100分 170分
第8回	質的研究を行うための基礎固め 一次資料と二次資料／質的調査（定性的調査）と量的調査（定量的調査）	事前 テキストのStep1-2,3を読んでおく 事後 内容に従って実習結果を振り返り、整理する	100分 170分
第9回	質的研究を行うための基礎固め（Step1） 文献検索・文献検討／先行研究分析／倫理的配慮	事前 テキストのStep1-4,5,6を読んでおく 事後 内容に従って実習結果を振り返り、整理する	100分 170分
第10回	データ収集の方法 研究参加者選び（サンプリング）／インタビュー調査の種類と手順	事前 テキストのStep2-7,8を読んでおく 事後 内容に従って実習結果を振り返り、整理する	100分 170分
第11回	データ収集の方法 効果的なインタビューのための質問／インタビューの種類	事前 テキストのStep2-9,10を読んでおく 事後 内容に従って実習結果を振り返り、整理する	100分 170分
第12回	データ収集の方法 観察法／エスノグラフィック・インタビュー	事前 テキストのStep2-11,12を読んでおく 事後 内容に従って実習結果を振り返り、整理する	100分 170分
第13回	データ収集の方法 ナラティブ・インタビュー／フォーカス・グループ・インタビュー	事前 テキストのStep2-13,14を読んでおく 事後 内容に従って実習結果を振り返り、整理する	100分 170分
第14回	次年度研究計画を立てる。 年度末課題提出に向けての個人指導	事前 研究計画をドラフトする 事後 コメントに従って再整理する	100分 170分
第15回	年間の振り返り、総括と今後の論文執筆について 年度末課題提出に向けての個人指導	事前 研究計画書としてまとめ、提出準備する 事後 1年のまとめとしてスキルや思考の変化を確認する	200分 70分

フィードバック 事前・事後学修のアウトプットに対してコメントを行う。

成績評価 実習・実践の取り組みと結果 40%、次年度研究計画書提出 40%、授業態度 20%

テキスト 中蔦洋「初学者のための質的研究 26 の教え」（2015）医学書院 ISBN 978-4-260-02405-1
このほか必要に応じてプリントを配布する

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて（事前に Email にて連絡が望ましい。ball0000846@mail.uenogakuen.ac.jp）

アクティブ・ラーニング 各人それぞれの独自企画によるコンサート製作、企画実行の中にグループディスカッション、ディベート、外部団体へのプレゼンテーションリサーチ、発見、問題解決学習などを含む

備考 本演習は、文化創造マネジメントに関する論文執筆のための企画制作実習が中心となる。講義はゼミ形式で学生の発表とディスカッション、グループおよび個別指導を核とする。受講学生の積極性と行動力を必須とする。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

英語コミュニケーションⅡ-1

准教授 佐野直哉

科目コード：ENG201

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 「英語コミュニケーションⅠ」で培った基礎的な英語運用能力、および英語プレゼンテーション基礎をさらに発展させる目的で、英会話能力を重点的に伸ばし、コミュニケーション能力の向上を図る。トピックに関する短めの英文を読んだのち、関連する2つの会話文が展開する授業構成。意見をシェアする表現活動も豊富に取り入れる。適宜、英語で講義をおこなう。

到達目標 「異文化とファッション」「フェイクニュースとの付き合い方」など会話が盛り上がるトピックを用いて、初級レベルでも無理なく中身のある会話ができるように導く。発音クリニックも行い、自分の意見を平易に「通じる」英語で表現するとともに、相手の意見にも的確に英語で応じることができる

授業計画

第1回	Chapter 1: Campus Life Reading/How busy are you?	事前 Check the textbook and look it through 事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第2回	Chapter 1: Campus Life Opinion/Meetings in the morning or in the evening	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it. 事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第3回	Chapter 2: Weekends Reading/Who has the most days off?	事前 Prepare your own ideas based on the topic 事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第4回	Chapter 2: Weekends Opinion/Stay home or go out	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it. 事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第5回	Chapter 3: Japanese Culture Reading/Japanese words in English	事前 Prepare your own ideas based on the topic 事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第6回	Chapter 3: Japanese Culture Opinion/Animal cafes or maid cafes	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it. 事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第7回	Chapter 4: Healthy Living Reading/Living a long and healthy life	事前 Prepare your own ideas based on the topic 事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第8回	Chapter 4: Healthy Living Opinion/Make your lunch or buy it	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it. 事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第9回	Chapter 5: Fashion Reading/A controversial fashion ad	事前 Prepare your own ideas based on the topic 事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第10回	Chapter 5: Fashion Opinion/For or against unisex school uniforms	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it. 事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第11回	Chapter 6: Life Style Reading/Living with less: Minimalism	事前 Prepare your own ideas based on the topic 事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第12回	Chapter 6: Life Style Opinion/Pros and cons of being a minimalist	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it. 事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第13回	Chapter 7: Celebrations Reading/The highest earning song	事前 Prepare your own ideas based on the topic 事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第14回	Chapter 7: Celebrations Opinion/For or against giri choco	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it. 事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第15回	Review Chapters 1-7	事前 Go through the units 1-7 and identify where you need more support. 事後 Revise what you learned in the class and make sure of the knowledge.	40分 50分

フィードバック 授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価 定期試験 70% Writing 課題 20%、授業態度 10%

テキスト Chat and Share! Topic Starters for Today's Students 話してみよう！トピックベースの英会話

Diane H. Nagatomo, 金星堂

オフィスアワー 月曜V駒 研究室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

英語コミュニケーションⅡ-2

准教授 佐野直哉

科目コード：ENG202

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2年次

形態：講義 単位数：2単位

概要 「英語コミュニケーションⅠ」で培った基礎的な英語運用能力、および英語プレゼンテーション基礎をさらに発展させる目的で、英会話能力を重点的に伸ばし、コミュニケーション能力の向上を図る。トピックに関する短めの英文を読んだのち、関連する2つの会話文が展開する授業構成。意見をシェアする表現活動も豊富に取り入れる。適宜、英語で講義をおこなう。

到達目標 「異文化とファッション」「フェイクニュースとの付き合い方」など会話が盛り上がるトピックを用いて、初級レベルでも無理なく中身のある会話ができるように導く。発音クリニックも行き、自分の意見を平易に「通じる」英語で表現するとともに、相手の意見にも的確に英語で応じることができる

回	Chapter	Reading/Opinion	事前	事後	分
第1回	Chapter 8: Travel	Reading/Alternative places to stay	事前 Check the textbook and look it through	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第2回	Chapter 8: Travel	Opinion/Stay at an Airbnb or not	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第3回	Chapter 9: Food	Reading/Japanese food in the world	事前 Prepare your own ideas based on the topic	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第4回	Chapter 9: Food	Opinion/The best Japanese food	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第5回	Chapter 10: The Environment	Reading/Earth Day	事前 Prepare your own ideas based on the topic	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第6回	Chapter 10: The Environment	Opinion/How to reduce air pollution	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第7回	Chapter 11: Business	Reading/SMS and email	事前 Prepare your own ideas based on the topic	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第8回	Chapter 11: Business	Opinion/A busy workplace or a quiet one	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第9回	Chapter 12: The Internet and Social Media	Reading/Fake news	事前 Prepare your own ideas based on the topic	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第10回	Chapter 12: The Internet and Social Media	Opinion/The internet or TV	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第11回	Chapter 13: Sports	Reading/First woman to run in the Boston Marathon	事前 Prepare your own ideas based on the topic	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第12回	Chapter 13: Sports	Opinion/Belong to many clubs or just one	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第13回	Chapter 14: A Barrier-free Society	Reading/No limitations!	事前 Prepare your own ideas based on the topic	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第14回	Chapter 14: A Barrier-free Society	Opinion/Hiring people with disabilities	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第15回	Review Chapters 8-14		事前 Go through the units 8-14 and identify where you need more support.	事後 Revise what you learned in the class and make sure of the knowledge.	40分 50分

フィードバック 授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価 定期試験 70% Writing 課題 20%、授業態度 10%

テキスト Chat and Share! Topic Starters for Today's Students 話してみよう！トピックベースの英会話

Diane H. Nagatomo, 金星堂

オフィスアワー 月曜V駒 研究室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

マネジメント実習-1

准教授 佐野直哉

科目コード : MGT205

対象コース/専門/学年 : 全コース/全専門/2~4 年次

形態 : 講義・実習

単位数 1 単位

概要	芸術ビジネスの市場は縮小し、余暇の過ごし方の多様化、競争の激化、若者の芸術離れなどが指摘されているが、本当にそうだろうか？世界には、効果的なマーケティング戦略によって観客数など劇的な増加を実現した団体がいくつも存在する。本講義ではアーツマーケティングに焦点を当て、内外の成功事例とマーケティングの基礎理論を概観しながら、同時に学んだ内容や発想をもとに前期では足立区梅田地域学習センターL コンサートの企画の準備に充てる。
到達目標	マーケティング的な発想とマネジメント能力を兼ね備えた芸術文化に貢献できる人材となるための基礎的知識と思考力を身につける。さらにアーツマーケティングのプロセスを深く学び、実際に応用できる知識とスキルをしっかりと身につける。演奏会の現場で求められるプロジェクトマネジメントを体験し、責任を持ってやり切る。

授業計画 足立区梅田地域学習センターL コンサートの企画運営・広報宣伝までを履修生全員でプロデュースする。

回数	内容	事前	事後	分
第1回	オリエンテーション			
第2回	足立区の生涯学習政策について 足立区梅田地域学習センターおよびL コンサートのミッションとは	事前	足立区立梅田地域学習センターのホームページに目を通し、要点をまとめる	40分
		事後	これまでのL コンサートプログラムをリサーチし、分析する	60分
第3回	第2章「現状と観客の特性をつかむ」レジュメ発表 第3章「芸術鑑賞のメリットとは」レジュメ発表	事前	指定図書該当章を読んで、レジュメを作成する	40分
		事後	日本における特徴あるプログラムの事例をリサーチする	60分
第4回	第1章「芸術ビジネスの可能性」レジュメ発表 企画リサーチ項目リスト決定	事前	指定図書該当章を読んで、レジュメを作成する	40分
		事後	リサーチ項目リストを作成し、質問事項を考える。	60分
第5回	足立区梅田地域学習センターでの現地リサーチの実施	事前	担当者と連絡調整し、事前に質問事項を送付しておく	40分
		事後	リサーチ結果を整理する	60分
第6回	リサーチ結果報告 企画会議の実施、企画案作成に向けてアイデアの整理	事前	リサーチ結果報告を作成する。	40分
		事後	企画会議の結果を受けて、各自企画案としてまとめておく	60分
第7回	第4章「芸術マーケティングの計画を立てる」レジュメ発表 企画書作成、分析	事前	指定図書該当章を読んで、レジュメを作成する	40分
		事後	企画書を作成し、教員に送付、フィードバックを受けて修正する。	60分
第8回	第5章「作品、会場、コミュニケーション」レジュメ発表 企画案修正、最終決定に向けてのディスカッション	事前	指定図書該当章を読んで、レジュメを作成する	40分
		事後	タスクを整理し、最終版を作成する	60分
第9回	企画プレゼンテーション 足立区梅田地域学習センター担当者を迎えるためのプレゼンテーション実施、フィードバック	事前	プレゼンテーションのためのパワポを作成する	40分
		事後	フィードバックを受けて修正をおこなう	60分
第10回	企画テーマに基づいた候補曲の選定および決定 候補曲のリストアップ、比較分析、プログラムデザイン	事前	あらかじめ候補曲リストを作成し、各曲の背景情報をリサーチしておく	40分
		事後	授業内で決めたプログラムデザインを改めて復習し、選定曲リスト最終版作成	60分
第11回	演奏者の選定 候補曲の編成や難易度に合わせた演奏者のリストアップおよびアプローチ	事前	選定曲の編成と難易度と演奏者の候補マッチングをあらかじめ考えておく	40分
		事後	演奏者にコンタクトを取り始める	60分
第12回	本企画の評価について：PDCA サイクルおよび定性評価と定量評価、参与観察 観客ターゲットと評価デザイン	事前	本企画に必要な評価項目を考え、リスト化しておく	40分
		事後	観客向けアンケートを作成し、担当者からフィードバックを受けて修正する	60分
第13回	第8章「インターネットと芸術ビジネス」 ローカルメディアに関するリサーチ、プロモーションツールの確定とプランニング	事前	企画内容に適したメディアをリストアップする	40分
		事後	プロモーションツールに合わせたメディアの選定を修正する	60分
第14回	プレスリリースの事例研究および本企画のためのリリース作成 様々なチラシ事例の分析、本企画ビジュアルイメージのディスカッション	事前	リリースの事例をネットでリサーチしておく	40分
		事後	本企画のリリースを各自ドラフトする	60分
第15回	リリースの作成 各自リリースを作成し、比較分析をしながら最終版を作成する。	事前	本企画のビジュアルイメージを言語化する	40分
		事後	リリース最終版への修正と完成	60分

フィードバック レジュメ発表に対する講評、レジュメ作成に対するフィードバック

成績評価 レジュメ作成と発表 (30%)、企画プロデュースへの積極的参加と実行 (70%)

テキスト ジョアン・シェフ・バーンスタイン (山本章子訳)、『芸術の売り方 劇場を満員にするマーケティング』、英治出版 (2007)

オフィスアワー 月曜V 駒 研究室にて

備考 本授業では各回、持ち回りで学生にレジュメ作成と発表を課す。また各回学んだ内容をグループ企画に反映させ、その企画を実際に足立区梅田地域学習センターにおけるL コンサートとして実施する。そのため外部団体との綿密な連携が必須であり、適宜フィールドワークや連絡調整など授業時間外の実習の機会が数多くあるため、受講学生には強い責任感とやり切る意思を求める。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	☐	☐	☐	☑	☐	☐	☐	☑	☑	☐	☑	☑	☐	☑	☑	

マネジメント実習-2

准教授 佐野直哉

科目コード: MGT206

対象コース/専門/学年: 全コース/全専門/2~4 年次

形態: 講義・実習

単位数 1 単位

概要	本講義ではマネジメント実習 1 に引き続きアーツマーケティングに焦点を当てる。マーケティングの基礎理論を概観しながら、同時に学んだ内容や発想を、実際の企画プロデュース公演実施に活かしていく。前期で立案した足立区梅田地域学習センター主催 L コンサートのグループ企画とプレスリリースを基に、チラシ作成、演出、マーケティング、オンラインプロモーション、アンケート評価を実践しながら、音楽プロジェクトマネジメントの一連を体験する。
到達目標	アーツマーケティングの理論をマネジメント実習 1 に引き続きより深く学び、実際の企画プロデュースによる外部連携施設での演奏会実施を通して確実に身につけることができる。演奏会制作の現場のプロジェクトマネジメントを体験し、責任を持ってやり切る。

授業計画 足立区梅田地域学習センターL コンサートの企画運営・広報宣伝・実施までを履修生全員でプロデュースする。

回数	内容	事前	事後	分
第 1 回	後期の実習授業の進め方について 概要、趣旨、目的、前提条件・出演者ラインナップについての確認	前期で学修したこと振り返り	企画内容を改めて見直し、リリース最終版の再確認	60 分
第 2 回	第 6 章「芸術の値段」レジュメ発表 チラシ作成のためのブリーフィング	指定教科書該当章を読んでおく	授業内学修事項を受けてブリーフィングのドラフト完成	40 分 60 分
第 3 回	第 7 章「市場調査の手法とプロセス」レジュメ発表 ブリーフィング最終版完成、デザイナーへコンタクト	指定教科書該当章を読んでおく	デザイナーへの連絡調整	40 分 60 分
第 4 回	第 9 章「芸術におけるブランドとは」レジュメ発表 デザイナーとのブリーフィング	指定教科書該当章を読んでおく	デザイナーへのフォローアップ	40 分 60 分
第 5 回	第 10 章「観客ロイヤリティを築く」レジュメ発表 デザインの確認、修正	指定教科書該当章を読んでおく	デザイナーへの最終版確定に関する連絡調整	40 分 60 分
第 6 回	第 11 章「気まぐれな観客を重視する」レジュメ発表 チラシ完成、配布場所のリサーチと連絡調整	指定教科書該当章を読んでおく	指定教科書該当章を読んでおく	40 分 60 分
第 7 回	第 12 章「芸術鑑賞の経験を、もっと豊かに」レジュメ発表 オンラインマーケティングについて・オウンドメディアの必要性、SNS プロモーション	指定教科書該当章を読んでおく	SNS プロモーションのスケジュールを立てる	40 分 60 分
第 8 回	会場配布用プログラム内容決定、プロモーションの開始 配布プログラムのデザイン確認、リリースの配信、SNS 投稿スケジュール、素材集めや取材	事前 配布プログラムのデザイン構成をドラフトする	事後 アドバイスとスケジュールに従って取材、投稿文作成、写真素材を集める	40 分 60 分
第 9 回	演出案について 企画コンセプトに合わせて演出案の決定	事前 演出案のドラフトを用意する	事後 アドバイスに従って演出進行表に落とし込む	40 分 60 分
第 10 回	演出進行表の作成と調整 足立区梅田地域学習センターにて舞台技術者との打ち合わせ	事前 引き続き演出進行表作成作業をおこない、事前に学習センターに送付	事後 舞台技術者のアドバイスに従って修正、最終版を送付	40 分 60 分
第 11 回	演奏者の準備進捗状況確認、当日進行表の作成、人員配置、配布プログラムの完成 演奏者に対するブリーフィング、演奏者の現地視察、ボランティア手配	事前 当日進行スケジュールを演出進行表に記載する	事後 ブリーフィングでの懸案事項の解決と配布プログラムの完成	40 分 60 分
第 12 回	足立区梅田地域学習センターにてゲネプロ実施	事前 ゲネプロにおける確認事項の整理	事後 演出に必要な機材等の確認	40 分 60 分
第 13 回	企画プロデュース演奏会の実施、アンケートの回収	事前 センター、演奏者、ボランティアとの連絡調整、アンケート準備	事後 アンケートデータの回収と整理	40 分 60 分
第 14 回	アンケート結果分析	事前 アンケートデータの分析	事後 報告書作成	40 分 60 分
第 15 回	足立区梅田地域学習センターへの報告	事前 報告書作成	事後 教員とセンターからのフィードバックと反省点の整理	40 分 60 分

フィードバック レジュメ発表に対する講評、企画プロデュースの実践に対するフィードバック

成績評価 レジュメ作成と発表 (30%)、企画プロデュースへの積極的参加と実行(70%)

テキスト ジョアン・シェフ・バーンスタイン (山本章子訳)、『芸術の売り方 劇場を満員にするマーケティング』、英治出版 (2007)

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて

備考 本授業では各回、持ち回りで学生にレジュメ作成と発表を課す。また各回学んだ内容を足立区梅田地域学習センターでの履修生による企画演奏会に反映させる。そのため足立区梅田地域学習センターとの連携が必須であり、連絡調整など授業時間外の実習の機会が数多くある。受講学生には強い責任感とやり切る意思を求める。
演奏会日程は現在未定だが、日程次第で期の途中より、適宜集中講義の形式を取る可能性もあるので予め承知しておくこと。後期初回の授業で指示する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	□	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	□	☑	☑	□	☑	☑	

歌唱伴奏演習

教授 吉田伸昭

科目コード: EDU305

対象コース/専門/学年: GLA コース/音楽教育専門/2 年次, GLA コース/音楽学専門/3~4 年次, 器楽・声楽コース/全専門/3~4 年次, 演奏家コース/声楽専門/3~4 年次

形態: 演習

単位数: 2 単位

概要 教員採用試験、教育実習に必要な「実技（弾き歌いをしながら指導する）」、を実践的に学ぶ授業である。また、各作品の詩の意味を深く知り、音楽的な特徴を研究する。授業内では、それを指導する際の留意点についても言及する。

到達目標 教員採用試験「実技」への実践的学習～共通教材全曲の弾き歌いを習得する。教育実習への準備～実習で使用する歌唱作品の弾き歌いを習得する。

授業計画 履修者は下記の共通教材、及びそれぞれの教育実習教材につき、スムーズな弾き歌いを習得する。また、各作品の詩の意味を深く知り、音楽的な特徴を研究する。授業内では、それを指導する際の留意点についても言及する。

第1回	ガイダンス・基礎的発声練習と共通教材について	事前 教材を用意し、よく読んでおく 事後 発声練習や読譜し、伴奏練習をしておく	100 分 180 分
第2回	「赤とんぼ」「浜辺の歌」 声楽的発声の習得と伴奏練習を中心に	事前 発声練習や読譜し、伴奏練習をしておく 事後 問題点を確認し伴奏や歌唱の復習をする	100 分 180 分
第3回	「赤とんぼ」「浜辺の歌」 伴奏パートの習得と自然な日本語歌唱を目指す	事前 2 曲についてよく練習する 事後 授業内での問題点を確認し解決できるよう練習する	140 分 140 分
第4回	「赤とんぼ」「浜辺の歌」 詩の理解を深め、リズム・和声を把握しながらスムーズな弾き歌いをを目指す	事前 テキストや楽譜をよく読み、練習する 事後 スムーズな弾き歌いができるよう練習する	140 分 140 分
第5回	「夏の思い出」「この道」 伴奏パートの習得と自然な日本語歌唱を目指す	事前 2 曲についてよく練習する 事後 授業内での問題点を確認し解決できるよう練習する	140 分 140 分
第6回	「夏の思い出」「この道」 詩と音楽の関係に着目し、表現の可能性を広げる	事前 2 曲についてよく練習する 事後 授業内での問題点を確認し解決できるよう練習する	140 分 140 分
第7回	「夏の思い出」「この道」 音楽性を重視した弾き歌いをを目指す	事前 テキストや楽譜をよく読み、練習する 事後 スムーズな弾き歌いができるよう練習する	140 分 140 分
第8回	「翼をください」「世界に一つだけの花」 伴奏パートの習得とリズムに乗った日本語歌唱を目指す	事前 2 曲についてよく練習する 事後 授業内での問題点を確認し解決できるよう練習する	140 分 140 分
第9回	「翼をください」「世界に一つだけの花」 詩と音楽の関係に着目し、表現の可能性を広げる	事前 2 曲についてよく練習する 事後 授業内での問題点を確認し解決できるよう練習する	140 分 140 分
第10回	「翼をください」「世界に一つだけの花」 音楽性を重視した弾き歌いをを目指す	事前 テキストや楽譜をよく読み、練習する 事後 スムーズな弾き歌いができるよう練習する	140 分 140 分
第11回	「Caro mio ben」「野ばら」 歌唱と伴奏、奏法の技術向上を目指す	事前 歌唱、伴奏の練習をする 事後 授業内での問題点を確認し解決できるよう練習する	140 分 140 分
第12回	「Caro mio ben」「野ばら」 詩と音楽の流れに留意しながら美しい弾き歌いをを目指す	事前 弾き歌いを練習する 事後 スムーズで美しい弾き歌いができるよう練習する	140 分 140 分
第13回	これまでに修得した楽曲について、各自問題点を認識し、解決をはかる	事前 全曲を復習しておく 事後 授業内での問題点を認識し解決をはかる	140 分 140 分
第14回	全曲について 指導しながらの弾き歌いをを目指す	事前 全曲を復習しておく 事後 授業内での問題点を認識し解決をはかる	140 分 140 分
第15回	まとめ 全曲についてスムーズな弾き歌いを実践する	事前 全曲を復習しておく 事後 授業内での問題点を認識し解決をはかる	140 分 140 分

フィードバック 最終講義時に合評し、それぞれの課題や成果についてコメントする

成績評価 授業への取り組み 50% 実践と成果 50%

テキスト 授業内で紹介、指示する

オフィスアワー E メール mozart-trazom@nifty.com および授業前後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

音楽教職実習-1

教授 山内雅子／准教授 田中里佳

科目コード：EDU306

対象コース／専門／学年： GLAコース／音楽教育専門／3年次 全専門教職科目履修者／3年次 聴講扱いで受講可

形態：講義と演習 Eメールも一部併用

単位数：0単位

概要 教員採用試験に合格するための準備講座である。3年生前期のこの時期は、自分が受験しようと考えている自治体の試験内容を把握した上で、まずは必ず課され合否の鍵を握る小論文の書き方に特化して学修する。講義と演習を軸としながら受講メンバーが共に学びあい、全員で力を付けていけるように実施していく。

到達目標 小論文の書き方の型を理解した上で、論文を書く際に押さえるべき内容を学び、型にあてはめて書くことができるようになる。論文以外に必ず課される弾き歌い、演奏表現等の実技についても、少しずつ力を付けていく。採用試験を受験しない学生は、「論文の書き方」の演習として論理的な文章を書く力を身に付けながら、音楽教育についての今日的な課題を理解する。

授業計画 講義と演習を軸として、受講メンバーが相互に評価し合いながら、共に学びを深めていく形式で実施する予定である。

第1回	オリエンテーション 各自が受験しようと考えている自治体の受験科目を明らかにし、論文についても、過去の問題を通して出題傾向を知る。	事前 志望する都道府県・自治体、並びにその受験科目を調べて持参する。	100分
第2回	3年前期から4年生夏までの教員採用試験に向けての準備計画をたてる。論文課題1に取り組む	事後 小論文の課題や執筆例を探し、ファイルする。	170分
第3回	受講メンバーの提出論文課題1を全員で見ながら、よさと課題点を考える。論文課題1を修正する。	事前 演奏会、その他の予定も考えながら、2023年夏までの準備計画を作成し、持参する。	100分
第4回	修正論文1を全員で見ながら、よくなった点と課題点を考える。論文課題2について、講義と演習を通して理解する。	事後 講義・演習を受けて、論文課題1に取り組む。	170分
第5回	受講メンバーの提出論文課題2を全員で見ながら、よさと課題点を考える。論文課題2を修正する。	事前 論文課題1を、授業1時間前までにメールにて提出する。	100分
第6回	修正論文2を全員で見ながら、よくなった点と課題点を考える。論文課題3について、講義と演習を通して理解する。	事後 論文課題1を修正して書き上げ、担当教員にメールで提出する。	170分
第7回	受講メンバーの提出論文課題3を全員で見ながら、よさと課題点を考える。論文課題3を修正する。	事前 テキストの指定されたページを読んで勉強してくる。	100分
第8回	修正論文3を全員で見ながら、よくなった点と課題点を考える。論文課題4について、講義と演習を通して理解する。	事後 講義・演習を受けて、論文課題2に取り組む。	170分
第9回	受講メンバーの提出論文課題4を全員で見ながら、よさと課題点を考える。論文課題4を修正する。	事前 論文課題2を、授業1時間前までにメールにて提出する。	100分
第10回	修正論文4を全員で見ながら、よくなった点と課題点を考える。論文課題5について、講義と演習を通して理解する。	事後 論文課題2を修正して書き上げ、担当教員にメールで提出する。	170分
第11回	受講メンバーの提出論文課題5を全員で見ながら、よさと課題点を考える。論文課題5を修正する。	事前 テキストの指定されたページを読んで勉強してくる。	100分
第12回	修正論文5を全員で見ながら、よくなった点と課題点を考える。論文課題6について、講義と演習を通して理解する。	事後 講義・演習を受けて、論文課題3に取り組む。	170分
第13回	受講メンバーの提出論文課題6を全員で見ながら、よさと課題点を考える。論文課題6を修正する。	事前 論文課題3を、授業1時間前までにメールにて提出する。	100分
第14回	修正論文6を全員で見ながら、よくなった点と課題点を考える。令和4年度の各自自治体の論文課題を知り、書いてみる。	事後 論文課題3を修正して書き上げ、担当教員にメールで提出する。	170分
第15回	受講メンバーの提出論文課題を全員で見ながら、よさと課題点を考える。後期の学修について理解すると共に、夏休み中の学習課題を各自決める。	事前 テキストの指定されたページを読んで勉強してくる。	100分
		事後 講義・演習を受けて、令和4年度の論文課題に取り組む。	170分
		事前 令和4年度の論文課題を、授業1時間前までにメールにて提出する。	100分
		事後 令和4年度の論文課題を修正して書き上げ、担当教員にメールで提出する。	170分

フィードバック 学生が書いてきた論文に対して、個々に教員が指導して返却するのではなく、オープンに自分たちで互いの論文のよさや課題を指摘し合った上で教員から、具体的な改善方法等のフィードバックを行う。友達への助言を通して学び合って学修を深めているようにする。

成績評価 論文課題の取り組み、論文の書き方や内容に進歩がみられること、友達への助言が適切であること、小論文の型を身に付けていること、等を総合的に判断して行う。

テキスト 『学校とつながる教職教養』明星大学出版部（2018年3月発行）
『23年度 教員採用試験 特訓道場 合格する論作文』時事通信社（2022年3月発行）
各都道府県の過去問題集（専門教養・教職教養）協同出版（2023年度版）

オフィスアワー 論文指導は、メールにて随時受け付ける。

備考 音楽教育専門の学生でなくても、令和5年度に教員採用試験の受験を考えている3年生は受講することを妨げない。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	授業スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							

音楽教職実習-2

教授 山内雅子／准教授 田中里佳／短期大学部教授 内田侑一／短期大学部講師 林直美

科目コード： EDU307

対象コース／専門／学年： GLA コース／音楽教育専門／3 年次

形態： 演習と講義 Eメールでの個別指導

単位数： 0 単位

概要 次年度の教員採用試験受験者を対象として、教員採用試験の実際とその具体的な準備の方法を伝え、本講座では自宅で各自がテキストを用いて学ぶことが困難な、集団面接対策を中心に行いながら、論文並びに面接に必要な教育に関する基本的な事柄を理解し、実践的な力をつけるようにする。

到達目標 教員採用試験に合格し、教職を志す学生が一人でも多く教育現場で活躍できるようになることを目標とする。確かな学力を身に付ける指導に関して、生徒理解に関して、自己肯定感を高める指導に関して、情報活用能力の育成に関して等、教育の不易と流行の中での重要な課題についての理解を深める。

授業計画 オムニバスでの実施

第1回	オリエンテーション 一人一人の受験先とこれまでの準備の状況を確認。それぞれの受験先での計画をたてる。	事前 事後	志望する都道府県名、並びに当該都道府県の受験科目を明らかにして持参する。 教職教養・専門教養の自主学習	100分 170分
第2回	集団面接「情報活用能力に関すること①」	事前 事後	指示された資料を読み考える。 教職教養・専門教養の自主学習	100分 170分
第3回	集団面接「情報活用能力に関すること②」	事前 事後	指示された資料を読み考える。 教職教養・専門教養の自主学習	100分 170分
第4回	集団面接「情報活用能力に関すること③」	事前 事後	指示された資料を読み考える。 教職教養・専門教養の自主学習	100分 170分
第5回	集団面接「生活指導・規範意識・自律性に関すること①」	事前 事後	指示された資料を読み考える。 教職教養・専門教養の自主学習	100分 170分
第6回	集団面接「生活指導・規範意識・自律性に関すること②」	事前 事後	指示された資料を読み考える。 教職教養・専門教養の自主学習	100分 170分
第7回	集団面接「生活指導・規範意識・自律性に関すること③」	事前 事後	指示された資料を読み考える。 教職教養・専門教養の自主学習	100分 170分
第8回	集団面接「自己肯定感に関すること」	事前 事後	指示された資料を読み考える。 教職教養・専門教養の自主学習	100分 170分
第9回	集団面接「社会参画に関すること①」	事前 事後	指示された資料を読み考える。 教職教養・専門教養の自主学習	100分 170分
第10回	集団面接「社会参画に関すること②」	事前 事後	指示された資料を読み考える。 教職教養・専門教養の自主学習	100分 170分
第11回	集団面接「学習への取り組みに関すること①」	事前 事後	指示された資料を読み考える。 教職教養・専門教養の自主学習	100分 170分
第12回	集団面接「学習への取り組みに関すること②」	事前 事後	指示された資料を読み考える。 教職教養・専門教養の自主学習	100分 170分
第13回	集団面接「学習への取り組みに関すること③」	事前 事後	指示された資料を読み考える。 教職教養・専門教養の自主学習	100分 170分
第14回	集団面接「学習への取り組みに関すること④」	事前 事後	指示された資料を読み考える。 教職教養・専門教養の自主学習	100分 170分
第15回	学修のまとめと論文の書き方	事前 事後	指示された資料を読み考える。 論文の執筆を始める。	100分 170分

フィードバック 授業中に適切に助言を行う。
論文については、個々にメールで指導する。

成績評価 学修への取り組みの様子

テキスト 『学校とつながる教職教養』 明星大学出版部 (2018年 3月)
『23年度 教員採用試験 特訓道場 合格する論作文』 時事通信社 (2022年 3月発行)
各都道府県の過去問題集 (専門教養・教職教養) 協同出版 その時点での最新版

フィスアワー 論文指導は、メールにて随時受け付ける。

備考 音楽教育専門以外の教職履修者も、この科目を聴講することが出来る。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							

ドイツ語 I-1

非常勤講師 岩下久美子

科目コード：FOR101

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/1~4 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 音楽を学ぶ上で必ず出あうドイツ・オーストリアなどのドイツ語圏文化の一端に触れながら、ドイツ語の使い方の基本ルールを学ぶ。この授業は演習の性格を有し、履修者は基本、毎回発言の機会をもつ。

到達目標 読む・書く・聞く・話すという実践力を伸ばす土台となる確かな文法的知識を習得することを目標とする。

授業計画 基本的な授業計画は下記の通りであるが、学習状況に応じて前後することがある。事前・事後の学習時間は個人によって異なる（基準：各回 90 分）。

第 1 回	ドイツ語のアルファベット、綴りと発音の前半	事前 教科書の該当箇所を一読する。 事後 アルファベットの発音、発音の規則を復習する。	30 分 60 分
第 2 回	綴りと発音の後半	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 発音の規則を復習する。	30 分 60 分
第 3 回	Lektion1 動詞の現在人称変化 人称代名詞(1)	事前 教科書の該当箇所を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 4 回	Lektion1 動詞 sein の現在人称変化 語順	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 5 回	Lektion1 読み物	事前 読み物に目を通す。 事後 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 6 回	Lektion1 追加練習問題前半	事前 問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 7 回	Lektion1 追加練習問題後半	事前 問題の後半を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 8 回	Lektion2 名詞の性 定冠詞・不定冠詞	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 9 回	Lektion2 動詞 haben の現在人称変化 注意すべき動詞の現在人称変化 語順	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 10 回	Lektion2 読み物	事前 読み物に目を通す。 事後 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 11 回	Lektion2 追加練習問題	事前 問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 12 回	Lektion3 名詞の複数形 定冠詞類	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 13 回	Lektion3 不定冠詞類	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 14 回	Lektion3 否定文	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 15 回	Lektion3 読み物	事前 読み物に目を通す。 事後 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 16 回	Lektion3 追加練習問題	事前 問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 17 回	Lektion4 不規則動詞の現在人称変化	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 18 回	Lektion4 命令文	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 19 回	Lektion4 読み物	事前 読み物に目を通す。 事後 当該時間に学んだ知識を確実にする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 20 回	Lektion4 追加練習問題	事前 問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 21 回	Lektion5 人称代名詞(2) 2 格支配の前置詞 3 格支配の前置詞 4 格支配の前置詞	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 22 回	Lektion5 3・4 格支配の前置詞 並列接続詞	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 23 回	Lektion5 読み物	事前 読み物に目を通す。 事後 当該時間に学んだ知識を確実にする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 24 回	Lektion5 追加練習問題	事前 問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 25 回	Lektion6 話法の助動詞	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 26 回	Lektion6 未来の助動詞	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 27 回	Lektion6 zu 不定詞	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 28 回	Lektion6 読み物	事前 読み物に目を通す。 事後 当該時間に学んだ知識を確実にする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 29 回	Lektion6 追加練習問題	事前 問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 30 回	既習事項の復習	事前 これまでに学んだ事項を整理する。 事後 総合的な力を形成すべく、不十分であった知識を補い、さらに確実なものにする。	30 分 60 分

フィードバック 授業での課題や小テスト等についての解説などにより学習成果をフィードバックする。

成績評価 評価の基準となるのは主にゼマスター末試験であるが、小テストの結果、提出物の提出状況、授業への積極的な取組の如何などを加味して総合的に評価する。
試験 70%、提出物 5%、授業への積極的な取組の如何 25%

テキスト 神竹 道士 他著『プレーミエ ドイツ語総合読本〔改訂版〕』（白水社）

オフィスアワー 簡単な質問・相談等は授業終了後に、相当な時間を要する質問・相談等は個々に時間を打ち合わせた上で実施する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

ドイツ語 I-2

非常勤講師 岩下久美子

科目コード：FOR102

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/1~4 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 音楽を学ぶ上で必ず出あうドイツ・オーストリアなどのドイツ語圏文化の一端に触れながら、ドイツ語の使い方の基本ルールを学ぶ。この授業は演習の性格を有し、履修者は基本、毎回発言の機会をもつ。

到達目標 読む・書く・聞く・話すという実践力を伸ばす土台となる確かな文法的知識を習得することを目標とする。

授業計画 基本的な授業計画は下記の通りであるが、学習状況に応じて前後することがある。事前・事後の学習時間は個人によって異なる（基準：各回 90 分）。

回数	授業内容	事前	事後	時間
第 1 回	Lektion7 形容詞の用法・格変化 形容詞の名詞化 序数	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 2 回	Lektion7 読み物	読み物に目を通す。	当該時間に学んだ知識を確実なものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 3 回	Lektion7 追加練習問題	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 4 回	Lektion8 形容詞・副詞の比較変化 比較表現 es の用法	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 5 回	Lektion8 読み物	読み物に目を通す。	当該時間に学んだ知識を確実なものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 6 回	Lektion8 追加練習問題	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 7 回	Lektion9 分離動詞と非分離動詞	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 8 回	Lektion9 動詞の 3 基本形 過去形	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 9 回	Lektion9 読み物	読み物に目を通す。	当該時間に学んだ知識を確実なものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 10 回	Lektion9 追加練習問題	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 11 回	Lektion10 現在完了形	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 12 回	Lektion10 従属接続詞 相関接続詞	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 13 回	Lektion10 読み物	読み物に目を通す。	当該時間に学んだ知識を確実なものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 14 回	Lektion10 追加練習問題	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 15 回	Lektion11 再帰代名詞 再帰動詞 分詞	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 16 回	Lektion11 読み物	読み物に目を通す。	当該時間に学んだ知識を確実なものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 17 回	Lektion11 追加練習問題	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 18 回	Lektion12 定関係代名詞	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 19 回	Lektion12 指示代名詞 不定関係代名詞	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 20 回	Lektion12 読み物	読み物に目を通す。	当該時間に学んだ知識を確実なものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 21 回	Lektion12 追加練習問題	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 22 回	Lektion13 動作受動文 受動文の時制	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 23 回	Lektion13 自動詞の受動文 状態受動 その他の受動表現	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 24 回	Lektion13 読み物	読み物に目を通す。	当該時間に学んだ知識を確実なものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 25 回	Lektion13 追加練習問題	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 26 回	Lektion14 接続法 I 式とその用法	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 27 回	Lektion14 接続法第 II 式とその用法	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 28 回	Lektion 14 読み物	読み物に目を通す。	当該時間に学んだ知識を確実なものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 29 回	Lektion14 追加練習問題	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 30 回	既習事項の復習	これまで学んだ事項を整理する。	総合的な力を形成すべく、不十分であった知識を補い、さらに確実なものにする。	30 分 60 分

フィードバック 授業での課題や小テスト等についての解説などにより学習成果をフィードバックする。

成績評価 評価の基準となるのは主にゼメスター末試験であるが、小テストの結果、提出物の提出状況、授業への積極的な取組の如何などを加味して総合的に評価する。
試験 70%、提出物 5%、授業への積極的な取組の如何 25%

テキスト 神竹 道士 他著『プレーミエ ドイツ語総合読本〔改訂版〕』（白水社）

オフィスアワー 簡単な質問・相談等は授業終了後に、相当な時間を要する質問・相談等は個々に時間を打ち合わせた上で実施する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

イタリア語 I-1

非常勤講師 吉澤早苗

科目コード：FOR105

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 イタリア語のもっとも基本的なしくみを学ぶ。イタリア語に初めて触れる学生が対象。アルファベットと発音の練習からはじめ、初級文法の学習を中心としながら、挨拶や日常のコミュニケーションに必要な語彙や表現を身につけてゆく。語学を通じ、イタリアの社会や文化についても関心を広げたい。

到達目標 イタリア語のアルファベットと発音、名詞・冠詞・形容詞・動詞の用法を理解し、簡単な単語を使って基本的な挨拶や自己紹介ができるようになることが目標である。

授業計画 原則的に教科書にしたがって授業を進める。別途、教科書に即した単語集を配布予定。履修生のレベルや授業の進み具合により、計画を変更する場合もある。

第 1 回	オリエンテーション (授業概要、成績評価に関する説明ほか)	事前 教科書に目を通す 事後 教科書音声教材の準備 (ダウンロード)、聴	30 分 60 分
第 2 回	Lezione 0：挨拶とアルファベット (解説)	事前 Lezione 0 の例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 3 回	Lezione 0：挨拶とアルファベット (演習)	事前 Lezione 0 の練習問題について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 4 回	Lezione 1：名詞と冠詞 (解説)	事前 Lezione 1 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 5 回	Lezione 1：名詞と冠詞 (演習)	事前 Lezione 1 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 6 回	Lezione 2：動詞 essere (解説)	事前 Lezione 2 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 7 回	Lezione 2：動詞 essere (演習)	事前 Lezione 2 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 8 回	Lezione 3：形容詞 (解説)	事前 Lezione 3 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 9 回	Lezione 3：形容詞 (演習)	事前 Lezione 3 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 10 回	Lezione 4：動詞 avere (解説)	事前 Lezione 4 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 11 回	Lezione 4：動詞 avere (演習)	事前 Lezione 4 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 12 回	Lezione 5：[-are] 動詞 - 規則活用 (解説)	事前 Lezione 5 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 13 回	Lezione 5：[-are] 動詞 - 規則活用 (演習)	事前 Lezione 5 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 14 回	Lezione 6：[-are] 動詞 - 不規則活用 (解説)	事前 Lezione 6 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 15 回	Lezione 6：[-are] 動詞 - 不規則活用 (演習)	事前 Lezione 6 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 16 回	Lezione 7：[-ere] 動詞 - 規則活用 (解説)	事前 Lezione 7 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 17 回	Lezione 7：[-ere] 動詞 - 規則活用 (演習)	事前 Lezione 7 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 18 回	Lezione 8：[-ere] 動詞 - 不規則活用 (解説)	事前 Lezione 8 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 19 回	Lezione 8：[-ere] 動詞 - 不規則活用 (演習)	事前 Lezione 8 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 20 回	Lezione 9：[-ire] 動詞 - 規則活用 (解説)	事前 Lezione 9 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 21 回	Lezione 9：[-ire] 動詞 - 規則活用 (演習)	事前 Lezione 9 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 22 回	Lezione 10：[-ire] 動詞 - 不規則活用 (解説)	事前 Lezione 10 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 23 回	Lezione 10：[-ire] 動詞 - 不規則活用 (演習)	事前 Lezione 10 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 24 回	Lezione 11：名詞と冠詞と形容詞の複数形 (解説)	事前 Lezione 11 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 25 回	Lezione 11：名詞と冠詞と形容詞の複数形 (演習)	事前 Lezione 11 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 26 回	発展 11：20 以上の数	事前 発展 11 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業内容の復習	30 分 60 分
第 27 回	Lezione 12：時刻 (解説)	事前 Lezione 12 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 28 回	Lezione 12：時刻 (演習)	事前 Lezione 12 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 29 回	発展 12：月・曜日・四季	事前 発展 12 の単語の意味と発音を確認 事後 授業内容の復習	30 分 60 分
第 30 回	Lezione 0-12、発展 11-12 のまとめ	事前 Lezione 0-12、発展 11-12 の復習 事後 授業内容の復習、期末試験準備	30 分 60 分

フィードバック 期末試験については解説を行う。

成績評価 主に期末試験により、初級文法に関する理解度とその応用力をはかる。
【評価配分 (目安)：授業への積極的な取り組み 10%、期末試験 90%】

テキスト マッテオ・カスターニャ、吉富文著 『イタリアーノ・イタリアーノ ― イタリア語はじめの一步 ―』 (朝日出版社)

オフィスアワー 毎回、授業の最後に質問等の受付時間をとる。

備考 イタリア語の辞書については初回の授業で紹介する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

イタリア語 I-2

非常勤講師 吉澤早苗

科目コード：FOR106

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1~4 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 イタリア語のもっとも基本的なしくみを学ぶ。イタリア語 I-1 からの継続講義。動詞の用法を中心に初級文法の学習を進めながら、挨拶や日常のコミュニケーションに必要な語彙や表現を身につけてゆく。語学を通じ、イタリアの社会や文化についても関心を広げたい。

到達目標 過去や未来の時制を中心とする動詞の用法、また人称代名詞や形容詞についての理解を深めて語彙も増やし、日常のコミュニケーションに必要な表現の基本を身につけることが目標である。

授業計画 原則的に教科書にしたがって授業を進める。別途、教科書に即した単語集を配布予定。履修生のレベルや授業の進み具合により、計画を変更する場合もある。

回数	授業内容	事前	事後	時間
第 1 回	Lezione 0-5 の復習	事前 Lezione 0-5 の復習	事後 授業内容の復習	30 分 60 分
第 2 回	Lezione 6-11 の復習	事前 Lezione 6-11 の復習	事後 授業内容の復習	30 分 60 分
第 3 回	Lezione 13：補助動詞（解説）	事前 Lezione 13 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認	事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 4 回	Lezione 13：補助動詞（演習）	事前 Lezione 13 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 5 回	Lezione 14：再帰動詞（解説）	事前 Lezione 14 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認	事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 6 回	Lezione 14：再帰動詞（演習）	事前 Lezione14 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 7 回	Lezione 15：再帰動詞と代名動詞（解説）	事前 Lezione 15 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認	事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 8 回	Lezione 15：再帰動詞と代名動詞（演習）	事前 Lezione 15 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 9 回	Lezione 16：近過去 - avere とともに使うとき（解説）	事前 Lezione 16 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認	事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 10 回	Lezione 16：近過去 - avere とともに使うとき（演習）	事前 Lezione 16 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 11 回	Lezione 17：近過去 - essere とともに使うとき（解説）	事前 Lezione 17 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認	事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 12 回	Lezione 17：近過去 - essere とともに使うとき（演習）	事前 Lezione 17 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 13 回	Lezione 19：半過去（解説）	事前 Lezione 19 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認	事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 14 回	Lezione 19：半過去（演習）	事前 Lezione 19 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 15 回	Lezione 20：時制（解説）	事前 Lezione 20 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認	事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 16 回	Lezione 20：時制（演習）	事前 Lezione 20 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 17 回	Lezione 21：所有形容詞（解説）	事前 Lezione 21 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認	事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 18 回	Lezione 21：所有形容詞（演習）	事前 Lezione 21 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 19 回	Lezione 22：直接補語人称代名詞（解説）	事前 Lezione 22 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認	事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 20 回	Lezione 22：直接補語人称代名詞（演習）	事前 Lezione 22 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 21 回	Lezione 23：間接補語人称代名詞（解説）	事前 Lezione 23 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認	事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 22 回	Lezione 23：間接補語人称代名詞（演習）	事前 Lezione 23 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 23 回	Lezione 24：命令法（解説）	事前 Lezione 24 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認	事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 24 回	Lezione 24：命令法（演習）	事前 Lezione 24 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 25 回	Lezione 27：未来形（解説）	事前 Lezione 27 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認	事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 26 回	Lezione 27：未来形（演習）	事前 Lezione 27 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 27 回	発展 2：存在文「〜がある／いる」の表現：ci+essere（活用）	事前 発展 2 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認	事後 授業内容の復習	60 分 30 分
第 28 回	発展 9：前置詞	事前 発展 9 の解説を読み、単語の意味と発音を確認	事後 授業内容の復習	30 分 60 分
第 29 回	発展 13：疑問詞のまとめ	事前 発展 13 の解説、例文を読み、解説および練習問題の単語の意味と発音を確認	事後 授業内容の復習	60 分 30 分
第 30 回	Lezione 13-27、発展 2, 9, 13 のまとめ	事前 Lezione 13-27、発展 2, 9, 13 の復習	事後 授業内容の復習、期末試験準備	30 分 60 分

フィードバック 期末試験については解説を行う。

成績評価 主に期末試験により、初級文法に関する理解度とその応用力をはかる。
【評価配分（目安）：授業への積極的な取り組み 10%、期末試験 90%】

テキスト マッテオ・カスターニャ、吉富文著 『イタリアーノ・イタリアーノ ― イタリア語はじめの一步 ―』（朝日出版社）

オフィスアワー 毎回、授業の最後に質問等の受付時間をとる。

備考 イタリア語 I-1（前期）からの継続講義となるので、イタリア語 I-1 の単位取得者を対象とする。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

英語Ⅱ-1

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG203

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 基礎的な英語スキルを身につけ、間違いやすい文法項目を正しく自信を持って使えるようになる。英語力を伸ばすことに加えて、世界への好奇心を伸ばし、国際感覚豊かな教養を身につける。

到達目標 自信を持って英語でコミュニケーションができる。国際的な広い視野を持ち、グローバルシチズンとしての自覚を持つ。これからのグローバル社会を生き抜くために必要なスキルを習得する。

授業計画

回数	単元名	事前	事後	時間
第 1 回	Orientation 自己紹介	教科書を入手し、Unit 1 を予習する。	英語での自己紹介の仕方を練習する。	80 分 190 分
第 2 回	Unit 1 See you soon 現在形と現在進行形 Conversation, Target Grammar, Grammar Check, Short Conversations	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 3 回	Unit 1 See you soon Short Q&A, Short Reading, All Write	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する。All Write を課題として提出する。	135 分 135 分
第 4 回	Unit 2 Welcome to Japan! 教えられる名詞と教えられない名詞 Conversation, Target Grammar, Grammar Check, Short Conversations	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 5 回	Unit 2 Short Q&A, Short Reading, All Write	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する。All Write を課題として提出する。	135 分 135 分
第 6 回	Unit 3 Sandy's First Sushi 代名詞の使い分け Conversation, Target Grammar, Grammar Check, Short Conversations	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 7 回	Unit 3 Short Q&A, Short Reading, All Write	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する。All Write を課題として提出する。	135 分 135 分
第 8 回	Unit 4 Festival Fun 形容詞と副詞 Conversation, Target Grammar, Grammar Check, Short Conversation	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 9 回	Unit 4 Short Q&A, Short Reading, All Write	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する。All Write を課題として提出する。	135 分 135 分
第 10 回	Unit 5 Play Ball! 場所の前置詞と時の前置詞 Conversation, Target Grammar, Grammar Check, Short Conversation	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 11 回	Unit 5 Short Q&A, Short Reading, All Write	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する。All Write を課題として提出する。	135 分 135 分
第 12 回	Unit 6 Lucky Cats Yes/No 疑問文と Wh 疑問文 Conversation, Target Grammar, Grammar Check, Short Conversation	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 13 回	Unit 6 Short Q&A, Short Reading, All Write	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する。All Write を課題として提出する。	135 分 135 分
第 14 回	Unit 1-6 ここまでの復習、まとめ、補足	ここまでの授業内容を復習する	理解不足の箇所を確認・復習する	135 分 135 分
第 15 回	Unit 1-6 復習に基づいたまとめ、補足 理解度確認テスト	確認テストの準備をする	理解不足の箇所を復習する	135 分 135 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、小テスト、課題、学期末試験などに基づき総合的に行う。

【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取組 50%】

テキスト Robert Hicklin “ENGLISH CONTRAST” (金星堂)

その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に Zoom で、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	プレゼンテーション技能	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

英語Ⅱ-2

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG204

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	前期に引き続き、基礎的な英語スキルを身につけ、間違いやすい文法項目を正しく自信を持って使えるようになる。英語力を伸ばすことに加えて、世界への好奇心を伸ばし、国際感覚豊かな教養を身につける。

到達目標	自信を持って英語でコミュニケーションができる。国際的な広い視野を持ち、グローバルシチズンとしての自覚を持つ。これからのグローバル社会を生き抜くために必要なスキルを習得する。
------	--

授業計画			
第 1 回	Unit 7 No One Sings Like Brian 他動詞と自動詞 Conversation, Target Grammar, Grammar Check, Short Conversations	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	80 分 190 分
第 2 回	Unit 7 Short Q&A, Short Reading, All Write	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する。All Write を課題として提出する。	135 分 135 分
第 3 回	Unit 8 Yui's Cooking Class Conversation, Target Grammar, Grammar Check, Short Conversations	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 4 回	Unit 8 Short Q&A, Short Reading, All Write	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する。All Write を課題として提出する。	135 分 135 分
第 5 回	Unit 9 Where's Sandy? 過去形と過去進行形と現在完了形 Conversation, Target Grammar, Grammar Check, Short Conversation	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 6 回	Unit 9 Short Q&A, Short Reading, All Write	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する。All Write を課題として提出する。	135 分 135 分
第 7 回	Unit 10 Let's Take a Hike will と going to Conversation, Target Grammar, Grammar Check, Short Conversation	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 8 回	Unit 10 Short Q&A, Short Reading, All Write	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する。All Write を課題として提出する。	135 分 135 分
第 9 回	Unit 11 Time for a Tour 助動詞の使い分け Conversation, Target Grammar, Grammar Check, Short Conversation	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 10 回	Unit 11 Short Q&A, Short Reading, All Write	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する。All Write を課題として提出する。	135 分 135 分
第 11 回	Unit 12 Photos from Hakone 比較級と最上級 Conversation, Target Grammar, Grammar Check, Short Conversation	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 12 回	Unit 12 Short Q&A, Short Reading, All Write	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する。All Write を課題として提出する。	135 分 135 分
第 13 回	Unit 13 Sho's Barbecue Party 能動態と受動態 Conversation, Target Grammar, Grammar Check, Short Conversation	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 14 回	Unit 7 - 13 ここまでの復習、まとめ、補足	事前 ここまでの授業内容を復習する 事後 理解不足の箇所を確認・復習する	135 分 135 分
第 15 回	Unit 7 - 13 復習に基づいたまとめ、補足 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする 事後 理解不足の箇所を復習する	135 分 135 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、小テスト、課題、学期末試験などに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取組 50%】

テキスト Robert Hicklin "ENGLISH CONTRAST" (金星堂)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に Zoom で、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽演技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	プレゼンテーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ドイツ語Ⅱ-1

非常勤講師 岩下久美子

科目コード：FOR201

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	ドイツ語 I で習得した文法の知識をさらに確かなものとするため、既習の事項を確認しながら、練習問題や平易なドイツ語文の読解に取り組む。この授業は演習の性格を有し、履修者は基本、毎回発言の機会をもつ。

到達目標	授業に積極的に参加することをおして、幅広いドイツ語知識を獲得し、総合的にドイツ語力を伸ばすことを目標とする。
------	--

授業計画 基本的な授業計画は下記の通りであるが、学習状況に応じて前後することがある。事前・事後の学習時間は個人によって異なる（基準：各回 270 分）。

回数	単元	事前	事後	時間
第 1 回	Lektion0 挨拶表現・アルファベット・発音・数詞	該当箇所を一読する。	不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 2 回	Lektion1 動詞の現在人称変化・語順	文法説明を一読する。練習問題を予習する。	問題のチェックをおして不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 3 回	Lektion2 定冠詞・不定冠詞（文法・練習問題・パートナー練習）	文法説明を一読する。練習問題を予習する。	問題のチェックをおして不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 4 回	Lektion2 定冠詞・不定冠詞（読み物・作文） Lektion3 不規則変化動詞・命令形（文法・練習問題）	Lektion2 の読み物に目を通す。Lektion3 の文法説明を一読する。練習問題を予習する。	単語を覚え語彙を増やす。問題のチェックをおして不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 5 回	Lektion3 不規則変化動詞・命令形（パートナー練習・読み物・作文）	読み物に目を通す。	単語を覚え語彙を増やす。	120 分 150 分
第 6 回	Lektion4 人称代名詞・ja, nein, doch の用法・男性弱変化名詞（文法・練習問題・パートナー練習）	文法説明を一読する。練習問題を予習する。	問題のチェックをおして不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 7 回	Lektion4 人称代名詞・ja, nein, doch の用法・男性弱変化名詞(読み物・作文) Lektion5 定冠詞類・不定冠詞類（文法・練習問題）	Lektion4 の読み物に目を通す。Lektion5 の文法説明を一読する。練習問題を予習する。	単語を覚え語彙を増やす。問題のチェックをおして不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 8 回	Lektion5 定冠詞類・不定冠詞類（パートナー練習・読み物・作文）	読み物に目を通す。	単語を覚え語彙を増やす。	120 分 150 分
第 9 回	Lektion6 前置詞（文法・練習問題・パートナー練習）	文法説明を一読する。練習問題を予習する。	問題のチェックをおして不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 10 回	Lektion6 前置詞（読み物・作文）	読み物に目を通す。	単語を覚え語彙を増やす。	120 分 150 分
第 11 回	時刻表現 曜日・月・季節・数詞を含む表現	該当箇所を一読する。	不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 12 回	Lektion7 分離動詞（文法・練習問題・パートナー練習）	文法説明を一読する。練習問題を予習する。	問題のチェックをおして不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 13 回	Lektion7 分離動詞（読み物・作文） Lektion8 zu 不定詞（文法・練習問題）	Lektion7 の読み物に目を通す。Lektion8 の文法説明を一読する。練習問題を予習する。	単語を覚え語彙を増やす。問題のチェックをおして不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 14 回	Lektion8 zu 不定詞（パートナー練習・読み物・作文）	読み物に目を通す。	単語を覚え語彙を増やす。	120 分 150 分
第 15 回	既習事項の復習	これまでに学んだ事項を整理する。	総合的な力を形成すべく、これまでに不足していた知識を補い、さらに確かなものとする。	120 分 150 分

フィードバック	授業での課題や小テスト等についての解説などにより学習成果をフィードバックする。
---------	---

成績評価	評価の基準となるのは主に期末試験であるが、小テストの結果、提出物の提出状況、授業への積極的な取組の如何などを加味して総合的に評価する。試験 60%、提出物 5%、授業への積極的な取組の如何 35%
------	--

テキスト	林 久博 他著『ともに学ぶドイツ語 [改訂版]』(白水社)
------	-------------------------------

オフィスアワー	簡単な質問・相談等は授業終了後に、相当な時間を要する質問・相談等は個々に時間を打ち合わせた上で実施する。
---------	--

備考	
----	--

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ドイツ語Ⅱ-2

非常勤講師 岩下久美子

科目コード：FOR202

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2～4年次

形態：講義 単位数：2単位

概要 ドイツ語Ⅰで習得した文法の知識をさらに確かなものとするため、既習の事項を確認しながら、練習問題や平易なドイツ語文の読解に取り組む。この授業は演習の性格を有し、履修者は基本、毎回発言の機会をもつ。

到達目標 授業に積極的に参加することをとおして、幅広いドイツ語知識を獲得し、総合的にドイツ語力を伸ばすことを目標とする。

授業計画 基本的な授業計画は下記の通りであるが、学習状況に応じて前後することがある。事前・事後の学習時間は個人によって異なる（基準：各回 270分）。

回数	単元	事前	事後	時間
第1回	Lektion9 語法の助動詞・未来形（文法・練習問題・パートナー練習）	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。	事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	120分 150分
第2回	Lektion9 語法の助動詞・未来形（読み物・作文） Lektion10 過去形（文法・練習問題）	事前 Lektion9 の読み物に目を通す。Lektion9 の文法説明を一読する。練習問題を予習する。	事後 単語を覚え語彙を増やす。問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	120分 150分
第3回	Lektion10 過去形（パートナー練習・読み物・作文）	事前 読み物に目を通す。	事後 単語を覚え語彙を増やす。	120分 150分
第4回	Lektion11 現在完了形（文法・練習問題・パートナー練習）	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。	事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	120分 150分
第5回	Lektion11 現在完了形（読み物・作文） Lektion12 再帰代名詞・再帰動詞（文法・練習問題）	事前 Lektion11 の読み物に目を通す。Lektion12 の文法説明を一読する。練習問題を予習する。	事後 単語を覚え語彙を増やす。問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	120分 150分
第6回	Lektion12 再帰代名詞・再帰動詞（パートナー練習・読み物・作文）	事前 読み物に目を通す。	事後 単語を覚え語彙を増やす。	120分 150分
第7回	Lektion13 形容詞（文法・練習問題・パートナー練習・読み物・作文）	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。	事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	120分 150分
第8回	Lektion14 接続詞（文法・練習問題・パートナー練習・読み物・作文）	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。	事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	120分 150分
第9回	Lektion15 接続法（文法・練習問題・パートナー練習）	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。	事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	120分 150分
第10回	Lektion15 接続法（読み物・作文）	事前 読み物に目とおす。	事後 単語を覚え語彙を増やす。	120分 150分
第11回	関係代名詞（文法・練習問題・パートナー練習）	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。	事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	120分 150分
第12回	関係代名詞（読み物・作文）	事前 読み物に目を通す。	事後 単語を覚え語彙を増やす。	120分 150分
第13回	受動態（文法・練習問題・パートナー練習・読み物・作文）	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。	事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	120分 150分
第14回	比較表現（文法・練習問題・パートナー練習・読み物・作文）	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。	事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	120分 150分
第15回	既習事項の復習	事前 これまでに学んだ事項を整理する。	事後 総合的な力を形成すべく、これまでに不足していた知識を補い、さらに確かなものとする。	120分 150分

フィードバック 授業での課題や小テスト等についての解説などにより学習成果をフィードバックする。

成績評価 評価の基準となるのは主に期末試験であるが、小テストの結果、提出物の提出状況、授業への積極的な取組の如何などを加味して総合的に評価する。試験 60%、提出物 5%、授業への積極的な取組の如何 35%

テキスト 林 久博 他著『ともに学ぶドイツ語（改訂版）』（白水社）

オフィスアワー 簡単な質問・相談等は授業終了後に、相当な時間を要する質問・相談等は個々に時間を打ち合わせた上で実施する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

イタリア語Ⅱ-1

非常勤講師 吉澤早苗

科目コード：FOR205

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2～4 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 イタリア語の中級文法を学ぶ。初級の学習を終えた学生を対象とする。
初級文法を復習・補足しながらさらに高度な事項へと進み、日常のさまざまな事柄をより詳細に表現し、深く理解するための語彙や表現を身につけてゆく。語学を通じイタリアの社会や文化についても関心を広げたい。

到達目標 初級文法をより完全なものにすること、受動態、最上級・比較級、関係詞といった中級文法を理解し、それを日常生活の中で応用するための語彙と表現力を身につけることが目標である。

授業計画 履修生のレベルに即した配布教材を使いながら授業を進める。

第 1 回	オリエンテーション (授業概要、成績評価に関する説明ほか) 初級イタリア語の復習・補足 (挨拶とアルファベット)	事前 事後	イタリア語 I の教科書を使い、挨拶とアルファベットの復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 2 回	初級イタリア語の復習・補足 (名詞と冠詞、形容詞、所有形容詞)	事前 事後	イタリア語 I の教科書を使い、名詞と冠詞、形容詞、所有形容詞の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 3 回	初級イタリア語の復習・補足 (動詞 - 規則活用・不規則活用)	事前 事後	イタリア語 I の教科書を使い、動詞 - 規則活用・不規則活用の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 4 回	初級イタリア語の復習・補足 (補助動詞)	事前 事後	イタリア語 I の教科書を使い、補助動詞の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 5 回	初級イタリア語の復習・補足 (再帰動詞と代名動詞、直接・間接補語人称代名詞)	事前 事後	イタリア語 I の教科書を使い、再帰動詞、直接・間接補語人称代名詞の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 6 回	初級イタリア語の復習・補足 (近過去)	事前 事後	イタリア語 I の教科書を使い、近過去の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 7 回	初級イタリア語の復習・補足 (半過去)	事前 事後	イタリア語 I の教科書を使い、半過去の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 8 回	初級イタリア語の復習・補足 (未来形)	事前 事後	イタリア語 I の教科書を使い、未来形の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 9 回	受動態 (解説)	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習 (単語の意味と発音を確認) 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 10 回	受動態 (演習)	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習 (単語の意味と発音を確認) 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 11 回	比較級・最上級 (解説)	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習 (単語の意味と発音を確認) 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 12 回	比較級・最上級 (演習)	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習 (単語の意味と発音を確認) 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 13 回	関係詞 (che) (解説)	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習 (単語の意味と発音を確認) 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 14 回	関係詞 (che) (演習)	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習 (単語の意味と発音を確認) 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 15 回	第 9-14 回のまとめ	事前 事後	第 9-14 回の復習 授業内容の復習、期末試験準備	120 分 150 分

フィードバック 期末試験については解説を行う。

成績評価 主に期末試験により、中級文法に関する理解度とその応用力をはかる。
【評価配分 (目安) : 授業への積極的な取り組み 10%、期末試験 90%】

テキスト 毎回教材を配布する。
イタリア語 I で使用した教科書 (マッテオ・カスターニャ、吉富文著 『イタリアーノ・イタリアーノ ― イタリア語はじめの一步 ―』(朝日出版社)) も使う。

オフィスアワー 毎回、授業の最後に質問等の受付時間をとる。

備考 イタリア語 I からの継続講義となるので、イタリア語 I の単位取得者を対象とする。
イタリア語の辞書を購入することが望ましい。辞書については初回の授業で紹介する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

イタリア語Ⅱ-2

非常勤講師 吉澤早苗

科目コード：FOR206

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2～4 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 イタリア語の中級文法を学ぶ。イタリア語Ⅱ-1 からの継続講義。
 イタリア語Ⅱ-1 の学習内容をふまえた上でさらに高度な事項へと進み、日常のさまざまな事柄をより詳細に表現し、深く理解するための語彙や表現を身につけてゆく。語学を通じイタリアの社会や文化についても関心を広げたい。

到達目標 動詞の用法（ジェルンディオ、条件法、接続法）を中心とする中級文法を理解し、それを日常生活の中で応用するための語彙と表現力を身につけることが目標である。

授業計画 履修生のレベルに即した配布教材を使いながら授業を進める。

第 1 回	受動態、比較級・最上級、関係詞 (che) の復習	事前 事後	イタリア語Ⅱ-1 の配布資料を使い、受動態、比較級・最上級、関係詞 (che) の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 2 回	関係詞 (cui ほかに) (解説)	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習 (単語の意味と発音を確認) 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 3 回	関係詞 (cui ほかに) (演習)	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習 (単語の意味と発音を確認) 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 4 回	ジェルンディオ (解説)	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習 (単語の意味と発音を確認) 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 5 回	ジェルンディオ (演習)	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習 (単語の意味と発音を確認) 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 6 回	条件法 (条件法現在) (解説)	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習 (単語の意味と発音を確認) 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 7 回	条件法 (条件法現在) (演習)	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習 (単語の意味と発音を確認) 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 8 回	条件法 (条件法過去) (解説)	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習 (単語の意味と発音を確認) 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 9 回	条件法 (条件法過去) (演習)	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習 (単語の意味と発音を確認) 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 10 回	接続法 (接続法現在) (解説)	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習 (単語の意味と発音を確認) 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 11 回	接続法 (接続法現在) (演習)	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習 (単語の意味と発音を確認) 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 12 回	接続法 (接続法過去時制) (解説)	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習 (単語の意味と発音を確認) 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 13 回	接続法 (接続法過去時制) (演習)	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習 (単語の意味と発音を確認) 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 14 回	接続法 (仮定文) (解説、演習)	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習 (単語の意味と発音を確認) 授業内容の復習	120 分 150 分
第 15 回	第 2-14 回のまとめ	事前 事後	第 2-14 回の復習 授業内容の復習、期末試験準備	120 分 150 分

フィードバック 期末試験については解説を行う。

成績評価 主に期末試験により、中級文法に関する理解度とその応用力をはかる。
 【評価配分 (目安)：授業への積極的な取り組み 10%、期末試験 90%】

テキスト 毎回教材を配布する。
 イタリア語Ⅰで使用した教科書 (マッテオ・カスターニャ、吉富文著 『イタリアーノ・イタリアーノ ― イタリア語はじめの一步 ―』 (朝日出版社)) も使う。

オフィスアワー 毎回、授業の最後に質問等の受付時間をとる。

備考 イタリア語Ⅱ-1 (前期) からの継続講義となるので、イタリア語Ⅱ-2 の単位取得者を対象とする。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

哲学 2

非常勤講師 内藤俊人

科目コード：HUM105

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 ルネサンスから今日にいたるヨーロッパの歴史の中に現れたさまざまなイメージを考察する。絵画、演劇、庭園、百科事典、監獄、商品、病、映画などさまざまな対象の中から、各時代の見ることのあり方を端的に示す題材をとりあげ、そこに生きる人々の感性や想像力、そして根本的な思考の枠組みを検証する。

到達目標 イメージの歴史という観点から、ルネサンス以降のヨーロッパの思想と文化の変遷を考察する。その上で、さまざまな文化事象を生み出す、それぞれの時代に特有の「思考の枠組み」を明らかにする。

授業計画

第1回	ヨーロッパにおける記憶術の系譜	事前 ヨーロッパの歴史の大きな流れを年表などから確かめておくこと。 事後 16世紀の哲学者ジョルダノ・ブルーノとデッサ・ホルタの記憶術の考えをまとめる。	130分 140分
第2回	ルネサンスにおけるネオプラトニズム	事前 フィレンツェで活躍した哲学者マルシリオ・フィチーノについて調べておく。 事後 ネオプラトニズムという観点からボッティチェリの『春』を見てみる。	130分 140分
第3回	バロックの表象空間 — 1581年の宮廷バレエ	事前 1581年前後のヨーロッパの状況を年表や世界史地図で調べておく。 事後 宮廷バレエを支えたバロック期の思想についてまとめる。	130分 140分
第4回	古典主義の絵画と表象理論	事前 17世紀の画家ニコラ・プッサンについて、文献やインターネット上の資料で調べておく。 事後 授業で取り上げた『マナの収集』についてまとめる。	140分 130分
第5回	フェルメール、カメラ・オブスクラ、デカルト	事前 カメラ・オブスクラについて、文献やインターネット上の資料によって調べておく。 事後 デカルトの1『方法序説』、そして「光学」に示された考えについてまとめる。	140分 130分
第6回	庭園の思想 — 17世紀の幾何学庭園と18世紀の風景庭園	事前 ヴェルサイユ庭園の全体像や細部について、文献やインターネット上の画像で調べておく。 事後 幾何学庭園と風景庭園とを生み出した、2つの時代の自然と理性をめぐる考えを整理する。	140分 130分
第7回	『百科全書』における語ることと見ること	事前 ディドロとダランベールによる『百科全書』の図版を、文献やネット上の画像で見とく。 事後 18世紀後半の『百科全書』における知とは、どのような特徴を持っているのかを考える。	140分 130分
第8回	パノラマ劇場 Panorama と擬似的現実	事前 18世紀末の Robert Barker によるパノラマ劇場について、文献やネットの画像で調べる。 事後 19世紀にヨーロッパ文化の中心に位置するようになる「擬似的現実」について考える。	140分 130分
第9回	パノプチコン Panopticon と主体	事前 1841年にパリで建造されたマサス監獄について、インターネット上の画像によって調べる。 事後 社会における監視の機能について考えをまとめる。	140分 130分
第10回	パサージュ Passage をめぐって	事前 ドイツの哲学者ヴァルター・ベンヤミンについて、文献やネット上の資料で調べる。 事後 19世紀の資本主義社会が生み出した新たな「商品イメージ」について考えをまとめる。	140分 130分
第11回	19世紀における感染症と予防接種	事前 ヨーロッパにおける天然痘の流行と種痘について、文献やネット上の資料で調べる。 事後 19世紀に見られた予防接種への反対運動が、どのような主張によるものだったか考える。	140分 130分
第12回	20世紀における映像と現実	事前 レニ・リーフェンシュタールについて、文献やインターネット上の資料で調べておく。 事後 ドキュメンタリーとプロパガンダ映像の違いについて考える。	140分 130分
第13回	ホロコーストの表象について	事前 配布する資料を通して1940年代に存在した絶滅収容所について調べておく。 事後 歴史における表象可能性とはどういうことなのか考えをまとめる。	140分 130分
第14回	今日におけるユートピアのイメージをめぐって	事前 配布する資料を見ておく。 事後 現実を「異化する」イメージとはどのようなものかについて考えをまとめる。	140分 130分
第15回	まとめ	事前 これまでの授業における疑問点を整理する。 事後 今学期の学習内容を全体を復習する。	140分 130分

フィードバック 授業時に提出する Reaction Paper にコメントを付して返却する。

成績評価 成績の評価は、学期末に提出するレポート 60%と授業への取り組み方 40%による。

テキスト 教科書は特に用いないが、授業内容に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

文学 2

非常勤講師 内藤俊人

科目コード：HUM302

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/3~4年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	19世紀末から今日に至るフランス文学の変遷を考察する。文学を孤立した対象としてとらえるのではなく、さまざまなジャンルの芸術と結びつけて論じ、それぞれの時代の文化のあり方を検討する。絵画や映画、舞台映像などの資料を用いて出来る限り多角的に作品を理解できるように努める。
到達目標	19世紀末以降の代表的なフランス文学の作品を読み解きながら、そこに映し出されているヨーロッパの文化、社会、芸術の大きな流れを把握する。

授業計画		
第1回	マラルメと『牧神の午後』	事前 象徴主義の文学や絵画についてその概要を調べておく。 事後 教室で観るバレエ『牧神の午後』の舞台映像について感想をまとめる。 120分
第2回	ロビダの描く未来世界	事前 19世紀末のバリの姿を、写真や文献を通じて調べておくこと。 事後 ロビダの小説作品を中心に講義内容を整理する。 120分
第3回	リュバンとファントマ	事前 20世紀初めから30年代頃までのバリの姿を、写真や文献を通じて調べておくこと。 事後 映画『ファントマ』について感想をまとめる。 150分
第4回	ブルーストと音楽	事前 ブルーストの『矢われた時を求めて』についてその概要を調べておく。 事後 教室で観る映画『スワンの恋』について感想をまとめる。 120分
第5回	コクトーと前衛芸術	事前 ジャン・コクトーの作品についてその概要を調べておく。 事後 映画『美女と野獣』について感想をまとめる。 120分
第6回	バレエ『バラード』上演について	事前 エリック・サティの音楽を中心として『バラード』の特徴を考えてみる。 事後 教室で観る『バラード』の映像について感想をまとめる。 120分
第7回	タダについて	事前 マルセル・デュシャンの作品についてその概要を調べておく。 事後 教室で観る映画『幕間』について感想をまとめる。 120分
第8回	シュルレアリスムと映画	事前 アンドレ・ブルトンの作品についてその概要を調べておく。 事後 教室で観る映画『ひとで』について感想をまとめる。 120分
第9回	戦争と文学	事前 ホロコーストとは何かについて調べておく。 事後 映画『ショア』のいくつかの映像について感想をまとめる。 120分
第10回	言語遊戯の文学	事前 レーモン・クノーの作品についてその概要を調べておく。 事後 映画『地下鉄のザジ』について感想をまとめる。 120分
第11回	演劇言語の解体	事前 サミュエル・ベケットの作品についてその概要を調べておく。 事後 教室で観るベケット『ゴドーを待ちながら』の舞台映像について感想をまとめる。 120分
第12回	「記憶」をめぐる言葉とイメージ	事前 マルグリット・デュラスの小説作品についてその概要を調べておく。 事後 教室で観るデュラスの監督した映画作品について感想をまとめる。 120分
第13回	テクストの快楽	事前 ロラン・バルトの作品についてその概要を調べておく。 事後 配布するプリントでバルト『恋愛のディスクール・断章』の抜粋を読む。 120分
第14回	クレオールと文学	事前 クレオールとは何かについて調べておく。 事後 映画『マルチニク少年』について感想をまとめる。 120分
第15回	まとめ	事前 これまでの授業における疑問点を整理する。 事後 今学期の学習内容全体を復習する。 120分

フィードバック 授業時に提出する Reaction Paper にコメントを付して返却する。

成績評価 成績の評価は、授業への取り組み方 40%と学期末に提出するレポート 60%による。

テキスト 教科書は特に用いないが、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

法学（日本国憲法）

非常勤講師 橋本阿友子

科目コード：SOC105

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 日本国憲法について、制定経緯、各規定の意味、憲法以外の法との関係との体系を学ぶ。

- 到達目標
1. 日本国憲法に規定されている人権の基礎的な知識を習得する。前提として、憲法の精神を理解する。
 2. 選挙制度について正しい知識を身に着ける。
 3. 社会問題に興味を持ち、自身の見解を持つ。

授業計画

回数	内容	事前	事後	単位数
第1回	導入：日本国憲法の制定経緯、位置づけ	日本国憲法についての既存の知識をまとめる。	事前課題と講義の内容を比較し、講義内容を復習する。	120 分 150 分
第2回	法体系：憲法、法律、条例、省令、判例、契約	憲法、法律、条例、省令、判例、契約の関係について考察する。	講義レジュメの内容を復習する。	120 分 150 分
第3回	憲法の規定事項：人権と統治	日本国憲法の条文を確認する。	講義レジュメの内容を復習する。	120 分 150 分
第4回	基本的人権：幸福追求権と法の下での平等	幸福追求権・平等権について、既存の知識をまとめる。	講義レジュメの内容を復習する。	120 分 150 分
第5回	基本的人権：精神的自由（特に表現の自由）	精神的自由に関連する人権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	講義レジュメの内容を復習する。	120 分 150 分
第6回	基本的人権：経済的自由	経済的自由に関連する人権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	講義レジュメの内容を復習する。	120 分 150 分
第7回	基本的人権：身体的自由	身体的自由に関連する人権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	講義レジュメの内容を復習する。	120 分 150 分
第8回	基本的人権：社会権	社会権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	講義レジュメの内容を復習する。	120 分 150 分
第9回	基本的人権：参政権ほか	参政権に関連する権利について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	講義レジュメの内容を復習する。	120 分 150 分
第10回	統治：選挙制度	選挙制度についてまとめる。	講義レジュメの内容を復習する。	120 分 150 分
第11回	社会問題：非嫡出子、夫婦別姓、同性婚	非嫡出子、夫婦別姓、同性婚について、問題となっている論点をまとめる。	講義レジュメの内容を復習する。	120 分 150 分
第12回	社会問題：子供の権利、外国人の権利	子供の権利、外国人の権利ほどの程度保障されているか、検討する。	講義レジュメの内容を復習する。	120 分 150 分
第13回	社会問題：一票の較差	一票の較差とは何かを調べ、現在の選挙に関する較差につき自身の見解を検討する。	講義レジュメを復習する。	120 分 150 分
第14回	社会問題：裁判員裁判、死刑制度	裁判員裁判について調べておく。死刑制度についての自身の見解をまとめる。	講義レジュメを復習する。	120 分 150 分
第15回	講義の復習	これまでの講義を振り返り、全体を復習する。	講義レジュメを復習する。	120 分 150 分

フィードバック 授業内での解説

成績評価 試験 100%

テキスト レジュメを講義時に配布する。それ以外のテキストがあれば、講義内で指定する。

オフィスアワー 質問等は随時メールにて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

社会学 2

非常勤講師 上羅廣

科目コード：SOC104

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/1~4年次

形態：講義	単位数 2単位
概要	音楽社会学をどのように見ていくのかを最初に概説し、いわゆる定評のある音楽社会学ウェーバー、アドルノ、ジルバーマンを見た後、日本における音楽社会学者の何人かの音楽への接近の仕方を捉える。さらに、音楽家の社会的観点からのいくつかのエッセイを、一つの音楽へのまなざしとして提示し理解を深める。
到達目標	現代社会において音楽は文化として大きな位置と役割を持つものになってきている。音楽に対する社会学的研究は、「音楽社会学」としてあるが、まずその概説を通して方法論の違い（まなざしの相違）について理解を深めたい。さらに、音楽に対する社会的観点からのエッセイにも着目し、音楽の社会学的研究の延長線に位置付けたい。学生は「社会における音楽」の存在と態様について理解を深めて
授業計画	「音楽と社会」へのまなざし

第1回	音楽社会学のイントロダクション～音楽社会学の構図～	事前 「音楽社会学」という用語を調べてくる。 事後 音楽社会学の全体像について整理し理解する。	110分 160分
第2回	M. ウェーバーの音楽社会学	事前 マックス・ウェーバーについて簡単に調べてくる。 事後 M. ウェーバーの音楽社会学の特徴について理解する。	110分 160分
第3回	A. ジルバーマンの音楽社会学	事前 A. ジルバーマンについて簡単に調べてくる。 事後 A. ジルバーマンの『音楽社会学序説』の方法について理解する。	110分 160分
第4回	T. W. アドルノの音楽社会学 1～前提	事前 アドルノについて簡単に調べてくる。 事後 第4回講義内容を理解する。	110分 160分
第5回	T. W. アドルノの音楽社会学 2～音楽に対する態度の類型とその意味	事前 第4回講義で提示した「音楽聴取の類型」について内容を想像してくる。 事後 「音楽に対する態度の類型」の意味について理解する。	110分 160分
第6回	日本における音楽社会学の試み 1～北川純子の『音のうち・そと』	事前 アドルノに関して全体を頭に入れてくる。 事後 北川のアドルノ論と『音のうち・そと』の音楽社会学の立場について理解する。	110分 160分
第7回	日本における音楽社会学の試み 2～北川の一つの試み	事前 ポピュラー音楽のビートについて考えてくる。 事後 一つの音楽社会学的試みとして理解する。	110分 160分
第8回	日本における音楽社会学の試み 3～小川博司の社会情勢・メディアとアイドル論	事前 1970年代のアイドル歌手について調べてくる。 事後 一つの音楽社会学的試みとして、他と対比しながら理解する。	110分 160分
第9回	日本における音楽社会学の試み 4～小川の「音楽への社会学的アプローチ」	事前 第1回講義を、復習してくる。 事後 音楽への接近の一つの方法として位置付け理解する。	110分 160分
第10回	音楽家の音楽への社会的観点からのアプローチ 1～A. ジルバーマンへの類似	事前 ジルバーマンの音楽社会学を復習してくる。 事後 アプローチの類似を理解する。	110分 160分
第11回	音楽家の音楽への社会的観点からのアプローチ 2～A. ジルバーマンとの差異	事前 前回の講義を整理してくる。 事後 アプローチの差異について理解する。	110分 160分
第12回	音楽家の音楽への社会的観点からのアプローチ 3 ～中村絃子『ピアニストという蛮族がいる』	事前 『ピアニストという蛮族がいる』、中村絃子、中公文庫のIV章を読んでくる。 事後 明治維新期の西洋音楽の状況について想像力を発揮し理解する。	110分 160分
第13回	音楽家の音楽への社会的観点からのアプローチ 4～明治期の西洋音楽事情	事前 同上書、V章を読んでくる。 事後 時代に翻弄される音楽家とその社会背景について理解する。	110分 160分
第14回	音楽家の音楽への社会的観点からのアプローチ 5～純国産ピアニストの運命	事前 同上書、VI章からIX章を読んでくる。 事後 西洋と日本の音楽の社会・文化・歴史の際の中で、一人のピアニストの運命について理解する。	110分 160分
第15回	まとめ	事前 これまでの全講義を振り返り整理してくる。 事後 音楽の多様性に対して方法論が選択され音楽社会学が行われていることを理解する。	110分 160分

フィードバック	大きく五部門に分かれているので、それぞれの講義が終わった後、小テストを実施し、添削しコメントを付けて返却し、それによって学修成果のフィードバックをする。
成績評価	定期試験 70%、小テスト・課題 20%、授業態度 10%

テキスト	使用せず。参考文献、中村絃子『ピアニストという蛮族がいる』中公文庫など
------	-------------------------------------

オフィスアワー E メールで随時。wellatti@msb.biglobe.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>					

心理学 2

特任教授 星野悦子

科目コード：NAT102

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義

単位数 2 単位

概要 心理学は、心について科学的に理解しようとする経験科学であり、私たち自身や他者の心や行動についての理解に有益な知見を提供してくれる。「心理学 2」では、心理学の応用的課題である心の諸機能を理解・活用するための知識と研究成果を講じる。

到達目標 授業目標は、応用的な心理学を中心とした諸知見について学び、社会に出てからも有益な心理学を身につけ人間理解を深めることである。特に、性格/パーソナリティ、健康、社会/文化と人間心理についての理解は、教員志望の学生には重要である。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション：心理学とはなにか～基礎と応用の領域	事前 教科書はしがきを読む。 事後 授業ノートを見直しておく	20 分 60 分
第 2 回	パーソナリティ（1）：性格の理論	事前 教科書第 8 章の前半を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 3 回	パーソナリティ（2）：性格の形成（発達）	事前 教科書第 8 章の後半を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 4 回	パーソナリティ（3）：性格の測定と診断	事前 プリント 1 を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 5 回	パーソナリティ（4）：性格の病理	事前 プリント 2 を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 6 回	健康心理学（1）：現代社会と健康、ストレス	事前 健康について各自の考えをまとめておく 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 7 回	健康心理学（2）：ストレス対処法	事前 各自のストレス対処法について考えておく 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 8 回	健康心理学（3）：感情と健康	事前 プリント 3 を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 9 回	社会心理学（1）：自己	事前 教科書第 10 章第 1 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 10 回	社会心理学（2）：対人認知と対人行動	事前 教科書第 10 章第 3 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 11 回	社会心理学（3）：友情と恋愛	事前 教科書第 10 章第 2 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 12 回	文化心理学（1）：文化とはなにか	事前 プリント 4 を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 13 回	文化心理学（2）：文化と個人	事前 プリント 5 を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 14 回	芸術心理学を学ぶ	事前 プリント 6 を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 15 回	まとめ：心理学は役に立つか	事前 授業ノート全体を見直しておく 事後 試験後の解答について自分で確認・振り返る	80 分 20 分

フィードバック 授業での課題・ミニレポートなどについて添削・コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験の成績と受講態度を総合しておこなう。試験成績 70%、受講態度 30%。

テキスト 相馬寿明（編著）『心理学 For you』八千代出版
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業後、教室にて対応する。

備考 この授業では応用心理学を中心に、パーソナリティ理論、ストレス対処、対人認知・行動についても学ぶので、自分や他者の客観的理解に役立つはずである。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>					

音楽心理学

特任教授 星野悦子

科目コード：NAT201

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2～4 年次

形態：講義

単位数 2 単位

概要 音楽心理学とは、音楽に関係した人間の行動（聴取・演奏など）とそれに随伴する精神活動についての心理学である。音楽は、まず音として知覚され、構造をもった「音楽」として認知（理解や記憶など）される対象であり、音楽聴取（演奏）にはこの知覚と認知の二過程が必然的に含まれる。また、人は音楽の表現の中に、美しさ、楽しさ、悲しさ、勇敢さなど様々な感情を感じ取ると共に、自分自身の中に深く強い情動をも喚起する。それはなぜか？その機序はどこまで分かったのかについて、最新の知見を講じる。

到達目標 知覚や認知対象としての音楽について学び、そこから感情の喚起がどのように発生するかの仕組みにも関心を寄せつつ、聴取、演奏、作曲における心理学的原理を理解する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション：講義の目的・内容・進めかたなど	事前 教科書はしがきを読む 事後 授業ノートを見直しておく	110 分 160 分
第 2 回	音楽心理学の歴史と方法	事前 教科書第 1 章前半を読んでおく 事後 授業ノートを見直しておく	110 分 160 分
第 3 回	音楽の多様な機能	事前 教科書第 1 章後半を読む 事後 授業ノートを見直しておく	110 分 160 分
第 4 回	音楽の知覚（1）音高・絶対音感・協和感	事前 教科書第 2 章「音楽と音響」を読む 事後 授業ノートを見直しておく	110 分 160 分
第 5 回	音楽の知覚（2）音の大きさ、音色	事前 教科書第 3 章を読む 事後 授業ノートを見直しておく	110 分 160 分
第 6 回	音楽の認知（1）メロディの認知	事前 教科書第 4 章前半を読む 事後 授業ノートを見直しておく	110 分 160 分
第 7 回	音楽の認知（2）リズムの認知	事前 教科書第 4 章後半を読む 事後 授業ノートを見直しておく	110 分 160 分
第 8 回	音楽の記憶	事前 教科書第 5 章を読む 事後 授業ノートを見直しておく	110 分 160 分
第 9 回	音楽と一般認知能力：「モーツァルト効果」	事前 教科書第 6 章を読む 事後 授業ノートを見直しておく	110 分 160 分
第 10 回	音楽的感情の知覚	事前 教科書第 7 章の前半を読む 事後 授業ノートを見直しておく	110 分 160 分
第 11 回	音楽と感情の喚起	事前 教科書第 7 章の後半を読む 事後 授業ノートを見直しておく	110 分 160 分
第 12 回	音楽的感情についての諸理論	事前 教科書第 7 章全体を読む 事後 授業ノートを見直しておく	110 分 160 分
第 13 回	音楽行動の発達	事前 教科書第 8 章を読む 事後 授業ノートを見直しておく	110 分 160 分
第 14 回	音楽の進化心理学と音楽の意味	事前 プリントを読む 事後 授業ノートを見直しておく	110 分 160 分
第 15 回	まとめ	事前 授業ノートを見直しておく 事後 試験の解答を自分で確認・振り返る	220 分 50 分

フィードバック 授業での課題・ミニレポートなどについて添削・コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験の成績と受講態度を総合しておこなう。試験成績 70%、受講態度 30%。

テキスト 星野悦子（編著）『音楽心理学入門』（誠信書房）

オフィスアワー 授業後、教室にて、及び指定曜日研究室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

イギリス文化と芸術

教授 石橋明佳

科目コード：HUM202

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2～4 年次

形態：講義 単位数 2 単位

概要 イギリス音楽の理解を深めるために、イギリスの文化や音楽以外の芸術に関する事柄を含めて講義する。音源・映像資料（スライドと動画）を使い、できるだけ幅広くイギリスについて解説すると共に、イギリス文化に関する英語表現を紹介する。

到達目標

- イギリス文化に関する知識を習得する。
- イギリス音楽の文化的・民族的背景に関する知識を習得する。
- イギリス文化に関する英語表現を習得する。

授業計画

【AL】

第1回	ガイダンス：授業の流れの詳細と受講に関する注意 イギリスの基本情報：国歌が無いのはどうしてか、国章に描かれている花や動物 他	事前 テキスト第1章を読み、その概要を掴むこと 事後 授業スライドを確認し、ネットなどでさらに調べる	150分 120分
第2回	イギリスの人々と社会 貴族は何をしているのか、料理は本当にまずいのか、幽霊屋敷はなぜ高値なのか 他	事前 テキスト第2章を読み、その概要を掴むこと 事後 授業スライドを確認し、ネットなどでさらに調べる	80分 190分
第3回	ヴィクトリア時代 2階建てバスから喫茶習慣まで、現代に繋がる「イギリスらしさ」を作った時代	事前 テキスト第3章を読み、その概要を掴むこと 事後 授業スライドを確認し、ネットなどでさらに調べる	80分 190分
第4回	日本とイギリスの関係 イギリス人にとって日本は「おとぎの国」、サムライになったイギリス人 他	事前 テキスト第4章を読み、その概要を掴むこと 事後 授業スライドを確認し、ネットなどでさらに調べる	80分 190分
第5回	ギリスの宗教 ハロウィーンはイギリス発祥、国教は王様のワガママで変わった、祭日の行事と食事 他	事前 テキスト第5章を読み、その概要を掴むこと 事後 授業スライドを確認し、ネットなどでさらに調べる	80分 190分
第6回	イギリスの児童文学 妖精からハリ・ポッターまで、イギリスがファンタジー大国になった軌跡を紹介	事前 テキスト第6章を読み、その概要を掴むこと 事後 授業スライドを確認し、ネットなどでさらに調べる	80分 190分
第7回	イギリスの小説と詩 中世のBL系ボエムから現代ミステリーまで、イギリスを知る8つの作品の紹介	事前 テキスト第7章を読み、その概要を掴むこと 事後 授業スライドを確認し、ネットなどでさらに調べる	80分 190分
第8回	前半の授業の振り返り	事前 テキスト及び自分のノートに目を通し、理解度を確認する 事後 宿題：前半のトピックからひとつ選んで、作文を作成する	80分 190分
第9回	イギリスの演劇 ミュージカルからシェイクスピア、TVドラマまで、なぜイギリス人には演劇が必要なのか	事前 テキスト第8章を読み、その概要を掴むこと 事後 授業スライドを確認し、ネットなどでさらに調べる	80分 190分
第10回	イギリスの美術 ケルト装飾からバンクシーまで、ポートレートと風刺画を中心に各時代の作品を紹介	事前 テキスト第9章を読み、その概要を掴むこと 事後 授業スライドを確認し、ネットなどでさらに調べる	80分 190分
第11回	イギリスの音楽1（最初期） 創造と破壊、統合を繰り返しながら発展するイギリスの音楽	事前 テキスト第10章を読み、その概要を掴むこと 事後 授業スライドを確認し、ネットなどでさらに調べる	80分 190分
第12回	イギリスの音楽2（中世） 音楽好きなキング&クイーンと宮廷・教会音楽の発展、振り回された音楽家たち、他	事前 テキスト第11章を読み、その概要を掴むこと 事後 授業スライドを確認し、ネットなどでさらに調べる	80分 190分
第13回	イギリスの音楽3（産業革命～） 音楽文化を築いた市民パワー、外国出身音楽家たちの活躍、他	事前 テキスト第12章を読み、その概要を掴むこと 事後 授業スライドを確認し、ネットなどでさらに調べる	80分 190分
第14回	イギリスの音楽4（19世紀後半～現代） 哀傷と希望の音楽的リフレクション：世界大戦の影響、クロスオーバーする現代の音楽 他	事前 テキスト第13章を読み、その概要を掴むこと 事後 授業スライドを確認し、ネットなどでさらに調べる	80分 190分
第15回	イギリスの音楽5（ポピュラー音楽） 各地の民謡、ビートルズからアデルまで：ロックの傾向、チャリティーと音楽 他	事前 テキスト第14章を読み、その概要を掴むこと 事後 授業スライドを確認し、ネットなどでさらに調べる	150分 120分

フィードバック 宿題（作文）や各授業後のミニレポートは、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験（作文）40%、宿題（作文）とミニレポート 60%の評価配分を基準とし、授業参画度（課題の実践程度・質疑応答等）を含めて総合的に評価する。

テキスト プリント教材「イギリス文化と芸術」（約700円）

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくはEメールにて相談の上、対応する sishibashi@uenogakuen.ac.jp

備考 リモート授業への切り替えがあった場合や授業の進捗状況等により、シラバスが若干変更する場合があります。その際は直近の授業で案内します。リモート授業に切り替わった場合、動画の視聴は授業外に実施を求めることになります。通信状況が各自違うと思いますので、視聴は任意とします。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

ヨーロッパ芸術論

非常勤講師 内藤俊人

科目コード：HUM201

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2~4年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	オペラとは、音楽の力によって築き上げられる演劇だと言われる。この授業では、まずオペラの原作である文学作品を詳細に読み解き、それを歴史的な脈の中で理解し、あわせてオペラ台本との相違点を明らかにする。原作としての文学作品、台本、オペラ作品。これら3者の比較考察から、オペラに示される音楽の力と文学固有の力とを、それぞれ少しでも深く理解する事ができればと考えている。
到達目標	授業では、書かれたテキスト（原作と台本）を詳細に理解した上で、そのオペラ作品の上演映像をいくつか観る。そして、書かれたテキストが示す内容と実際の舞台上演との間に存在するずれと一致を確かめながら、演出をも含む舞台芸術としてオペラ作品を理解する。

授業計画			
第1回	オペラの歴史とオルペウスの物語	事前 主要なオペラ作品のつくられた時期とその作曲家について調べる。 事後 配布するプリントのオウィディウス『変身物語』抜粋を読み、講義内容を整理する。	120分 150分
第2回	モンテヴェルディの『オルフェオ』	事前 モンテヴェルディとその作品『オルフェオ』について調べる。 事後 『オルフェオ』にみられる「音楽の力」の3つの表現についてまとめる。	120分 150分
第3回	ボーマルシェとは誰か？	事前 ボーマルシェの戯曲『セビーリヤの理髪師』と『フィガロの結婚』のあらすじを調べる。 事後 教室で観る戯曲『フィガロの結婚』の舞台映像について感想をまとめる。	120分 150分
第4回	『フィガロの結婚』を読む（前半）	事前 ボーマルシェの戯曲『フィガロの結婚』第1幕と第2幕を読む。 事後 教室で観るモーツァルト『フィガロの結婚』の映像について感想をまとめる。	120分 150分
第5回	『フィガロの結婚』を読む（後半）	事前 ボーマルシェの戯曲『フィガロの結婚』第3幕～第5幕を読む。 事後 教室で観るモーツァルト『フィガロの結婚』の映像について感想をまとめる。	120分 150分
第6回	ドン・ファン神話の系譜	事前 配布するモリエール『ドン・ジュアン』抜粋を読み、そこに見られる2つの言語観を考察する。 事後 教室で観るモリエール『ドン・ジュアン』の舞台映像について感想をまとめる。	120分 150分
第7回	シャルロットからツェルリーナへ	事前 配布するプリントでモーツァルト『ドン・ジョヴァンニ』のオペラ台本抜粋を読む。 事後 教室で観るモーツァルト『ドン・ジョヴァンニ』の映像について感想をまとめる。	120分 150分
第8回	ラクロとモーツァルト	事前 ラクロ『危険な関係』とモーツァルト『コシ・ファン・トゥッテ』のあらすじを調べる。 事後 教室で観るモーツァルト『コシ・ファン・トゥッテ』の映像について感想をまとめる。	120分 150分
第9回	視覚の文化としての19世紀：バルザックとマイヤベーア	事前 バルザックの小説作品とマイヤベーアのオペラ作品についてその概要を調べておく。 事後 教室で観るマイヤベーア『悪魔のロベール』の映像について感想をまとめる。	120分 150分
第10回	小説の構造：マノン・カルメン・椿姫	事前 小説作品『マノン・レスコー』、『カルメン』、『椿姫』のあらすじを調べる。 事後 3つの小説に共通する語りと回想の構造という点を中心に講義内容をまとめる。	120分 150分
第11回	『椿姫』を読む（前半）	事前 配布するプリントでデュマ・フィスの小説『椿姫』抜粋を読む。 事後 教室で観るデュマ・フィスの戯曲『椿姫』の舞台映像について感想をまとめる。	120分 150分
第12回	『椿姫』を読む（後半）	事前 配布するプリントでオペラ作品の構成を理解しておく。 事後 教室で観るヴェルディ『ラ・トラヴィアータ』の映像について感想をまとめる。	120分 150分
第13回	サロメとオリエンタリズム	事前 ヨーロッパ美術の中に見られるさまざまなサロメのイメージを調べる。 事後 19世紀末になぜ「運命の女」としてのサロメのイメージがあらわれたのかを考える。	120分 150分
第14回	『サロメ』を読む	事前 オスカー・ワイルドの戯曲『サロメ』を読んでおく。 事後 教室で観るオスカー・ワイルド『サロメ』の舞台映像について感想をまとめる。	120分 150分
第15回	『ヘロディア』を読む	事前 配布するプリントでフローベール『ヘロディア』の抜粋を読んでおく。 事後 教室で観るR.シュトラウス『サロメ』の映像について感想をまとめる。	120分 150分

フィードバック 授業時に提出する Reaction Paper にコメントを付して返却する。

成績評価 成績の評価は、授業への取り組み方 40%と学期末に提出するレポート 60%による。

テキスト 教科書は特に用いないが、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ドイツ文化と芸術

非常勤講師 岩下久美子

科目コード：HUM203

対象コース/専門/学年： 全コース/全専門/2~4年次

形態：講義	単位数 2単位
概要	ドイツ文化と芸術を、音楽の領域を中心に据えて様々な角度から考察する。毎回の授業にしっかり取り組み、その時間に得たもの、考えたことなどを、授業後に書く小文の内容に反映させる。

到達目標 概要欄に記した考察をとおして、広く音楽を学ぶにあたっての、また作品を演奏するにあたっての礎を築く一助となることを目標とする。

授業計画 基本的な授業計画は下記の通りであるが、学習状況に応じて前後することがある。事前・事後の学習時間は個人によって異なる（基準：各回 270分）。

第1回	講義のガイダンスと問題提起	事前	ドイツ文化を自分はどう捉えているかを考える。	135分
		事後	ドイツ文化とされるものに、自分が関わる音楽を関係づけて考える。	135分
第2回	ドイツ・オーストリアの文化史と音楽（中世）	事前	配布資料の中世部分を一読する。	135分
		事後	授業を通じて関心を持った点について、書物にあたるなどして知識を広げ、考えを深める。	135分
第3回	ドイツ・オーストリアの文化史と音楽（中世—近世）	事前	配布資料の中世—近世部分を一読する。	135分
		事後	授業を通じて関心を持った点について、書物にあたるなどして知識を広げ、考えを深める。	135分
第4回	ドイツ・オーストリアの文化史と音楽（近世—現代）	事前	配布資料の近世—現代部分を一読する。	135分
		事後	授業を通じて関心を持った点について、書物にあたるなどして知識を広げ、考えを深める。	135分
第5回	ドイツの作曲家とオーストリアの作曲家 / ウィーンと作曲家たち	事前	自分の知っているドイツおよびオーストリアの作曲家を確認する。	135分
		事後	ウィーンという都市の音楽上の特性を確認する。	135分
第6回	詩の韻律とリート 総論	事前	自分が演奏したことのあるリート、鑑賞したことのあるリートを確認する。	135分
		事後	授業を通じて関心を持った点について、書物にあたるなどして知識を広げ、考えを深める。	135分
第7回	詩の韻律とリート ①古典派以前・古典派の詩によるリートの場合	事前	取り上げる詩①の対訳を一読する。	135分
		事後	詩について学びリートを鑑賞した結果、自分の演奏等に参考になる点を確認する。	135分
第8回	詩の韻律とリート ②ゲーテの詩によるリートの場合(1)	事前	取り上げる詩②の対訳を一読する。	135分
		事後	詩について学びリートを鑑賞した結果、自分の演奏等に参考になる点を確認する。	135分
第9回	詩の韻律とリート ③ゲーテの詩によるリートの場合(2)	事前	取り上げる詩③の対訳を一読する。	135分
		事後	詩について学びリートを鑑賞した結果、自分の演奏等に参考になる点を確認する。	135分
第10回	詩の韻律とリート ④ロマン派の詩によるリートの場合	事前	取り上げる詩④の対訳を一読する。	135分
		事後	詩について学びリートを鑑賞した結果、自分の演奏等に参考になる点を確認する。	135分
第11回	詩の韻律とリート ⑤ロマン派後の詩によるリートの場合	事前	取り上げる詩⑤の対訳を一読する。	135分
		事後	詩について学びリートを鑑賞した結果、自分の演奏等に参考になる点を確認する。	135分
第12回	オペラのテキストに含まれる諸テーマ ① R・シュトラウス作曲「ばらの騎士」(前半)	事前	該当部分のあらすじを一読する。	135分
		事後	授業を通じて関心を持った点について、書物にあたるなどして知識を広げ、考えを深める。	135分
第13回	オペラのテキストに含まれる諸テーマ ② R・シュトラウス作曲「ばらの騎士」(後半)	事前	該当部分のあらすじを一読する。	135分
		事後	授業を通じて関心を持った点について、書物にあたるなどして知識を広げ、考えを深める。	135分
第14回	オペラのテキストに含まれる諸テーマ ① A・ベルク作曲「ルル」(前半)	事前	該当部分のあらすじを一読する。	135分
		事後	授業を通じて関心を持った点について、書物にあたるなどして知識を広げ、考えを深める。	135分
第15回	オペラのテキストに含まれる諸テーマ ② A・ベルク作曲「ルル」(後半)	事前	該当部分のあらすじを一読する。	135分
		事後	授業を通じて関心を持った点について、書物にあたるなどして知識を広げ、考えを深める。	135分

フィードバック 前回の講義内容を確認し、必要に応じて小文の内容にコメントを加えることによりフィードバックする。

成績評価 毎時間、小文を書いてもらい、それを成績判定の基準とする。

テキスト 必要に応じて参照資料を配布する。

オフィスアワー 簡単な質問・相談等は授業終了後に、相当な時間を要する質問・相談等は個々に時間を打ち合わせた上で実施する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

ピアノ教育法

教授 山崎紫乃／准教授 星子知美／准教授 干野宜大

科目コード：EDU403

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／ピアノ専門／4年次、GLAコース／音楽教育専門／2～4年次

形態：実習

単位数：2単位

概要 【星子】ピアノ学習者の年齢層、学習環境、目的などは年々多様化しており、指導にも柔軟性や工夫が必要となってきた。この授業では様々なケースについて留意点を整理し問題解決法を考案しながら、指導の可能性について考える。
 【山崎】アンドラゴジー（成人教育）についての考え方を学び、それをどのようにピアノ教育に生かしていけるかを様々な角度から考える授業である。
 【干野】自信を持って後進へのアドバイスが出来るように、楽譜の中の作曲家のメッセージを的確に読み取れるように考え研究していく。

到達目標 【星子】ピアノ教育についての知識を会得し、自ら考察して、実践的なピアノ指導の力を養う。
 【山崎】少子高齢化が進む中、高齢になってからピアノを始める人も増えている。また、大人を対象とした教室は生徒数を増やしている。子供とは違った工夫も必要な大人に対する指導について、様々な角度から考え、その指導力を養う。
 【干野】音楽やピアノへの親しみや喜びを後進に伝えるという事は、ピアノ教育導入時を含め大きな責任をとまなう。しっかりとした理由と音楽への理解を指導者が持っている事の大切さの認識と自覚を授業を通して養っていく。

授業計画

第1回	【星子】ピアノ教育の留意点と導入・初心者の指導	事前 自分が受けてきたピアノ教育について様々な視点で考え、使用した教材を見直す 事後 指導者の役割、教育の目的について考える	135分 135分
第2回	【星子】読譜・技術訓練・奏法・表現と教材研究①幼児	事前 幼児の指導において着眼すべき点を考え、教材・課題を予習する 事後 授業前の自分の考えをふり返り、授業の内容を基に指導の方法をシミュレーションする	135分 135分
第3回	【星子】読譜・技術訓練・奏法・表現と教材研究②中級	事前 中級者の指導において着眼すべき点を考え、教材・課題を予習する 事後 授業前の自分の考えをふり返り、授業の内容を基に指導の方法をシミュレーションする	135分 135分
第4回	【星子】読譜・技術訓練・奏法・表現と教材研究③上級	事前 上級者の指導において着眼すべき点を考え、教材・課題を予習する 事後 授業前の自分の考えをふり返り、授業の内容を基に指導の方法をシミュレーションする	135分 135分
第5回	【星子】ピアノ教室開室と運営	事前 ピアノ教室開室と運営の方法と可能性を考えておく 事後 これまでの授業をふり返り、指導の可能性をまとめる	135分 135分
第6回	【山崎】大人に対するピアノ教育の現状	事前 事後 復習をしておく	分 280分
第7回	【山崎】身体的方面からの指導の工夫と留意点とアンドラゴジーの考え方について	事前 前回の授業内容の確認 事後 復習をしておく	140分 140分
第8回	【山崎】教材研究 検証と考察	事前 前回までの授業内容を確認しておく 事後 グループごとに、次回の授業で発表する内容をまとめておく	140分 140分
第9回	【山崎】教材研究 発表と議論	事前 グループごとに、発表内容の確認 事後 他のグループの意見を踏まえ、各グループの考察内容をまとめる	140分 140分
第10回	【山崎】大人のピアノ教育における可能性	事前 これまでの授業を踏まえ、自らの意見を考えておく 事後 授業の復習と、自分なりの意見をまとめる	140分 140分
第11回	【干野】音楽との出会い：年齢に合わせたサポート方法を探る奏法（力の伝達等）の指導法について	事前 事後 講義後に授業で扱った楽曲、又は自分が勉強中の楽曲で実践する	分 280分
第12回	【干野】音楽上の文法(1) の理解	事前 講義前に伝えた楽曲の楽譜を準備し、予習する 事後 講義内容の復習と演奏上でそれがどう反映するかを確認する	140分 140分
第13回	【干野】音楽上の文法(2) の指導法を考える	事前 前回の講義で理解した事を第三者にどのように伝えられるかをシミュレーションする 事後 講義前にシミュレーションした指導法が的確であったかどうかを考える	140分 140分
第14回	【干野】楽譜を読み解く：作曲家の意図、理由と方法を導く	事前 講義前に伝えた楽曲の楽譜を用いて第3回までの内容を復習する 事後 講義で扱った楽曲をより多面的な楽譜の読み方を試み理解する	140分 140分
第15回	【干野】教材研究とまとめ	事前 実践的なレッスンをシミュレーションし、アドバイスすべき内容がある程度決めておく 事後 全5回の講義の内容をまとめ、自らのピアノ実技に役立てていく	140分 140分

フィードバック 【星子】授業での課題とレポートについて、コメント及び解説等により学修成果をフィードバックする。
 【山崎】授業内で書いたレポートに対し、コメントによりフィードバックする。
 【干野】レポート（全5回の講義を経て学んだ事について）を課し、コメントによりフィードバックする。

成績評価

※山崎教授、星子准教授、干野准教授による総合評価。
 授業への取り組み方、授業態度等による。

テキスト

【星子】随時授業内で発表
 【山崎】必要に応じてプリントを配布する
 【干野】その都度例に取り上げる楽曲を発表

オフィスアワー

授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング

ピアノレッスンにおいて想定できる問題点について、どのように対処できるか、その方法・可能性を少人数制のグループごとに考察・発表

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>					

室内楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

※注※器楽での履修に限る

教授 三上明子／准教授 池田雄彦／准教授 櫻井茂／准教授 安田正昭

科目コード：ENS118／ENS218
ENS318

対象コース／専門／学年：器楽・声楽コース／全専門／2～4年次 グローバル教養コース／全専門／2～4年次（但し賛助として参加する場合は、学年、コースを問わない）

形態：実習 単位数：2単位

概要 「室内楽」は、あらゆる合奏形態の核になるものであり、各楽器間のコミュニケーション、アンサンブルの基礎技術等をグループを組んで履修する学生が受け身でなく、能動的に習得していく授業である。

到達目標 器楽を専門とする学生または同等程度の器楽演奏の実力を有する他専門の学生を対象として、原則3人以上のグループによって行う。各楽器間のコミュニケーションやアンサンブルの技術は様々な形態の合奏において基本になるものであり、そのエッセンスを学んでいく。作品解釈のコンセプト統一やアンサンブルの精度を磨くこと、パートごとのコミュニケーション等の室内楽の本質的なことが、授業以上に各グループ学生間の日頃の練習にかなりの部分が委ねられている。この室内楽授業では、一人ひとりが受け身でなく、主体的な態度で取り組むことが望まれる。

授業計画 4月のガイダンスには、予めグループ（3人以上）を編成した上で、全員が参加すること。【備考】15回の授業を原則個人レッスンとして行い、前期、後期に各1回ある集中授業参加により、個人レッスン各3回分、計6回受講したこと見なす。よって集中授業参加の場合、残り9回の個人レッスン受講によって試験を受ける資格を得る。各回の授業内容に関しては受講グループによって異なるので、詳細はグループごとにガイダンスの際に計画していく。

第1回	A～F各グループ（6グループの履修を仮定）で 選んだ作品の全体俯瞰と目標設定をする。	事前 選んだ作品の時代背景、様式、作曲者に関して調べる。 事後 最初の授業（レッスン）で指摘されたポイントを復習	140分 140分
第2回	各作品、各楽章ごとの問題点諸々を抽出する。	事前 各グループ内で問題点を考察 事後 レッスンで指摘された問題点をピックアップして練習	140分 140分
第3回	第1楽章のアンサンブル上での技術的問題、表現の工夫等考察する。	事前 第1楽章のアンサンブル上の問題を練習する。 事後 アンサンブル上の技術課題に加えて、表現の工夫をする。	140分 140分
第4回	第2楽章のアンサンブル上での技術的問題、表現の工夫等考察する。	事前 第2楽章のアンサンブル上の問題を練習する。 事後 アンサンブル上の技術課題に加えて、表現の工夫をする。	140分 140分
第5回	前期集中授業（マスタークラス方式で公開演奏／A,Bグループ）	事前 A,Bグループ、公開演奏ということ踏まえ、アンサンブル技術の練磨、表現を研究する。 事後 公開演奏の反省（アンサンブル技術、表現共に）	140分 140分
第6回	前期集中授業（マスタークラス方式で公開演奏／C,Dグループ）	事前 C,Dグループ、公開演奏ということ踏まえ、アンサンブル技術の練磨、表現を研究する。 事後 公開演奏の反省（アンサンブル技術、表現共に）	140分 140分
第7回	前期集中授業（マスタークラス方式で公開演奏／E,Fグループ）	事前 D,Eグループ、公開演奏ということ踏まえ、アンサンブル技術の練磨、表現を研究する。 事後 公開演奏の反省（アンサンブル技術、表現共に）	140分 140分
第8回	第3楽章のアンサンブル上での技術的問題、表現の工夫等考察する	事前 第3楽章のアンサンブル上の問題を練習する。 事後 アンサンブル上の技術課題に加えて、表現の工夫をする。	140分 140分
第9回	第4楽章のアンサンブル上での技術的問題、表現の工夫等考察する。	事前 第4楽章のアンサンブル上の問題を練習する。 事後 アンサンブル上の技術課題に加えて、表現の工夫をする。	140分 140分
第10回	第1,2楽章の復習	事前 第3,4回の授業を踏まえて、より高度な表現を目指す。 事後 全楽章の中での第1,2楽章の位置づけを認識して諸問題を解決する。	140分 140分
第11回	第3,4楽章の復習	事前 第8,9回の授業を踏まえて、より高度な表現を目指す。 事後 全楽章の中での第3,4楽章の位置づけを認識して諸問題を解決する。	140分 140分
第12回	後期集中授業（マスタークラス方式で公開演奏／A,Bグループ）	事前 第5回集中授業で得られた課題を中心に問題解決をしていく。 事後 全楽章を通して、各楽章の性格付けを明確にし、技術・表現共に高いレベルを目指す。	140分 140分
第13回	後期集中授業（マスタークラス方式で公開演奏／C,Dグループ）	事前 第6回集中授業で得られた課題を中心に問題解決をしていく。 事後 全楽章を通して、各楽章の性格付けを明確にし、技術・表現共に高いレベルを目指す。	140分 140分
第14回	後期集中授業（マスタークラス方式で公開演奏／E,Fグループ）	事前 第7回集中授業で得られた課題を中心に問題解決をしていく。 事後 全楽章を通して、各楽章の性格付けを明確にし、技術・表現共に高いレベルを目指す。	140分 140分
第15回	全楽章仕上げ及びまとめ（単位認定演奏会）	事前 演奏会本番に向けた演奏内容の調整 事後 本番演奏後の課題（演奏内容、ステージの立ち居振る舞い他）の反省を行う。	140分 140分

フィードバック 各グループは、単位認定演奏会を通して、授業（レッスン）で課されたことを学修成果としてフィードバックされる。

成績評価 単位認定演奏会の演奏によって、履修者一人一人を評価する。

テキスト 受講曲目に関してパート譜はグループごとに準備し、スコアは授業開始までに担当教員者分をコピーし、大学事務部に提出すること。受講曲目は、原則としてガイダンス又は授業開始前の相談で決めた作品で一年間演習する。やむを得ない事情で曲目を変更する場合、予め相談すること。相談なしでの変更は認めない。

オフィスアワー 授業終了後

備考 原則として、賛助も含めて学部学生によってグループを編成すること。ガイダンス以前のグループ編成、曲目等に関する相談は上記オフィスアワーにて行う。また曲目について確定していない場合、ガイダンスの場でも相談可能。なお、ガイダンスに不参加のグループは履修を認めない。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

オーケストラ I-1・II-1・III-1・IV-1

オーケストラ担当教員

科目コード：ENS120／ENS219
ENS319／ENS416

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／全専門／1～4 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 管弦打楽器による最大の合奏形態が「オーケストラ」であり、古今東西、大作曲家たちが多種多様な作品を残している。オーケストラの授業を通して、様々な作品の時代様式、作曲技法、また、管弦打各楽器の奏法の技術、アンサンブルのエッセンス等、器楽演奏芸術の全てが学べると言っても過言ではない。

到達目標

アンサンブルにおいて個々の能力の向上、又全体としてはアンサンブルにおいての質の向上にアプローチする。学生には、オーケストラ現場でのより実践的なテクニックを各オーケストラ担当教員を通じて、学んで頂きたい。

授業計画

オーケストラ演奏技術の習得のみならず、作品への深い理解と知識を通して、常に創造的なイメージを持って、楽曲に取り組む。今年度演習予定曲は、昨年度に引き続きウィーン古典派のベートーヴェンの交響曲（第 2 番 ニ長調 Op.36）と、同じくウィーンで活躍したロマン派の巨匠ブラームスの大学祝典序曲 Op.80 を中心としたプログラムで 2 回の演奏会（11/18、12/10）を予定している。それ以外の授業での曲目は後日、掲示で伝達する。なお今年度はオーケストラスタディは開講しないので基本的に履修学生全員、第 1 リハーサル室に授業時に参集すること。

第 1 回	ガイダンス	事前 今年度取り上げる楽曲に関しての知識を習得しておく。 事後 ガイダンス中でのオーケストラ授業履修で心掛けること他、注意ポイントを再度確認、認識する。	50 分 50 分
第 2 回	ベートーヴェン：交響曲第 2 番 全体把握、(ブラームス：大学祝典序曲)	事前 ベートーヴェン（交響曲）ポイント把握、作品に関しての知識を習得しておく。 事後 作品全体を俯瞰した今回の授業での問題点を認識、復習をする。	50 分 50 分
第 3 回	ベートーヴェン：交響曲第 2 番（第 1,2 楽章）、(ブラームス：大学祝典序曲)	事前 前回、大きく概観した作品の中、今回授業で取り上げる第 1,2 楽章での技術課題の予習、練習をする。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 4 回	ベートーヴェン：交響曲第 2 番（第 3,4 楽章）、(ブラームス：大学祝典序曲)	事前 交響曲（第 3,4 楽章）での技術課題の予習、練習をする。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 5 回	分奏（ベートーヴェン：交響曲第 2 番）	事前 弦楽器と管打楽器に分れての授業に先立ち、各セクションの問題点、課題に応じた予習をする。 事後 セクションごとの問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 6 回	ブラームス：大学祝典序曲 Op.80	事前 楽曲に関しての知識を習得しておく。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 7 回	ブラームス：大学祝典序曲 Op.80	事前 技術課題の予習、練習をする。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 8 回	ブラームス：大学祝典序曲 Op.80	事前 技術課題の予習、練習をする。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 9 回	ベートーヴェン：交響曲第 2 番	事前 アンサンブル上の問題を考察、予習する。 事後 セクションごとの問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 10 回	ベートーヴェン：交響曲第 2 番	事前 アンサンブル上の問題を考察、予習をする。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 11 回	分奏（ベートーヴェン）	事前 各セクションの問題点、課題に応じた予習をする。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 12 回	分奏（ブラームス）	事前 各セクションの問題点、課題に応じた予習をする。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 13 回	ベートーヴェン：交響曲第 2 番、ブラームス：大学祝典序曲 Op.80	事前 前週に分奏での課題を合奏で確認する。 事後 セクションごとの問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 14 回	ベートーヴェン：交響曲第 2 番、ブラームス：大学祝典序曲 Op.80	事前 これまでの練習内容を復習する。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 15 回	ベートーヴェン：交響曲第 2 番、ブラームス：大学祝典序曲 Op.80	事前 これまでの練習内容を復習する。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分

フィードバック オーケストラ授業の場合、授業の成果として今年度 2 回の演奏会によって多種課題はフィードバックされる。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト ※スコア（予め各自で用意しておくこと）
授業計画に記した今年度の各曲目(オケスタも含めて)のスコアを予め準備し、授業の際に必ず携行すること。
(入手し難いスコアの関しては、相談すること)

オフィスアワー 質問は授業休憩時、終了時に対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

オーケストラ I-2・II-2・III-2・IV-2

オーケストラ担当教員

科目コード：ENS121／ENS220
ENS320／ENS417

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／全専門／1～4 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 管弦打楽器による最大の合奏形態が「オーケストラ」であり、古今東西、大作曲家たちが多種多様な作品を残している。オーケストラの授業を通して、様々な作品の時代様式、作曲技法、また、管弦打各楽器の奏法の技術、アンサンブルのエッセンス等、器楽演奏芸術の全てが学べると言っても過言ではない。

到達目標 アンサンブルにおいての個々の能力の向上、又全体としてはアンサンブルにおいての質の向上にアプローチする。学生には、オーケストラ現場でのより実践的なテクニックを各オーケストラ担当教員を通じて、学んで頂きたい。

授業計画

第 1 回	協奏曲、ベートーヴェン、ブラームス	事前	ベートーヴェン作品の技術面以外の表現ニュアンス等を含めて考察、予習をする。	50 分
		事後	授業での問題点、課題を復習する。	50 分
第 2 回	協奏曲、ベートーヴェン、ブラームス	事前	ドビュッシー、バルトークの技術面以外の表現ニュアンスを含めて考察、予習をする。	50 分
		事後	授業での問題点、課題を復習する。	50 分
第 3 回	定期演奏会リハーサル (ベートーヴェン/ブラームス/協奏曲)	事前	技術と表現の融合を目指し、セクション及び全体でのアンサンブルの問題を解決する (I)	50 分
		事後	演奏会本番に向けての課題を認識する (I)	50 分
第 4 回	定期演奏会リハーサル (ベートーヴェン/ブラームス/協奏曲)	事前	技術と表現の融合を目指し、セクション及び全体でのアンサンブルの問題を解決する (II)	50 分
		事後	演奏会本番に向けての課題を認識する (II)	50 分
第 5 回	定期演奏会リハーサル (ベートーヴェン/ブラームス/協奏曲)	事前	技術と表現の融合を目指し、セクション及び全体でのアンサンブルの問題を解決する (III)	50 分
		事後	演奏会本番に向けての課題を認識する (III)	50 分
第 6 回	定期演奏会リハーサル (ベートーヴェン/ブラームス/協奏曲)	事前	技術と表現の融合を目指し、セクション及び全体でのアンサンブルの問題を解決する (IV)	50 分
		事後	演奏会本番に向けての課題を認識する (IV)	50 分
第 7 回	定期演奏会 (ベートーヴェン/ブラームス/協奏曲)	事前	今までの練習してきたことのとまとめと問題ポイントを絞り、練習をする。	50 分
		事後	授業と異なる公開演奏の際の諸問題を認識する (I)	50 分
第 8 回	音大オーケストラフェスティバル演奏会 (ベートーヴェン/協奏曲)	事前	オーケストラ定期演奏会本番の課題、問題点を認識する。	50 分
		事後	授業と異なる公開演奏の際の諸問題を認識する (II)	50 分
第 9 回	未定	事前	各協奏曲作品についての知識を習得と譜読みをしておく。	50 分
		事後	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50 分
第 10 回	未定	事前	協奏曲プログラム前半曲の技術課題の認識と予習、練習をする。	50 分
		事後	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50 分
第 11 回	未定	事前	協奏曲プログラム後半曲の技術課題の認識と予習、練習をする。	50 分
		事後	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50 分
第 12 回	未定	事前	協奏曲前半作品の分奏授業に先立ち、各セクションの問題点、課題に応じた予習をする。	50 分
		事後	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50 分
第 13 回	未定	事前	協奏曲後半作品の分奏授業に先立ち、各セクションの問題点、課題に応じた予習をする。	50 分
		事後	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50 分
第 14 回	未定	事前	協奏曲におけるソロ楽器との、またオーケストラ内のアンサンブルの問題を考察、予習をする。	50 分
		事後	授業での問題点、課題を復習する。	50 分
第 15 回	未定	事前	今までの練習してきた協奏曲作品のまとめと問題ポイントを絞り、練習をする。	50 分
		事後	演奏会本番時のソリストとのアンサンブルの問題等を振り返り、問題点を認識する。	50 分

フィードバック オーケストラ授業の場合、授業の成果として今年度 2 回の演奏会によって多種課題はフィードバックされる。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト ※スコア (予め各自で用意しておくこと)
授業計画に記した今年度の各曲目(オケスタも含めて)のスコアを予め準備し、授業の際に必ず携行すること。
(入手し難いスコアの関しては、相談すること)

オフィスアワー 質問は授業休憩時、終了時に対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ウィンド・アンサンブル I-1・II-1・III-1・IV-1

ウィンド・アンサンブル担当教員

科目コード：ENS122／ENS221

ENS321／ENS418

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4年次

形態：実習

単位数 1単位

概要 多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標 年2回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。

授業計画 履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。

第1回	酒井格「たなばた」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50分 50分
第2回	P. グレンジャー「ヒル・ソング 第2番」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50分 50分
第3回	R. ウィリアムス「イギリス民謡組曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50分 50分
第4回	F. J. ゴセック「古典序曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50分 50分
第5回	J. S. バッハ「小フーガ」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50分 50分
第6回	D. B. カバレフスキー「組曲『道化師』」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50分 50分
第7回	酒井格「たなばた」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50分 50分
第8回	P. グレンジャー「ヒル・ソング 第2番」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50分 50分
第9回	R. ウィリアムス「イギリス民謡組曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50分 50分
第10回	F. J. ゴセック「古典序曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50分 50分
第11回	J. S. バッハ「小フーガ」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50分 50分
第12回	D. B. カバレフスキー「組曲『道化師』」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50分 50分
第13回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50分 50分
第14回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50分 50分
第15回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50分 50分

フィードバック 音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応します。予約も可能。

備考 曲目を変更する可能性がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的意欲	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

ウィンド・アンサンブル I-2・II-2・III-2・IV-2

ウィンド・アンサンブル担当教員

科目コード：ENS123／ENS222

ENS322／ENS419

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4年次

形態：実習

単位数 1単位

概要 多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標 年2回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。

授業計画 履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。

第1回	J. H. ビリック「ブロック M」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50分 50分
第2回	G. ホルスト「組曲 第1番」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50分 50分
第3回	G. ホルスト「組曲 第2番」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50分 50分
第4回	W. A. モーツァルト『魔笛』序曲	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50分 50分
第5回	J. S. バッハ「主よ人の望みの喜びよ」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50分 50分
第6回	J. S. バッハ「トッカータとフーガ」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50分 50分
第7回	J. H. ビリック「ブロック M」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50分 50分
第8回	G. ホルスト「組曲 第1番」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50分 50分
第9回	G. ホルスト「組曲 第2番」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50分 50分
第10回	W. A. モーツァルト『魔笛』序曲	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50分 50分
第11回	J. S. バッハ「主よ人の望みの喜びよ」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50分 50分
第12回	J. S. バッハ「トッカータとフーガ」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50分 50分
第13回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50分 50分
第14回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50分 50分
第15回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50分 50分

フィードバック 音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応します。予約も可能。

備考 曲目を変更する可能性がある

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

ピアノ伴奏法（基礎）b

※教育職員免許状取得に関わる科目

准教授 星子知美

科目コード：ENS306

対象コース／専門／学年： 器楽・声楽・演奏家コース／ピアノ専門以外の器楽・声楽専門／3 年次、GLA コース／音楽教育専門／3～4 年次

形態：演習

単位数：2 単位

概要 伴奏法（基礎）b では、日頃、伴奏をしてもらった側からのアンサンブル追求となる。自分自身が実際に伴奏する立場になって伴奏を経験することにより、楽曲の全体像を捉える能力を養い、楽曲の理解を深めることを目的とする。伴奏の役割を分析することで、優れた伴奏に求められる諸要素を考察する。また、簡単な楽曲による初見力の育成も図っていく。

到達目標 正しい和声感・リズム感を持って、幅広いスタイルに対応できる伴奏技術を身につける。特に、教育実習や音楽教育の現場で必要とされる適応力の習得を目標とする。

授業計画

回	内容	事前	事後	時間
第 1 回	オリエンテーション 学習計画の説明 “伴奏”について考える	ピアノ演奏の準備（音階、アルペジオ等）・これまでの伴奏の経験を振り返る	“伴奏”のポイントをまとめ、理解を深める	135 分
第 2 回	日本歌曲①（滝廉太郎：荒城の月、花） ②日本歌曲の歴史と特色を学ぶ	日本歌曲の歴史を調べる・歌曲①の詩を理解しながら、課題曲の譜読みをする	授業内容の反復練習	180 分 90 分
第 3 回	日本歌曲（山田耕筰：待ちぼうけ、赤とんぼ、この道 等） 演奏手法の習得	歌詞の意味を理解しながら、課題曲の譜読みをする	授業内容の反復練習	180 分 90 分
第 4 回	日本歌曲（椰子の実、浜辺の歌、夏の思い出 等） 表現法及び詩の解釈の追求	歌詞の意味を理解しながら、課題曲の譜読みをする	授業内容の反復練習	180 分 90 分
第 5 回	日本歌曲（椰子の実、浜辺の歌、夏の思い出 等） 演奏手法の習得	課題曲のメロディーを歌えるようにする	弾きながら歌う練習をする	135 分 135 分
第 6 回	イタリア古典歌曲（アマリッリ、虚ろな心、カーロ・ミオ・ベン） ルネサンス、バロック時代様式の特徴を学ぶ	課題曲の譜読みをする	授業内容の反復練習	180 分 90 分
第 7 回	イタリア古典歌曲（アマリッリ、虚ろな心、カーロ・ミオ・ベン） 楽曲の形式及び演奏法（読譜力を伸ばす）	初見視奏の練習をしておく	授業内容の反復練習	180 分 90 分
第 8 回	イタリア古典歌曲（アマリッリ、虚ろな心、カーロ・ミオ・ベン） 歌曲のテキスト内容の解釈	イタリア語の歌詞の意味を調べ、課題曲を準備する	授業内容の反復練習	180 分 90 分
第 9 回	イタリア古典歌曲（アマリッリ、虚ろな心、カーロ・ミオ・ベン） 表現の掘り下げ	課題曲のメロディーを歌う	弾きながら歌う練習をする	135 分 135 分
第 10 回	ドイツ歌曲（モーツァルト、ベートーヴェンの作品） 歌とピアノ伴奏によるドイツ・リートを学ぶ	課題曲の譜読みをする	授業内容の反復練習	180 分 90 分
第 11 回	ドイツ歌曲（モーツァルト、ベートーヴェンの作品） 古典派からロマン派へ様式研究	ドイツ語の歌詞の意味を調べ、メロディーを歌う	授業内容の反復練習	180 分 90 分
第 12 回	ドイツ歌曲（シューベルト、シューマンの作品） 歌曲のテキストから音楽表現へ	ドイツ語の歌詞の意味を調べ、課題曲の譜読みをする	授業内容の反復練習	180 分 90 分
第 13 回	ドイツ歌曲（シューベルト、シューマンの作品） 歌とピアノの楽曲における役割分析	弾きながら歌う練習をする	授業内容の反復練習	180 分 90 分
第 14 回	フランス歌曲（ビゼー、フォーレ等の作品） 演奏表現の追求	フランス語の歌詞の意味を調べ、課題曲を準備する	授業内容の反復練習	180 分 90 分
第 15 回	伴奏法（仕上げとまとめ）・演奏の発表と振り返り	これまでの授業内容をまとめ、課題曲・レポートを準備する	演奏の発表と振り返りを通して問題点と課題を把握し、まとめをする	240 分 30 分

フィードバック 授業での課題や演奏試験についてのコメントにて、また、レポートについて添削や解説により学修成果をフィードバックする

成績評価 授業への積極的な取り組み、実技試験、レポートにより総合的に評価する（取り組み 30%、試験 50%、レポート 20%）

テキスト 配布する履修予定に従い、課題を準備する。その他、必要に応じてプリント等を配布する。

オフィスアワー 授業終了後、研究室で受け付ける

アクティブ・ラーニング 学生同士演奏を聴き合い、改善点や良かったところをディスカッションする

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的意識	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

声楽特殊演習 (オペラ)-1

教授 吉田伸昭

科目コード: IND307

対象コース/専門/学年: 声楽・演奏家コース/声楽専門/3~4 年次

形態: 演習

単位数: 2 単位

概要 それぞれ声に合ったオペラのシーンを選び、音楽稽古を重ねた後に実際に演技を伴いながら演唱する。

到達目標 オペラは身体表現を伴った歌唱芸術である。自己を開放し、感情を外へ向かってより大きく表現する必要がある。オペラを実習することは、歌曲、オラトリオ等の演奏における表現の幅を広げることにもつながる。オペラ実習を通して舞台での基礎的な演技、発語法、表現法を身に付ける。

授業計画 モーツァルトのオペラ 「フィガロの結婚」、「コジ・ファン・トゥッテ」、「ドン・ジョヴァンニ」
レチタティヴオ・セッコも学ぶ

第 1 回	試聴会 声を聴き、それぞれに合ったオペラのシーンを決める	事前 オペラのアリア、または歌曲を各自 1 曲準備する 事後 楽譜の準備をする	170 分 100 分
第 2 回	立ち方、歩き方などオペラにおける基本的な動作を学ぶ	事前 課題となったオペラについて知識を深め、音取りをする 事後 授業の復習	170 分 100 分
第 3 回	モーツァルトのオペラの研究	事前 課題となったオペラについて知識を深め、音取りを確かなものにする 事後 立ち方、歩き方などを確かめる	170 分 100 分
第 4 回	音取り	事前 言葉の意味を調べる 事後 発音練習	170 分 100 分
第 5 回	音取り、並びにディクシオンの確認	事前 音程を確かにし、発音の練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 6 回	音楽稽古	事前 音楽練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 7 回	音楽稽古 音楽的な内容を深める	事前 音楽練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 8 回	音楽稽古 暗譜の確認	事前 暗譜で歌えるように音楽練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 9 回	粗立稽古	事前 演技プランを練る 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 10 回	立稽古	事前 立稽古を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 11 回	立稽古 演技の内容を深める	事前 立稽古を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 12 回	立稽古 完成度を高める	事前 立稽古を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 13 回	通し稽古	事前 立稽古を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 14 回	試演会に向けた総練習	事前 立稽古を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 15 回	試演会	事前 立稽古を重ねる 事後 録画を観て良かった点、問題点を確認する	170 分 100 分

フィードバック 試演会を実施した後、お互いでコメントし合い次回への取り組みに活かす

成績評価 試演会での演奏 70%、授業への積極的な取り組み 30%

テキスト 各々の声、キャラクターを考慮し、モーツァルトのオペラのシーンを選び指示する。必要に応じてコピーを配布する。

オフィスアワー E メール mozart-trazom@nifty.com および授業前後、教室にて。

備考 インスペクターを決め、欠席、遅刻等の事前連絡を徹底する。また、当該学年の声楽専攻の学生だけでなく、他学年の声楽専攻の学生、オペラに興味のある他の専攻学生の聴講を歓迎する

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

声楽特殊演習(オペラ)-2

教授 吉田伸昭

科目コード: IND308

対象コース/専門/学年: 声楽・演奏家コース/声楽専門/3~4 年次

形態: 演習

単位数: 2 単位

概要 それぞれの声に合ったオペラのシーンを選び、音楽稽古を重ねた後に実際に演技を伴いながら演唱する。

到達目標 前期で学んだことを通して、オペラにおける歌唱、演技を発展させる
オペラに関する知識も深める

授業計画 ロマン派のオペラ ロッシーニ、ドニゼッティ、ヴェルディ、プッチーニ、メノッティ等

第 1 回	作品研究	事前 課題となったオペラについて知識を深め、音取りをする 事後 授業の復習	170 分 100 分
第 2 回	音取り、並びにディクソン	事前 言葉の意味を調べる 事後 発音練習	170 分 100 分
第 3 回	音取り、並びにディクソンの確認	事前 音程を確かにし、発音の練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 4 回	音楽稽古	事前 音楽練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 5 回	音楽稽古 音楽的な内容を深める	事前 音楽練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 6 回	音楽稽古 暗譜の確認	事前 音楽練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 7 回	粗立稽古	事前 演技プランを練る 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 8 回	立稽古	事前 立稽古を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 9 回	立稽古 演技の内容を深める	事前 立稽古を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 10 回	立稽古 完成度を高める	事前 立稽古を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 11 回	通し稽古	事前 立稽古を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 12 回	通し稽古の直し	事前 立稽古を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 13 回	試演会に向けた総練習	事前 立稽古を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 14 回	総練習の直し	事前 立稽古を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 15 回	試演会	事前 立稽古を重ねる 事後 録画を観て良かった点、問題点を確認する	170 分 100 分

フィードバック 試演会を実施した後、お互いでコメントし合い次回への取り組みに活かす

成績評価 試演会での演奏 70%、授業への積極的な取り組み 30%

テキスト 各々の声、キャラクターを考慮し、ロマン派のオペラのシーンを選び指示する。必要に応じてコピーを配布する

オフィスアワー E メール mozart-trazom@nifty.com および授業前後、教室にて。

備考 インスペクターを決め、欠席、遅刻等の事前連絡を徹底する。また、当該学年の声楽専攻の学生だけでなく、他学年の声楽専攻の学生、オペラに興味のある他の専攻学生の聴講を歓迎する

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

声楽特殊演習（ドイツ歌曲）

教授 吉田伸昭

科目コード：IND307

対象コース／専門／学年： 声楽コース／2～4 年次、演奏家コース／声楽専門／2～4 年次

形態：演習

単位数：2 単位

概要 課題曲に加え、各々が選んだドイツ歌曲をピアニストとのデュオの形態で演習する。

到達目標 初めてドイツ歌曲に取り組む学生を考慮し、歌唱のためのドイツ語の発音を中心に学ぶ。比較的歌いやすい作品を選び、ドイツ語の歌唱を実践する。それぞれの作品、作曲家、詩人への理解を深める。

授業計画 モーツァルト、シューベルト、シューマン等の歌曲の中から各受講者の声に合った曲を選び、それぞれ3～5曲を目標に演習する。課題曲以外で各々が選んだドイツ歌曲を演習する

第1回	試験会、曲決め ドイツ語の発音法	事前 ドイツ歌曲(初心者にはイタリア語の作品でも良い)を1曲準備する 事後 ドイツ語の発音法の復習	200分 70分
第2回	シューベルトの歌曲 ① 作品研究と歌唱実践	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 70分
第3回	シューベルトの歌曲 ② 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲の発音練習を重ねながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 70分
第4回	シューベルトの歌曲 ③ 内容を深め仕上げる	事前 課題曲の詩の意味に合った表現を考えながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 70分
第5回	モーツァルトの歌曲 ① 作品研究と歌唱実践	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 70分
第6回	モーツァルトの歌曲 ② 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲の発音練習を重ねながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 70分
第7回	モーツァルトの歌曲 ③ 内容を深め仕上げる	事前 課題曲の詩の意味に合った表現を考えながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 70分
第8回	シューマン、ブラームス歌曲 ① 作品研究と歌唱実践	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 70分
第9回	シューマン、ブラームス歌曲 ② 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲の発音練習を重ねながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 70分
第10回	シューマン、ブラームス歌曲 ③ 内容を深め仕上げる	事前 課題曲の詩の意味に合った表現を考えながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 70分
第11回	各自選択曲 ① 作品研究と歌唱実践	事前 選択曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 70分
第12回	各自選択曲 ② 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 選択曲の発音練習を重ねながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 70分
第13回	各自選択曲 ③ 内容を深め仕上げる	事前 選択曲の詩の意味に合った表現を考えながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 70分
第14回	発表会のための練習	事前 発表する曲を選び、発音、詩の内容に留意しながら歌唱練習をする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 70分
第15回	発表会(作品研究の発表、並びに演奏)	事前 伴奏者と合わせを重ね発表会の準備をする 事後 録音を聴き反省	200分 70分

フィードバック 発表会後に合評し、課題を見つけ今後に繋げる。

成績評価 演奏 70%、授業への積極的な取り組み 30%

テキスト 授業内で紹介、指示する。

オフィスアワー Eメール mozart-trazom@nifty.com および授業前後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										

声楽特殊演習（日本歌曲）

教授 吉田伸昭

科目コード：IND212

対象コース／専門／学年：声楽コース／2～4 年次、演奏家コース／声楽専門／2～4 年次

形態：演習

単位数：2 単位

概要 課題曲に加え、各々選んだ日本歌曲をピアニストとのデュオの形態で演習する。

到達目標 ①日本語唱法の特性を知り、自然な歌唱を習得する。特に詩と音楽との関係に着目しながら日本歌曲の歌唱法を考え修得する。
②歌曲の黎明期から時代を追って様々な作曲家の作品を取り上げ、その解釈と演奏法を知る。

授業計画 以下の作曲家の作品の中から、各受講生の声、キャラクターにあったものを選択し、自然で美しい日本語歌唱に留意しながら、個々の演奏レパートリーとなるよう掘り下げていく。課題曲以外で各々が選んだ日本歌曲を演習する。

第 1 回	ガイダンス、試聴会並びに曲目を決める	事前 楽譜を準備し、履修計画をたてる 事後 履修計画を確認し、準備する	140 分 130 分
第 2 回	日本歌曲黎明期の作品 日本語歌唱の基礎を学ぶ	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 3 回	山田耕筰の作品① 特にその多様な表情記号に着目し演奏法を学ぶ	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 4 回	山田耕筰の作品② 前週の学習を踏まえ、さらに表現を深める	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 5 回	諸井三郎、橋本國彦、他の作品	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 6 回	平井康三郎、清水脩、高田三郎、他の作品	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 7 回	團伊玖磨、大中恩、他の作品	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 8 回	中田喜直① 多くの作品群から選択して研究する	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 9 回	中田喜直② 前週の作品の表現をさらに掘り下げる	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 10 回	諸井誠、林光、小林秀雄、他の作品	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 11 回	三善晃 他の作品	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 12 回	木下牧子 他の作品	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 13 回	既習曲から選曲し発表の準備をする	事前 既習曲を確認し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 14 回	選択した楽曲を仕上げる	事前 ピアニストと合わせを重ねる 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 15 回	選択した楽曲を発表し、合評する	事前 ピアニストと合わせを重ねる 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分

フィードバック 発表会後に合評し、課題を見つけ今後に繋げる。

成績評価 演奏 70%、授業への取り組み 30%

テキスト 授業内で紹介、指示する。

オフィスアワー E メール mozart-trazom@nifty.com および授業前後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>								

声楽アンサンブル-1

教授 吉田伸昭

科目コード：ENS323

対象コース/専門/学年：声楽/演奏家コース/声楽専門/3年次

形態：実習

単位数：2単位

概要 重唱や、他楽器とのコラボレーションを通して融和し合う声の育成とアンアンブル能力の向上を目指し、実践的に学ぶ

- 到達目標
- ①他声部をよく聴き、発声に留意して美しいハーモニーをつくる
 - ②音楽的な構造、時代様式、詩の内容をふまえ、その表現を研究し、深める

授業計画

第1回	ガイダンス・学習計画を立てる	事前 楽譜を準備する。 事後 読譜の確認をする。	60分 60分
第2回	コールユーブンゲン第二巻を中心に	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する。 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーションに配慮しながら練習する。	60分 60分
第3回	16～17世紀の作品 ラッソ、パレストリーナの作品より	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する。 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーションに配慮しながら練習する。	60分 60分
第4回	16～17世紀の作品 モンテヴェルディ、タリスの作品から	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する。 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーションに配慮しながら練習する。	60分 60分
第5回	16～17世紀の作品 パード、ダウラントの作品から	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する。 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーションに配慮しながら練習する。	60分 60分
第6回	ドイツ・バロック期の作品 バッハ、ヘンデルの作品から	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する。 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーションに配慮しながら練習する。	60分 60分
第7回	フランス近代作品 フォーレ・ドビュッシーの作品から	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する。 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーションに配慮しながら練習する。	60分 60分
第8回	日本のアンサンブル作品	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する。 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーションに配慮しながら練習する。	60分 60分
第9回	取り上げた作品の中からアンサンブルを組む	事前 詩の内容、テンポ、アーティキュレーションに配慮しながら練習する。 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等の変化を確認しながら合わせる。	60分 60分
第10回	取り上げた作品について演奏を深める	事前 お互いの声部を聴き合いながら練習する。 事後 和声部を意識し、演奏の質を高める。	60分 60分
第11回	発表作品を決め、アンサンブルを組む	事前 アンサンブル曲を選択し楽語等も確認しつつ練習する。 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る。	60分 60分
第12回	発表作品を決め、演奏を深め、発表の準備を進める ハーモニーの精度を上げる	事前 テンポ、強弱、アーティキュレーションを意識して練習する。 事後 ハーモニーの形成、表現方法に配慮しながら練習する。	60分 60分
第13回	発表作品について、発表の準備を進める 表現を深める	事前 暗譜をする。 事後 暗譜の確認と表現法の研究。	60分 60分
第14回	発表作品について発表の準備を進める	事前 演奏の質を高め合う練習を心がける。 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る。	60分 60分
第15回	発表と合評、まとめ	事前 発表前の合わせを重ねる。 事後 発表作品の合評をし、後期のテキストの準備をする	60分 60分

フィードバック 授業への取り組み、試演会を通して学修の成果をフィードバックする。

成績評価 授業への積極的な取り組み、試演会にて評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後、教室にて、並びに Email : mozart-trazon@nifty.com

備考 上記の枠組みの中で、履修生の声部構成やそれぞれの声の категория に即して、その都度進曲し、授業を進めていく。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

声楽アンサンブル-2

教授 吉田伸昭

科目コード：ENS324

対象コース/専門/学年：声楽/演奏家コース/声楽専門/3年次

形態：実習

単位数：2単位

概要 W.A.モーツァルトおよび周辺の作曲家のオペラや宗教曲の重唱曲並びに現代作曲家のアンサンブル曲を題材とし、アンサンブル能力の向上を目指す。

到達目標 作品の特徴に触れ、様式、音楽的構造、詩の内容もふまえ、演奏技術を高め豊かな表現力を養うことを目標とする。

授業計画

第1回	ガイダンス 後期の学習計画を立てる	事前 前期成果の確認。 事後 楽譜の確認をし、読譜をすすめる。	60分 60分
第2回	W.A.モーツァルトのオペラ作品について 重唱曲①、②読譜、発音を中心に	事前 モーツァルトの作品について調べる。 事後 重唱曲①及び②音程、音階、リズム等に気を付けて読譜練習する。	60分 60分
第3回	重唱曲①、②読譜 和声感、様式感を中心に	事前 重唱曲①、②単語の意味、詩の内容を調べる 事後 重唱曲①、②詩の内容を考えながら練習する	60分 60分
第4回	重唱曲①、② 表現の発展を高める	事前 重唱曲①、②テンポ、強弱、アーティキュレーション等を考える 事後 重唱曲①、②表現法の研究を深める	60分 60分
第5回	その他の作曲家のオペラ作品について 重唱曲③、④読譜、発音を中心に	事前 重唱曲③、④の作品について、単語の意味、詩の内容を調べる 事後 重唱曲③、④詩の内容を考えながら練習する	60分 60分
第6回	重唱曲③、④ 和声感、様式感を中心に	事前 重唱曲③、④テンポ、強弱、アーティキュレーション等考える 事後 重唱曲③、④歌唱法、表現法の研究	60分 60分
第7回	重唱曲③、④ 表現の発展を高める	事前 重唱曲③、④楽譜の意味、発声、発音への配慮 事後 授業内での問題を確認し、解決する	60分 60分
第8回	宗教作品の重唱曲、重唱曲⑤、⑥ 読譜、発音を中心に	事前 重唱曲⑤、⑥の作品について、単語の意味、詩の内容を調べる 事後 重唱曲⑤、⑥詩の内容を考えながら練習する	60分 60分
第9回	重唱曲⑤、⑥ 和声感、様式感を中心に	事前 重唱曲⑤、⑥テンポ、強弱、アーティキュレーション等考える 事後 重唱曲⑤、⑥歌唱法、表現法の研究	60分 60分
第10回	重唱曲⑤、⑥ 表現の発展を高める	事前 重唱曲⑤、⑥楽譜の意味、発声、発音への配慮 事後 授業内での問題を確認し、解決する	60分 60分
第11回	重唱曲①～⑥からアンサンブルを組む	事前 重唱曲それぞれの背景、人間関係等を調べる。 事後 重唱曲それぞれの背景、人間関係等意識して練習する。	60分 60分
第12回	発表作品を決め準備を進める1 表現を深める	事前 重唱曲それぞれの役柄、役割の感情表現の変化を意識する。 事後 重唱曲それぞれの役柄、役割の感情表現の変化を確認し、練習する。	60分 60分
第13回	発表作品を決め準備を進める2 伴奏を伴い暗譜	事前 重唱曲それぞれのテンポ、強弱、アーティキュレーションを意識する。 事後 重唱曲のテンポ、強弱、アーティキュレーション等の変化を確認し、練習する。	60分 60分
第14回	発表作品を決め準備を進める3 演奏の質の向上を図る	事前 重唱曲それぞれの伴奏合わせをする。 事後 重唱曲それぞれの伴奏者とともに合わせる。暗譜をする。	60分 60分
第15回	発表と合評 まとめ	事前 重唱曲それぞれの暗譜の確認と表現法の研究。 事後 重唱曲それぞれの演奏の質を高める。	60分 60分

フィードバック 授業への取り組み、試演会を通して学修の成果をフィードバックする。

成績評価 授業への積極的な取り組み、試演会にて評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後、教室にて、並びに Email : mozart-trazom@nifty.com

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

副科器楽 I-1・II-1 (ピアノ)

各実技担当教員

科目コード：IND108/IND207

対象コース/専門/学年：器楽・声楽・演奏家コース/ピアノ、ギター、古楽鍵盤楽器以外の全専門/1・2 年次、GLA コース/音楽教育専門/1~3 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 音楽を学ぶ者にとっての基礎能力を育成するために欠かせないピアノの学習を個人レッスンによって行う。グレード別に各自の能力に合わせて段階的に進めていく。

到達目標 運指や音階等の基本的な訓練を中心に、正しい読譜力を養うことを目標とする。

授業計画 GLA コース/音楽教育専門 前期 15 回 毎週 30 分の個人指導
上記以外の全コース/全専門 前期 15 回 毎週 20 分の個人指導

回数	内容	事前	事後	80 分	130 分
第 1 回	ガイダンス 学習計画を立てる	過去の学習状況を踏まえ現状を自己分析。	担当教員と協議の上グレードの設定。課題曲の選定。	80 分	130 分
第 2 回	基礎訓練	基礎教材を使って反復練習。	手指のフォームを意識して反復練習。	80 分	130 分
第 3 回	基礎技術の向上	様々な音型を反復練習。	両手を弾き分ける訓練。課題曲の読譜。	80 分	130 分
第 4 回	奏法	様々な強弱、テンポで練習し指を鍛える。	手指のフォームを正しくコントロールしながら反復練習。課題曲の読譜。	80 分	130 分
第 5 回	運指について	課題曲の反復練習。	より効率のよい運指について考え、試してみる。	80 分	130 分
第 6 回	運指の決定	課題曲の反復練習。	指使いを決定し、反復練習を行う。	80 分	130 分
第 7 回	正確な読譜 (リズムと拍子)	楽譜をよく見直す。	生きたリズムと拍感を意識して反復練習を行う。	80 分	130 分
第 8 回	正確な読譜 (強弱)	強弱記号をよく見る。	強弱記号が示す意味を考えて表現につなげる。	80 分	130 分
第 9 回	楽曲分析 楽曲 A	作品の和声進行を意識して練習。	構造、形式を把握する。	80 分	130 分
第 10 回	スムーズな演奏	作品の構造を意識して各部の表情を大切に。	強弱、テンポ正確に、暗譜。	80 分	130 分
第 11 回	音階練習	片手の練習。両手の練習。	指使いを徹底して反復練習。	80 分	130 分
第 12 回	音階練習(カデンツ)	カデンツの定型を覚える。	徹底的な反復練習。	80 分	130 分
第 13 回	音階練習(テンポアップ)	両手で正確に反復練習。	少しずつテンポアップ。拍子、テンポ正確に。	80 分	130 分
第 14 回	仕上げ	指使い、強弱、リズムの確認。暗譜の確認。	表情、構造を明確に反復練習。	80 分	130 分
第 15 回	前期 成果の発表	技術、音の確認。	自己評価。課題の自覚。	80 分	130 分

フィードバック 実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 各自の進度に合わせたグレードを選択し、その課題を中心に目標を定めて演習を行う。(副科ピアノ課題曲表参照のこと)

オフィスアワー ※4 月のレッスンガイダンス後の実技担当者発表掲示を参照のこと。

備考 教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する (1 単位 43,000 円)。支払い期日等については新学学期ガイダンス期間中に掲示する。
GLA コース文化創造マネジメント専門学生は全ての実技が有料 (教職課程に係る副科実技も有料)

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

副科器楽 I-2・II-2 (ピアノ)

各実技担当教員

科目コード：IND109/IND208

対象コース/専門/学年：器楽・声楽・演奏家コース/ピアノ、ギター、古楽鍵盤楽器以外の全専門/1・2 年次、GLA コース/音楽教育専門/1~3 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 ピアノの学習を個人レッスンにより行い、更なる向上を目指す。
グレード別に各自の能力に合わせて段階的に進めていく。

到達目標 基礎訓練と共に様々な練習方法を演奏向上に結びつける過程を学ぶことを目標とする。

授業計画 GLA コース/音楽教育専門 後期 15 回 毎週 30 分の個人指導
上記以外の全コース/全専門 後期 15 回 毎週 20 分の個人指導

回数	課題	事前	事後	点
第 1 回	課題の設定	課題曲の設定。	課題曲の読譜。	80 分 130 分
第 2 回	指使いの決定	楽譜を丁寧に読譜。反復練習。	正しい指使いの決定。反復練習。	80 分 130 分
第 3 回	楽曲分析 楽曲 B	作品の全体像を把握する。	和声、形式を分析し、構造を理解する。	80 分 130 分
第 4 回	演奏技術の鍛錬	構造を意識して各部の表情をつかむ。	表現に必要な奏法の伝授。反復練習。	80 分 130 分
第 5 回	様々な表現	イメージを明確にして行く。	奏法、テンポ設定、強弱の工夫。	80 分 130 分
第 6 回	分散和音(和声感、調性感)	音、指使いを正確に和声をよく聴きながら反復練習。	手首の使い方、手のフォームの習得し、和音としてとらえる練習。	80 分 130 分
第 7 回	練習方法の工夫 (リズム練習)	様々な音型を反復練習。	リズム練習による技術向上を目指して反復練習。	80 分 130 分
第 8 回	形式の整理	全体の構造をつかむ。	主題の扱い、調性、性格を整理する。	80 分 130 分
第 9 回	表現	構造を明確に整理する。	作品の性格、主題の性格、楽譜の指示を基に的確な表現を追求する。暗譜。	80 分 130 分
第 10 回	練習方法の工夫 (分析練習)	構成を理解する。	各声部に分けて練習、またはハーモニーごとにまとめて練習。	80 分 130 分
第 11 回	ポリフォニーの奏法	各声部丁寧に読譜。指使いの決定。	指のコントロールと耳を使って同時に弾き分ける。	80 分 130 分
第 12 回	ペダルの練習	イメージを明確にしておく。	レガートペダル、アクセントペダル、音色のためのペダルを考える。	80 分 130 分
第 13 回	暗譜について	構成を理解する。	ハーモニー、楽曲分析と結びつけて整理する。	80 分 130 分
第 14 回	仕上げとまとめ	音楽理解、ピアノ演奏技術の方法を整理する。暗譜。	学習内容の復習と反復練習。暗譜。	80 分 130 分
第 15 回	後期 成果の発表	暗譜と技術の確認。	自己評価。	80 分 130 分

フィードバック 実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 各自の進度に合わせたグレードを選択し、その課題を中心に目標を定めて演習を行う。(副科ピアノ課題曲表参照のこと)

オフィスアワー ※4 月のレッスンガイダンス後の実技担当者発表掲示を参照のこと。

備考 教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する (1 単位 43,000 円)。支払い期日等については新学学期ガイダンス期間中に掲示する。
GLA コース文化創造マネジメント専門学生は全ての実技が有料 (教職課程に係る副科実技も有料)

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

副科器楽 I-2・II-2 (弦楽器)

各実技担当教員

科目コード：IND109/IND208

対象コース/専門/学年：全コース・全専門/2~4 年次

形態：実技	単位数 1 単位
概要	弦楽器には多くの奏法がある。それらを学ぶことによって、今までに体験したことのない音世界に触れ、音楽的視野をひろげてゆく。

到達目標	専門外の楽器を学ぶことで、新たな音楽的な気づきをもってそれぞれの専攻にも活かしてゆく。
------	---

授業計画	後期 15 回 毎週 20 分の個人指導
------	----------------------

第 1 回	音階、課題曲 II タイミングの取り方、呼吸の取り方を学ぶ	事前 課題曲 II を、鏡を見ながら練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 2 回	音階、課題曲 II 音色の合わせ方、自身の演奏における問題点の確認	事前 課題曲 II に対し、録音を取って練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 3 回	課題曲 II ピアノ合わせでのレッスン 仕上げ	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 課題曲の反省と、次回の課題を確認する。	105 分 105 分
第 4 回	音階、課題曲 III 技術的問題点の確認	事前 課題曲 II の譜読み 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 5 回	音階、課題曲 III 表現における問題点の解決	事前 課題曲 II の反復練習。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 6 回	音階、課題曲 III アンサンブルについて学ぶ	事前 課題曲 II の音源を聴いておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 7 回	音階、課題曲 III タイミングの取り方、呼吸の取り方を学ぶ	事前 課題曲 II を、鏡を見ながら練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 8 回	音階、課題曲 III 音色の合わせ方、自身の演奏における問題点の確認	事前 課題曲 II に対し、録音を取って練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 9 回	課題曲 III ピアノ合わせでのレッスン 仕上げ	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 課題曲の反省と、次回の課題を確認する。	105 分 105 分
第 10 回	発表会課題 技術的、表現における問題点の確認	事前 発表会課題に対し、譜読みを行う。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 11 回	発表会課題 アンサンブルにおける問題点を解決する	事前 課題の音源を聴いておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 12 回	発表会に向けての実習 複数のアンサンブルを体験する	事前 曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 13 回	発表会に向けての実習 合奏	事前 共に演奏するものの音を聴きながら、演奏できるように、耳に集中して練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 14 回	発表会課題 ピアノ合わせでのレッスン	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 15 回	発表会 と反省	事前 技術的な問題点を確認しながら、練習する。 事後 反省と、課題を確認し、更に、音楽の幅を広げる。	105 分 105 分

フィードバック	学年末に発表会を行う。ソロに加えてアンサンブルを行い、互いのスキルアップをはかる。
---------	---

成績評価	授業への積極的な取り組み、習熟度によって行う。
------	-------------------------

テキスト	個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。
------	--

オフィスアワー	各担当教員レッスン前後、レッスン室にて
---------	---------------------

備考	教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する (1 単位 43,000 円)。支払い期日等については新学学期ガイダンス期間中に掲示する。 GLA コース文化創造マネジメント専門学生は全ての実技が有料 (教職課程に係る副科実技も有料)
----	---

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

古楽研究（古楽概説）-1

准教授 櫻井茂

科目コード：MUS307

対象コース/専門/学年： 器楽・演奏家コース/古楽器専門/2~4 年次、全コース/古楽器専門以外/3~4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	今日「古楽」という用語はすでに日常的なものとなったが「古乐的」「古楽器風」というように曖昧な、あるいは内容の無い使い方をされることもしばしばである。この授業では、演奏における歴史的認識の重要性と問題点について理解し、歴史的な演奏習慣について具体的に学んだ上で、それを自分自身の演奏に役立てる方法を探究する。
到達目標	「古楽」の持つ複雑さを自分の言葉で整理し、歴史的な演奏習慣について具体的な知識を身につける。さらに、その知識を自分自身の演奏に結びつける姿勢を養う。

授業計画		
第1回	「古楽」が意味するもの	事前 「古楽」について自分なりの定義を考える 事後 「古楽」に関する記述を調べる 110分 170分
第2回	「古楽」と「古楽でないもの」	事前 演奏における「正しさ」について考える 事後 「古楽」がどのように捉えられてきたかを整理する 140分 140分
第3回	「古楽器」が意味するものⅠ 管楽器	事前 「古楽器」と呼ばれる楽器のうちどのような管楽器があるか調べる 事後 それぞれの楽器の特性を整理する 180分 100分
第4回	「古楽器」が意味するものⅡ 弦楽器	事前 「古楽器」と呼ばれる楽器のうちどのような弦楽器があるか調べる 事後 それぞれの楽器の特性を整理する 180分 100分
第5回	「古楽器」が意味するものⅢ 鍵盤楽器	事前 「古楽器」と呼ばれる楽器のうちどのような鍵盤楽器があるか調べる 事後 それぞれの楽器の特性を整理する 180分 100分
第6回	演奏実習 鍵盤楽器	事前 実習のための楽曲を選び演奏の準備をする 事後 演奏解釈上の視点について整理する 240分 40分
第7回	音律Ⅰ 音律の基礎	事前 音律について調べる 事後 音律に関する基礎的な事項を整理する 110分 170分
第8回	音律Ⅱ ピタゴラス音律	事前 ピタゴラス音律について調べる 事後 ピタゴラス音律の特性を整理する 180分 100分
第9回	音律Ⅲ 純正律	事前 純正律について調べる 事後 純正律の特性を整理する 180分 100分
第10回	音律Ⅳ 中全音律	事前 中全音律について調べる 事後 中全音律の特性を整理する 180分 100分
第11回	音律Ⅴ 不均等音律	事前 不均等音律について調べる 事後 不均等音律の特性を整理する 180分 100分
第12回	演奏実習 鍵盤楽器	事前 実習のための楽曲を選び演奏の準備をする 事後 演奏解釈上の視点について整理する 240分 40分
第13回	言葉と音楽	事前 言葉と音楽の関係に関する自分なりの具体例を考える 事後 言葉と音楽の関係を音楽史的視点から整理する 240分 40分
第14回	修辞学と音楽	事前 マドリガリズムについて調べる 事後 音楽修辞学について整理する 210分 70分
第15回	バッハのカンタータ	事前 バッハのカンタータを聞く 事後 音楽と社会の関わりについて整理する 220分 60分

フィードバック 授業での課題についてコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 討論への参加姿勢 50%、演奏実習の内容 40%、課題 10%
歴史的情報に対する自分なりのアプローチを重視する。

テキスト アントニー・パートン編 角倉一郎訳『バロック音楽』 音楽之友社

オフィスアワー Eメール：shigusakurai@pop17.odn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

古楽研究（古楽概説）-2

准教授 櫻井茂

科目コード：MUS308

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／古楽器専門／2～4 年次、全コース／古楽器専門以外／3～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	今日「古楽」という用語はすでに日常的なものとなったが「古乐的」「古楽器風」というように曖昧な、あるいは内容の無い使い方をされることもしばしばである。この授業では、演奏における歴史的認識の重要性と問題点について理解し、歴史的な演奏習慣について具体的に学んだ上で、それを自分自身の演奏に役立てる方法を探究する。
到達目標	「古楽」の持つ複雑さを自分の言葉で整理し、歴史的な演奏習慣について具体的な知識を身につける。さらに、その知識を自分自身の演奏に結びつける姿勢を養う。

授業計画

第1回	装飾法Ⅰ 装飾例の分析	事前	ヘンデルのオペラアリアの演奏を聴き装飾例を調べる	220分
		事後	装飾のパターンについて整理する	60分
第2回	装飾法Ⅱ イタリア式装飾	事前	17世紀初期の作品の演奏を聴き装飾例を調べる	220分
		事後	イタリア式装飾について整理する	60分
第3回	装飾法Ⅲ フランス式装飾	事前	18世紀フランスの作品の演奏を聴き装飾例を調べる	220分
		事後	フランス式装飾について整理する	60分
第4回	装飾法Ⅳ 16,17世紀の文献検討	事前	ディミニューションについて調べる	140分
		事後	ディミニューションを実践してみる	140分
第5回	装飾法Ⅴ 18世紀音文献の検討	事前	レオポルド・モーツァルトの「ヴァイオリン奏法」の中の装飾に関する項を読む	180分
		事後	様々な装飾を実践してみる	100分
第6回	装飾法Ⅵ 装飾実習	事前	簡単な装飾を考える	210分
		事後	装飾によって音楽の方向性がどのように変わるか整理する	70分
第7回	通奏低音Ⅰ カデンツの実習	事前	通奏低音について調べる	100分
		事後	実習した課題をもう一度実践してみる	100分
第8回	通奏低音Ⅱ 簡単な楽曲の実習	事前	リアリゼーションを考える	170分
		事後	実習した課題をもう一度実践してみる	110分
第9回	演奏実習 弦楽器	事前	実習のための楽曲を選び演奏の準備をする	240分
		事後	演奏解釈上の視点について整理する	40分
第10回	様々な表現 テンポ・ルバート	事前	いわゆる「古乐的な」演奏について自分のイメージをまとめる	110分
		事後	歴史的情報に立脚した演奏表現について考える	170分
第11回	様々な表現 ポルタメント、ヴィブラート	事前	様式感について自分の考えを整理する	140分
		事後	いわゆる「古乐的な」演奏について考え方を整理する	140分
第12回	演奏実習 管楽器	事前	実習のための楽曲を選び演奏の準備をする	240分
		事後	演奏解釈上の視点について整理する	40分
第13回	アーティキュレーションの諸相	事前	アーティキュレーションについて調べる	110分
		事後	演奏における様々なアーティキュレーションの処理について整理する	170分
第14回	フレーズングとアーティキュレーション	事前	フレーズングについて調べる	110分
		事後	演奏におけるフレーズングとアーティキュレーションの関係について整理する	170分
第15回	音楽におけるヒエラルキーの概念	事前	ヒエラルキーについて調べる	110分
		事後	音楽におけるヒエラルキーについて整理する	170分

フィードバック 授業での課題についてコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 討論への参加姿勢 50%、演奏実習の内容 40%、課題 10%
歴史的情報に対する自分なりのアプローチを重視する。

テキスト アントニー・パートン編 角倉一郎訳『バロック音楽』 音楽之友社

オフィスアワー Eメール：shigusakurai@pop17.odn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

鍵盤和声-1

講師 高島 亜生

科目コード：SLF205

対象コース/専門/学年： 器楽・声楽・GLA コース/全専門/3~4 年次、全コース/全専門/2 年次生

形態：講義 単位数：1 単位
 概要 一人一人ピアノを使って、実際の音楽現場で役立つように、メロディー伴奏付けや、モチーフ作曲や即興演奏、簡単な旋律の作曲と伴奏付け、弾き歌いなどの演習。和声感と演奏、即興、作曲などの壁を取り払い総合的な音楽能力を養う。

到達目標 様々な実習を通じて和声感覚を養うだけでなく、ピアノ弾き歌いや即興演奏など実技も行えるようソルフェージュ応用力も養う。
 ①旋律と和声は切り離せないものである。②実際音楽的な耳を養う。③音楽的フレーズ感を身につける。④同じ旋律で様々な和声付けの可能性を体験する。⑤音楽現場で実際に生かせる聴取力、アレンジ演奏ができるようにする。⑥ヤマハやカワイのグレード試験にも役立つ。これらを目標として学生の習熟度に合わせて一人一人ピアノを使用して実習する。

回	内容	事前	事後	時間
第1回	オリエンテーション/力試し	和声進行、カデンツ、終止、近親調など音楽の基本理論を復習しておく。	実際の授業内容に応じて適宜指示。	30分 60分
第2回	旋律の伴奏付け基本編①/二部形式、カデンツ、終止、	第1回の力試しで苦手だった箇所の練習を取り組む。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	30分 60分
第3回	旋律の伴奏付け基本編②/和声付け、コード付け、コードネーム	コードネームの読み方を未だ知らない学生は調べておく。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45分 45分
第4回	旋律の伴奏付け基本編③/和声の転回形の響きと伴奏アレンジへの活用	和声の転回形を復習しておく。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	30分 60分
第5回	旋律の伴奏付け応用編④/三部形式、カデンツ、終止、	カデンツ3種類をピアノで弾いておく。二部と三部形式の違いを確認しておく。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	30分 60分
第6回	旋律の伴奏付け応用編①/7や9の和音のコード付け、変化和音や付加和音	各長・短音階の固有音上の7・9和音をピアノで弾いておく。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45分 45分
第7回	旋律の伴奏付け応用編②/借用Dを使った経過和音を入れたコード付けと伴奏アレンジ	借用和音について復習	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45分 45分
第8回	旋律の伴奏付け応用編③/借用Dを使った経過和音や転位音を使ったオブリガードを入れた伴奏アレンジ	第7回で完成した伴奏を元にオブリガード(対旋律)を作る。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	50分 40分
第9回	メロディー弾き歌い①/ピアノ伴奏付	ピアノ初見読譜力を訓練しておく。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45分 45分
第10回	メロディー弾き歌い②/スコアリーディング	各種音部記号(ト音、ヘ音、ハ音)の読み方を復習しておく。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45分 45分
第11回	メロディー弾き歌い①/コードネーム付 中級編	コードネームの読み方を復習しておく。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45分 45分
第12回	メロディー弾き歌い②/コードネーム付 上級編	前回の続きの課題を実習する。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45分 45分
第13回	即興演奏/変奏 初級編	非和声音(転位音)の使い方を復習しておく。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45分 45分
第14回	即興演奏/変奏 中級編	前回の続きの課題を実習する。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45分 45分
第15回	即興演奏/変奏 上級編	前回の続きの課題を実習する。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45分 45分

フィードバック 授業内で実施する確認テストや一人一人実施する弾き歌い、伴奏付け等を聴いたり、添削して改善点や今後の学習方法を各自にコメントして伝える。

成績評価 試験の成績 50%、カデンツ奏・課題 25%、授業への積極的な取り組み 25%

テキスト 五線紙とファイルを用意すること。

その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。適宜、プリントを配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて。もしくは E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング コードネームを認めるように学習して、前期試験では、好きな歌手の歌を各自自由に選び、ピアノ弾き語り発表会をする。演奏者以外の履修者は鑑賞して、最後に全員でお互いの講評会をして意見を述べ合う。

備考 履修の条件：ソルフェージュ I と和声法を履修済のこと。ピアノが中級程度は弾ける学生が対象。課題を積極的にすること。学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>				

鍵盤和声-2

講師 高島亜生

科目コード：SLF206

対象コース/専門/学年： 器楽・声楽・GLA コース/全専門/3~4 年次、全コース/全専門/2 年次生

形態：講義	単位数：1 単位
概要	一人一人ピアノを使って、実際の音楽現場で役立つように、メロディー伴奏付けや、モチーフ作曲や即興演奏、簡単な旋律の作曲と伴奏付け、弾き歌いなどの演習。和声感と演奏、即興、作曲などの壁を取り払い総合的な音楽能力を養う。

到達目標	様々な実習を通じて和声感覚を養うだけでなく、ピアノ弾き歌いや即興演奏など実技も行えるようソルフェージュ応用力も養う。 ①旋律と和声は切り離せないものである。②実際音楽的な耳を養う。③音楽的フレーズ感を身につける。④同じ旋律で様々な和声付けの可能性のあることを体験する。⑤音楽現場で実際に生かせる聴取力、アレンジ演奏ができるようにする。⑥ヤマハやカワイのグレード試験にも役立つ。これらを目標として学生の習熟度に合わせて一人一人ピアノを使用して実習する。
------	--

回	内容	事前	事後	時間
第 1 回	前期まとめ/定期試験 1 (実技)	第 1~15 回の復習と定期試験 1 に向けて練習する。	定期試験 1 で苦手だった箇所の練習を取り組む。	80 分 10 分
第 2 回	コード付け伴奏による旋律とコードの聴音	事前 今までの課題を演奏しながら、コードネームの移り変わりを意識して種類を耳で聞き取る。	事後 コードの種類による響きの違いを耳で聞き取る練習をする。	50 分 40 分
第 3 回	コードネームの各種、ピアノによる聴取訓練	事前 今までの課題を演奏しながら、コードネームの移り変わりを意識して種類を耳で聞き取る。	事後 授業の課題に取り組み。主に終わった課題をピアノで弾く。	50 分 40 分
第 4 回	旋律の伴奏付け応用編④/移調伴奏 基本編	事前 カデンツの 3 つの型を、全ての長調&短調で弾く。	事後 授業の課題に取り組み。主に終わった課題をピアノで弾く。	60 分 30 分
第 5 回	旋律の伴奏付け応用編⑤/移調伴奏 実践編	事前 前回の続きの課題を練習する。	事後 授業の課題に取り組み。主に終わった課題をピアノで弾く。	50 分 40 分
第 6 回	与えられたコードの上に旋律を作曲して弾き歌いする/基本編	事前 コードネームの復習と、二部形式で旋律を作曲する練習	事後 授業の課題を練習する。	45 分 45 分
第 7 回	与えられたコードの上に旋律を作曲して弾き歌いする/実践編	事前 前回の続きの課題を練習する。	事後 授業の課題を練習する。	45 分 45 分
第 8 回	与えられたモチーフを使った即興演奏/初級編	事前 モチーフの展開方法を研究しておく。	事後 授業の課題に取り組み。	45 分 45 分
第 9 回	与えられたモチーフを使った即興演奏/中級編	事前 前回の続きの課題を実習する。	事後 授業の課題に取り組み。	45 分 45 分
第 10 回	与えられたモチーフを使った即興演奏/上級編	事前 前回の続きの課題を実習する。	事後 授業の課題に取り組み。	45 分 45 分
第 11 回	数字付き低音/ドイツ式	事前 1 年次の和声の教科書の「数字付き低音」を読んでおく。	事後 授業の課題に取り組み。	45 分 45 分
第 12 回	数字付き低音/フランス式	事前 前回の続きの課題を実習する。	事後 授業の課題に取り組み。	45 分 45 分
第 13 回	数字付き通奏低音のバス課題/コラール実習 基本編	事前 前回の続きの課題を実習する。	事後 授業の課題に取り組み。	45 分 45 分
第 14 回	数字付き通奏低音のバス課題/コラール実習 実践編	事前 前回の続きの課題を実習する。	事後 授業の課題に取り組み。	45 分 45 分
第 15 回	後期まとめ/定期試験 2 (実技)	事前 第 1~15 回の復習と定期試験 2 に向けて練習する。	事後 定期試験 2 で苦手だった箇所の練習を取り組む。	80 分 10 分

フィードバック 授業内で実施する確認テストや一人一人実施する弾き歌い、伴奏付け等を聴いたり、添削して改善点や今後の学習方法を各自にコメントして伝える。

成績評価 試験の成績 50%、カデンツ奏・課題 25%、授業への積極的な取り組み 25%

テキスト 五線紙とファイルを用意すること。

その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。適宜、プリントを配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて。もしくは E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング 歌曲作曲を取り上げる。各少人数グループ毎にテーマを決めて、その作詞のためのキーワードを全員出し合う。グループ代表がリードして、曲の作詞をストーリーを作ってまとめる。それにグループ毎にコード進行を決めて、そのピアノ伴奏を弾きながら、メロディを創作する。自由に質問をさせて、創作過程は担当講師が各グループの創作を手助けしたりアドバイスする。完成後、グループ代表がピアノ弾き語りして試演会をする。講評会をして、感想を述べ合う。

備考 履修の条件：ソルフェージュ I と和声法を履修済のこと。ピアノが中級程度は弾ける学生が対象。課題を積極的にすること。学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>				

ソルフェージュⅢ-1

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF301

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/3 年次

形態：実習 単位数：1 単位

概要 楽譜から豊かな音楽を引き出す能力を身につけるために、読譜力・楽曲分析力を高め、和声感、リズム感を磨き、音楽を聴く力を養う。実作品の聴取、分析、演奏のほか、視唱、聴音等の基本的なソルフェージュ能力を高めるための訓練を行う。

到達目標 楽譜に記された音符・記号等から音楽を読み取り表現するために必要な知識及び技術を習得する。
楽曲の視奏などを通し、様々な様式に応じた演奏法を身につける。

授業計画 下記の楽曲を視奏・視唱・聴音・分析など様々な分野の課題として用いる。なお本講義は実質的に実技であるため、参加学生の専攻や能力に応じて計画を変更する場合がある。その他、ソルフェージュの基礎的な訓練の課題にも取り組む。

第 1 回	導入	事前 過去に実習した課題を復習する。 事後 授業内で扱われた課題を反復練習する。	40 分 50 分
第 2 回	J.S.バッハ「無伴奏チェロ組曲第 1 番」前奏曲	事前 視唱 (61 番) リズム (1 番) の練習をする。*宿題のプリントは授業内で配布する。 事後 前奏曲の和音分析を行う。	40 分 50 分
第 3 回	J.S.バッハ「カンタータ第 4 番」コラール	事前 視唱 (62 番) リズム (2 番) の練習をする。 事後 コラールのピアノ演奏を試みる。	40 分 50 分
第 4 回	ベートーヴェン「弦楽四重奏曲第 1 番」第 1 楽章	事前 視唱 (63 番) リズム (3 番) の練習をする。 事後 第 1 楽章全体を、楽譜を見ながら鑑賞し形式の確認を行う。	40 分 50 分
第 5 回	シューマン「子供の情景」より「トロイメライ」	事前 視唱 (64 番) リズム (4 番) の練習をする。 事後 トロイメライの様々な演奏を確認し、楽譜と演奏の関係を研究する。	40 分 50 分
第 6 回	ショパン「プレリュード」作品 28-4	事前 視唱 (65 番) リズム (5 番) の練習をする。 事後 ショパンのプレリュードのうち、授業で扱わなかった曲を鑑賞する。	40 分 50 分
第 7 回	ビゼー「アルルの女第 1 組曲」第 1 曲	事前 視唱 (66 番) リズム (6 番) の練習をする。 事後 オーケストレーションの違いによる響きの違いを確認する。	40 分 50 分
第 8 回	ビゼー「アルルの女第 1 組曲」第 3 曲	事前 視唱 (67 番) リズム (7 番) の練習をする。 事後 第 1 組曲と第 2 組曲の響きの違いを確認する。	40 分 50 分
第 9 回	ミヨー「ルネ王の暖炉」第 1 曲	事前 視唱 (68 番) リズム (8 番) の練習をする。 事後 第 1 曲の、移調楽器のパートを表情豊かにリズム読みできるよう練習する。	40 分 50 分
第 10 回	シューマン「女の愛と生涯」第 4 曲	事前 視唱 (69 番) リズム (9 番) の練習をする。 事後 第 4 曲の歌詞と和音の響きの関係について研究する。	40 分 50 分
第 11 回	ラヴェル「マ・メール・ロワ」第 1 曲・第 4 曲	事前 シューマン「女の愛と生涯」の歌詞の意味を把握し、歌詞と曲の関わりを考察する。 事後 「マ・メール・ロワ」の管弦楽版を鑑賞・研究する。	40 分 50 分
第 12 回	フォーレ「リディア」	事前 視唱 (70 番) リズム (10 番) の練習をする。 事後 「リディア」以外の、調性音楽中に教会旋法が用いられた楽曲について研究する。	40 分 50 分
第 13 回	デュティユー「牧歌」	事前 視唱 (71 番) リズム (11 番) の練習をする。 事後 「牧歌」の和音の響きを味わいながらスムーズに演奏できるよう練習する。	40 分 50 分
第 14 回	J.S.バッハ「マタイ受難曲」コラール	事前 視唱 (72 番) リズム (12 番) の練習をする。 事後 コラールを大譜表上に記し、ピアノで演奏する。	40 分 50 分
第 15 回	まとめ	事前 視唱 (73 番) リズム (13 番) の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分

フィードバック 実施した課題の問題点の指摘等を通しフィードバックを行う。

成績評価 定期試験 80%、宿題の実施状況 10%、授業態度 10%

テキスト 適宜、プリントを配布する。
五線ノートを用意すること。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考 専門の楽器を用意するよう指示することがある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ソルフェージュⅢ-2

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF302

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／3 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 楽譜から豊かな音楽を引き出す能力を身につけるために、読譜力・楽曲分析力を高め、和声感、リズム感を磨き、音楽を聴く力を養う。実作品の聴取、分析、演奏のほか、視唱、聴音等の基本的なソルフェージュ能力を高めるための訓練を行う。

到達目標 楽譜に記された音符・記号等から音楽を読み取り表現するために必要な知識及び技術を習得する。
楽曲の視奏などを通し、様々な様式に応じた演奏法を身につける。

授業計画 下記の楽曲を視奏・視唱・聴音・分析など様々な分野の課題として用いる。なお本講義は実質的に実技であるため、参加学生の専攻や能力に応じて計画を変更する場合がある。その他、ソルフェージュの基礎的な訓練の課題にも取り組む。

第 1 回	J.S.バッハ「カンタータ第 140 番」第 1 曲	事前 視唱 (74 番) リズム (14 番) の練習をする。 事後 「カンタータ 140 番」を、楽譜を確認しながら鑑賞する。	40 分 50 分
第 2 回	J.S.バッハ「カンタータ第 140 番」コラール	事前 視唱 (75 番) リズム (15 番) の練習をする。 事後 「カンタータ 140 番」のコラールをピアノで演奏する。	40 分 50 分
第 3 回	モーツァルト「アヴェ・ヴェルム・コルプス」(合唱)	事前 視唱 (76 番) リズム (16 番) の練習をする。 事後 「アヴェ・ヴェルム・コルプス」の和音分析を行う。	40 分 50 分
第 4 回	同上 (通奏低音)	事前 「アヴェ・ヴェルム・コルプス」の通奏低音のパートを弾く練習をする。 事後 「アヴェ・ヴェルム・コルプス」の合唱パートのピアノ演奏を行う。	40 分 50 分
第 5 回	マーラー「最後の 7 つの歌」より「美しさゆえに愛するのなら」(読譜)	事前 視唱 (77 番) リズム (17 番) の練習をする。 事後 「美しさゆえに愛するのなら」の和音分析を行う。	40 分 50 分
第 6 回	同上 (分析・解釈)	事前 「美しさゆえに愛するのなら」の歌詞の意味を把握し、歌詞と曲の関わりを考察する。 事後 「美しさゆえに愛するのなら」の伴奏をピアノで演奏する。	40 分 50 分
第 7 回	フランク「ヴァイオリン・ソナタ」第 1 楽章	事前 視唱 (78 番) リズム (18 番) の練習をする。 事後 形式を確認しながら「ヴァイオリン・ソナタ」を鑑賞する。	40 分 50 分
第 8 回	フランク「ヴァイオリン・ソナタ」第 4 楽章	事前 視唱 (79 番) リズム (19 番) の練習をする。 事後 循環形式について調べ、「ヴァイオリン・ソナタ」全楽章の主題・動機を確認する。	40 分 50 分
第 9 回	タイユフェール「ピュルレスト組曲」より「舟歌」	事前 視唱 (80 番) リズム (20 番) の練習をする。 事後 「舟歌」の和音の特徴について研究する。	40 分 50 分
第 10 回	ストラヴィンスキー「春の祭典」より「生け贄の踊り」	事前 視唱 (81 番) リズム (21 番) の練習をする。 事後 「生け贄の踊り」のリズムを、指揮を振りながら読めるようになるよう練習する。	40 分 50 分
第 11 回	メシアン「世の終わりのための四重奏曲」より「鳥たちの深淵」	事前 減七の和音、増三和音、全音階の特徴を説明できるよう研究する。 事後 移調の限られた旋法第 2 旋法を用いた旋律を作成する。	40 分 50 分
第 12 回	メシアン「主の降誕」より第 5 曲	事前 視唱 (82 番) リズム (22 番) の練習をする。 事後 移調の限られた旋法と調との関わりを意識しながら第 5 曲をピアノで演奏する。	40 分 50 分
第 13 回	メシアン「世の終わりのための四重奏曲」より「間奏曲」	事前 視唱 (83 番) リズム (23 番) の練習をする。 事後 「間奏曲」のクラリネットパートの、実音でのリズム読みを練習する。	40 分 50 分
第 14 回	メシアン「世の終わりのための四重奏曲」より「7 つのトランペットのための狂乱の踊り」	事前 視唱 (84 番) リズム (24 番) の練習をする。 事後 扱った楽曲の冒頭の動機が曲の最後でどのように扱われているかの分析を行う。	40 分 50 分
第 15 回	総まとめ	事前 リズム (25 番) の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分

フィードバック 実施した課題の問題点の指摘等を通しフィードバックを行う。

成績評価 定期試験 80%、宿題の実施状況 10%、授業態度 10%

テキスト 適宜、プリントを配布する。
五線ノートを用意すること。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考 専門の楽器を用意するよう指示することがある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(演)ソルフェージュⅣ-1

非常勤講師 林達也

科目コード：SLF401

対象コース／専門／学年：演奏家コース／全専門／4年次

形態：実習

単位数：1単位

概要 演奏家を志す人達に必要な音楽的総合訓練を行う。
音楽実技と理論との2つの柱で、音楽的基本能力を充実させ、さらにより発展的な内容を実践していく。

到達目標 演奏家にとって必要とされる「音楽的総合能力」の開発を目指す。具体的には、聴覚形成、読譜力、楽曲への深い洞察力と分析力、リズムに対する鋭敏な感性、レパートリーの拡充と教養、主体的な表現力と解釈する能力など、演奏家として自立できる力を身につけていく。

授業計画 実作品を中心としたレパートリーを総合的観点から実践研究する。具体的には、初見、スコアリーディング、作品の分析、アンサンブル、作曲家の様式と西洋音楽の歴史的社会的背景との結びつきを演奏を主としながら考察していく。また、即興の実践によって、演奏表現の内的確信を深め、内側からあふれ出してくるような音楽的テンペラメントを育んでいくことが目的である。

第1回	授業のガイダンス ソルフェージュとは何か	事前 今までのレパートリー作品をノートにまとめておく。 事後 今後のレパートリー作品を考えておく。	50分 50分
第2回	ソルフェージュの基礎力の確認	事前 以前に学んだソルフェージュ課題を実践しておく。 事後 不十分な項目をそれぞれの専攻楽器で復習する。	50分 50分
第3回	バロック時代の様式による実践/ フォリアのテーマによる即興	事前 バロック時代の「フォリア」について辞典などで調べておく。 事後 フォリアの即興を変奏曲として演奏してみる。	50分 50分
第4回	バロック時代の様式による実践/ ヘンデルの作品を扱ったソルフェージュ	事前 ヘンデルの作品を事前にCDなどで聴いておく。 事後 装飾音の演奏法の復習をする。	60分 40分
第5回	バロック時代の様式による実践/ J.S.バッハの作品を扱ったソルフェージュ	事前 J.S.バッハの作品を事前に練習しておく。 事後 上手に演奏できなかった部分を再度練習する。	60分 40分
第6回	モーツァルト、バッハの作品を扱った初見、 スコアリーディングなど	事前 モーツァルトと室内楽のスコアを読譜しておく。 事後 与えられた課題を再度練習する。	60分 40分
第7回	ハイドンの作品を扱った初見、スコアリーディングなど	事前 ハイドンの作品様式を事前に調べておく。 事後 アンサンブルの上手く行かなかった部分を復習する。	50分 50分
第8回	ベートーヴェンの作品を扱った初見、スコアリーディングなど	事前 ベートーヴェンの交響曲をあらかじめ聴いておく。 事後 ダイナミクスやsfの箇所の演奏法の復習をする。	50分 50分
第9回	専攻楽器を使ったソルフェージュ、録音による様々な楽器の聴音	事前 課題に出された作品をあらかじめ練習しておく。 事後 聴き取れなかった部分を楽器で練習する。	40分 60分
第10回	アンサンブルと室内楽の録音による様々な楽器の聴音	事前 アンサンブル用スコアを読譜しておく。 事後 聴き取れなかった箇所を反復して聴く。	50分 50分
第11回	管弦楽曲の録音による様々な楽器の聴音	事前 オーケストラの楽器をあらかじめ辞典で調べておく。 事後 移調楽器の読譜の復習をする。	50分 50分
第12回	ロマン派の作品を扱ったソルフェージュ (1) メンデルスゾーン	事前 メンデルスゾーンの無言歌を演奏しておく。 事後 学んだ作品を再度歌って覚える。	50分 50分
第13回	ロマン派の作品を扱ったソルフェージュ (2) シューマン	事前 シューマンの詩人の恋の録音を聴いておく。 事後 上手に引けなかった部分を反復練習する。	50分 50分
第14回	ロマン派の作品を扱ったソルフェージュ (3) ショパン	事前 ショパンのノクターンを1曲演奏しておく。 事後 和声の変化に注意しながら復習する。	60分 40分
第15回	ロマン派の作品を扱ったソルフェージュ (4) ブラームス、など	事前 ブラームスのヴァイオリンソナタ1曲を聴いておく。 事後 指摘された箇所を再度反復練習する。	40分 60分

フィードバック 随時小テストを行い答案の返却及びその解説等により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験(70%)と授業への取り組み(30%)による。

テキスト プリント。指示された楽譜を用意する。

オフィスアワー 水曜日 8:35~8:40 教室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(演)ソルフェージュⅣ-2

非常勤講師 林達也

科目コード：SLF402

対象コース／専門／学年：演奏家コース／全専門／4 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 演奏家を志す人達に必要な音楽的総合訓練を行う。
音楽実技と理論との 2 つの柱で、音楽的基本能力を充実させ、さらにより発展的な内容を実践していく。

到達目標 演奏家にとって必要とされる「音楽的総合能力」の開発を目指す。具体的には、聴覚形成、読譜力、楽曲への深い洞察力と分析力、リズムに対する鋭敏な感性、レパートリーの拡充と教養、主体的な表現力と解釈する能力など、演奏家として自立できる力を身につけていく。

授業計画		実作品を中心としたレパートリーを総合的観点から実践研究する。具体的には、初見、スコアリーディング、作品の分析、アンサンブル、作曲家の様式と西洋音楽の歴史的社会的背景との結びつきを演奏を主としながら考察していく。また、即興の実践によって、演奏表現の内的確信を深め、内側からあふれ出て来るような音楽的テンペラメントを育んでいくことが目的である。	
第 1 回	和音に関するソルフェージュ／通奏低音／和音感を育むためのソルフェージュ (1) 三和音	事前 三和音の項の和声教本を見直しておく。 事後 聴き取れなかった声部は、歌いながら他声部をピアノで弾く。	50 分 50 分
第 2 回	和音に関するソルフェージュ／通奏低音／和音感を育むためのソルフェージュ (2) 七の和音	事前 七の和音の項の和声教本を見直しておく。 事後 聴き取れなかった和音をくり返し反復してピアノで弾く。	50 分 50 分
第 3 回	和音に関するソルフェージュ／通奏低音／和音感を育むためのソルフェージュ (3) 九の和音	事前 九の和音の項の和声教本を見直しておく。 事後 9 から 8 の掛留音の課題を復習する。	50 分 50 分
第 4 回	近代フランス音楽の初見、スコアリーディング、ソルフェージュ、アンサンブルなど (1) サン＝サーンス	事前 サンサーンス作曲「動物の謝肉祭」の録音を聴いておく。 事後 和声の変化に注意しながらもう一度弾いてみる。	50 分 50 分
第 5 回	近代フランス音楽の初見、スコアリーディング、ソルフェージュ、アンサンブルなど (2) フォーレ	事前 フォーレ作曲「レクイエム」の録音を聴いておく。 事後 フォーレの特殊な和声連結の箇所をピアノで弾いて復習する。	50 分 50 分
第 6 回	近代フランス音楽の初見、スコアリーディング、ソルフェージュ、アンサンブルなど (3) ドビュッシー	事前 ドビュッシー作曲「牧神の午後の前奏曲」の楽譜を視ておく。 事後 課題曲の演奏で誤りのあった部分を復習する。	40 分 60 分
第 7 回	近代フランス音楽の初見、スコアリーディング、ソルフェージュ、アンサンブルなど (4) ラヴェル	事前 ラヴェル作曲「ボレロ」のスコアをあらかじめ読譜する。 事後 主要旋律を専攻楽器で再度演奏してみる。	50 分 50 分
第 8 回	20 世紀の音楽に関するソルフェージュ的実践(1) スクリャービン	事前 ポリリズムとクロスリズムについての楽譜を調べておく。 事後 倍音列による和音の響きをピアノで弾き復習する。	50 分 50 分
第 9 回	20 世紀の音楽に関するソルフェージュ的実践(2) バルトーク	事前 変拍子のリズムに課題を使って慣れておく。 事後 バルトークの音楽語法をノートにまとめておく。	40 分 60 分
第 10 回	20 世紀の音楽に関するソルフェージュ的実践(3) ウェーベルン	事前 音列技法について辞書などであらかじめ調べておく。 事後 リズム課題で指摘された部分を再度楽器を用いて復習する。	40 分 60 分
第 11 回	20 世紀の音楽に関するソルフェージュ的実践(4) ベルク	事前 ベルク作曲「抒情組曲」の録音をあらかじめ聴いておく。 事後 細かい音群のリズム練習を課題を用いて復習する。	50 分 50 分
第 12 回	20 世紀の音楽に関するソルフェージュ的実践(5) メシアン	事前 メシアンの音楽語法の特徴を辞典で調べておく。 事後 移高の限られた旋法、付加リズムの多様な形態を覚える。	50 分 60 分
第 13 回	様々な即興の実践(1)クラシックの即興	事前 旋律の作曲をし楽器で演奏できるようにしておく。 事後 即興のアイデアをノートにまとめておく。	50 分 50 分
第 14 回	様々な即興の実践(2)自由即興	事前 20 世紀後半の現代音楽を録音などで聴いておく。 事後 アンサンブルのインザッツ、ダイナミズムの共有を意識して復習する。	50 分 50 分
第 15 回	まとめ	事前 前回に与えられた課題を復習しておく。 事後 指摘された箇所を何回も反復練習する。	50 分 50 分

フィードバック 随時小テストを行い答案の返却及びその解説等により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験(70%)と授業への取り組み (30%)による。

テキスト プリント。指示された楽譜を用意する。

オフィスアワー 水曜日 8:35～8:40 教室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

管弦楽法-1

講師 高島亜生

科目コード：SLF207

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2~4 年次

形態：講義・演習

単位数：2 単位

概要 オーケストラで使用する楽器法についてとバロック、古典派、前期ロマン派の管弦楽曲のオーケストレーション分析。

到達目標 楽器法と管弦楽法の基礎を学び、西洋音楽史上著しく発展を遂げたオーケストラについての理解を深める。①管弦楽で用いる諸楽器についての知識。②スコアの読み方の習熟。③バロック期から近現代に至る管弦楽作品の分析・研究を行うことにより時代や様式の違いによる作曲家たちのオーケストレーションの違いなどへの理解を深める。④定期演奏会や協奏曲演奏会等の曲目をテーマにして実際の音楽解釈、演奏表現の向上に結びつけていく。⑤オーケストレーション演習。月 V,VI 駒のオーケストラ授業内で秋に昨年度履修生の学年末提出作品の優秀作品試演会を行う。全て CD, DVD 等を使用してスコアリーディングや楽曲・和声分析を行う。

回	内容	事前	事後	時間
第 1 回	オリエンテーション、ビデオ鑑賞/管弦楽編成・総譜(スコア)のしくみ	必要テキストやスコアの購入や準備、配布プリントを入れるクリアファイルを準備	実際の授業内容に応じて適宜指示。	70 分 200 分
第 2 回	木管楽器について①(フルート属、オーボエ属、クラリネット属、ファゴット属)	フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴットの専門学生は楽器を出来れば持参して下さい(任意)。	実際の授業内容に応じて適宜指示。	30 分 240 分
第 3 回	移調楽器について(クラリネット属、ホルン属、サクソフォーン属)	クラリネット、ホルン、サクソフォーンの専門学生は楽器を出来れば持参して下さい(任意)。	実際の授業内容に応じて適宜指示。	30 分 240 分
第 4 回	金管楽器について(ホルン属、トランペット属、トロンボーン属、チューバ属)	ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバの専門学生は楽器を出来れば持参して下さい(任意)。	実際の授業内容に応じて適宜指示。	30 分 240 分
第 5 回	打楽器について(ティンパニ、その他の打楽器)/編入楽器・ハーブ・鍵盤楽器・人声	打楽器やハーブの学生は事前に楽器を生で見たり触れたり音を聴いたり出来る機会を作る。	実際の授業内容に応じて適宜指示。	30 分 240 分
第 6 回	弦楽器について(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス) / (バロック期) ヴィバルディ合奏協奏曲「四季」より	弦楽器の専門学生(ヴィオラダガマは含む、コントラバスは除く)は楽器を持参して下さい(任意)。	各楽章に付された叙事詩と独奏 Vn と弦楽器群で演奏された音楽の効果の感想をメモする。	135 分 135 分
第 7 回	時代様式による構造の諸型 1 (バロック期) バレエ・オペラについて ラモーまたはリュリのオペラ作品より	ラモー・リュリについて、またルネサンスからバロックへの変換期の時代背景を調べてくる。	バロック・オペラの他の作品も調べて観てみる。	60 分 210 分
第 8 回	時代様式による構造の諸型 2 (バロック後期) J.S.BACH: ブランデンブルク協奏曲第 5 番 J.S.バッハが残した偉大な遺産	J.S.BACH のブランデンブルク協奏曲全 6 曲の調性と編成を調べてくる。	授業中に取り上げて残りの任意の曲をスコアリーディングしながら聴いてみる。	120 分 150 分
第 9 回	時代様式による構造の諸型 3 (古典派 前期) モーツァルト交響曲第 4 1 番ハ長調より抜粋 (古典派) 交響曲の父 ハイドンの交響曲との比較も交えて	モーツァルト交響曲第 41 番の総譜を準備。1 楽章の形式や構成、転調、和音、終止等を調べておく。	木管楽器群と弦楽器群の音の対比を意識しながら全楽章をスコアリーディングしながら音源を聴く。	120 分 150 分
第 10 回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 4-①(ウィーン古典派後期) ベートーヴェン: 交響曲第 5 番ハ短調 Op.67 『運命』 1. 2 楽章	ベートーヴェン交響曲第 5 番の総譜を準備。1,2 楽章の形式や構成、転調、和音、終止等を調べておく。	1,2 楽章の提示部と再現部のオーケストレーションの違いをスコアで確認しながら音源を聴く	150 分 120 分
第 11 回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 4-②(ウィーン古典派後期) ベートーヴェン: 交響曲第 5 番ハ短調 Op.67 『運命』 3. 4 楽章	前回と同曲中の 3,4 楽章の形式や構成、転調、和音、終止等を調べておく。	授業で取りあげた 3,4 楽章の特徴的な管弦楽法をスコアで確認しながら音源を聴く。	150 分 120 分
第 12 回	定期演奏会の曲目スコア研究 1-①(ウィーン古典派後期) ベートーヴェン: 交響曲第 7 番イ長調 Op.92 2 楽章	ベートーヴェン交響曲第 7 番の総譜を準備。2 楽章の形式や構成、転調、和音、終止等を調べておく。	授業で取りあげた 2 楽章での特徴的な管弦楽法をスコアで確認しながら音源を聴く。	150 分 120 分
第 13 回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 4-①(前期ロマン派) ベルリオーズの革命 幻想交響曲 1~3 楽章	ベルリオーズ幻想交響曲の総譜を可能な範囲で準備。1~3 楽章を CD 等の音源で聴いておく。	実際の授業内容に応じて適宜指示。	150 分 120 分
第 14 回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 4-②(前期ロマン派) ベルリオーズの革命 幻想交響曲 4,5 楽章	前回と同曲中の 4,5 楽章を CD 等の音源で聴いておく。	実際の授業内容に応じて適宜指示。	135 分 135 分
第 15 回	前期まとめ	スコアリーディングの復習と移調楽器の読譜の復習	1~15 回のまとめ	135 分 135 分

フィードバック 授業内で実施する課題の添削やコメントにより、改善点や今後の学習方法を各自にフィードバックする。

成績評価 定期試験 50%、課題 20%、授業への積極的な取り組み 30%
試験は筆記試験の予定

テキスト 野本由起夫著『はじめてのオーケストラ・スコア』音楽之友社
ベートーヴェン: 交響曲第 5 番ハ短調『運命』スコア(ベレンライター版が好ましい)
モーツァルト: 交響曲第 4 1 番 ハ長調 スコア
その他授業で扱うスコアは授業内で指示する。適宜、プリントを配布する。
※コピー楽譜可。上記の楽譜(他社版も可)を既に持っている人は新購入の必要なし。

《参考テキスト》: ゴードン・ヤコブ著『管弦楽法』音楽之友社
Henri BUSSEY 著・池内友次郎訳『楽器編成応用概論』全音楽譜出版社
授業後教室にて。もしくは E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

オフィスアワー

アクティブ・ラーニング 一通り、オーケストラで使用する楽器法やベートーヴェンやベルリオーズ、ラベルなどのオーケストレーションを学んだ後、後期の授業で PC 室のフィナーレを使用して、各自好きなテーマや原曲を探しオーケストラ編成を実技演習する。手書きやフィナーレ以外の楽譜作成ソフトでも可能。演習過程では担当講師が指導添削する。優秀作品は、翌年度の秋の新作試演会のオーケストラ授業で取り上げてもらい、作曲者自ら指揮をして、リハーサルも含み実演する。的確で要領の良いリハーサル方法は指揮者の先生が指導、オーケストレーション内容については担当講師が指導して、履修生は全員聴講する。試演会の開催有無は毎年検討する。

備考 日頃からスコアを見ながら CD 鑑賞やリハーサル鑑賞などをして、オーケストラスコアに慣れること。
●注意事項: 定期試験を受験しない履修生には単位は与えられない。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	

管弦楽法-2

講師 高島亜生

科目コード：SLF208

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2~4年次

形態：講義・演習

単位数：2単位

概要 定期演奏会や協奏曲演奏会の曲目の分析を中心に現代の管弦楽曲を少し取り扱う。学年末提出作品のためのオーケストレーション実習の準備。

到達目標 楽器法と管弦楽法の基礎の復習と、西洋音楽史上著しく発展を遂げたオーケストラについての理解を深める。①管弦楽で用いる諸楽器について。②スコアの読み方の更なる習熟。③各国や時代による管弦楽作品の分析・研究を行うことにより様式の違いによる作曲家たちのオーケストレーションの違いなどへの理解を深める。④定期演奏会や協奏曲演奏会等の曲目をテーマにして実際の音楽解釈、演奏表現の向上に結びつけていく。⑤オーケストレーション演習。月V,VI駒のオーケストラ授業内で秋に昨年度履修生の学年末提出作品の優秀作品試演会を行う。全てCD,DVD等を使用してスコアリーディングや楽曲・和声分析を行う。

授業計画

第1回	オーケストラスコアの復習	事前 前期の第1~15回までを復習しておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	230分 40分
第2回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 5-① (ロマン派・ドイツ) ウェーバー：オペラ「魔弾の射手」序曲	事前 課題曲を調べる。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150分 120分
第3回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 6 (ロマン派・ドイツ) メンデルスゾーン：フィンガルの洞窟	事前 課題曲を調べる。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150分 120分
第4回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 7 (ロマン派・ポーランド) ショパン：ピアノ曲より	事前 課題曲を調べる。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150分 120分
第5回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 8 (ロマン派・ドイツ) ワーグナー：タンホイザー序曲	事前 課題曲を調べる。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150分 120分
第6回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 10-① (ロマン派・ドイツ) ブラームス：交響曲第4番より	事前 課題曲を調べる。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	135分 135分
第7回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 10-① (ロマン派・フランス) ドビュッシー：牧神の午後への前奏曲より	事前 課題曲を聴く。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150分 120分
第8回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 10-② (ロマン派・フランス) ビゼー：カルメン前奏曲、交響曲ハ長調より	事前 課題曲を調べる。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150分 120分
第9回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 11 (ロマン派・ロシア) チャイコフスキーバレエ組曲「くるみ割り人形」	事前 課題曲を調べる。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150分 120分
第10回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 12 (ロマン派/フランス) ラヴェル：「ボレロ」と「ラ・ヴァルス」のオーケストレーションの比較	事前 課題曲を調べる。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150分 120分
第11回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 13 (国民楽派・ハンガリー) バルトーク：「管弦楽のための協奏曲」	事前 課題曲を調べる。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	120分 150分
第12回	20世紀初頭/原始主義・新古典主義：ストラヴィンスキー「春の祭典」より 管弦楽法実技① (学年末提出作品創作準備) ※学年末提出作品の課題発表予定	事前 ストラヴィンスキーの作曲様式の変化を調べる。同時代の世界の作曲家について調べる。 事後 学年末提出作品の課題の中から原曲選曲、或いは任意で探しかオリジナルにするかを決める。	135分 135分
第13回	歌劇の管弦楽法：プッチーニの歌劇「ラ・ボエーム」より 管弦楽法実技② (学年末提出作品創作実習-テーマ構成) 歌劇の中の管弦楽と序曲について	事前 作曲家プッチーニについて調べる。他のオペラ作品や同時代の他の国の作曲家についても調べる。 事後 冬休みに学年末提出作品の曲を決めて、編成、全体構成、製作計画を立てる。	135分 135分
第14回	協奏曲形式：ショパンとラフマニノフのピアノ協奏曲での管弦楽様式の比較 管弦楽法実技③ (学年末提出作品創作実習-楽器配分&オーケストレーション楽譜製作)	事前 課題曲を調べる。 事後 学年末提出作品楽譜製作を少しずつ進める。	120分 150分
第15回	近現代/ジャズ/無調音楽/民族楽器の導入 ガーシュインの作品他 管弦楽法実技④ (学年末提出作品創作実習-オーケストレーション楽譜製作つづき)	事前 学年末提出作品楽譜製作を少しずつ進めつつ、分からない箇所を挙げておく。 事後 学年末提出作品楽譜製作を少しずつ進めつつ、完成を目指す。	120分 150分

フィードバック 授業内での課題や演習を通してオーケストレーションの実際を学んでもらいたい、課題の添削を通して各自にフィードバックする。

成績評価 学年末提出作品(1月末頃締め切り)50%、宿題や課題20%、授業への取り組み30%
学年末提出作品は管弦楽作品(自作、編曲、様式問わない)とし、優秀作品は次年度のオーケストラ授業の試演会(秋頃)で演奏予定。

テキスト 野本由起夫著『はじめてのオーケストラ・スコア』音楽之友社

また定期演奏会や協奏曲演奏会で取り上げる管弦楽曲等のスコアも授業時に持参することが望ましい(コピー楽譜でも可)
その他授業で扱うスコアは授業内で指示する。適宜、プリントを配布する。

《参考テキスト》:ゴードン・ヤコブ著『管弦楽法』音楽之友社、Henri BUSSER 著・池内友次郎訳『楽器編成応用概論』全音楽譜出版社

オフィスアワー 授業後教室にて。もしくはEメールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング 一通り、オーケストラで使用される楽器法やペーターヴェンやベルリオーズ、ラベルなどのオーケストレーションを学んだ後、後期の授業でPC室のフィナーレを使用して、各自好きなテーマや原曲を探しオーケストラ編曲を実技演習する。手書きやフィナーレ以外の楽譜作成ソフトでも可能。
演習過程では担当講師が指導添削する。優秀作品は、翌年度の秋の新作試演会のオーケストラ授業で取り上げてもらい、作曲者自ら指揮をして、リハーサルも含み実演する。的確で要領の良いリハーサル方法は指揮者の先生が指導、オーケストレーション内容については担当講師が指導して、履修生は全員聴講する。試演会の開催有無は毎年検討する。
備考 日頃からスコアを見ながらCD鑑賞やリハーサル鑑賞などをして、オーケストラスコアに慣れること。
●注意事項：学年末提出作品は必ず提出すること。作品を未提出の履修生には単位は与えられない。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

対位法-1

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF209

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2~4年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 対位法の基礎となる2声対位法の書法を学び、音楽を水平方向に捉える力を養う。

到達目標 課題の実習を通し2声対位法を理解する。2声対位法で得られた知識・技術をもとに2声の平行カノンを試作する。

授業計画 実習を中心に授業を進める。また適宜楽曲の分析も行い、楽曲中での対位法の応用例を確認する。ただし履修者の習熟度に応じて予定を変更する場合もある。

第1回	対位法についての概説	事前 対位法について調べる。 事後 対位法学習に必要な楽典の知識を復習する。	100分 170分
第2回	2声対位法 第一類(全音符)についての解説	事前 授業で示された楽曲の分析・演奏に取り組む。 事後 テキストの第一類対位法の実施例を確認する。	100分 170分
第3回	2声対位法 第一類(全音符)の実習	事前 第一類対位法の実施法を復習する。 事後 実施した課題の誤りを確認し、必要に応じ再実施する。	100分 170分
第4回	2声対位法 第二類(二分音符)についての解説	事前 実施した課題の演奏に取り組む。 事後 テキストの第二類対位法の実施例を分析・演奏する。	100分 170分
第5回	2声対位法 第二類(二分音符)の実習	事前 第二類対位法の実施法を復習する。 事後 実施した課題に禁則がないか確認し、必要に応じ訂正を施す。	100分 170分
第6回	2声対位法 第三類(四分音符)についての解説	事前 実施した課題が理想的な旋律となっているか、実際に歌い確認する。 事後 テキストの第三類対位法の実施例をピアノで演奏する。	100分 170分
第7回	2声対位法 第三類(四分音符)の実習	事前 第三類対位法の実施法を復習する。 事後 実施した課題を見直し、訂正、再実施に取り組む。	100分 170分
第8回	2声対位法 第四類(移勢)について解説	事前 実施した課題を演奏し響きを確認する。 事後 テキストの第四類対位法の実施例を分析・演奏する。	100分 170分
第9回	2声対位法 第四類(移勢)の実習	事前 第四類対位法の実施法を復習する。 事後 実施した課題に禁則がないか見直し、訂正・再実施に取り組む。	100分 170分
第10回	2声対位法 第五類(華麗)についての解説	事前 実施した課題を歌い、理想的な旋律になっているか確認する。 事後 テキストの第五類対位法の実施例を確認する。	100分 170分
第11回	2声対位法 第五類(華麗)の実習	事前 第五類対位法の実施法を復習する。 事後 実施した課題を良く見直し、必要に応じ再実施を行う。	100分 170分
第12回	2声対位法のまとめ	事前 2声対位法の諸規則を復習する。 事後 第一類～第五類対位法が正しく理解できているか、課題の実施を通し確認する。	100分 170分
第13回	カノンについての概説	事前 実施した課題に禁則がないか、また理想的な旋律となっているか確認する。 事後 授業で示された楽曲の分析・鑑賞を行う。	100分 170分
第14回	2声の平行カノンの試作・演奏	事前 カノンの技法で書かれた楽曲を調べ、分析・鑑賞を行う。 事後 平行カノン以外のカノンの試作を実施する。	100分 170分
第15回	2声対位法・2声のカノンの総復習	事前 2声対位法、2声のカノンについて復習する。 事後 実施した課題や与えられた譜例の分析・演奏に取り組む。	100分 170分

フィードバック 対位法、カノンの練習課題を添削し、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 70%、課題 20%、授業態度 10%

テキスト 山口博史『バリ音楽院の方式による厳格対位法』(音楽之友社)
その他、適宜、プリントを配布する。
五線ノートを用意すること。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考 実施した課題や配布された資料等を演奏し、耳からの理解にも努めること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

対位法-2

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF210

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2~4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	3 声対位法の書法を学び、水平方向と垂直方向の両方から音楽を把握する感覚を養う。また対位法的楽曲のうちインベンション及びフーガの分析・試作を通し対位法への理解を深める。

到達目標	対位法の諸規則を遵守しつつ豊かな旋律線を書く。対位法的楽曲の分析力を高めるとともに、様々な楽曲中に用いられている対位法的な要素を把握する力を身につける。
------	--

授業計画 実習および楽曲分析を中心に授業を進める。ただし履修者の習熟度に応じて予定を変更する場合もある。

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	3 声対位法 第一類(全音符)についての解説	テキストを読み諸規則を確認する。	テキストの実施例を演奏し和音と旋律線を確認する。	110 分
第 2 回	3 声対位法 第一類(全音符)の実習	第一類対位法の実施法を復習する。	実施した課題を見直し誤り等がないか確認し、必要に応じ再実施に取り組む。	110 分
第 3 回	3 声対位法 第二類(二分音符)についての解説	実施した課題を演奏し、響きを確認する。	テキストの実施例の分析・演奏を行う。	110 分
第 4 回	3 声対位法 第二類(二分音符)の実習	第二類対位法の実施法を復習する。	実施した課題を分析し、誤りがないか確認する。必要に応じ再実施に取り組む。	110 分
第 5 回	J.S.BACH 作曲インベンションについての概説 J.S.BACH 作曲インベンション第 1 番の分析	インベンション第 1 番の楽譜を用意し、小節番号を記し、演奏する。	分析結果を演奏にどのように結びつけるか考えつつ演奏に取り組む。	110 分
第 6 回	J.S.BACH 作曲インベンション第 6 番の分析 インベンション提示部について	インベンション第 6 番の楽譜を用意し、小節番号を記し、演奏する。	分析した楽譜を確認しつつ様々な演奏を鑑賞し表現法を研究する。	110 分
第 7 回	インベンション提示部の作成 インベンション移行部について	インベンションの提示部の作成法を復習する。	作成した提示部を演奏し、必要に応じて訂正を施す。	110 分
第 8 回	インベンション移行部の作成 インベンション終結部の作成	分析したインベンションの移行部を見直し、演奏する。	移行部及び終結部を見直し、インベンションを完成させる。	110 分
第 9 回	フーガについての概説 A.ROWLEY 作曲ミニチュア・フーガ第 1 番及び第 2 番の分析	フーガとはどのようなものかを調べる。	授業で得た知識を元に、これまでに触れたフーガの構造等を観察する。	110 分
第 10 回	J.S.BACH 作曲平均律第 1 巻より第 16 番フーガの分析 変応について	平均律第 1 巻第 16 番フーガの楽譜を用意し、小節番号を記し、演奏を鑑賞する。	改めて演奏を確認し、分析前と分析後での聴こえ方の違いを確認する。	110 分
第 11 回	フーガの素材の準備 主要提示部について	変応について復習し変答唱の作成を試みる。	与えられた主唱を元に答唱・対唱を作成する。	110 分
第 12 回	副提示部について 主要提示部及び副提示部の作成	任意のフーガの主要提示部を分析し、素材がどのように扱われているか確認する。	作成した提示部をピアノ等で演奏し響きを確認する。	110 分
第 13 回	追迫部について 追迫部の作成	カノンについて復習しておく。	追迫部を完成させピアノ等で演奏し響きを確認する。	110 分
第 14 回	嬉遊部について 嬉遊部及び終結部の作成	インベンションの移行部についての復習をする。	嬉遊部と終結部を加え、フーガを完成させる。	110 分
第 15 回	総まとめ	これまでに実施した課題を分析・演奏し、知識を確認する。	様々な楽曲を分析し、その中に用いられている対位法的要素を確認する。	110 分

フィードバック 対位法課題、試作品を添削し、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 40%、3 声対位法課題提出 10%、試作品 40%、授業態度 10%

テキスト 山口博史『パリ音楽院の方式による厳格対位法』（音楽之友社）
その他、適宜、プリントを配布する。
五線ノットを用意すること。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考 実施した課題や配布された資料等を演奏し、耳からの理解にも努めること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

楽典：発展

講師 高島亜生

科目コード：SLF110

対象コース/専門/学年：器楽・声楽・GLA コース/全専門/2～4 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 教員採用試験の楽典問題の傾向と対策（管弦楽スコアからの問題を解くための学習）、日本音楽や邦楽器についての出題等に対応できるように、日本伝統芸能や伝統音楽や邦楽器の演奏家や外部講師を招聘してワークショップを実施する可能性も有り。

到達目標 楽典：基礎、音楽史、ソルフェージュの基礎をしっかりと習得している学生対象。主に将来学校教育を希望ないしは検討する学生を対象に音楽教育現場の授業で必要とされる音楽理論知識や合唱・器楽合奏の編曲・作曲技術に必要な声域、楽器法、和楽器の調弦や奏法、オーケストラスコアに関する知識など、音楽教師として必要な知識を確実に身につけ、あらゆる問題に対応できるように学習してもらう。さらに教員採用試験（中学・高校/音楽）の過去問題にも取り組み実践する。

授業計画

第 1 回	楽典一傾向と対策①/拍子、リズム、音程、コードネーム、和音- (理論)	事前 楽典の基礎理論の復習 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分 100 分
第 2 回	楽典一傾向と対策①/拍子、リズム、音程、コードネーム、和音- (実践)	事前 授業で出された課題を解いておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分 100 分
第 3 回	楽典一傾向と対策②/音階、関係調、移調楽器、略記法、楽語- (理論)	事前 各移調楽器について記音と実音の違いを調べておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分 100 分
第 4 回	楽典一傾向と対策②/音階、関係調、移調楽器、略記法、楽語- (実践)	事前 授業で出された課題を解いておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分 100 分
第 5 回	楽典一傾向と対策③/音楽用語、様式、形式、音楽書法、非和声音- (理論)	事前 西洋音楽史に基づく様式や形式、音楽理論や楽器法など幅広い音楽用語を調べておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分 100 分
第 6 回	楽典一傾向と対策③/音楽用語、様式、形式、音楽書法、非和声音- (実践)	事前 授業で出された課題を解いておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分 100 分
第 7 回	日本の伝統音楽と和楽器講座-ワークショップ①/日本の笛-能管・尺八・篠笛	事前 篠笛、能管、龍笛などの横笛のそれぞれの違い、尺八音楽などについて調べておく。 事後 実際に演奏してみた感想をメモする。	170 分 100 分
第 8 回	日本の伝統音楽と和楽器講座-ワークショップ②/日本の弦楽器と語り物 三味線・箏・琵琶	事前 三味線・箏の種類や三味線音楽や箏曲について、琵琶語りと琵琶の種類を調べる。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分 100 分
第 9 回	日本の伝統音楽-ワークショップ③/日本の伝統芸能 能楽講座	事前 能楽について調べておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分 100 分
第 10 回	日本の伝統音楽④ /三味線・尺八・箏曲・雅楽・能楽・歌舞伎、文楽、民謡、日本の音階 等まとめ	事前 雅楽と能楽の違い、能楽と歌舞伎の関係について調べておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分 100 分
第 11 回	教員試験対策問題-実践① 楽典 オークストラスコアからの出題	事前 授業で出された課題を解いておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	190 分 80 分
第 12 回	教員試験対策問題-実践② 日本の音楽と諸外国の音楽からの出題	事前 授業で出された課題を解いておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	190 分 80 分
第 13 回	器楽一傾向と対策①/リコーダーとギターの運指と奏法について	事前 リコーダーを準備して、吹きながら運指を思い出す。ギターについて調べておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分 100 分
第 14 回	教員試験対策問題-実践③ /和楽器、移調楽器、オーケストラ楽器	事前 授業で出された課題を解いておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	190 分 80 分
第 15 回	まとめ	事前 第 1～14 回までの復習と定期レポートへ向けての学習 事後 西洋音楽と日本音楽の比較について考えてみる。	250 分 20 分

フィードバック 授業後の課題やレポート、学年末レポートや授業外自主研究課題に対して、添削により、改善点や学習方法、今後の取り組み方などを各自にコメントして伝える。

成績評価 学年末レポート 50%、授業ごとの課題やレポート 25%、授業への積極的な取り組み 25%

テキスト 適宜プリントを配布する。
その他、使用する楽譜や管弦楽スコア、テキストは必要に応じて指示する。

オフィスアワー 授業後教室にて。もしくは E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 楽典の基礎的な内容をすでに学習してある学生が対象。和声法を履修済か同等の内容をすでに学習してある学生が対象。
課題や復習をすること。2 年生以上の学生が対象。学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

音楽理論上級 1-1

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF303

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/3 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 様々な様式の和声課題を実施し、調性に対する感覚を磨くとともに旋律を分析する力を養う。また調性のある楽曲の試作に取り組み、能動的に和声を紡ぐ能力を高める。

到達目標 非和声音を含むソプラノ課題に取り組み、旋律各音の働きを確実に分析できるようになる。
主題的構成を持つバス課題の実施を通し、楽曲中の主題に対する意識を高めるとともに声部の扱いに習熟する。
調性音楽の試作を行い自らの音楽を発信する態度を培うとともに、様々な楽曲に込められた作曲者の思いを考察できるようになる。

授業計画 和声課題の実施や楽曲の試作、楽曲分析等の実習を中心に授業を行う。ただし履修者の習熟度に応じ予定を変更することもある。

第 1 回	基礎的な和声法の確認	事前 事後	和声法についての既習事項を復習する。 授業で実施した課題を見直し、必要に応じ訂正・再実施に取り組む。	110 分 160 分
第 2 回	非和声音について 非和声音を含むソプラノ課題① 刺繍音及び経過音を中心とする課題	事前 事後	非和声音についての知識を確認する。 実施した課題を演奏し響きを確認する。必要に応じ訂正・再実施に取り組む。	110 分 160 分
第 3 回	非和声音を含むソプラノ課題② 全ての非和声音を含む課題	事前 事後	任意の楽曲を和声分析し、非和声音の使用例を確認する。 授業で取り組んだ課題を見直し、正しく非和声音を把握できているか確認する。	110 分 160 分
第 4 回	配置変化について	事前 事後	実施した課題を演奏し、非和声音をどのように表現すると効果的であるか研究する。 配置変化に習熟するため練習課題に取り組む。	110 分 160 分
第 5 回	自由ソプラノ課題の実施① 刺繍音及び経過音を中心とする課題	事前 事後	実施した課題をピアノで弾き、響きを確認しつつ禁則がないか確認する。 非和声音や転調を正しく把握できているかに注意し、実施した課題を見直す。	110 分 160 分
第 6 回	自由ソプラノ課題の実施② 全ての非和声音を含む課題	事前 事後	実施した課題を演奏し、非和声音の響きが和声に与える効果を聴き取る。 和声の流れに即した非和声音の分析ができているか、実施した課題を見直し確認する。	110 分 160 分
第 7 回	反復進行について	事前 事後	総合和声 P.193～202 の解説を読む。また譜例をピアノで演奏する。 授業で実施した課題を暗譜するまでピアノで弾く。	110 分 160 分
第 8 回	模倣反復進行について	事前 事後	暗譜した反復進行の移調奏に取り組む。 総合和声の課題 54 を実施する。	110 分 160 分
第 9 回	厳格バス課題の実施① 基本的な反復進行による課題	事前 事後	実施した課題に反則がないか確認した上で、移調奏を行う。 授業で取り組んだ課題を見直し、必要に応じ訂正・再実施に取り組む。	110 分 160 分
第 10 回	副 V を含む反復進行	事前 事後	総合和声 P.86～88 の解説を読み、また譜例を演奏し、副 V についての知識を確認する。 授業で実施した課題を暗譜するまでピアノで演奏する。	110 分 160 分
第 11 回	厳格バス課題の実施② 副 V を含む反復進行を持つ課題	事前 事後	暗譜した副 V を含む反復進行の課題の移調奏に取り組む。 実施した課題に反則がないか確認し、必要に応じ訂正・再実施に取り組む。	110 分 160 分
第 12 回	調性のある楽曲の試作① 解説	事前 事後	基本的な楽式について復習する。 試作品の形式、全体の構成、調の流れを決め、主題等を準備する。	110 分 160 分
第 13 回	調性のある楽曲の試作② 仕上げ	事前 事後	試作を進める。ピアノで演奏し、イメージした音楽になっているか確認する。 授業で指摘された点に留意しつつ試作品を完成させる。	110 分 160 分
第 14 回	調性のある楽曲の試作③ 演奏	事前 事後	試作品を練習し、授業で発表できるよう準備する。 試作品を見直し、また演奏を振り返り、さらに良い音楽とするために必要なものを考える。	110 分 160 分
第 15 回	和声的な楽曲についてのまとめ	事前 事後	これまでに扱った和声課題を見直す。 和声課題及び試作品の見直し、演奏を通し既習の知識と技術を確認する。	110 分 160 分

フィードバック 和声課題及び試作品の添削を通してフィードバックを行う。

成績評価 試験 40%、楽曲の試作 40%、和声課題の宿題 10%、授業態度 10%

テキスト 島岡譲（執筆責任）「総合和声」（音楽之友社）
その他、適宜、プリントを配布する。
五線ノートを用意すること。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考 音楽理論は座学ではなく実技科目と捉え、積極的に実習に取り組むこと。また実施したものは必ずピアノ等で演奏し、耳からの理解にも努めること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

音楽理論上級 1-2

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF304

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／3 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 後期ロマン派の音楽で用いられる和声法を理解し、論理的に把握できる楽曲の幅を広げるとともに調性が崩壊してゆくプロセスを確認する。

到達目標 フランスの課題を含む、ある程度複雑な和声課題を分析し実施できるようになる。
楽曲中に用いられている調性音楽以外の要素を把握できるようになる。
12 音技法について理解し分析できるようになる。

授業計画 和声課題の実施や楽曲の試作、楽曲分析等の実習を中心に授業を行う。ただし履修者の習熟度に応じ予定を変更することもある。

第 1 回	既習の和声法によるバス課題及びソプラノ課題の実施	事前 事後	既習の和声法についての知識を確認する。 授業で実施した課題を見直し、必要に応じ訂正・再実施に取り組む。	110 分 160 分
第 2 回	階梯導入について	事前 事後	階梯導入とはどういうものかを調べる。 授業で示された階梯導入の譜例の分析及び演奏に取り組む。	110 分 160 分
第 3 回	階梯導入をもつ厳格バス課題	事前 事後	厳格バス課題について復習する。 実施した課題に反則がないか見直し、必要に応じ訂正・再実施をする。	110 分 160 分
第 4 回	偶成和音① 刺繍和音・倚和音	事前 事後	階梯導入を持つ厳格バス課題の演奏に取り組む。 テキストの解説をよく読み、刺繍和音と倚和音についての理解を深める。	110 分 160 分
第 5 回	偶成和音② 経過和音	事前 事後	テキストの譜例を演奏し、刺繍和音と倚和音の響きを確認する。 テキストの解説をよく読み、経過和音についての理解を深める。	110 分 160 分
第 6 回	偶成和音を含む両外声課題	事前 事後	テキストの譜例を演奏し、経過和音の響きを確認する。 実施した両外声課題を見直し、反則等が見つかった場合は訂正・再実施を行う。	110 分 160 分
第 7 回	保属音について	事前 事後	実施した偶成和音を含む課題をピアノで演奏し、響きを確認する。 様々な楽曲を鑑賞し、保属音がどのような場面で用いられているか確認する。	110 分 160 分
第 8 回	和音を表す数字について	事前 事後	任意の保属音が用いられた楽曲の和声分析を行う。 これまでに実施した和声課題に、フランス式の数字を付ける。	110 分 160 分
第 9 回	様々な和音を含む和声課題① 解説及び課題分析	事前 事後	課題に記されたフランス式の数字を参考にしつつレアリゼーションを行う。 通常のカデンツで把握できない部分にどのような偶成和音を用いることができるか考える。	110 分 160 分
第 10 回	様々な和音を含む和声課題② 仕上げ	事前 事後	偶成和音を用いつつ課題を実施する。 添削時に指摘された点に留意しつつ、課題を仕上げる。	110 分 160 分
第 11 回	12 音技法について	事前 事後	仕上げた課題を演奏し響きを確認する。不自然な部分がある場合は再実施に取り組む。 12 音技法で書かれた楽曲を探し、鑑賞する。	110 分 160 分
第 12 回	12 音技法による楽曲の試作① 解説、音列の作成	事前 事後	任意の 12 音技法で書かれた楽曲の音列を抜き出す。 作成した音列に誤りがないか確認する。	110 分 160 分
第 13 回	12 音技法による楽曲の試作② 試作の実施及び仕上げ	事前 事後	作成した音列の反転型を書く。また原型・反転型ともに移高する。 授業中に指摘された部分を修正しつつ、試作品を仕上げる。	110 分 160 分
第 14 回	12 音技法による楽曲の試作③ 演奏	事前 事後	演奏に向け練習を重ねる。 試作品を見直し、演奏を振り返り、よりよい音楽を作り上げるために必要なものを考える。	110 分 160 分
第 15 回	総まとめ	事前 事後	これまでに実施した和声課題を改めて見直し、必要に応じ訂正・再実施に取り組む。 任意の楽曲の分析を通し、既習事項の習熟度を確認する。	110 分 160 分

フィードバック 和声課題及び試作品の添削を通してフィードバックを行う。

成績評価 試験 40%、楽曲の試作 40%、和声課題の宿題 10%、授業態度 10%

テキスト 島岡譲（執筆責任）「総合和声」（音楽之友社）
その他、適宜、プリントを配布する。
五線ノートを用意すること。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考 音楽理論は座学ではなく実技科目と捉え、積極的に実習に取り組むこと。また実施したものは必ずピアノ等で演奏し、耳からの理解にも努めること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

(演) 音楽理論上級 2-1

講師 高島 亜生

科目コード : SLF403

対象コース/専門/学年 : 演奏家コース/全専門/4 年次

形態 : 講義・実習

単位数 : 2 単位

概要 楽譜に書いてある音符は西洋音楽の場合、時代や作曲家様式によって様々な意味がある。音楽理論を学ぶ目的は作曲家が楽譜に書いた暗号である“音達”を真に芸術音楽として読み解くためのヒントに他ならない。実作品の原典版楽譜や音源を用いながら、分析能力、音楽的聴取力、読譜力、音楽理論の基礎力を養う。

到達目標 上級 2 では上級 1 を履修、もしくは西洋音楽を深く学び、作編曲や指導者も目指す学生を対象。実用的な対位法書法の実習と、楽譜分析、聴取分析、合唱・楽器編曲法、音楽形式・各作曲家様式など音楽理論の総合演習を中心に、ルネサンス・バロック音楽の実作品を扱いながら学ぶ。単なる知識や技法の“詰め込み”ではなく、それを創造的に使い豊かな音楽表現につながるようにする。

授業計画 ●和声(自由ソプラノ・バス)課題 ●ゼクエント進行を含むバス課題 ●旋律への和声・伴奏付 ●対位法 ●通奏低音 ●移調試奏 ●実作品の分析 ●大作曲家の音楽書法 ●各時代や国、作曲家の形式・様式 ●カノン・フーガ ●調性と無調性 ●音階と様々な旋法 原典楽譜、音源や動画、資料を用いて、各学生の習熟度に合わせて進める。

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	オリエンテーション 今までの音楽理論演習の確認 総合演習 1 理論実習(旋律の進行)	今まで実習した音楽理論について確認して、自分の勉強したい箇所を把握しておく。	授業内容と課題を復習する。	135 分 135 分
第2回	総合演習 2 理論実習(旋律とリズム)	指示したテキスト範囲を読んでおく。	授業内容と課題を復習する。	170 分 100 分
第3回	総合演習 3 理論実習(旋律と和声)	与えられた課題をやる。	授業内容と課題を復習する。	170 分 100 分
第4回	総合演習 4 理論実習(旋律と和声)	与えられた課題をやる。	授業内容と課題を復習する。	170 分 100 分
第5回	総合演習 5 理論実習(旋律の対旋律)	与えられた課題をやる。	授業内容と課題を復習する。	170 分 100 分
第6回	総合演習 6 理論実習(旋律的楽曲分析)	与えられた課題をやる。	授業内容と課題を復習する。	170 分 100 分
第7回	総合演習 7 理論実習(二声対位法・全音符・二分音符) /分析(ルネサンス音楽)パレストリーナの作品(声楽曲)より	対位法課題をやる。課題曲について調べる。	パレストリーナ以外のルネサンス期の作曲家声楽曲を聴いてみる。	170 分 100 分
第8回	総合演習 8 理論実習(二声対位法・二分音符 数字付低音について) /分析(ルネサンス・バロック期)ヘンデルのオペラ作品より	バロックオペラについて調べる。対位法課題をやる。	ヘンデル以外のバロックオペラを探してみる。	170 分 100 分
第9回	総合演習 9 理論実習(二声対位法・四分音符) /分析(バロック期)バッハ:無伴奏ヴァイオリンソナタ	第8回で指示された課題をやる。古典舞曲の組曲と協奏曲について調べる。	無伴奏ヴァイオリンソナタを四声体書法に書き換えてみる。	170 分 100 分
第10回	総合演習 10 理論実習(二声対位法・移勢・華麗) /分析(バロック期)バッハ:平均律クラヴィーア曲集より	ビタゴラス音律、純正律、十二平均律について調べる。	課題曲以外の平均律の曲も様々な鍵盤楽器で聴いてみる。	170 分 100 分
第11回	総合演習 11 理論実習(コラール書法について) /分析(バロック期)J.S.BACH マタイ受難曲より	第10回で指示された課題をやる。	マタイ受難曲中の同じコラール旋律に様々な和声編曲されている部分を確認する。	170 分 100 分
第12回	総合演習 12 理論実習(転回可能対位法) /分析(古典派)バッハ:インヴェンションより	第11回で指示された課題をやる。	授業で取り上げた曲の復習	170 分 100 分
第13回	総合演習 13 理論実習(模倣、拡大、縮小、逆行) /分析(古典派)バッハ:インヴェンションより	第12回で指示された課題をやる。	授業で取り上げた曲の復習	170 分 100 分
第14回	総合演習 14 理論実習(カノン) /分析(古典派)フーガの技法 オルガン作品より	第13回で指示された課題をやる。	フーガの技法の 弦楽オーケストラで聴いてみる。	170 分 100 分
第15回	前期のまとめ	第1~14回までの中で理解出来ない部分の確認	前期の復習と、夏休みの自己課題を各自把握する。	170 分 100 分

フィードバック 課題、レポート、試験について毎回授業ごとにコメントや添削を通して改善点や学習方法を伝える。

成績評価 定期試験の成績 40%、宿題や課題 30%、授業への積極的な取り組み 30%

テキスト ●柳田孝義 著 『名曲で学ぶ対位法 書法から作編曲まで』音楽之友社
●五線紙&筆記用具(鉛筆)

その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。適宜、プリントを配布する。
《参考図書》池内友次郎著『二声対位法』音楽之友社
野田暉行著『Fugue』E World Japan Publishing (Teruyuki Noda-Official Site より購入可)

オフィスアワー 授業後教室にて。もしくは E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容や順序を変更する可能性もある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

(演) 音楽理論上級 2-2

講師 高島 亜生

科目コード: SLF404

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/全専門/4 年次

形態: 講義・実習

単位数: 2 単位

概要 楽譜に書いてある音符は西洋音楽の場合、時代や作曲家様式によって様々な意味がある。音楽理論を学ぶ目的は作曲家が楽譜に書いた暗号である“音達”を真に芸術音楽として読み解くためのヒントに他ならない。実作品の原典版楽譜や音源を用いながら、分析能力、音楽的聴取力、読譜力、音楽理論の基礎力を養う。

到達目標 上級 2 では上級 1 を履修、もしくは西洋音楽を深く学び、作編曲や指導者も目指す学生を対象。実用的な対位法書法の実習と、楽譜分析、聴取分析、合唱・楽器編曲法、音楽形式・各作曲家様式など音楽理論の総合演習を中心に、古典派から近代音楽の実作品を扱いながら学ぶ。単なる知識や技法の“詰め込み”ではなく、それを創造的に使い豊かな音楽表現につながるようにする。

授業計画 ●和声(自由ソプラノ・バス)課題 ●ゼクエント進行を含むバス課題 ●旋律への和声・伴奏付 ●対位法 ●通奏低音 ●移調試奏 ●実作品の分析 ●大作曲家の音楽書法 ●各時代や国、作曲家の形式・様式 ●カノン・フーガ ●調性と無調性 ●音階と様々な旋法 原典楽譜、音源や動画、資料を用いて、各学生の習熟度に合わせて進める。

回数	総合演習	理論実習(対位法/旋律の修飾)	事前	事後	スコア
第1回	総合演習1	理論実習(対位法/旋律の修飾 対旋律による) /分析(古典派) モーツァルトの交響曲第25,40番短調	事前 前期に学んだ内容と演奏表現へのつながりの発見を再確認する。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第2回	総合演習2	理論実習(対位法/旋律の修飾 カノン手法により) /分析(古典派) ハイドン・ベートーヴェンの動機操作と和声法	事前 ハイドン・ベートーヴェンの課題曲について調べる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第3回	総合演習3	理論実習(対位法/旋律の修飾 バスの旋律により) /分析(古典派) ベートーヴェンのポリフォニー	事前 ベートーヴェンの課題曲について調べる。第2回で指示された課題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第4回	総合演習4	理論実習(対位法/旋律の修飾 合唱の中での対位法的編曲) /分析(古典派) ショパンのハーモニー&ポリフォニー	事前 ショパンの課題曲について調べる。第3回で指示された課題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第5回	総合演習5	理論実習(対位法/旋律の修飾 器楽合奏の中での対位法的編曲) /分析(ロマン派) シューマンのピアノ歌曲	事前 シューマンの課題曲について調べる。第4回で指示された課題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第6回	総合演習5	理論実習(和声法/自由ソプラノ課題①) /分析(ロマン派) ブラームスの「内的声部」『異名同音変換』	事前 ブラームスの課題曲について調べる。第5回で指示された課題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第7回	総合演習6	理論実習(和声法/自由ソプラノ課題②) /分析(後期ロマン派) ワグナーの和声と半音階的拡張、多声部書法	事前 ワグナーの課題曲について調べる。第6回で指示された課題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第8回	総合演習7	理論実習(和声法/自由ソプラノ課題③) /分析(フランス近代) 印象派の和声:ドビュッシーの作品より	事前 ドビュッシーの課題曲について調べる。第7回で指示された課題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第9回	総合演習8	理論実習(和声法/自由ソプラノ課題④) /分析(フランス近代) 様々な旋法の取り込み ドビュッシーとラヴェル	事前 ラヴェルの課題曲について調べる。第8回で指示された課題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第10回	総合演習9	理論実習(和声法/自由ソプラノ課題⑤) /分析(20世紀・新古典主義) 多調性と無調性の違い:ストラヴィンスキー等	事前 ストラヴィンスキーの101の質問を讀む。第9回で指示された課題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第11回	総合演習10	理論実習(和声法/自由ソプラノ課題 バリ音楽院の課題①) /分析(12音音列技法) アルバン・ベルクの歌劇『ヴォツェック』より	事前 新ウィーン楽派と12音技法について調べる。第10回で指示された課題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第12回	総合演習11	理論実習(和声法/自由ソプラノ課題 バリ音楽院の課題②) /分析(後期ロマン派 イタリア歌劇) ブッチェーニのオペラより	事前 ブッチェーニの作品について調べる。第11回で指示された課題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第13回	総合演習12	理論実習(和声法/自由ソプラノ課題 バリ音楽院の課題③) /分析(20世紀新音楽) メシアン音楽語法	事前 メシアンについて調べる。第12回で指示された課題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第14回	総合演習13	理論実習(和声法/自由ソプラノ課題 バリ音楽院の課題④) /楽曲分析(20世紀新音楽) バルトーク、ヒンデミットの音楽語法	事前 バルトークの課題曲について調べる。第13回で指示された課題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第15回	後期のまとめ		事前 今までの勉強した音楽理論や分析について復習する。	事後 自分の一年間の音楽理論演習と演奏表現向上との関連性をまとめる。	170分 100分

フィードバック 課題、レポート、試験について毎回授業ごとにコメントや添削を通して改善点や学習方法を伝える。

成績評価 定期試験の成績 40%、宿題や課題 30%、授業への積極的な取り組み 30%

テキスト ●柳田孝義 著 『名曲で学ぶ対位法 書法から作編曲まで』音楽之友社
●五線紙&筆記用具(鉛筆)
その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。適宜、プリントを配布する。
《参考図書》●島岡譲(執筆責任)『総合和声 実技・分析・原理』音楽之友社
野田暉行著『要約和声』E World Japan Publishing (Teruyuki Noda-Official Site より購入可)
野田暉行著『和声100課題集』(課題編・実施編) E World Japan Publishing (同上)
野田暉行著『Fugue』(CD音源付) E World Japan Publishing (同上)

オフィスアワー 授業後教室にて。もしくはEメールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的意識	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

指揮法

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 中村拓紀

科目コード：SLF305

コース/専門/学年： 全コース/全専門/3・4年次

形態：演習

単位数：2単位

概要	<ul style="list-style-type: none"> 指揮の基本技法を習得するのみならず、指揮とは何かを知り、指揮の真髄に触れる。 実際の履修者の様子に応じて題材を選び、指揮および指導の実習をする。 スコアを読むための予備知識を習得する。(ハ音記号、移調楽器の記譜について)
----	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 理論的なことを押さえつつも、指揮および指導を「実践する」。 実際に指揮を体験してみるにより、それに必要な「準備」、「心構え」、「リハーサルの方法論」などを、クラスメートとのディスカッション出来るようにする。 卒業後、指導の現場に即戦力で立つための技術を備える。
------	--

授業計画

回数	内容	事前	事後	120分	150分
第1回	ガイダンス 任意で準備するものについて (指揮棒・ノート・ファイル・カメラ) オリジナル課題を作る	利き腕を把握し・指揮者として立ち姿を意識する	オリジナル課題について修正する	120分	150分
第2回	指揮法基礎 (たたき・1拍子・2拍子・3拍子) 筋力と脱力 オリジナル課題を完成させる	講義に必要なものを揃える	指揮法基礎 (筋力・と脱力) について練習する	120分	150分
第3回	指揮法基礎 (たたき・1拍子・2拍子・3拍子・4拍子) 呼吸 オリジナル課題を指揮する	オリジナル課題を指揮する練習する	指揮法基礎 (呼吸) について練習する	120分	150分
第4回	指揮法基礎 (たたき・平均運動・2拍子・3拍子・4拍子) 流れ オリジナル課題を指揮する	オリジナル課題を指揮する練習をする	指揮法基礎 (流れ) について練習する	120分	150分
第5回	指揮法基礎 (たたき・平均運動・しゃくい・2拍子・3拍子・4拍子) 予備拍 オリジナル課題を指揮する・課題曲を指揮する	指揮法基礎について練習する	課題曲の譜読みをし指揮の練習をする	120分	150分
第6回	指揮法発展 (複合拍子) オリジナル課題を指揮する・課題曲を指揮する	複合拍子について指揮の練習をする	課題曲の指揮の練習をする	120分	150分
第7回	指揮法発展 (間接運動・直接運動) オリジナル課題を指揮する・課題曲を指揮する	間接運動と直接運動を練習する	発表会の準備をする	120分	150分
第8回	中間発表会に向けて準備 ディスカッション	オリジナル課題と課題曲を練習する	発表会の準備をする	120分	150分
第9回	中間発表会・本番	発表会の準備をする	発表会の反省をする	120分	150分
第10回	音楽における4つのイントネーション・アルシスとテーシス	イントネーションのない状態・イントネーションがある状態を想定する	講義で取り上げたイントネーションを感じて専門や副科の演奏に生かす	120分	150分
第11回	スコアを読む (楽器の種類や表記・移調楽器の存在)	移調楽器について調べておく	譜例を深く読む	120分	150分
第12回	スコアを読む (下調べ・下準備・譜読み・楽式)	指揮者がすべき下準備は何かを考えて実際にやってみる	スコアへの下準備を修正する	120分	150分
第13回	スコアリーディングのまとめ	準備のできたスコアを見て指揮の練習をする	巨匠と呼ばれる指揮者の映像を見る	120分	150分
第14回	オリジナル課題を指揮する・課題曲を指揮する ディスカッション	発表会の準備をする	自分の指揮の反省をする	120分	150分
第15回	発表会・本番	発表会の準備をする	自分の指揮の反省をする	120分	150分

フィードバック 実習形式の講義のため、講義前後と講義中のいつ何時も教員の指導にて学修成果をフィードバックする機会を設ける。

成績評価 事前 (事後) 学習への取り組み 30% / 発表の機会を含めた講義への取り組み 70%

テキスト 講義内に指示する。

オフィスアワー 講義の前後、または休憩中に教室にて対応する。

アクティブ・ラーニング 実際に指揮し、演奏者に意見を聞きながら問題点を探し、教員が改善のヒントを与え、学生にその問題点を解決させる。必要に応じて、技術的アドバイスも与える。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用					意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

作曲法（編曲法を含む）

※教育職員免許状取得に関わる科目

講師 高島 亜生

科目コード：SLF306

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／3・4年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 メロディのコード付け、変奏曲、カノンの作曲、モチーフを使った作曲、歌曲の作曲、無調現代曲の作曲、特殊編成への編曲など

到達目標 将来、音楽活動や教育の現場で、様々なニーズに応じた作曲・編曲を求められることも少なくない。この授業では、創作の基本的な実技（モチーフの各形式による作曲や伴奏付け、コード付け、合奏&合唱曲の編曲・作曲など）や具体的な書法テクニックを演習させながら、出来るだけ多く自分で楽譜を書いたり、PCに打ち込み楽譜製作をしたりする。またそれらを実際に試演するなど実際の音にして音楽的体験をすることを目標とする。

授業計画 教室内で演奏不可の学生は音源をCD等で用意すること。

第1回	オリエンテーション／メロディーの伴奏付け（コード付け）	事前 事後	終止形（カデンツ）、終止、和音進行、コードネーム、音楽基礎理論を復習しておく。 実際の授業内容に応じて適宜指示。	120分 150分
第2回	オブリガート（対旋律）を作って編曲しよう	事前 事後	伴奏付け（コード付け）の復習。リコーダーの音域確認。各声域（Sop.Alto.男声）の確認。 授業の課題を仕上げる。	120分 150分
第3回	与えられたコードネームまたは和音進行の上に旋律を作曲しよう	事前 事後	和音度や転位音（非和声音）の復習。伴奏に用いるギターについて調べておく。 完成した楽譜をギターを弾ける友人を捜して弾いてもらい、歌ってみよう。	135分 135分
第4回	二部形式の曲（16小節）を作曲しよう（転調あり）	事前 事後	形式についてと、近親転調について復習しておく。 与えられたモチーフでいくつか二部形式で旋律を創作する練習をしましょう。	120分 150分
第5回	二部形式の曲を編曲しよう（伴奏付け、オブリガート）	事前 事後	第4回で作った旋律のコード付けや終止を設定しておく。 授業の課題を仕上げる。	135分 135分
第6回	ア・カベラの混声合唱曲に編曲しよう（カノン、コラール）	事前 事後	中学、高校生の各声部の音域を調べておきましょう。 授業の課題を仕上げる。	120分 150分
第7回	多声的な音楽の創作（3声のカノン）	事前 事後	混声三部（Sop.Alto.男声）の声域の確認。対位法、声部書法について調べておく。 授業の課題を仕上げる。	120分 150分
第8回	移調楽器（木・金管）を含んだアンサンブル（4重奏、特集編成など）を編曲しよう	事前 事後	移調楽器（Cl.inB, inA, Hr.inF, Tp.inB, Alto Sax.inEs）の記音と実音の関係を調べておく。 授業の課題を仕上げる。	135分 135分
第9回	箏や三味線、篠笛、尺八、和太鼓など 邦楽器を含んだ楽曲創作をしよう1（講義・演習）	事前 事後	各音域の実際の和楽器の音を確認してみよう。（講師の先生や和楽サークル学生に相談等） 授業で課された演習の準備	150分 120分
第10回	箏や三味線、篠笛、尺八、和太鼓など 邦楽器を含んだ楽曲創作をしよう2（発表）	事前 事後	和楽器の新しい音色の可能性や奏法を発見してみよう。 リット形式をみて各種、器楽形式の複合三部形式、ロンド形式、ソナタ形式をみて調べておく。	150分 120分
第11回	三部形式の曲（24小節）を作曲しよう（転調あり）	事前 事後	様々な歌の歌詞のイントネーションを研究する。旋律の動きとリズムの関係や終止、構成や音域など。 授業の課題を仕上げる。	100分 170分
第12回	与えられた歌詞（オリジナル可）に旋律を作曲して部分的に合唱にしてみよう1（演習）	事前 事後	クラス全員で歌えるように、全員分の楽譜を準備しよう。 自分の創作した歌の歌詞と旋律線が自然で合っていたか検討しましょう。	135分 135分
第13回	与えられた歌詞（オリジナル可）に旋律を作曲して部分的に合唱にしてみよう2（発表）	事前 事後	学校現場で楽器になりそうなグッズを集めてみよう！一つの楽器で特殊奏法を探してみよう。 授業の課題を仕上げる。	170分 100分
第14回	学校音楽の現場で用意できる楽器または日常雑貨で 独創楽器を作って創作・編曲してみよう	事前 事後	発表会に備えて、パート楽譜準備、演奏者手配、リハーサル等、各自準備をする。 発表会で他の学生の作品を聞いて、参考にするアイデアを得る。	250分 20分

フィードバック 課や宿題を講師が添削して次週返却するので、それをしっかり復習して次の課題にも生かしていく。最後の提出作品ではその積み重ねの総合力を出せるように、基礎的な作曲技術を身につけていく。

成績評価

学期末作品と試演発表会 50%、宿題や課題 25%、授業への取り組み 25%
学期末作品提出（編成、形式や様式は自由。3分程度の自由作曲（編曲可））楽譜提出（手書き、コピー、PCいずれも可）。最後の授業で作品発表会を実施する（履修人数により日程や時間調整の場合あり）。演奏は自作自演、また履修生以外に依頼可。教室内で演奏不可の学生は全員が聴ける音源を用意すること。
※スマホ等で音量が小さすぎ全員が聞くことができない機器は不可。未提出、発表会不参加の学生には単位は与えられない。

テキスト

PC室のフィナーレを使って楽譜打込をする事があるので各自必ずUSBメモリ等を用意すること。
五線紙や筆記用具も用意すること。
その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。
適宜、プリントを配布する。
また演奏する場合に備え、専門楽器も各自持参することが望ましい。

オフィスアワー

授業後教室にて。もしくはEメールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング

履修者の楽器編成で可能な室内楽編成グループに分かれて、例えばピアノ連弾曲、フルートとオーボエとピアノの曲を二人、三人で共作で相談しながら作曲して楽譜にする。
創作過程では、講師が手助けしたりアドバイスを与えて手直しする。完成後、試演会をして、講評会をしながら感想を述べ合う。

備考

日頃から移調やアレンジや作曲などに興味を持ち挑戦すること。
1401（PC室）1402は必要に応じて使用教室が変わります。授業内や学内掲示、大学サイト等、講師からのメール等での指示に必ず従うこと。
PC楽譜製作のため1401室を授業時以外で使用したい学生は担当講師または教務課まで相談すること。
学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・他理解	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

音楽科教育法Ⅲ

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 山内雅子

科目コード：SCH301

対象コース/専門/学年： 全コース/全専門/3 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 この科目は、音楽科教育法ⅠならびにⅡで学んだ音楽科教育の理論と実践について、特に和楽器ならびに日本の伝統的な歌唱の指導方法を身に付け、発展的な授業を展開できる力を養う。40名の生徒を前に、どのように展開したら、適切に和楽器と伝統的歌唱の技能を身に付け、日本の伝統音楽のよさを感じとらせる授業を行うことができるかを実技を通して検証する。

到達目標 箏と三味線の調弦を短時間で的確に行うと共に、実際に箏・三味線を用いた授業・民謡の授業を行うためのスキルを身に付けることを目標とする。また本年度は、和楽器を用いた「ボレロ」のYouTube音源の作成を通して、和楽器の授業への実践的な力を身に付けると共に、長唄囃子の仕組みを演奏家の実演と講義を取り入れて理解する。

授業計画 実際の授業を想定した極めて実践的な授業である。アクティブラーニングの、双方向の授業展開の中で、確実に「指導法」を身に付けていく。

第1回	オリエンテーション 箏の楽器の扱い方と授業準備について わらべうたのアンサンブル	事前 事後	授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	分 270分
第2回	「さくらさくら」「六段の調べ」の授業を行うために必要な平調子の調弦法並びに、箏の基本的な奏法の復習すると共に、学校での「さくらさくら」の授業の実践力を付ける。	事前 事後	『箏エチュード』p.22-p.29までを読み、2年次の学修を復習してくる。 授業の配布資料をファイルし、整理する。	160分 110分
第3回	「六段の調」の鑑賞と表現の授業実践に向けて、これまでの学びを基に授業展開を考え交流すると共に、師範授業から学ぶ。	事前 事後	次週行う『六段の調』の授業展開をこれまでの学修を基に考えてくる。 自分なりに適切と考える『六段の調』の授業メモを作成し、ファイルしておく。	160分 110分
第4回	箏を用いた創作の授業について、5音音階を生かした旋律の創作を中心に実践力を養う。	事前 事後	『中学生の音楽2・3上』のp.95を読み、基本的な日本の音楽について理解する。 5音音階を用いた創作授業のワークシートを作成し、ファイルする。	160分 110分
第5回	箏を用いた「ボレロ」の合奏を通して、箏の活用法の理解を広げると共に、「ボレロ」の指導計画の見直しをもつ。	事前 事後	事前に配布された箏による「ボレロ」の合奏譜を読み、理解してくる。 様々なアレンジされている「ボレロ」の音源を聴き、曲へのイメージを広げる。	160分 110分
第6回	箏を中心として、他に使える限りの楽器を用いて、「ボレロ」の合奏にチャレンジし、曲の構成を考える。	事前 事後	音楽科教育法Ⅲの履修メンバーで合奏できるボレロの構成表を考えてくる。 箏での第一テーマ、第二テーマの復習と、それ以外の楽器での演奏技能を習得する。	160分 110分
第7回	YouTube 動画撮影1 箏での演奏録画	事前 事後	箏で、第一テーマ、第二テーマ、伴奏のいずれかを適切に演奏できるようにする。 録画した動画を視聴して、よさと課題を認識し、次の録画に生かす。	160分 110分
第8回	YouTube 動画撮影2 箏以外の楽器での演奏録画	事前 事後	箏並びに箏以外の楽器で適切に演奏できるよう、準備する。 録画した動画を視聴して、よさと課題を認識し、次の録画に生かす。	160分 110分
第9回	YouTube 動画撮影3 コーダ部分の演奏録画	事前 事後	コーダの部分について、十分に理解し、適切に演奏できるように準備する。 録画した演奏すると共に、学校の授業を想定し、指導計画を作成し、ファイルする。	160分 110分
第10回	三味線の扱い方と授業準備について。三味線の調弦の理解。指導に必要な三味線の基本的な奏法の理解。「こきりこ節」の三味線伴奏と歌唱の習得。	事前 事後	「こきりこ節」の演奏をYouTubeで3種類以上、視聴し、教材研究をする。 「こきりこ節」の授業計画のメモを作成する。	160分 110分
第11回	「ソーラン節」の実技並びに、民謡を始めとする伝統的歌唱の指導の一般化。講義と実演を通して。	事前 事後	「ソーラン節」の演奏をYouTubeで3種類以上、視聴し、教材研究をする。 授業で学んだ内容をもとに、民謡の授業の授業計画のメモを作成する。	160分 110分
第12回	今日本の音楽教育で求められている邦楽指導について ゲスト講師による講演と実演	事前 事後	中学校教科書の中での日本の音楽に関するページを、全て目を通してくる。 「講師による講義と実演を通して学んだこと」についてレポートを書き提出する。	160分 110分
第13回	長唄の授業の実際を講義と実演によって理解する。	事前 事後	長唄の授業実践について、教科書の長唄に関するページを全て目を通してくる。 授業で学んだ長唄を歌うと共に、口唱歌で三味線を演奏する。	160分 110分
第14回	長唄囃子の演奏家による実演と講義により、小鼓、大鼓、太鼓、笛の仕組みを理解し、唱歌で演奏する。	事前 事後	細竿・中竿・太極三味線について、ネットや文献で調べ、改めて理解してくる。 ゲスト講師の講義と実演を通して理解したことをレポートにまとめて提出する。	160分 110分
第15回	14回の講義と演習を通して身に付けた、我が国の音楽の指導法について、実演を取り入れてプレゼンテーションする。	事前 事後	演奏発表に向けて準備 本授業を通して、学んだことを最終レポートとしてまとめる。	160分 110分

フィードバック 教員になった時に実際に和楽器を用いた授業づくりのバイブルとなるよう、本授業用のファイルとノートを用意し、毎時間の授業で学んだ具体的な指導法や和楽器演奏のポイントを授業後に整理して、自分なりにわかりやすくまとめる。このノート或いはファイルは、定期的に回収し、助言や評価のコメントを指導者が記入する。また、実技や指導法は、その場で助言しフィードバックする。

成績評価 演奏発表：日本の伝統音楽の授業を行うために必要な和楽器の指導法を理解し、指導に必要な和楽器演奏の実技を身に付けたか（40%）。
授業ファイル、またはノート：その日の授業で学んだことや考えたことを適切にまとめているか（20%）。3回のレポートの内容（30%）
授業態度：楽器の準備や片付けを含め、主体的に参加しているか（10%）。

テキスト 中学校学習指導要領解説 音楽編 平成29年
中学生の音楽1（教育芸術社）
中学生の音楽2・3上（教育芸術社）
中学生の音楽2・3下（教育芸術社）
中学生の器楽（教育芸術社）
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくはEメールにて相談の上、対応する。

アクティブ・ラーニング 毎回予習課題を出し、本時の学修への前向きな気持ちをもって参加することで、講義内容を主体的にとらえ、双方向の授業を成立させていく。単に和楽器の実技を身に付け指導法を理解するだけでなく、自分ならどう授業実践をしていくか、という視点をもって臨めるようにしたい。

備考 中学校・高等学校の音楽授業で必修となっている和楽器の指導法を身に付けるために、毎回和楽器の実技を伴って学修を進める。
その分野で特に専門性の高いゲストスピーカーの招聘を2回予定している。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>						

音楽科教育法Ⅳ

※教育職員免許状取得に関わる科目

短期大学部教授 内田有一

科目コード：SCH303

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／3 年次生

形態：講義

単位数 2 単位

概要 創作（表現）、鑑賞の目的を理解し、教材研究の方法、指導案作成の方法、指導案を具現化するための教育技術について学ぶ。

到達目標 この科目では、受講者が音楽科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだことを踏まえ、創作（表現）と鑑賞に関する指導方法を習得する。

授業計画

回	内容	事前	事後	時間
第 1 回	創作学習の目的と方法、古川のふしづくりと創作学習	事前に配付された古川のふしづくりの資料を読んでおく。	講義を通して音楽的能力の形成と創作学習について考察する。	160 分 110 分
第 2 回	旋律創作の授業（器楽による旋律創作、歌詞の基づく声による旋律創作）	事前 学習指導要領における創作の部分を読んでおく。 事後 講義を通して理解した、旋律創作指導方法について自己の考察を行う。		160 分 110 分
第 3 回	ボディーパーカッションによる創作（リズム）	事前 ボディーパーカッションの実践事例を読んでおく。 事後 リズムと身体を使った表現について考えをまとめる。		160 分 110 分
第 4 回	和声と旋律創作	事前 教科書における和声と旋律の創作について読んでおく。 事後 発達の経験の視点から学習を考察する。		160 分 110 分
第 5 回	創作学習の教材研究と指導案作成	事前 創作アに関する教材分析をしておく。 事後 講義における批評を基に指導案を練り上げる。		160 分 110 分
第 6 回	創作学習の模擬授業と批評	事前 自己の指導案を具現化するための発問、指示を考える。 事後 批評を通して自己の模擬授業を振り返る。		160 分 110 分
第 7 回	優れた創作学習の条件・情報機器を活用した創作指導方法（MIDI、タブレット PC）	事前 事前に配付する資料を基に優れた創作授業の具体を理解しておく。 事後 講義を通して理解した優れた創作授業の原理をまとめる。		160 分 110 分
第 8 回	音楽の共通性と固有性に着目した鑑賞指導と評価の具体	事前 新中学校学習指導要領解説音楽編の鑑賞について読んでおく。 事後 講義を通して理解した鑑賞の目的と方法についてまとめる。		160 分 110 分
第 9 回	音楽の諸要素の知覚・感受と批評	事前 事前に教科書における「魔王」、日本歌曲「星とたんぼぼ」の楽曲について調べておく。 事後 「春」についての指導案略案を書く。		160 分 110 分
第 10 回	音楽の構造に着目した鑑賞指導と評価の具体	事前 事前にベートーヴェン「交響曲第 5 番」、ピバルディ「春」の構造を分析しておく。 事後 音楽の構造と曲想の視点から「交響曲第 5 番」の指導案略案を書く。		160 分 110 分
第 11 回	楽曲の背景に着目した鑑賞指導と評価の具体	事前 交響詩「モルダウ」の背景である国民国家の成立の歴史について調べておく。 事後 楽曲の背景と関連した視点から講義を通して理解した指導方法について考察をする。		160 分 110 分
第 12 回	生活や社会における音楽の意味に着目した鑑賞指導と評価の具体	事前 自己の生活にとって意味のある楽曲を選んでおく。 事後 音楽の生活や社会における意味や役割を考える。		160 分 110 分
第 13 回	鑑賞の教材研究と指導案作成	事前 指定した雅楽、能、歌舞伎から一つ選び、鑑賞しておく。 事後 講義の中で作成した指導案をもう一度読み上げる。		160 分 110 分
第 14 回	鑑賞の模擬授業と批評、振り返り	事前 指導案を基に模擬授業のための発問、指示を考える。 事後 批評を通して、自己の模擬授業の振り返りをする。		160 分 110 分
第 15 回	プレゼンテーション型鑑賞の指導方法 振り返りとまとめ	事前 自分で選んだ楽曲とプレゼンテーションの準備をする。 事後 プレゼンテーション型鑑賞に適した楽曲を調べる。		160 分 110 分

フィードバック リフレクションペーパー、模擬授業批評を通して学修者にフィードバックする。

成績評価 レポート評価（60％）リフレクションペーパー評価（40％）

テキスト 『中学校学習指導要領解説音楽編』 令和 3 年度版『中学生の音楽 1』『中学生の音楽 2・3 上』（教育芸術社）
参考書・参考資料 必要に応じて配付する。

オフィスアワー 別紙にて周知してあるオフィスアワーにて対応する。E メールにて事前に相談のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

道徳教育指導論

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 東風安生

科目コード：SCH304

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／3 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及び、その要となる道徳科における教育内容や指導方法を学ぶ。科目のねらいは、道徳科を指導する教師として、学校の年間指導計画に基づいて道徳科授業の学習指導案を作成し、道徳科授業を実践できる指導力を養成することである。講義は、グループワークを多用して、チーム学校の一員として協働して道徳教育について検討する時間を大切にしていく。

到達目標 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
 1) 道徳の本質や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解し、実践的な指導についての認識を深める。
 2) 子どもの心の成長と道徳性の発達についての理解のため、学習指導要領に示された目標及び内容を理解する。

授業計画		事前	事後	単位数
第 1 回	オリエンテーション 現代社会における道徳教育の求められる課題	小・中学校時代に自分が受けてきた道徳の授業をふりかえりワークシートに記述する	現代社会において道徳が必要な場面はどこか、または自分は学んできた道徳を活かしたかをワークシートに記述する。	90 分 180 分
第 2 回	現代社会に見る中・高校生の倫理的課題を探る	大学生として、年下の若者の倫理的課題をふりかえりワークシートに記述する。	教職課程を履修し教師を目指す者として、道徳教育によって彼らの課題をどう解決するかをワークシートに記述する。	90 分 180 分
第 3 回	道徳教育の理念と課題：道徳教育の歴史的経緯を基に求められる理念	昭和 33 年の特設道徳に関する歴史的事項についてネットで事前に調べておく。	「特別の教科 道徳」に至るまでの 60 年間の道徳の歴史について、ワークシートを用いてまとめる。	90 分 180 分
第 4 回	道徳性の形成要因と発達段階における課題と教育的目標	アヴェロンの野生児についてネット等を利用してどういう事件なのか調べておく。	道徳性とは何かを、具体的に 22 項目の道徳教育の内容項目と関連付けてワークシートにまとめる。	90 分 180 分
第 5 回	学校における道徳教育の目標とその内容：道徳性の育成に向けた課題	『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』から道徳教育の目標を探して予習しておく。	『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』の道徳教育の目標を家族や友達に説明できるように練習する。	90 分 180 分
第 6 回	「特別の教科 道徳」の指導とその内容・教材の分析とその活用：葛藤教材	『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』から道徳科の目標を探して予習しておく。	『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』の道徳科の目標を家族や友達に説明できるように練習する。	90 分 180 分
第 7 回	「特別の教科 道徳」の教材の分析とその活用：知見教材	事前に配布する道徳科の教材に目を通し、これを用いて何を教えるか考える。	道徳科の読み物教材と、国語科の教科書の教材の違いについて自分の言葉で家族や友達に説明できるように練習する。	60 分 210 分
第 8 回	感動教材の分析に基づく指導案の構成とねらい（教材：バスと赤ちゃん）	事前に配布する道徳科の教材に目を通し、これを用いてどのように教えるか考える。	教材を用いた道徳の授業において、なぜ学習指導案が必要なのか、どんな項目を記述するか家族や友達に説明できるように練習する。	60 分 210 分
第 9 回	葛藤教材（起承転結）の構成と分析（教材：足袋の季節）	事前に配布する道徳科の教材に目を通し、これを用いてどのように教えるか考える。	教材分析をして学んだことを用いて、途中で仕上げた自分の学習指導案を完成させる。	30 分 240 分
第 10 回	葛藤教材の分析に基づく指導案の作成（教材：卒業文集最後の二行）	完成させた道徳科学習指導案について、作成過程での不明な点大変だった点をまとめて発表できるようにしておく。	教材分析をして学んだことを用いて、途中で仕上げた自分の学習指導案を完成させる。	60 分 210 分
第 11 回	葛藤教材の分析（話し合い）に基づく指導案の作成（教材：二通の手紙）	完成させた道徳科学習指導案について、作成過程での不明な点大変だった点をまとめて発表できるようにしておく。	教材分析をして学んだことを用いて、途中で仕上げた自分の学習指導案を完成させる。	60 分 210 分
第 12 回	葛藤教材の分析に基づく模擬授業の実践（教材：一冊のノート）	完成させた道徳科学習指導案に基づいて、模擬授業ができるよう前回の授業でグループ分けをした仲間間で模擬授業の練習をしておく。	模擬授業をふりかえり、自分たちのグループや仲間のグループの評価を行う。	240 分 30 分
第 13 回	「特別の教科 道徳」における学習指導案の作成・提出（教材：美しい母の顔）	事前に配布した教材について目をとっておくこと。	教材分析をして学んだことを用いて、途中で仕上げた自分の学習指導案を完成させる。	30 分 240 分
第 14 回	学校における道徳教育の全体計画と年間指導計画 評価の内容	ネット上に掲載された出身校の道徳教育の全体計画や年間指導計画および道徳に関わる事項を調査して、授業中に仲間に発表できるようにしておく。	自分自身が学校の校長と想定して、どのような全体計画を作成するか、途中で仕上げたものを完成させる。	60 分 210 分
第 15 回	学校・家庭・地域社会の役割と連携：道徳授業地区公開講座の役割	道徳授業公開講座をネット上から調べて、どういものか授業中に仲間に説明できるようにしておく。	道徳地区公開講座のチラシを作成するとした場合、どのようなレイアウトや内容にするか検討し、作成途中のものについて完成させる。できあがったものはプリントアウトして提出する。	60 分 210 分

フィードバック 毎回授業の最後に記述するミニットペーパーについて、翌週に到達目標（SBO's）を基準に評価をして返却する。評価「S」十分満足できる 「A」満足できる 「B」ある程度満足できる 「C」不十分である これを点数化して「S」4点、「A」3点、「B」2点、「C」1点として成績評価に加える。

成績評価 筆記試験（期末）40％ 学習指導案の提出 20％ 模擬授業の実践 10％
 ミニットペーパー30％（ミニットペーパーをフィードバックした評価について 15 回の中でよい成績のものを 10 回分加算する）

テキスト 伊藤良高『改訂版道徳教育のフロンティア』（晃洋書房）2019 年 4 月
 （3 階の売店にて販売いたします。履修する学生は全員が購入し、必ず授業では持参してください）

オフィスアワー 参考文献
 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』平成 30 年 7 月 文部科学省ホームページから閲覧可能
 質問等がある場合は、授業の終了後に対応する。

アクティブ・ラーニング オンラインによる授業において、Zoom のブレイクアウトルームという手法でグループごとに分かれて画面上で議論したり、教材を共有してプレゼン資料を作成する。

備考 PC を使用する。Google classroom に登録して、ネット上で提出物や教材の共有を行うので、Google のアカウントを用意すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

教育方法論

※教育職員免許状取得に関する科目

准教授 田中里佳

科目コード：SCH206

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2年次

形態：講義 単位数：2単位

概要 これまで生徒の立場で受けてきた授業を、どのようにデザインしていくのか、それら授業を実践するための基礎的な知識全般について、幅広く学ぶ。また、現代の子どもが抱えている課題や、社会からの要請を理解しつつ、それらに応える授業とはどのようなものであるのか、講義と演習を通じて考えていく。

到達目標 ①これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、指導技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。②現代社会の教育課題を把握し、その課題を乗り越えるための教育方法について、歴史的に顕著な実践や最新の研究から理解している。

授業計画 学習と授業についての概念を理解したうえで、実際に授業をデザインしていく。また、子どもの思考を深めるためにはどのような視点が必要かという点についてを多様な視点から深めていく。

第1回	オリエンテーション これからの授業について考える	事前 高校までに受けた授業で印象に残っている内容を思い出しておく 事後 授業内容をまとめ、自分なりのこの授業についての目標を明確にする	100分 180分
第2回	学習の概念	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめる 事後 授業内容をまとめ、課題を行う	140分 140分
第3回	学びのデザイン1 授業を構成する要素	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめる 事後 授業内容をまとめ、課題を行う	140分 140分
第4回	学びのデザイン2 教材研究	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめる 事後 授業内容をまとめ、課題を行う	140分 140分
第5回	学びのデザイン3 授業の展開	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめる 事後 授業内容をまとめ、課題を行う	140分 140分
第6回	学習評価	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめる 事後 授業内容をまとめ、課題を行う	140分 140分
第7回	学習指導案と評価の実際	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめる 事後 授業内容をまとめ、課題を行う	140分 140分
第8回	授業の技術1 発問	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめる 事後 授業内容をまとめ、課題を行う	140分 140分
第9回	授業の技術2 対話的な学び	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめる 事後 授業内容をまとめ、課題を行う	140分 140分
第10回	授業の技術3 主体的な学び	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめる 事後 授業内容をまとめ、課題を行う	140分 140分
第11回	教育方法の現代的課題1 深い学びの実現	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめる 事後 授業内容をまとめ、課題を行う	140分 140分
第12回	教育方法の現代的課題2 教育メディアの活用	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめる 事後 授業内容をまとめ、課題を行う	140分 140分
第13回	教育方法の現代的課題3 ICTの活用	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめる 事後 授業内容をまとめ、課題を行う	100分 180分
第14回	教師の実践的知識と教育方法	事前 音楽や教育について、自分が何を大切にしているのかを考えておく 事後 授業内容をまとめ、課題を行う	100分 180分
第15回	本授業全体のふり返りとまとめ（最終試験実施）	事前 全授業をふり返って要点をまとめ、理解を深める 事後 本授業目標の達成について自己評価し、不十分な点があれば復習する	200分 80分

フィードバック 毎時間リフレクション・カードを配布する。そこで挙がった疑問や質問、新たな視点について、次回冒頭で取り上げたり、個別に対応したりして、フィードバックを図る。

成績評価 毎回の課題（授業の内容をふまえて、的確に課題に応じているか）25%、レポート課題 35%、筆記試験 40%

テキスト テキスト：中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
 中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）
 適宜資料を配布する。
 参考図書：柴田義松・山崎準二 編著（2019）『教育の方法と技術』学文社
 学習指導要領（音楽、総則）

オフィスアワー 授業後に教室（オンライン授業の場合は zoom）にて対応する。必要に応じて、メールで日程を相談した上で個別に対応する。
 sky_60000886@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 1回目の講義にて、用いるテキストや参考図書、授業の進め方について説明するので、必ず出席すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・他理解	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	

生徒・進路指導論

※教育職員免許状取得に関わる科目

短期大学部教授 内田有一／短期大学部講師 林直美

科目コード：SCH304

専門／学年：全専門／3 年次

形態：講義

単位数 2 単位

概要 生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動であることを理解する。また、進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が知識的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としていることを理解する。

到達目標 学校において他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくための実践的指導能力を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や資質を身に付ける。

授業計画 前半は生徒指導について、模擬授業やロールプレイングによる実践的学び、後半は進路指導・キャリア教育についてワークシートを用いた作業学習を取り入れながら、2名の教員によるオムニバス形式で授業をすすめる。

第1回	各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の機能 (担当:内田)	事前 各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導に何があるか思い出す。 事後 生徒指導の3機能について自己の考えをまとめる。	100分 180分
第2回	集団指導・個別指導の方法原理 (担当:内田)	事前 生徒指導提要における集団指導・個別指導の内容を読んでおく。 事後 集団指導・個別指導の原理と実践例についてまとめる。	140分 140分
第3回	生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方 (担当:内田)	事前 事前に示された教育相談事例について、教育相談の手だけを考える 事後 模擬授業を通して、「見取る」ことの意味を考察する。	140分 140分
第4回	学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取り組み (担当:内田)	事前 生徒指導提要における生徒指導の組織的対応について内容を理解しておく。 事後 組織的対応の模擬授業を通して、実践上の課題を考察する。	140分 140分
第5回	基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方ならびに児童及び生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方 (担当:内田)	事前 事前に示された事例について、教師としての視点から手だてを考える。 事後 自己存在感を獲得するための手だてについて考察する。	140分 140分
第6回	校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容 (担当:内田)	事前 生徒指導提要における校則・懲戒・体罰に関わる法令の内容を理解しておく。 事後 校則の意義、体罰と懲戒の違いについて考察する。	140分 140分
第7回	暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の対応の視点及び模擬授業 (担当:内田)	事前 事前に示した実践事例について手だてを考えて置く 事後 模擬授業を振り返り、アドラーの勇気付け理論から考察する。	140分 140分
第8回	インターネットや性に関する寛大、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や専門家や関係機関との連携の在り方 (担当:内田)	事前 生徒指導提要におけるインターネット、性の問題を読み、理解しておく。 事後 チーム学校における専門機関との連携について考察する。	140分 140分
第9回	教育課程における生徒指導・進路指導・キャリア教育の位置付け (担当:林)	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第10回	学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方 (担当:林)	事前 これまでの学校生活でどのような進路指導・キャリア教育を受けてきたか思い出ししておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第11回	進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方 (担当:林)	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第12回	職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義 (担当:林)	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第13回	全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点 (担当:林)	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第14回	生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義、ポートフォリオの活用(在り方) (担当:林)	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第15回	キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法 (担当:林)	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業で配布された資料やノートを整理し、ポイントをまとめておく。	180分 100分

フィードバック 授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 リアクションペーパー (40%)、レポート (60%) を基に総合的に評価する。

テキスト 文部科学省『生徒指導提要』(2010) 教育図書 ※現在、『生徒指導提要』が改訂作業にあるため、出版された場合は、新版を購入する。
参考書・参考資料等
林尚示・伊藤秀樹『生徒指導・進路指導—理論と方法(教師のための教育学シリーズ10)』(2016) 学文社
文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』(2011) 教育出版

オフィスアワー 別途示されている担当教員オフィスアワーにて対応する。事前に E メールにて相談のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽美術スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	資実応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

教育相談

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 石橋明佳

科目コード：SCH207

対象コース/専門/学年： 全コース/全専門/3年次（令和元年度入学生）；再履修者のみ

形態：講義

単位数 2単位

概要 生徒を理解し、一人ひとりの個性に応じた支援ができるように、教育相談の目的と方法について理解を深め、基本的な相談スキルを実践的に学習する。主な問題行動への対応を学ぶと共に、適切に教育相談を実践するために、他者と信頼関係を構築する力と問題解決能力を養う。（昨年度の授業と概ね同じだが、『ICD』や『生徒指導提要』等の改訂による最新の情報も内容に含まれる。）

到達目標 教育相談を実施するために必要な知識や技法、態度を身につける。具体的には①生徒が呈する心身の症状や不適応行動の理解、②カウンセリング理論の理解と相談スキルの習得、③教育相談の実施方法の理解、④教員を目指す者として自分自身の課題に気づき、それを克服し自己成長を図ること、を目標とする。

授業計画

第1回	ガイダンス：授業の方法や進め方、受講に関する注意 教育相談とは何か（定義・領域・種類、歴史的変遷、学校における教育相談の特質）	事前 テキストの関連ページを読む。 事後 授業ノート・スライドを見直し、教育相談の意義をまとめる。	70分 200分
第2回	学校における不適応行動の理解と対応① 反社会的行動（非行、暴力行為、いじめ等）の特徴と問題解決方法の事例学習	事前 テキストの関連ページを読み、実際のケースをメディアで調べる。 事後 授業ノート・スライドを見直し、反社会的行動の心理的背景と解決支援についてまとめる。	70分 200分
第3回	学校における不適応行動の理解と対応② 非社会的行動（不登校、ひきこもり、自傷行為等）の特徴と問題解決方法の事例学習	事前 テキストの関連ページを読み、実際のケースをメディアで調べる。 事後 授業ノート・スライドを見直す。宿題①（いじめのケーススタディ）に取り組む。	60分 210分
第4回	思春期の成長と発達課題：悩みの特徴、反抗期の捉え方、取得が望まれるライフスキル、リフレーミングを使った対応	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 悩みの促進要因についてまとめる。自分自身の短所をリフレッシュする。	70分 200分
第5回	思春期のストレス：ストレスのメカニズム、ストレスに関係する脳内ホルモン、ストレスをためやすい子供の特徴	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 自分自身のストレスと対処行動の課題を考え、まとめる。	70分 200分
第6回	学校における不適応症状の理解と対応：精神障害とは何か、思春期にストレスがきっかけで発症しやすい疾患	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 授業ノート・スライドを見直す。宿題②（摂食症のケーススタディ）に取り組む。	60分 210分
第7回	神経発達症（発達障害）の理解と対応：神経発達症の特徴と修学困難性の理解	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 授業ノート・スライドを見直す。宿題②に継続して取り組む。	60分 210分
第8回	第1回～7回のまとめ、宿題②について	事前 テキスト及び自分のノートに目を通し、理解度を確認する。 事後 理解不足だった部分の復習をする。宿題②に継続して取り組む。	130分 140分
第9回	教育相談の場面①：生徒理解のためのカウンセリングマインド、ラポールの構築、ポジティブ・アプローチ	事前 テキストの関連ページを読み、日常における生徒との関わりを理解する。 事後 授業ノート・スライドを見直し、生徒との良好な関係の構築方法についてまとめる。	70分 200分
第10回	教育相談の場面②：ストレス・サインへの対応、校内や他機関、保護者との連携	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 授業ノート・スライドを見直し、個別の相談等の対応についてまとめる。	70分 200分
第11回	教員が応用できるカウンセリング・テクニック①：基本姿勢、展開方法、チェックポイント	事前 テキストの関連ページを読み、カウンセラーの態度を理解する。 事後 授業ノート・スライドを見直し、演習課題を複数回実施する。	50分 220分
第12回	教員が応用できるカウンセリング・テクニック②：聴き取り、伝え返し、生徒の自主性・自己肯定感の向上	事前 テキストの関連ページを読み、カウンセラーのスキルを理解する。 事後 授業ノート・スライドを見直す。宿題③（リフレクションの実践）に取り組む。	60分 210分
第13回	インクルーシブ教育に応用できるカウンセリング・テクニック①：バリアフリーなコミュニケーション法と個別のバリアへの対応	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 授業ノート・スライドを見直し、演習課題を実施する。	70分 200分
第14回	インクルーシブ教育に応用できるカウンセリング・テクニック②：支援方法の実例学習（「音楽」指導例を含む）	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 授業ノート・スライドを見直し、演習課題を実施する。	60分 210分
第15回	教員のメンタルヘルスとソーシャル・スキル、試験について	事前 テキストの関連ページを読み、教育現場の問題についてメディアで調べる。 事後 自分自身の自己成長課題は何か、どのように克服したいかを考えまとめる。	70分 200分

フィードバック 課題・宿題・ミニレポートは、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験（レポート）40%、課題・宿題・ミニレポート60%の評価配分を基準とし、授業参画度（課題の実践程度・質疑応答等）を含めて総合的に評価する。

テキスト プリント教材『教育相談』（約700円）

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくはメールにて相談の上、対応する sishibashi@uenogakuen.ac.jp

備考 課題には個人で取り組む作業と小人数でのグループ・ワークがあり、授業外で実施を求める場合もあります。リモート授業への切り替えがあった場合や授業の進捗状況等により、シラバスが若干変更する場合があります。その際は直近の授業で案内します。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

教育実習（事前事後指導 1 単位を含む）

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 山内雅子

科目コード：SCH401

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／4 年次

形態：実習

単位数：5 単位

概要 教育実習で十分な成果があげられるよう、実習期間のシミュレーションを行い、留意点について理解する。また、各自が実習校で行う教材の学習指導案を作成し、その教材を用いて実習前に模擬授業を行う。教育実習期間は集中して全力で取り組み、教科指導の実際や学級指導、生活指導、行事への取り組みなどを体験する。実習後は、経験を交流し学び合う中で、教職への理解を深める。ICT を活用した授業への対応も事前に学修し、対応できるようにする。

到達目標 教育実習に臨む心構え、留意事項、学習指導要領の内容と学習指導案の書き方などを実習前に理解する。教育実習を通して、教科指導、学級指導、特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制等を理解する。事後は、教育実習を通して得られた知識や経験を振り返り、教員免許取得までに更に修得することが必要な知識や技能等を理解する。

授業計画

第 1 回	教育実習の概要と心得 音楽科学習指導案の作成について	事前 中学校学習指導要領解説 音楽編 p.1-p.34 を読んでくる。 事後 中学校学習指導要領解説 音楽編 p.1-p.34 を再度読んで、理解を深める。	160 分 110 分
第 2 回	主体的・対話的で深い学びのある授業とは	事前 配布資料を熟読して、意見を述べられるようにしておく。 事後 主体的・対話的で深い学びのある授業の条件をレポートにまとめる。	160 分 110 分
第 3 回	教育実習で行う教材・題材の検討（1） 歌唱領域 学習指導案の作成	事前 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 第 1 編を読む 事後 歌唱教材の学習指導案を書く。	160 分 110 分
第 4 回	提出課題の振り返り。教育実習で行う教材・題材の検討（2） 器楽領域 学習指導案の作成	事前 歌唱教材の学習指導案を書きあげ、授業前日までにメールで提出する。 事後 歌唱教材の学習指導案の修正をする。または器楽教材の指導案を書く。	160 分 110 分
第 5 回	教育実習で行う教材・題材の検討（3） 創作領域 学習指導案の作成	事前 書き上げた指導案を、授業前日までにメールで提出する。 事後 歌唱、器楽教材の指導案の修正をする。または創作教材の指導案を書く。	160 分 110 分
第 6 回	教育実習で行う教材・題材の検討（4） 鑑賞領域 学習指導案の作成	事前 書き上げた指導案を授業前日までにメールで提出する。 事後 鑑賞教材の指導案を書く。	160 分 110 分
第 7 回	教育実習で行う教材・題材の検討（5） 事前打ち合わせを受けて 学習指導案の作成	事前 書き上げた指導案を、授業前日までにメールで提出する。 事後 教育実習で扱う教材の学習指導案を書く。	160 分 110 分
第 8 回	教育実習で行う教材・題材の検討（6） 事前打ち合わせを受けて 学習指導案の作成	事前 書き上げた指導案を、授業前日までにメールで提出する。 事後 教育実習で活用できる指導案を自身のパソコンに保存する。	160 分 110 分
第 9 回	教育実習を振り返って（1）	事前 学習指導要領解説総則編 p.91-p.94 を熟読し、重要と考える部分にマーカーを引く。 事後 授業で学び、討論等を通して自身の考えが広がったこと等をメモにまとめる。	160 分 110 分
第 10 回	教育実習を振り返って（2）	事前 中学校学習指導要領解説総則編 P.95-p.104 を熟読し、重要部分にマーカーを引く。 事後 授業で学び、討論等を通して自分の考えが広がったこと等をメモにまとめる。	160 分 110 分
第 11 回	教育実習を振り返って（3）	事前 中学校学習指導要領解説総則編 P.104-p.113 を熟読し、重要部分にマーカーを引く。 事後 授業で学び、討論等を通して自分の考えが広がったこと等をメモにまとめる。	160 分 110 分
第 12 回	教育実習を振り返って（4）	事前 中学校学習指導要領解説総則編 P.113-p.120 を熟読し、重要部分にマーカーを引く。 事後 授業で学び、討論等を通して自分の考えが広がったこと等をメモにまとめる。	160 分 110 分
第 13 回	教員採用試験の小論文に教育実習での学びを書くことを経験する。(将来受験する時のために)	事前 教育実習全般を通して、最も心に残ったことや、学んだこと、考えたことをメモする。 事後 教育実習で学んだこと、考えたこと、心に残ったことを二事例挿入して、800 字でまとめる。	160 分 110 分
第 14 回	生徒理解、支持的な学級風土を醸成する音楽授業を考える	事前 事前に配布された資料を読んでくる。 事後 支持的な学級風土を醸成する音楽授業について、討論をもとにレポートにまとめる。	160 分 110 分
第 15 回	生徒の音楽的成長と人間の成長を実現する音楽授業を論じる。	事前 事前に配布された資料を読んでくる。 事後 実習日誌を受け取り、全頁を読み直す。	160 分 110 分

フィードバック 新学習指導要領に準拠した学習指導案は、提出した次の週の授業で検討すると共に、個々の学生に指導を入れて返却する。授業内での発言、討論の内容についてはその場で、適切に価値づけする等のフィードバックを行う。講義後半で行う論文については、コメントを入れて返却する。

成績評価 実習校からの評価（60%） 教育実習日誌の記録（20%） 学習指導案作成への取り組み他平常点（20%）を総合して評価する。

テキスト 『中学校の音楽』1 年、2・3 年上・下（教育芸術社）／『中学校の器楽』（教育芸術社）／『中学音楽 音楽のおくりもの』1 年、2・3 年上・下（教育出版）／『中学器楽 音楽のおくりもの』（教育出版）／『中学校学習指導要領解説音楽編』（平成 29 年、文部科学省）／『中学校学習指導要領解説総則編』（平成 29 年、文部科学省）／『高等学校学習指導要領解説芸術編』（平成 29 年、文部科学省）※高等学校で実習を行う者は大学から貸与する。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくは E メールにて相談の上、対応する。 myamauchi.159@gmail.com

備考 教育実習中及び、事前打ち合わせが授業と重なった場合は、公欠とする。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

教職実践演習（中・高）

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 山内雅子／准教授 田中里佳／短期大学部教授 内田有一／短期大学部講師 林直美

科目コード：SCH402

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／4年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	4年間の教職の学びの集大成として、全ての教職・教科に関する科目の内容を有機的につなげ、教職に就く者としての意識や知識や技能を確かなものとするために、これまで受講した主に教職に関する科目の学修内容と教育実習・介護実習・支援員や学校ボランティアの経験をつなげ、討論を中心として理解を深めていく。

到達目標	全ての教職・教科に関する科目の内容を有機的につなげ、教職に就く者としての意識や知識や技能を確かなものとし、教育的愛情をもって生徒に接し、学修内容を生きた力として発揮できるようにすることを目標とする。
------	---

授業計画	オムニバス形式で行う 振り返りと討論を中心として行う。
------	--------------------------------

第1回	教職の意義 教育実習を通して感じた「教師という仕事」(山内)	事前 教育実習を通して感じた教師という仕事について、箇条書きにしておく。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第2回	教員の職務と学校現場における課題 (いじめ、SNS、不登校等への対応) (山内)	事前 教育実習で感じた学校現場における課題について、箇条書きにしておく。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第3回	発達障害を有する生徒への対応とインクルーシブ教育システム (山内)	事前 事前配布資料を読んで、考えをまとめておく。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第4回	教師としての人権意識 (内田)	事前 事前に配布された人権についての資料を読み、考えをまとめておく。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第5回	生活指導・道徳の指導 (内田)	事前 生活指導と道徳に関する事前配布資料を読んで、考えをまとめておく。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第6回	特別活動と音楽科 行事の音楽・部活指導他 (内田)	事前 特別活動についての学びを振り返ると共に部活指導を通して育てたい生徒像をメモ 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第7回	教育原理・知識と実践のつながり (田中)	事前 教育原理の学びを振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第8回	教育課程の意義及び編成の方法 (田中)	事前 教育課程総論の学びを振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第9回	教育の方法及び技術に関して (田中)	事前 教育の方法についての学びを振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第10回	教育に関する社会的・制度的課題 (林)	事前 教育社会学の学びを振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第11回	進路選択に資する各種の機会の提供 (林)	事前 進路選択に関する学びを振り返る 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第12回	チーム学校の意義 生徒から、保護者から、同僚から、地域から信頼される教師像 (山内)	事前 生徒から、保護者から、同僚から、地域から信頼される教師像を考えてくる。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第13回	音楽科の教科指導 (山内)	事前 音楽科学習指導要領を見直しておく。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第14回	命を守る教育 安全教育・アレルギー対応 (山内)	事前 事前に配布されたアレルギーと安全教育に関する資料を読み、学修を振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第15回	教員免許状を取得して、社会に出ていくということへの自覚と夢。(山内)	事前 10年後の自分を思い浮かべ、音楽と教職の学びがどのように生きているかを想像する。 事後 最終レポート課題を執筆する。	160分 110分

フィードバック	毎回の課題に対して、講義の内容を振り返ると共に、それぞれが教育実習等の経験を踏まえて、自分の考えを述べ、交流する学修が中心となる。討論の中での意見を価値付けたり、適切な助言を行うことでフィードバックする。尚、最終講義でのレポート課題には、コメントを附記して返却する。
---------	---

成績評価	授業態度：前向きに授業に参加し、意見を述べている (30%)。小テスト：教員としての使命と役割、サービスの厳正、喫緊の課題等について、正しい知識と自分なりの考えをもっている (20%)。最終レポート課題の内容 (50%)
------	--

- テキスト
- ・中学校学習指導要領解説 音楽編 平成29年度版
 - ・毎回、作成したプリントを配布して行う。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくはEメールにて相談の上、対応する。 myamauchi.159@gmail.com

備考 教職の総まとめの授業となるため、教職担当教員全員で担当する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>				

音楽授業観察実習

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 山内雅子

科目コード：SCH106

対象コース／専門／学年：GLAコース／音楽教育専門／2～4年次、全コース／全専門／1～4年次

形態：実習

単位数：2単位

概要 特に優れた音楽授業実践で定評のある音楽教師の授業を参観し、お話しを伺う。参観と授業後の協議会を通して、その先生の音楽教育観や教師観を学び取ると共に、具体的な音楽科授業の構成や方法について知る。最寄駅で集合して、制服着用で訪問する。事後のレポートあり。

到達目標 この実習では、特に優れた音楽授業実践をしている音楽教師の授業参観と、授業後の協議会を通して、その先生の音楽教育観や教師観を学び取ると共に、具体的な音楽授業の構成や方法を知り、教師を目指す学生が目標とする音楽教師像を明確にもって、日々の学びを更に主体的に深めていくことができるようにすることを目標とする。

授業計画 本授業は、不定期集中講義として開講される。新年度に入ってから協力校との交渉で観察日時を決定するためである。授業後、必ず研究協議会を設定し、対話や質疑応答を通して学び合う時間を確保する。

第1回	優れた歌唱指導で定評のある教師の授業を参観する。	事前 ホームページでその学校の教育内容を把握する。 事後 授業観察を通して学んだことをレポートにまとめる。	30分 240分
第2回	優れた歌唱指導で定評のある教師の授業の研究協議会に参加し、学ぶ。	事前 授業を通しての質問事項や、日常の教育活動等について質問事項をまとめる。 事後 授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	30分 240分
第3回	優れた歌唱指導で定評のある教師の授業参観、研究協議会をもとに、授業分析をする。	事前 参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。 事後 参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	30分 240分
第4回	優れた鑑賞指導で定評のある教師の授業を参観する。	事前 ホームページでその学校の教育内容を把握する 事後 授業観察と交流を通して学んだことをレポートにまとめる。	30分 240分
第5回	優れた鑑賞指導で定評のある教師の授業の研究協議会に参加し、学ぶ。	事前 授業を通しての質問事項や、日常の教育活動等について質問事項をまとめる。 事後 授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	30分 240分
第6回	優れた鑑賞指導で定評のある教師の授業参観、研究協議会をもとに、授業分析をする。	事前 参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。 事後 参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	30分 240分
第7回	優れた創作指導で定評のある教師の授業を参観する。	事前 ホームページでその学校の教育内容を把握する 事後 授業観察と交流を通して学んだことをレポートにまとめる。	30分 240分
第8回	優れた創作指導で定評のある教師の授業の研究協議会に参加し、学ぶ。	事前 授業を通しての質問事項や、日常の教育活動等について質問事項をまとめる。 事後 授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	30分 240分
第9回	優れた創作指導で定評のある教師の授業参観、研究協議会をもとに、授業分析をする。	事前 参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。 事後 参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	30分 240分
第10回	優れた吹奏楽指導を行う教師の吹奏楽指導を参観する。	事前 ホームページでその学校の教育内容を把握する 事後 授業観察と交流を通して学んだことをレポートにまとめる。	30分 240分
第11回	優れた吹奏楽指導を行う教師に部活経営の話聞き、学ぶ。	事前 授業を通しての質問事項や、日常の教育活動等について質問事項をまとめる。 事後 授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	30分 240分
第12回	優れた吹奏楽指導を行う教師の吹奏楽指導参観やその後に聞いた話をもとに、授業分析をする。	事前 参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。 事後 参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	30分 240分
第13回	特別支援学校の音楽授業を参観する。	事前 ホームページでその学校の教育内容を把握する 事後 授業観察と交流を通して学んだことをレポートにまとめる。	30分 240分
第14回	特別支援学校の音楽授業の研究協議会に参加し、学ぶ。	事前 授業を通しての質問事項や、日常の教育活動等について質問事項をまとめる。 事後 授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	30分 240分
第15回	特別支援学校の音楽授業参観、研究協議会をもとに、授業分析をする。	事前 参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。 事後 参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	30分 240分

フィードバック 研究協議会での発言について講評すると共に、観察実習後のレポートにコメントを入れて返却する。

成績評価 参観態度（20%） 協議会での発言内容（40%） 事後レポート（40%）

テキスト 参観校の先生が音楽科経営案、学習指導案等を用意。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくはEメールにて相談の上、対応する。 Myamauchi.159@gmail.com

備考 本授業は、大学4年間で5回以上の参加をもって4年卒業時に単位を出す科目である。
自分の理想とする教師像を描く上でもとても有効な授業であるため、教職履修者は都合がつく限り、何回でも積極的に履修してほしい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体的・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>